現　場　説　明　事　項

工事名称　　富士見市中央防災センター建設工事
担当部署　　総務部　営繕課

「説明事項」

１．工事目的

本工事は、富士見市中央防災センター新設のための工事を行う。

２．工事概要

特記仕様書、設計図書による。

３．工事範囲

本工事の目的上必要と思われる、仮設材、安全措置（ガードフェンス・バリケード等）も本工事に含む。

４．特記事項

１）本工事は、富士見市週休２日制モデル工事の試行対象工事である。
試行の実施は、富士見市週休２日制モデル工事試行要領（現場閉所型）によるものとする。

２）契約後速やかに、設計図製本３部（見開きＡ３版）を提出すること。

３）関係各署への申請や届出は、提出期限を厳守すること。

４）仮設については、中央防災センターの周辺環境に十分配慮し安全を確保すること。また、現場事務所については、全体会議を開催できるスペースを含むこと。

５）工事中の騒音・振動等の防止に努めると共に指定場所以外に車両等を駐車しないこと。

６）工事搬入口付近の道路について清掃等を行うこと。

７）中央防災センターの周辺環境を考え、安全面などを十分に考慮し工事を進行すること。また、周辺環境に支障となる騒音、振動、異臭等が伴う工事は、施設及び監督員に相談の上、行うこと。

８）現場施工期間は、契約日から令和９年 12 月 28 日とする。

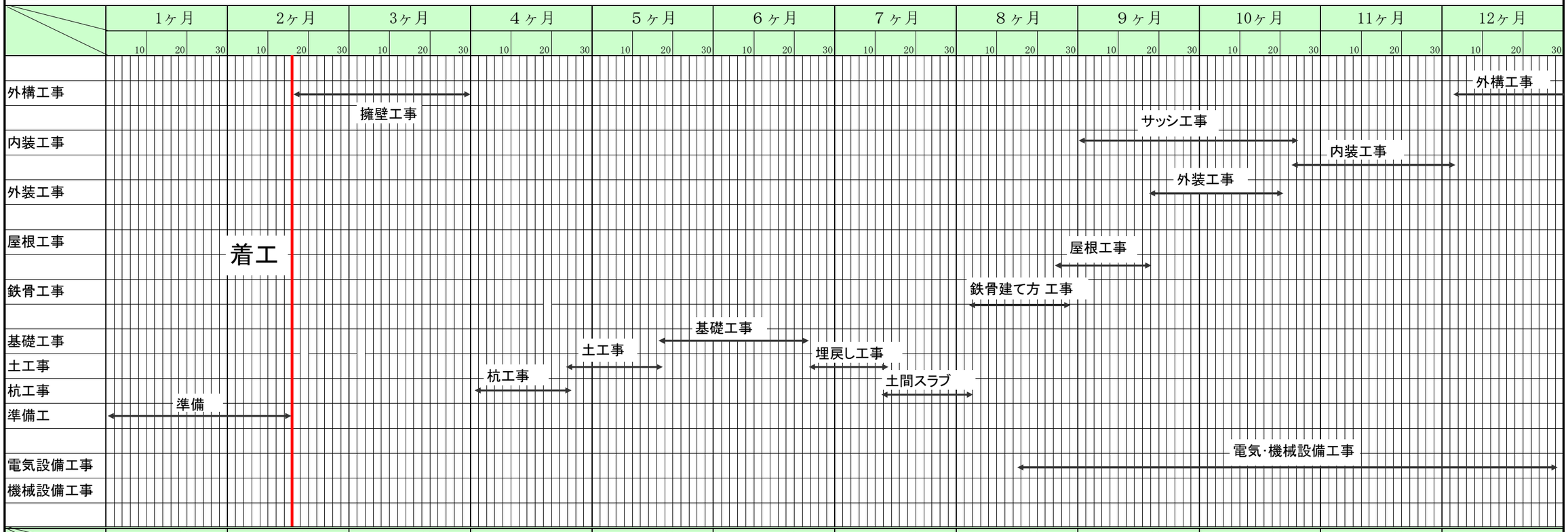
９）例年同様の降雨日数での工期延長は認めない。ただし、発注者が認めた場合はこの限りではない。

１０）ホルムアルデヒド等の有害化学物質の発生材は、SDS（安全データシート）を確認した上で監督員に提出し、厚生労働省及び文部科学省の室内濃度指針値以下に抑えること。

１１）竣工図の原図は、監督員と協議の上、CAD データから作成すること。

１２）提出書類については、富士見市様式にて遅滞無く提出すること。

富士見市中央防災センター　工事工程計画



株式会社SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第102826号　須賀 温

Project	Index	Scale	Number
富士見市中央防災センター建設工事設計業務	基本設計書（建築） 工事工程表（予定）		A-29

設　計　仕　様　書

工事名称　　富士見市中央防災センター建設工事

工事場所　　富士見市鶴瀬東2丁目　地内　他

積算書は、本工事の積算をする際の参考として提示するものです。入札の際には、設計図書に従い積算をして下さい。なお、参考積算書への質問に関しましては回答できませんのでご了承願います。

工事名称	富士見市中央防災センター建設工事				
請負工事費					
工事概要	富士見市中央防災センターの新築工事 倉庫新築工事 擁壁撤去・新設工事		駐車場・外構工事 電気設備工事 機械設備工事		

総括表

上段　設計変更
下段　原　設計

名称	摘要	数量	単位	金額	備考
建築工事		1	式		
電気設備工事		1	式		
機械設備工事		1	式		
計		1	式		
共通仮設費		1	式		
純工事費		1	式		
現場経費		1	式		
工事原価		1	式		
一般管理費		1	式		
工事価格		1	式		
改め		1	式		
消費税相当額		1	式		10%
請負工事費		1	式		

富士見市 総務部 営繕課

積算用紙

上段	変更設計
下段	原　設計

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　　価	金　　額	備　　考
	工事共通仮設費						
		予備調査、敷地整理、道路占用・使用料					
	準備費	その他に要する費用	1.0	式			
		現場事務所、倉庫、下小屋、					
	仮設建物費	作業員施設等の費用	1.0	式			
		場内通信設備等の工事用施設に					
	工事施設費	要する費用	1.0	式			
		安全標識、消火設備等の施設の設置、隣接物の養生等に要する費用					
	環境安全費	台風等災害に備えた災害防止対策に要する費用のうち一般的なものの費用	1.0	式			
		工事用電気設備及び工事用給排水設備に					(共通仮設費率)+
	動力用水光熱費	要する費用並びに工事用電気・水道料金等	1.0	式			(積上げ)
		屋外跡片付け、屋外発生材の処分等の					
	屋外整理清掃費	整理清掃に要する費用	1.0	式			
	機械器具費	測量機器及び雑機械器具に要する費用	1.0	式			
	その他	材料試験等に要する費用	1.0	式			
	計						

(　　)

(　　)

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
B	共通仮設費(積上げ分)						
	仮囲い	成形フラットパネル　H=3.0m	28.0	m			
	仮囲い	シート張り　H=2.0m	139.0	m			
	仮囲い	ガードフェンス　H=1.8m	108.0	m			
	シートゲート	W6000×H2000 1ヶ所	1.0	か所			
	仮設鉄板敷	t22　車両出入口養生含む	228.0	m2			
	交通誘導員		1.0	式			
	室内濃度測定	竣工時	6.0	か所			
	土壌環境測定分析費	溶出試験27項目（前処理含む） 含有量試験9項目	1.0	式			
		ｶﾄﾞﾐｳﾑ、六価ｸﾛﾑ、ｼｱﾝ化合物 水銀、ｾﾚﾝ、鉛、砒素、ﾌｯ素、ﾎｳ素					
	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ	16t　ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ付　4日程度	1.0	式			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
1	建築工事						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	土工事		1.0	式			
3	地業工事		1.0	式			
4	鉄筋工事		1.0	式			
5	ｺﾝｸﾘｰﾄ工事		1.0	式			
6	型枠工事		1.0	式			
7	鉄骨工事		1.0	式			
8	防水工事		1.0	式			
9	木工事		1.0	式			
10	屋根及びとい工事		1.0	式			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

	名　　称	摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
11	金属工事		1.0	式			
12	左官・タイル工事		1.0	式			
13	建具工事		1.0	式			
14	ガラス事		1.0	式			
15	塗装工事		1.0	式			
16	内外装工事		1.0	式			
17	ユニット工事		1.0	式			
18	外構工事		1.0	式			
	計						

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
1	直接仮設工事						
	遣方	一般	659.0	m2			
	墨出し	一 般　S造　　地上階	600.0	m2			
	養生	一 般　S造　　地上階	600.0	m2			
	整理清掃後片付け	一般	600.0	m2			
	枠組本足場（手すり先行方式）	12m未満　建枠 900×1700	824.0	m2			
	内部仕上足場	脚立足場　階高4.0m以下	480.0	m2			
	内部仕上足場	枠組棚足場5.0m以上5.7m未満	120.0	m2			
	地足場		600.0	m2			
	ﾈｯﾄ養生ｼｰﾄ張り	防炎Ｉ類	824.0	m2			

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
2 土工事						
鋤取り （整地・転圧）		650.0	m2			
根切り	つぼ,布掘り　深さ2.5m程度	888.0	m3			
床付け	つぼ,布掘り	635.0	m2			
埋戻し		516.0	m3			
土工機械運搬	片道30km以内 ﾊﾞｯｸﾎｳ 2往復程度	1.0	式			
場内仮置土		180.0	m3			
建設発生土運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3 土砂 DID区間有り	708.0	m3			
	14㎞以下					
建設発生土処分費		708.0	m3			
埋戻し工	山ズリ 県南	336.0	m3			

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
埋戻し工運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級	336.0	m3			
山留　親ぐい横矢板工法		1.0	式			

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
3	地業工事						
3-1	杭工事		1.0	式			
3-2	砕石等		1.0	式			
	計						

（　　）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
3-1	杭工事						
	羽付き鋼管杭	φ267.4-t8.0	1.0	式			別紙明細1
	EAZET工法	(Dw700×28mm)					
		(Dw580×28mm)					
	計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
3-2	砕石等						
	再生切込砕石		99.5	m3			
	床下防湿層敷き	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚0.15	493.0	m2			
	土間下断熱材敷き	3種b 厚さ30㎜	493.0	m2			
	計						

（　　）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
4 鉄筋工事						
異形鉄筋(SD295A)	D10	2.4	t			
異形鉄筋(SD295A)	D13	18.9	t			
異形鉄筋(SD345)	D16	0.1	t			
異形鉄筋(SD345)	D19	0.2	t			
異形鉄筋(SD345)	D22	3.4	t			
異形鉄筋(SD345)	D25	6.1	t			
鉄筋ｶﾞｽ圧接	D22 -D22	12.0	か所			
鉄筋ｶﾞｽ圧接	D25 -D25	211.0	か所			
鉄筋加工組立	RCﾗｰﾒﾝ構造	31.1	t			
鉄筋工場加工	階高3.5～4.0m程度 一般　細物	31.1	t			

（　　）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
ｽﾘｰﾌﾞ補強	φ100	7.0	か所			
溶接金網敷	径6.0 150×150	5.3	m2			
運搬費	10t車(30km程度)	31.1	t			
計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
5 ｺﾝｸﾘｰﾄ工事						
捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	FC18-S18	15.1	m3			
土間ｺﾝｸﾘｰﾄ	FC30-S18	130.0	m3			
基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	FC30-S18	178.0	m3			
躯体ｺﾝｸﾘｰﾄ	FC30-S18	3.3	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	捨てｺﾝｸﾘｰﾄ　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設	15.1	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設	130.0	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設	178.0	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	躯体ｺﾝｸﾘｰﾄ　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設	3.3	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送基本料金	50m3未満 /回	1.0	式			
温度補正	6N/mm2	1.0	式			

（　　）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
6 型枠工事						
普通合板型枠	基礎部	756.0	m2			
打放し合板型枠	ラーメン構造　地上軸部　階高3.5m−4.0m	75.6	m2			
打放し面補修	B 種 ｺｰﾝ処理　部分目違いばらい	75.6	m2			
型枠運搬費	4t車	831.0	m2			

（　　）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
7	鉄骨工事						
7-1	本体工事		1.0	式			
7-2	付帯金物工事		1.0	式			
7-3	ｼﾞｬｽﾄﾍﾞｰｽ工事		1.0	式			
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
7-1 鉄骨本体工事						
(1) 主要鋼材費		58.9	t			
(2) 副資材費		1.2	t			
(3) 工作原寸図費		58.9	t			
(4) 工場加工費		38.6	t			
(5) 軽量材加工費		22.1	t			
(6) 建方費(建方条件無し)		58.9	t			
(7) 現場鉄鋼費		58.9	t			
(8) 消耗品費		58.9	t			
(9) 重機損料(25tﾗﾌﾀ)		58.9	t			
(10) 工場錆止費 JIS K5674 赤錆		58.9	t			

(　　)

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
(11)	運搬費(大型車搬入)		58.9	t			
(12)	諸経費		58.9	t			
(13)	社内超音波検査費		58.9	t			
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
(1)	主要鋼材費						
1	SS400	H-148x100x6x9	0.1	t			
2	SS400	H194x150x6x9	0.3	t			
3	SS400	H-200x100x5.5x8	1.0	t			
4	SS400	H-250x125x6x9	2.0	t			
5	SS400	H-300x150x6.5x9	3.0	t			
6	SS400	H-350x175x7x11	1.5	t			
7	SN400B	H-244x175x7x11	1.0	t			
8	SN400B	H-250x125x6x9	0.1	t			
9	SN400B	H-294x200x8x12	0.6	t			
10	SN400B	H-340x250x9x14	1.8	t			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
11	SN400B	H-350x175x7x11	2.2	t			
12	SN400B	H-390x300x10x16	8.9	t			
13	SN400B	H-400x200x8x13	2.5	t			
14	SS400	CT-147x200x8x12	0.1	t			
15	BCR295	□-200x200*12	1.2	t			
16	BCR295	□-300x300*12	5.3	t			
17	STKR400	STKR-150x150x9	0.3	t			
18	SS400	PL-6	0.2	t			
19	SS400	PL-9	2.0	t			
20	SS400	PL-16	0.1	t			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

	名　　称	摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
21	SN400B	PL-6	2.6	t			
22	SN400B	PL-9	0.8	t			
23	SN400B	PL-12	1.0	t			
24	SN490C	PL-9	0.1	t			
25	SN490C	PL-12	0.1	t			
26	SN490C	PL-25	0.2	t			
27	SN490C	PL-32	0.2	t			
28	SN490C	PL-40	0.7	t			
29	SS400	L-100x75x7	1.3	t			
30	SS400	L-125x75x7	0.9	t			

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

	名　　称	摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
31	SSC400	C-100x50x20x2.3	13.6	t			
32	SSC400	C-100x50x20x3.2	3.1	t			
33	SS400	ABT-16	0.1	t			
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
(2)	副資材費						
34	S10T	特HTB-M16x40	0.02	t			
35	S10T	特HTB-M20x45	0.04	t			
36	S10T	特HTB-M20x50	0.10	t			
37	S10T	特HTB-M20x55	0.04	t			
38	S10T	特HTB-M20x60	0.20	t			
39	S10T	特HTB-M22x60	0.01	t			
40	S10T	特HTB-M22x65	0.08	t			
41	S10T	特HTB-M22x75	0.40	t			
42		BTN-M12x35	0.30	t			
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
7-2	付帯金物工事						
1	NDｺｱ						
	ND300-640		5.0	ヶ			
	ND300-600		5.0	ヶ			
	ND200-600		5.0	ヶ			
	加工運搬費		15.0	箇所			
2	水平ﾌﾞﾚｰｽ	M20(TB付)4-5m	94.0	本			
3	仮設工事		1.0	式			
	計						

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
7-3	ｼﾞｬｽﾄﾍﾞｰｽ工事						
	J300-12N	H=1440	10.0	本			
	J250-12N	H=1440	5.0	本			
	杭有り対応費		11.0	本			
	ｸﾞﾗｳﾄ・型枠取り付け費		15.0	本			
	運搬及び諸経費		1.0	式			
	計						

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
8	防水工事						
8-1	建具・庇廻りｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 10x10	142.0	m			
8-2	ﾗｲﾆﾝｸﾞ廻りｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2　10×10	104.0	m			
	計						

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
9	木工事						
	下地補強材	ﾍﾞﾋﾞｰﾁｪｱｰ取付用	1.0	か所			代価13
	下地補強材	L型手摺取付用	2.0	か所			代価14
	下地補強材	手洗器取付取付用	6.0	か所			代価15
	下地補強材	跳上げ手摺取付用	1.0	か所			代価16
	下地補強材	ベビーシート取付用	1.0	か所			代価17
	下地補強材	鏡(350×450) 取付用	4.0	か所			代価18
	下地補強材	鏡(450×750) 取付用	1.0	か所			代価19
	窓枠	ｽﾌﾟﾙｰｽ 25x100	84.0	m			
	計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
10	屋根及び樋						
10-1	大屋根工事		1.0	式			
10-2	北側外壁工事		1.0	式			
10-3	樋工事		1.0	式			
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
10-1	屋根工事						
	縦ﾊｾﾞ葺き	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	771.0	m2			
	断熱材	高性能ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ t=30	771.0	m2			
	防水紙	ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ	771.0	m2			
	野地板	硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板	771.0	m2			
	軒先納め(唐草・水切・面戸)X1通り	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	34.3	m			
	軒先幕板 H≒400程度X1通り	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	34.3	m			
	軒先納め(唐草・水切・面戸)X3通り	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	34.3	m			
	ｹﾗﾊﾞ納め(唐草・水切)	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	45.0	m			
	ｹﾗﾊﾞ幕板H≒250程度	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	45.0	m			
	棟納め(棟包み・補強材:t=0.8、棟面戸共)	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	34.3	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ水下立上げ納め(雨押え・補強材:t=0.8、棟面戸共)	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	4.2	m			
ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ側面壁捨て谷納め(雨押え・補強材:t=0.8、棟面戸共)	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	8.4	m			
ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ水上納(谷割板・面戸共)	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	4.2	m			
ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ水上山塞ぎ(下地木毛版共)	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	6.0	m			
現場成型費		1.0	式			
運搬及び荷揚げ費		1.0	式			
計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
10-2	北側外壁工事　X3通り						
	縦ﾊｾﾞ葺き	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	107.0	m2	18,900		
	透湿防水ｼｰﾄ		107.0	m2	1,260		
	野地板	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12.5	107.0	m2	2,100		
	野地板	耐水合板 t=12	107.0	m2	2,940		
	水上納め X3通り	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.6	34.3	m	6,510		
	土台納め(伸縮唐草・水切・面戸)	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	34.3	m	8,750		
	出隅	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	7.0	m	7,700		
	ｻｯｼ水下立上げ納め(雨押え・補強材：t=0.8、捨て板共)	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	8.1	m	12,110		
	ｻｯｼ側面壁捨て谷納め(雨押え・補強材：t=0.8、捨て板共)	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	26.8	m	11,900		
	ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ水上納め(谷割板・面戸共)	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4	8.1	m	9,940		

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
10-3	樋工事						
	軒樋	塩ﾋﾞ製角型 W=120 前高ﾀｲﾌﾟ吊り金具(亜鉛ﾒｯｷ) @500共	34.3	m	7,700		
	落し口	塩ﾋﾞ製自在ﾄﾞﾚﾝ 75φ	5.0	か所	8,260		
	竪樋	ｶﾗｰ塩ﾋﾞ製 VP-75φSUS製支持金物共	22.5	m	7,700		
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
11 金属工事						
	19形(屋内) ふところ1.5m未満					
軽量鉄骨天井下地	下地張りあり @360 ｲﾝｻｰﾄ別途	208.0	m2			
天井ｲﾝｻｰﾄ	一般用	208.0	m2			
屋内天井下地補強	ふところ高1.5～3.0m	113.0	m2			
乾式2重床	h=250	7.3	m2			
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りあり @450	220.0	m2			
軽量鉄骨壁下地	100形 下地張りあり @450	350.0	m2			
天井点検口	一般ﾀｲﾌﾟ ｱﾙﾐ製 内外枠共目地　450角	12.0	か所			代価22
屋内天井下地開口補強	450×450　程度	12.0	か所			
アルミ庇	アルフィンAD2同等品　L1200　D800	1.0	か所			代価20
計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
12	左官・タイル工事						
	基礎巾木 ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修	A種　ｺｰﾝ処理	29.3	m2			
	床ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し	金ごて 直均し仕上げ	389.0	m2			
	床ﾓﾙﾀﾙ　目地押え加算		389.0	m2			
	床ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ	ｾﾒﾝﾄ系　厚10	192.0	m2			
	床ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し （庇下車寄）	金ごて 直均し仕上げ	80.0	m2			
	計						

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
13	建具工事						
13-1	鋼製建具		1.0	式			
13-2	ｱﾙﾐ製建具		1.0	式			
13-3	その他		1.0	式			
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
13-1	鋼製建具						
	鋼製建具						
	SD-1	W1700xH1975	1.0	か所			
	SD-2	W800xH1975	1.0	か所			
	軽量鋼製建具						
	LSD-1	W1960xH1975	3.0	か所			
	LSD-2	W920xH1975	4.0	か所			
	LSD-3	W1400xH1975	1.0	か所			
	鋼製三方枠						
	SF-1	W850xH1150	1.0	か所			
	SF-2	W900xH1975	2.0	か所			

（　　）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
SF-3	W950xH1975	1.0	か所			
ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞｳｫｰﾙ						
SP-1	W6888xH2600xD69	1.0	か所			
ｵｰﾊﾞｰｽﾗｲﾀﾞｰ						
OSD-1	W7700×H3500	1.0	か所			
工事費						
搬入費						
現場諸経費						
計						

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
13-2	ｱﾙﾐ製建具						
	ｱﾙﾐ製建具						
	AW-1	W1235xH300	1.0	か所			
	AW-2	W1000xH1000	1.0	か所			
	AW-3	W500xH902	2.0	か所			
	AW-4	W780xH1570	12.0	か所			
	ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ						
	AW-5	W1170×H1170	4.0	か所			
	取付施工費		1.0	式			
	搬入諸経費		1.0	式			
	計						

（　　）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
13-3	その他						
	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ						
	TB-1	W3695×H2000×D40	2.0	か所			
	工事費		1.0	式			
	搬入費		1.0	式			
	現場諸経費		1.0	式			

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
14	ガラス工事						
	複層ｶﾞﾗｽ	FL10+A6+AW6.8　2.00㎡以下	1.5	m2			
	ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ	FL5　特寸 2.18㎡以下	1.9	m2			
	ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ	FL6　特寸 2.18㎡以下	11.5	m2			
	ｶﾞﾗｽ清掃		14.9	m2			
	ガラス止めｼｰﾘﾝｸﾞ	ｼﾘｺﾝ系1成分 片面5×5程度ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ材共	153.0	m			
	計						

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
15 塗装工事						
基礎巾木 塗装仕上げ	塗布防水塗装					
	ﾗﾝﾃﾞｯｸｽｺｰﾄP5000	29.3	m2			
EP塗り						
	ﾎﾞｰﾄﾞ面　　工程A種(一般)	163.0	m2			
EP-G塗り						
	ﾎﾞｰﾄﾞ面　　工程A種(一般)	521.0	m2			
無機質系塗床材	無機系速硬薄塗型床仕上材					
	ABCスムースコート同等品	389.0	m2			
EP-G塗り　軒天						
	ﾎﾞｰﾄﾞ面　　工程A種(見上)	43.2	m2			
素地ごしらえ						
	ﾎﾞｰﾄﾞ面　素地ごしらえA種	727.0	m2			
SOP塗り						
	鉄鋼面　　工程A種 塗料1種	401.0	m2			
CL塗り	木部　　素地ごしらえB種					
	素地B種	11.0	m2			
計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
16	内外装工事						
16-1	外装工事		1.0	式			
16-2	内装工事		1.0	式			
	計						

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
16-1	外装工事						
	【外壁工事】						
	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ	ｶﾗｰGL鋼板 t=0.5 @148 縦張り	331.0	m2			
	透湿防水ｼｰﾄ		331.0	m2			
	耐水合板	t=12.5	331.0	m2			
	出隅ｺｰﾅｰ	ｶﾗｰGL鋼板 t=0.5	15.7	m			
	入隅ｺｰﾅｰ	ｶﾗｰGL鋼板 t=0.5	6.3	m			
	建具廻り見切	ｶﾗｰGL鋼板 t=0.5	31.1	m			
	土台水切	ｶﾗｰGL鋼板 t=0.5	63.9	m			
	ｹﾐｶﾙ面戸		153.0	m			

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
運搬及び荷揚労務費		1.0	式			
計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
16-2 内装工事						
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	ﾉﾝﾜｯｸｽ 厚さ2.0	207.0	m2			
床見切材	長尺/ｺﾝｸﾘｰﾄ　　SUS製W35	8.6	m			
壁　石膏ボード	t=12.5　不燃	270.0	m2			
壁　石膏ボード	t=9.5　準不燃	270.0	m2			
壁　けい酸ｶﾙｼｳﾑ板張り	t=6	88.7	m2			
壁　けい酸ｶﾙｼｳﾑ板張り	t=8	413.0	m2			
ソフト巾木	H60	120.0	m			
化粧ケイカル板	t=6	13.2	m2			
ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ	厚20 W150	11.6	m			代価10
天井　化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	t=9.5	168.0	m2			

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
天井　ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板張り(DR)	t=9.0+下地PB9.5	121.0	m2			
天井　せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	t=9.5	43.2	m2			
天井　けい酸カルシウム板張り	t=6	43.2	m2			
廻り縁	塩ﾋﾞ製	173.0	m			
ｸﾞﾗｽｳｰﾙ断熱材　外壁	厚100　高性能G　24K	121.0	m2			
ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ	アルミ製(B-1)120×80)	6.4	m			
計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
17	仕上ユニットエ事						
	ミニキッチン	LIXIL DMK12LEW(同等品)	1.0	台			代価12
	ﾕﾆｯﾄｼｬﾜｰ	NSPB-0812LBEL-C(同等品)	2.0	台			代価11
	倉庫ラック	H3000*W2500*D1100mm	1.0	式			別紙明細4
	消火器	ABC粉末10形	3.0	本			
	ピクトサイン	木製　200*200	6.0	か所			
	計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
18	外構工事						
18-1	外構工事		1.00	式			
18-2	24条工事		1.00	式			
18-3	擁壁工事		1.00	式			
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
18-1	外構工事						
	舗装直接仮設	墨出し、養生、清掃等	776.00	m2			
	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装（歩道）	A-5-10	171.00	m2			
	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装（駐車場）	路盤：t10再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ A-5-15	527.00	m2			
	ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装	路盤：t10再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ C-15-15	78.70	m2			
	地先境界ﾌﾞﾛｯｸ	C種 W150　路盤共	18.00	m			
	地先境界ﾌﾞﾛｯｸ	C種 W120　路盤共	53.00	m			
	表層地盤改良	改良t0.5m固化剤100kg/m3	263.00	m3			
	車止め（コンクリート製）	ｽｷﾞｶｳ　SA-2　同等品	16.00	か所			
	駐車場ライン塗装	駐車白線引き	1.00	式			代価37
	スリット側溝		10.00	m			代価35

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	スリット側溝桝		2.00	か所			代価36
	ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ	H1200 朝日ﾕﾆﾌｪﾝｽ同等	141.00	m			
	植栽　りゅうのひげ(植付け含)	44株/㎡千鳥	64.80	m2			
	スタンドサイン	800×1400　ST116H同等	1.00	か所			代価21
	上下式ポール	バリカーSK-11同等品	6.00	本			代価31
	固定式ポール	バリカーSK-11SD同等品	4.00	本			代価32
	浸透トレンチ	W0.6m×H1.3m	64.00	m			代価45
	雨水集水桝	□300H＝650	7.00	基			代価23
	既存メッシュフェンス撤去		141.00	m			
処	既存メッシュフェンス処分		8.46	m3			
	計						

（　　）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
18-2	24条工事						
	舗装ｶｯﾀｰ入れ		26.40	m			
	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装解体	t=190	2.30	m3			
	U型側溝撤去	□300	12.20	m			
	根切り		10.50	m3			
	床付け		12.20	m2			
	埋戻		0.90	m3			
	発生土運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 2t積級 人力積込 DID区間有り10.5km以下	10.50	m3			
処	発生土処分		9.60	m3			
	集水桝	□300 H=650	2.00	基			代価23
	ﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ	300x300	11.00	m			代価24

（　　）

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
砕石	RC-40	0.80	m3			
捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	t=150	1.00	m3			代価25
舗装	表層 改質Ⅱ型 t=50	12.20	m2			代価26
	基層 改質Ⅱ型 t=140	5.70	m2			代価27
	路盤 RC-40 t=300	5.70	m2			代価28
	路床 RM-40 t=380	4.60	m2			代価29
車道外側線引き	w200	1.00	式			
計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
18-3	擁壁工事						
	鋤取り	深さ300mm程度	273.00	m3			
	根切り	つぼ,布掘り　深さ2.5m程度	330.00	m3			
	床付け	つぼ,布掘り	192.00	m2			
	場内仮置き	場内運搬	147.00	m3			
	埋戻し		147.00	m3			
	残土 運搬費	ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　土砂 DID区間有り	293.00	m3			
処	残土 処分費		293.00	m3			
	機械運搬	ﾊﾞｯｸﾎｳ	1.00	式			
	機械運搬	根切埋戻し	1.00	式			
	ｺﾝｸﾘｰﾄ擁壁取り壊し		49.00	m3			

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	コンクリート撤去	集積共	49.00	m3			
	無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 運搬費	DID区間有り　19.5km以下	49.00	m3			
処	無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 処分費	ｺﾝｸﾘｰﾄ塊(無筋) 30cn超	113.00	t			
		改良径φ500～φ600					
	地盤改良工事	改良長3.3m～4.95m	1.00	式			別紙明細-2
		本数305本					
	擁壁裏　透水層　砕石	切込砕石	29.10	m3			
	埋戻し　山砂	人力土工	154.00	m3			
	L型擁壁(大地震対応型)	H1250×L1000	2.40	m			代価38
	L型擁壁(大地震対応型)	H1500×L2000	12.00	m			代価39
	L型擁壁(大地震対応型)	H1750×L2000	6.00	m			代価40
	L型擁壁(大地震対応型)	H2000×L2000(特殊コーナー含む)	7.50	m			代価41

(　　)

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
L型擁壁(大地震対応型)	H2250×L2000	13.00	m			代価42
L型擁壁(大地震対応型)	H2500×L2000	13.00	m			代価43
L型擁壁(大地震対応型)	H2750×L2000	10.00	m			代価44
現場打ち擁壁	H2900					
躯体ｺﾝｸﾘｰﾄ	FC30-S18	8.20	m3			
異形鉄筋(SD295A)	D13	0.30	t			
異形鉄筋(SD345)	D16	0.30	t			
打放し合板型枠	ラーメン構造　地上軸部　階高3.5m-4.0m	46.40	m2			
計						

(　　)

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
別紙明細-1						
杭工事	EAZET工法					
羽付き鋼管杭	φ267.4-t8.0(Dw700×28mm) (SEAH590)STKT590　L6.0m	20.0	本			
羽付き鋼管杭	φ267.4-t8.0(Dw580×28mm) (SEAH590)STKT590　L6.0m	9.0	本			
機械運搬費		1.0	式			
施工労務費	4日程度	1.0	式			
消耗品費	4日程度	1.0	式			
機械器具損料	4日程度	1.0	式			
現場管理費		1.0	式			
諸経費		1.0	式			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
	計						
	改め						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
別紙明細-2						
地盤改良	NSVコラム工法					
施工費		1.0	式			
労務費		1.0	式			
燃料・消耗品費		1.0	式			
材料費		90.0	t			
重機運搬費		1.0	式			
機材運搬費		1.0	式			
組立・解体費		1.0	式			
施工管理費		1.0	式			

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
その他						
事前検査	固化剤添加量決定時	1.0	式			
事後検査	杭頭ｺｱ・一軸圧縮試験	1.0	式			
事後検査	ｺｱﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ・一軸圧縮試験	1.0	式			
一般管理費		1.0	式			
計						
改め						

（　　）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
別紙明細-3						
山留	親杭横矢板工法					
親ぐい損料	H300*300*10*15　93kg/m、60日程度	16.7	t			
親ぐい打込み	H300*300*10*15	180.0	m			
親ぐい引抜き	H300*300*10*15	180.0	m			
親ぐい運搬費用	積下し共	16.7	t			
横矢板入れ	矢板厚45	360.0	m2			
計						
改め						

（　　）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
別紙明細-4	ラック工事					
① 独立	H3000*W2500*D1100mm	1.0	間口			
連結	H3000*W2500*D1100mm	10.0	間口			
支柱パネル	PRSTP1130A	12.0	枚			
ビーム	PRNBM1225	22.0	本			
前面落下防止バー	PRSBR0025	11.0	本			
リアストッパー	PRSRS0025	11.0	本			
② 独立	H5000*W2500*D1100mm	2.0	間口			
連結	H5000*W2500*D1100mm	16.0	間口			
支柱パネル	PRSTP1150L	20.0	枚			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	ビーム	PRNBM1225	72.0	本			
	前面落下防止バー	PRSBR0025	36.0	本			
	リアストッパー	PRSJB0010L	20.0	本			
③	独立	H3000*W2500*D1100mm	1.0	間口			
	連結	H3000*W2500*D1100mm	8.0	間口			
	支柱パネル	PRSTP1150L	10.0	枚			
	ビーム	PRNBM1225	18.0	本			
	前面落下防止バー	PRSBR0025	9.0	本			
	リアストッパー	PRSJB0010L	18.0	本			
	重機費	高所作業者車損料	1.0	式			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
諸費用	養生他・必要雑費・交通費	1.0	式			
施工費	搬入・墨出し・組立・アンカー固定工事	1.0	式			

代価表 No. 1　仮囲い　　共通仮設

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1m当り)						
損料	仮囲フラット パネル H3000	1.00	m			
基本料		1.00	m			
設置費		1.00	m			
撤去費		1.00	m			
仮囲運搬		1.00	m			
計						
採用単価						

代価表 No. 2　シートゲート　　共通仮設

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
ｼｰﾄｹﾞｰﾄW6000×H4500	W6000×H4500					
損料		9.00	ヵ月			
掛払い手間		1.00	か所			
計						
採用単価						

代価表 No. 3　仮設鉄板敷　　共通仮設

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1m当り)						
損料	t22	1.00	m2			
整備費		1.00	m2			
設置費		1.00	m2			
撤去費		1.00	m2			
運搬		1.00	m2			
車両出入口養生含む						
計						
採用単価						

代価表 No. 4　交通誘導員　　共通仮設

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
交通誘導員B	随時(車両交互通行等)	12.00	日			
交通誘導員B	常駐	180.00	日			
計						
採用単価						

代価表 No. 5　ネット養生シート張り　　直接仮設

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)	防炎Ｉ類					
掛払い手間		1.00	m2			
供用1日賃料	修理費含む	1.00	m2			
基本料	修理費含む	1.00	m2			
仮設材運搬		1.00	m2			
計						
採用単価						

代価表 No. 6　地足場　　共通仮設

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
掛払い手間		1.00	m2			
供用1日賃料	修理費含む	1.00	m2			
基本料	修理費含む	1.00	m2			
仮設材運搬		1.00	m2			
計						
採用単価						

代価表 No. 7　内部仕上足場　階高5.0m以上5.7m未満 直接仮設

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
掛払い手間		1.00	m2			
供用1日賃料	修理費含む	1.00	m2			
基本料	修理費含む	1.00	m2			
仮設材運搬	平屋	1.00	m2			
計						
採用単価						

代価表 No. 8　内部仕上足場　階高4.0m以下　　直接仮設

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
掛払い手間		1.00	m2			
供用1日賃料	修理費含む	1.00	m2			
基本料	修理費含む	1.00	m2			
仮設材運搬	平屋	1.00	m2			
計						
採用単価						

代価表 No. 9　仮囲い　　共通仮設

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1m当り)						
ガードフェンス1.8m						
損料		1.00	m			
基本料		1.00	m			
設置費		1.00	m			
仮囲運搬		1.00	m			
計						
採用単価						

代価表 No. 10　ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ(厚20 W150)　　内外装工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1m当り)						
ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ	厚20 W150	1.00	m			
大工		0.07	人			
普通作業員		0.01	人			
その他		1.00	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 11 ユニットシャワー　　木工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1台当り)						
NSPB-0812LBEL-C(同等品)						
ユニットシャワー		1.00	台			
特殊作業員		0.30	人			
その他		1.00	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 12 ミニキッチン　　ユニット工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
ミニキッチン	LIXIL DMK12LEW同等品	1.00	台			
特殊作業員		0.30	人			
その他		1.00	式			
計						
採用単価						

富士見市中央防災センター建設工事

代価表 No. 13 ﾍﾞﾋﾞｰﾁｪｱｰ取付用　　木工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
下地補強材						
壁合板張り	ﾗﾜﾝ1類	0.41	m2			
	見え隠れ　厚さ12.0㎜					
計						
採用単価						

代価表 No. 14 L型手摺取付用　　木工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
下地補強材						
壁合板張り	ﾗﾜﾝ1類	0.81	m2			
	見え隠れ　厚さ12.0㎜					
計						
採用単価						

富士見市中央防災センター建設工事

代価表 No. 15 手洗器取付取付用　　木工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
下地補強材						
壁合板張り	ﾗﾜﾝ1類	0.81	m2			
	見え隠れ　厚さ12.0㎜					
計						
採用単価						

代価表 No. 16 跳上げ手摺取付用　　木工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
下地補強材						
壁合板張り	ﾗﾜﾝ1類	0.20	m2			
	見え隠れ　厚さ12.0㎜					
計						
採用単価						

代価表 No. 17 ベビーシート取付用　　木工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
下地補強材						
壁合板張り	ﾗﾜﾝ1類	0.60	m2			
	見え隠れ　厚さ12.0㎜					
計						
採用単価						

代価表 No. 18 鏡(350×450) 取付用　　木工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
下地補強材						
壁合板張り	ﾗﾜﾝ1類	0.16	m2			
	見え隠れ　厚さ12.0㎜					
計						
採用単価						

代価表 No. 19 鏡(450×750) 取付用　　木工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
下地補強材						
壁合板張り	ﾗﾜﾝ1類	0.34	m2			
	見え隠れ　厚さ12.0㎜					
計						
採用単価						

代価表 No. 20 アルミ庇(L1200　D800)　　金属工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
アルフィンAD2同等品　L1200　D800						
アルミ庇		1.00	台			
溶接棒その他		0.05	式			
特殊作業員		0.35	人			
普通作業員		0.06	人			
その他		1.00	式			
運転手	一般	1.00	人			
燃料	軽油	23.20	L			
機械損料	ﾄﾗｯｸ2t積 ｸﾚｰﾝ付	0.50	日			
その他		1.00	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 21 スタンドサイン　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
自立型ｻｲﾝ	800×1400	1.00	か所			
	ST116H同等					
根切り	深さ2.5m程度	2.00	m3			
床付け	つぼ,布掘り	2.90	m2			
埋戻し(B種)	小規模土工 発生土	1.70	m3			
場内仮置き		0.30	m3			
敷きならし	締め固め共	0.30	m3			
異形鉄筋(SD295A	D13 小口	0.10	t			
鉄筋加工組立	小型構造物	0.10	t			
鉄筋運搬費	4t車 30km程度	0.10	t			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設	0.20	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送		0.20	m3			
基本料金		1.00	回			
型枠		1.30	m2			
計						
採用単価						

代価表 No. 22 天井点検口　　金属工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
床点検口	450角	1.00	か所			
床点検口	取付手間	1.00	か所			
	450角					
計						
採用単価						

富士見市中央防災センター建設工事

代価表 No. 23 雨水集水桝　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1か所当り)						
雨水枡	耐重型 □300 H=650	1.00	個			
特殊作業員		0.39	人			
普通作業員		0.12	人			
鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞますぶた	T-20	1.00	組			
その他		0.23	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 24 ﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	
(1m当り)						
ﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ	300x300	0.50	個			
排水敷均し		0.39	m3			
ﾓﾙﾀﾙ		0.02	m3			
特殊作業員		0.11	人			
普通作業員		0.08	人			
その他		0.23	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 25 捨てコンクリート　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎥当り)						
捨ｺﾝｸﾘｰﾄ	18N/mm2	1.00	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間		1.00	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送		1.00	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送基本料金		1.00	回			
計						
採用単価						

代価表 No. 26 舗装(表層)　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ	厚さ5cm　再生	1.00	㎡			
ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物敷きならし		1.00	㎡			
ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物締固め		1.00	㎡			
計						
採用単価						

代価表 No. 27 舗装(基層)　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1か所当り)						
密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ	厚さ14cm　再生	3.00	㎡			
ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物敷きならし		1.00	㎡			
ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物締固め		1.00	㎡			
計						
採用単価						

代価表 No. 28 舗装(路盤)　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	車道用　再生材t=150	2.00	㎡			
路盤材敷きならし		1.50	㎡			
路盤材締固め		1.50	㎡			
計						
採用単価						

代価表 No. 29 舗装(路床)　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1㎡当り)						
ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	車道用　再生材t=100	4.00	㎡			
路盤材敷きならし		2.00	㎡			
路盤材締固め		2.00	㎡			
計						
採用単価						

代価表 No. 30 砂利地業　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1m3当り)						
砂利	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	1.100	m3			
普通作業員		0.200	人			
その他		0.230	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 31 上下式ﾎﾟｰﾙ　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1本当り)						
上下式ﾎﾟｰﾙ	SK-11	1.00	本			
根切り	つぼ,布掘り	0.11	m3			
埋戻し(B種)	発生土	0.04	m3			
建設発生土運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 2t積級 人力積込 DID区間有り10.5km以下	0.07	m3			
残土処分	場外処分	0.07	㎥			
砂利地業	再生切込砕石	0.01	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc=18 S=15	0.03	m3			
普通型枠		0.25	m2			
特殊作業員		0.47	人			
普通作業員		0.15	人			
その他		0.30	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 32 固定ポール　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1本当り)						
固定式ﾎﾟｰﾙ	SK-11SD	1.00	本			
根切り	つぼ,布掘り	0.04	m3			
埋戻し(B種)	発生土	0.01	m3			
建設発生土運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 2t積級 人力積込 DID区間有り10.5km以下	0.03	m3			
残土処分	場外処分	0.03	㎥			
砂利地業	再生切込砕石	0.01	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc=18 S=15	0.01	m3			
普通型枠		0.10	m2			
特殊作業員		0.47	人			
普通作業員		0.15	人			
その他		0.30	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 33 排水敷均し　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1m3当り)						
普通作業員		0.23	人			
その他		0.23	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 34 モルタル　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1m3当り)						
セメント		0.67	t			
細骨材	砂	1.11	m3			
普通作業員		1.20	人			
その他		0.23	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 35 スリット側溝　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1m当り)						
スリット側溝		0.500	個			
根切り	つぼ,布掘り	0.480	m3			
埋戻し(B種)	発生土	0.270	m3			
排水敷均し		0.210	m3			代価表33
砂利地業		0.040	m3			代価表30
ﾓﾙﾀﾙ		0.010	m3			代価表34
特殊作業員		0.110	人			
普通作業員		0.080	人			
その他		0.230	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 36 スリット側溝桝　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1か所当り)						
ｽﾘｯﾄ枡		1.000	個			
根切り	つぼ,布掘り	3.830	m3			
埋戻し(B種)	発生土	2.980	m3			
建設発生土運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 2t積級 人力積込 DID区間有り10.5km以下	0.850	m3			
残土処分	場外処分	0.850	㎥			
砂利地業	再生切込砕石	0.110	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc=18 S=15	0.440	m3			
普通型枠		5.240	m2			
異形棒鋼	SD295A D13(小口)	0.030	t			
特殊作業員		0.470	人			
普通作業員		0.150	人			
その他		0.230	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 37 駐車場ライン　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
駐車場ライン塗装						
基本料金		1.00	式			
駐車ライン　ｾﾌﾞﾗﾝ	W150	85.00	m			
身障者マーク等		1.00	か所			
墨出し・作図等		1.00	式			
計						
採用単価						

代価表 No. 38 L型擁壁 H1250xL1000　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
本体	H1250xL2000	5.00	本			
世話役		0.26	人			
ﾌﾞﾛｯｸ工		0.26	人			
普通作業員		0.79	人			
ﾗﾌﾀｰｸﾚｰﾝ運転	25t吊り	0.26	日			
基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=10cm	87.00	%			
基礎砕石	C-40 t=20cm	53.00	%			
敷ﾓﾙﾀﾙ	1:3 t=2cm	18.00	%			
砕石	C-40	1.82	m3			
止水ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=5cm	0.18	m3			
計						
1m当たり						
採用単価						

代価表 No. 39 L型擁壁 H1500xL2000　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
本体	H1500xL2000	5.00	本			
世話役		0.26	人			
ﾌﾞﾛｯｸ工		0.26	人			
普通作業員		0.79	人			
ﾗﾌﾀｰｸﾚｰﾝ運転	25t吊り	0.26	日			
基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=10cm	87.00	%			
基礎砕石	C-40 t=20cm	53.00	%			
敷ﾓﾙﾀﾙ	1:3 t=2cm	18.00	%			
砕石	C-40	2.03	m3			
止水ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=5cm	0.18	m3			
計						
1m当たり						
採用単価						

代価表 No. 40 L型擁壁 H1750xL2000　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
本体	H1750xL2000	5.00	本			
世話役		0.26	人			
ﾌﾞﾛｯｸ工		0.26	人			
普通作業員		0.79	人			
ﾗﾌﾀｰｸﾚｰﾝ運転	25t吊り	0.26	日			
基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=10cm	87.00	%			
基礎砕石	C-40 t=20cm	53.00	%			
敷ﾓﾙﾀﾙ	1:3 t=2cm	18.00	%			
砕石	C-40	2.73	m3			
止水ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=5cm	0.18	m3			
計						
1m当たり						
採用単価						

代価表 No. 41 L型擁壁 H2000xL2000　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
本体	H2000xL2000	5.00	本			
世話役		0.26	人			
ﾌﾞﾛｯｸ工		0.26	人			
普通作業員		0.79	人			
ﾗﾌﾀｰｸﾚｰﾝ運転	25t吊り	0.26	日			
基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=10cm	87.00	%			
基礎砕石	C-40 t=20cm	53.00	%			
敷ﾓﾙﾀﾙ	1:3 t=2cm	18.00	%			
砕石	C-40	3.54	m3			
止水ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=5cm	0.18	m3			
計						
1m当たり						
採用単価						

代価表 No. 42 L型擁壁 H2250xL2000　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
本体	H2250xL2000	5.00	本			
世話役		0.33	人			
ﾌﾞﾛｯｸ工		0.33	人			
普通作業員		1.00	人			
ﾗﾌﾀｰｸﾚｰﾝ運転	25t吊り	0.33	日			
基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=10cm	98.00	%			
基礎砕石	C-40 t=20cm	60.00	%			
敷ﾓﾙﾀﾙ	1:3 t=2cm	20.00	%			
砕石	C-40	4.06	m3			
止水ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=5cm	0.18	m3			
計						
1m当たり						
採用単価						

代価表 No. 43 L型擁壁 H2500xL2000　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
本体	H2500xL2000	5.00	本			
世話役		0.33	人			
ﾌﾞﾛｯｸ工		0.33	人			
普通作業員		1.00	人			
ﾗﾌﾀｰｸﾚｰﾝ運転	25t吊り	0.33	日			
基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=10cm	98.00	%			
基礎砕石	C-40 t=20cm	60.00	%			
敷ﾓﾙﾀﾙ	1:3 t=2cm	20.00	%			
砕石	C-40	5.00	m3			
止水ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=5cm	0.18	m3			
計						
1m当たり						
採用単価						

代価表 No. 44 L型擁壁 H2750xL2000　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
本体	H2750xL2000	5.00	本			
世話役		0.33	人			
ﾌﾞﾛｯｸ工		0.33	人			
普通作業員		1.00	人			
ﾗﾌﾀｰｸﾚｰﾝ運転	25t吊り	0.33	日			
基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=10cm	98.00	%			
基礎砕石	C-40 t=20cm	60.00	%			
敷ﾓﾙﾀﾙ	1:3 t=2cm	20.00	%			
砕石	C-40	5.62	m3			
止水ｺﾝｸﾘｰﾄ	18-8-25 t=5cm	0.18	m3			
計						
1m当たり						
採用単価						

代価表 No. 45 浸透トレンチ　　外構工事

名　称	摘　要	員　数	単位	単　価	金　額	備　考
(1m当り)						
根切り	つぼ,布掘り	1.020	m3			
発生土積込運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 2t積級 人力積込 DID区間有り10.5km以下	0.840	m3			
発生土処分	場外処分	0.840	m3			
単粒砕石4号	空隙率30%程度	0.540	m3			
敷砂	切込砕石	0.060	m3			
有孔管 φ150		1.000	m			
透水シート		3.800	m2			
埋戻・敷均し		0.180	m3			
特殊作業員		0.390	人			
普通作業員		0.120	人			
その他		23.000	%			
計						
採用単価						

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
2	電気設備工事						
1	幹線動力設備		1.0	式			
2	電灯設備		1.0	式			
3	コンセント設備		1.0	式			
4	弱電設備		1.0	式			
5	自動火災報知設備		1.0	式			
6	機械警備設備		1.0	式			
	計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
1 幹線動力設備						
引込開閉器盤 LP-M	屋外防水	1.0	面			
動力分電盤 P-1	屋外防水	1.0	面			
電灯分電盤盤 L-1	屋内露出	1.0	面			
ｺﾝｸﾘｰﾄ柱(建柱社)	8m-19cm-4.3kN	1.0	本			
600Vﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｹｰﾌﾞﾙ	EM-CET38sq　管内	27.0	m			
〃	EM-CET60sq　管内	27.0	m			
〃	EM-CET38sq　ﾋﾟｯﾄ・天井	29.0	m			
〃	EM-CET60sq　ﾋﾟｯﾄ・天井	15.0	m			
〃	EM-CET38sq　FEP内	2.0	m			
〃	EM-CET60sq　FEP内	2.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
絶縁電線	EM-IE8sq　管内	47.0	m			
〃	EM-IE14sq　管内	36.0	m			
ねじなし電線管	E63　露出	34.0	m			
厚鋼電線管	G54　露出	10.0	m			
〃	G70　露出	10.0	m			
電線管塗装	G54　露出	10.0	m			
〃	G70　露出	10.0	m			
波付合成樹脂電線管	FEP65	4.0	m			
耐衝撃性硬質ﾋﾞﾆﾙ電線管	HIVE16 埋設	4.0	m			
プルボックス(SUS・防水)	300×300×200	1.0	個			
プルボックス(鋼製・ET付)	300×300×200	2.0	個			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
接地極	10φ×1.5m　2連	1.0	箇所			
土工事	根切(機械)	1.0	m3			
〃	埋戻し	1.0	m3			
コンセント(金属プレート付)	250V　3P30A×1(プラグ共)	1.0	個			
鋼製アウトレットボックス	大形44	3.0	個			
600Vポリエチレンケーブル	EM-CE3.5sq-4C　管内	2.0	m			
〃	EM-CE5.5sq-4C　管内	8.0	m			
〃	EM-CE5.5sq-4C　ピット・天井	28.0	m			
〃	EM-CE5.5sq-4C　FEP内	3.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
600Vﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ絶縁耐燃性ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ	EM-EEF1.6mm-3C　ｺﾛｶﾞｼ	25.0	m			
〃	EM-EEF2.0mm-3C　ｺﾛｶﾞｼ	5.0	m			
〃	EM-EEF2.0mm-3C　PF内	1.0	m			
合成樹脂製可とう電線管	PF22　隠ぺい	2.0	m			
〃	PF28　隠ぺい	3.0	m			
厚鋼電線管	G22　露出	2.0	m			
〃	G28　露出	7.0	m			
電線管塗装	G22　露出	2.0	m			
〃	G28　露出	7.0	m			
二種金属製可とう電線管(ﾋﾞﾆﾙ被覆有)	F24	1.0	m			
二種金属製可とう電線管(ﾋﾞﾆﾙ被覆有)	F30	1.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
2 電灯設備						
照明器具 A	LRS1-08	13.0	台			
照明器具 B	LRS1-13	8.0	台			
照明器具 C	LRS1-17	2.0	台			
照明器具 D	LSS9-4-48	5.0	台			
照明器具 E	LSS9-4-65	15.0	台			
照明器具 F	参考型番:XFX450KENLE9	28.0	台			
照明器具 G	参考型番:LGB85037LE1	1.0	台			
照明器具 H	参考型番:XLW462KENZLE9	4.0	台			
照明器具 I	LBF3MP/RP-2-06	1.0	台			
照明器具 J	LST4-60	4.0	台			

(＿＿＿＿＿＿＿＿)　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
照明器具　Jポール	4.5m　塗装共	4.0	本			
〃　ポール基礎	600×600×1300	4.0	基			
非常照明器具　a1	K1-LRS11-1	6.0	台			
非常照明器具　a2	K1-LRS11-2	1.0	台			
非常照明器具　a3	K1-LRS11-3	3.0	台			
非常照明器具　a4	K1-LSS11-3	3.0	台			
誘導灯　b1	SH1-FSF20-C	6.0	台			
誘導灯　b2	ST1-FSF22-C	1.0	台			
ﾀﾝﾌﾞﾗｽｲｯﾁ(金属ﾌﾟﾚｰﾄ付)	1P15A×1　ﾈｰﾑ付	2.0	個			
〃	3W15A×2　ﾈｰﾑ付	2.0	個			
ﾀﾝﾌﾞﾗｽｲｯﾁ(金属ﾌﾟﾚｰﾄ付)	3W15A×3　ﾈｰﾑ付	2.0	個			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
〃	3W15A×4　ﾈｰﾑ付	2.0	個			
〃	1P15A×1　PL×1ﾈｰﾑ付	1.0	個			
〃	1P15A×2　PL×2ﾈｰﾑ付	3.0	個			
防水埋込ｽｲｯﾁ	1P15A	1.0	個			
人感ｾﾝｻｰ	親機　換気扇端子付	1.0	個			
〃	親機	5.0	個			
〃	子機　換気扇端子付	2.0	個			
人感ｾﾝｻｰ操作ｽｲｯﾁ	1回路	1.0	個			
〃	2回路	3.0	個			
自動点滅器	100V　3A	1.0	個			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
鋼製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	大形44	6.0	個			
樹脂製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	大形44	1.0	個			
ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	1個用	12.0	個			
〃	2個用	2.0	個			
露出ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	1個用 （E19）	1.0	個			
〃	1個用 （E25）	1.0	個			
600Vﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｹｰﾌﾞﾙ	EM-CE3.5sq-3C　FEP内	72.0	m			
600Vﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ絶縁耐燃性ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ	EM-EEF1.6mm-2C　ｺﾛｶﾞｼ	142.0	m			
〃	EM-EEF1.6mm-3C　ｺﾛｶﾞｼ	286.0	m			
〃	EM-EEF2.0mm-2C　ｺﾛｶﾞｼ	5.0	m			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
600Vﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ絶縁耐燃性ﾎﾟﾘ	EM-EEF2.0mm-3C　ｺﾛｶﾞｼ	42.0	m			
〃	EM-EEF1.6mm-2C　PF内	3.0	m			
〃	EM-EEF1.6mm-3C　PF内	27.0	m			
〃	EM-EEF2.0mm-2C　PF内	4.0	m			
〃	EM-EEF2.0mm-3C　PF内	6.0	m			
絶縁電線	EM-IE1.6mm　管内	347.0	m			
合成樹脂製可とう電線管	PF16　隠ぺい	3.0	m			
〃	PF22　隠ぺい	14.0	m			
〃	PF28　隠ぺい	13.0	m			
ねじなし電線管	E19　露出	8.0	m			
〃	E25　露出	28.0	m			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
厚鋼電線管	G16　露出	23.0	m			
電線管塗装	G16　露出	23.0	m			
波付合成樹脂電線管	FEP30	69.0	m			
土工事	根切(機械)	13.0	m3			
〃	埋戻し	13.0	m3			
2種金属線ぴ(MM2)	A型 40㎜×30㎜	67.0	m			
〃	分岐ﾎﾞｯｸｽ　4方向出	2.0	個			
〃	分岐ﾎﾞｯｸｽ　3方向出	1.0	個			
計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
3	コンセント設備						
	ｺﾝｾﾝﾄ(金属ﾌﾟﾚｰﾄ付)	連用形2P15A×1（接地極付）	4.0	個			
	〃	連用形2P15A×2（接地極×2付）	20.0	個			
	〃	連用形2P15A×1（接地極 接地端子付）	13.0	個			
	〃	連用形2P15A×2（接地極×2 接地端子付）	2.0	個			
	〃	2P30A(接地端子付)_IH用	1.0	個			
	露出ｺﾝｾﾝﾄ	連用形2P15A×2（接地極×2付）	1.0	個			
	ｺﾝｾﾝﾄ(防雨形)	抜止2P15A×2（接地極×2 接地端子付）	2.0	個			
	〃	抜止2P15A×1　入線付	2.0	個			
	鋼製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	大形44	11.0	個			
	ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	1個用	39.0	個			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
露出ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	1個用 (E25)	5.0	個			
600Vﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ絶縁耐燃性ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ	EM-EEF2.0mm-3C 管内	43.0	m			
〃	EM-EEF2.0mm-3C ｺﾛｶﾞｼ	230.0	m			
〃	EM-EEF2.6mm-3C ｺﾛｶﾞｼ	5.0	m			
〃	EM-EEF2.0mm-3C PF内	140.0	m			
〃	EM-EEF2.6mm-3C PF内	3.0	m			
合成樹脂製可とう電線管	PF22 隠ぺい	100.0	m			
〃	PF28 隠ぺい	8.0	m			
〃	CD22 埋込	41.0	m			
ねじなし電線管	E25 露出	43.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
4 弱電設備						
<電話・LAN>						
端子盤	10P	1.0	面			
電話用ｱｳﾄﾚｯﾄ(金属製)	ﾓｼﾞｭﾗｰｼﾞｬｯｸ(RJ11) ×1	2.0	個			
情報用ｱｳﾄﾚｯﾄ(樹脂製)	ﾓｼﾞｭﾗｰｼﾞｬｯｸ(RJ45) ×1	3.0	個			
プルボックス(鋼製・ET付)	200×200×200	2.0	個			
ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	1個用	5.0	個			
防雨入線ｶﾊﾞｰ		1.0	個			
ねじなし電線管	E31　露出	38.0	m			
合成樹脂製可とう電線管	PF16　隠ぺい	23.0	m			
〃	PF28　隠ぺい	101.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
ﾒｯｾﾝｼﾞｬﾜｲﾔｰ	22mm2 1径間20m相	3.0	m			
<TV>						
ﾃﾚﾋﾞｱﾝﾃﾅ	AU-1　20素子	1.0	組			
BS・110°　CSアンテナ	75cm	1.0	組			
ｱﾝﾃﾅﾏｽﾄ	3.0m　自立型	1.0	組			
ﾃﾚﾋﾞ端子(金属ﾌﾟﾚｰﾄ)	SH- 77F	2.0	個			
分配器	SH-D2	1.0	個			
混合(分波)器	屋外	1.0	個			
増幅器	SH･UF-1	1.0	個			
鋼製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	大形44	2.0	個			
ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	1個用	2.0	個			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
防雨入線ｶﾊﾞｰ		1.0	個			
EM同軸ｹｰﾌﾞﾙ	EM-7C-2E　管内	23.0	m			
〃	EM-7C-2E　ｺﾛｶﾞｼ	35.0	m			
〃	EM-7C-2E　PF内	18.0	m			
〃	EM-5C-2E　ｺﾛｶﾞｼ	15.0	m			
〃	EM-5C-2E　PF内	8.0	m			
合成樹脂製可とう電線管	PF16　隠ぺい	8.0	m			
〃	PF28　隠ぺい	13.0	m			
ねじなし電線管	E25　露出	12.0	m			

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
<ﾄｲﾚ呼出>						
ﾄｲﾚ等呼出し表示器	1窓	1.0	台			
呼出表示灯	ﾌﾞｻﾞｰ付	1.0	個			
呼出ﾎﾞﾀﾝ	ﾌﾟﾙｽｲｯﾁ付き	1.0	個			
復帰ﾎﾞﾀﾝ		1.0	個			
鋼製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	大形44	1.0	個			
ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	1個用	3.0	個			
警報用ｹｰﾌﾞﾙ	EM-AE1.2-3C　ｺﾛｶﾞｼ	14.0	m			
〃	EM-AE1.2-2C　PF内	1.0	m			
〃	EM-AE1.2-3C　PF内	5.0	m			
合成樹脂製可とう電線管	PF16　隠ぺい	5.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
<ITV設備>						
ITV装置	ﾈｯﾄﾜｰｸﾚｺｰﾀﾞｰ4TB	1.0	組			
	無停電電源装置　500VA					
	32型液晶モニター					
屋外赤外ネットワークカメラ	ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ　電動ｽﾞｰﾑ	3.0	台			
鋼製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	大形44	2.0	個			
LAN用ｹｰﾌﾞﾙ	EM-UTPｹｰﾌﾞﾙCAT5E-4P　ｺﾛｶﾞｼ	44.0	m			
〃	EM-UTPｹｰﾌﾞﾙCAT5E-4P　PF内	9.0	m			
〃	EM-UTPｹｰﾌﾞﾙCAT5E-4P　管内	14.0	m			
合成樹脂製可とう電線管	PF16　隠ぺい	9.0	m			
ねじなし電線管	E19　露出	14.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
5 自動火災報知設備						
受信機	P型1級　壁掛型	1.0	面			
総合盤	1級	2.0	面			
火災通報装置		1.0	台			
火災通報専用電話機		1.0	台			
光電式煙感知器	2種	10.0	個			
差動式ｽﾎﾟｯﾄ形感知器	2種　露出	2.0	個			
定温式ｽﾎﾟｯﾄ形感知器	1種　露出	1.0	個			
〃	1種　防水	6.0	個			
分布型感知器(1､2､3種)	露出　3個用	2.0	個			
分布型感知器(空気管式)	ﾒｯｾﾝｼﾞｬｰ付	362.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
耐熱ｹｰﾌﾞﾙ	EM-HP1.2-5P　PF内	24.0	m			
〃	EM-HP1.2-2C　PF内	4.0	m			
警報用ｹｰﾌﾞﾙ	EM-AE1.2-4C　ｺﾛｶﾞｼ	100.0	m			
〃	EM-AE1.2-4C　PF内	6.0	m			
合成樹脂製可とう電線管	PF16　隠ぺい	10.0	m			
〃	PF22　隠ぺい	24.0	m			
ねじなし電線管	E19　露出	56.0	m			
計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
6	機械警備設備						
	鋼製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	大形44	41.0	個			
	合成樹脂製可とう電線管	PF22　隠ぺい	47.0	m			
	ねじなし電線管	E25　露出	51.0	m			
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
3	機械設備工事						
1	衛生器具設備		1.0	式			
2	給水設備		1.0	式			
3	給湯設備		1.0	式			
4	排水設備		1.0	式			
5	ガス設備		1.0	式			
6	空調設備		1.0	式			
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
1 衛生器具設備						
洋風大便器	CFS494NHNA(節水形手動フラッシュバルブ)	4.0	組			
洗浄暖房便座(瞬間式)	TCF5831AD	4.0	組			
車椅子用大便器	CFS494NNNA(節水形自動フラッシュバルブ)	1.0	組			
洗浄暖房便座(瞬間式)	TCF5841P(便ふたなし)	1.0	組			
オストメイトパック	UAS81LDB1NW(電気温水器付,ロータンク)	1.0	組			
棚付二連紙巻器	YH650	5.0	組			
L型手摺	T112CL9	2.0	組			
L型手摺	T112CL10	1.0	組			
可動手摺	T112HK8R	1.0	組			
洗面器手摺	T112CP21-1	2.0	組			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
ベビーチェア	YKA15S	1.0	組			
ベビーシート	YKA25N	1.0	組			
壁掛洗面器	LSG704AAPNW(自動水栓セット),他付属品	5.0	組			
壁掛手洗器	L103A,TLE28SS1A(自動水栓),他付属品	1.0	組			
化粧鏡	YM3545A(350×450)	4.0	組			
化粧鏡	YM4575A(450×750)	1.0	組			
ﾚﾊﾞｰ式混合水栓(台付)	TKS05307J	1.0	組			
掃除流し	掃除流しSK22A,T23AEQ20C(横水栓)	1.0	組			
洗濯水栓	TW11R	1.0	組			
洗濯パン	PWP740N2W(740ﾗ640),PJ2009NW(排水トラップ)	1.0	組			
散水栓	T28UNH13	1.0	組			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
散水栓ボックス	ステンレス・埋設用	1.0	組			

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
2 給水設備						
<屋外給水>						
水道用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管	20A　地中配管	5.0	m			
〃	25A　地中配管	13.0	m			
〃	30A　地中配管	22.0	m			
〃	20A　屋外架空・暗渠	1.0	m			
給水管保温(GW)	20A　屋外露出(SUSﾗｯｷﾝｸﾞ)	1.0	m			
仕切弁(管端防食ｺｱ)	20A 10K(ねじ・給水用)	3.0	個			
〃	25A 10K(ねじ・給水用)	4.0	個			
〃	32A 10K(ねじ・給水用)	1.0	個			
ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ	20A　ﾍﾞﾛｰｽﾞ形	2.0	個			

(　　)

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
弁桝	VC-P(550H)	5.0	組			
〃	VC-1(550H)	1.0	組			
量水器取付	32A	1.0	個			
量水器桝	MC-1(450H)	1.0	組			
既存管接続(樹脂管)	30A　保温なし	1.0	箇所			
土工事	根切(機械)	12.0	m3			
〃	埋戻し	11.0	m3			
〃	山砂	2.0	m3			
〃	建設発生土処理	2.0	m3			
埋設表示テープ	W＝150	39.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
<屋内給水>						
一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼鋼管	20A　屋内一般	10.0	m			
〃	25A　屋内一般	3.0	m			
〃	20A　機械室・便所	23.0	m			
〃	25A　機械室・便所	22.0	m			
給水管保温(GW)	20A　隠ぺい	8.0	m			
〃	25A　隠ぺい	6.0	m			
鋼管(地中)防食	20A	25.0	m			
〃	25A	19.0	m			
一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼仕切弁	20A　10K	1.0	個			
ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ	20A　ﾍﾞﾛｰｽﾞ形	1.0	個			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
SUSﾌﾚｷﾁｭｰﾌﾞ	13A × 500L	1.0	個			

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
3 給湯設備						
GWH-1　ガス給湯器	24号	2.0	台			
EWH-1　電気温水器	貯湯式　20L	1.0	台			
給湯 一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼鋼管	20A　屋内一般	2.0	m			
給湯 〃	20A　機械室・便所	12.0	m			
給湯管保温(GW)	20A　隠ぺい	13.0	m			
〃	20A　屋外露出(SUSﾗｯｷﾝｸﾞ)	1.0	m			
ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ	20A　ﾍﾞﾛｰｽﾞ形	2.0	個			
SUSﾌﾚｷﾁｭｰﾌﾞ	13A×500L	1.0	個			
計						

(　　)

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原 設計

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単　価	金　額	備　　考
4	排水設備						
4-1	屋内排水設備						
4-2	屋外排水設備						
4-3	雨水排水設備						
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
4-1	屋内排水設備						
	排水・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ耐火二層管(VP)	40A 屋内一般	1.0	m			
	〃	50A 屋内一般	1.0	m			
	〃	40A 機械室・便所	3.0	m			
	排水・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(VP)	40A 屋内一般	1.0	m			
	〃	50A 屋内一般	3.0	m			
	〃	65A 屋内一般	1.0	m			
	〃	75A 屋内一般	8.0	m			
	〃	40A 機械室・便所	4.0	m			
	〃	50A 機械室・便所	2.0	m			
	〃	75A 機械室・便所	28.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
排水・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(VP)	100A 機械室・便所	11.0	m			
通気・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ耐火二層管(VP)	75A 機械室・便所	6.0	m			
通気・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(VP)	50A 機械室・便所	7.0	m			
〃	75A 機械室・便所	17.0	m			
床上掃除口(非防水形)	COA 80A	4.0	個			
〃	COA 100A	2.0	個			
床排水ﾄﾗｯﾌﾟ(非防水形)	T5A 50A	2.0	個			
通気金具(ｶﾞﾗﾘ)	80VA	1.0	個			
計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
4-2	屋外排水設備						
	排水・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(VU)	100A　地中配管	30.0	m			
	〃	200A　地中配管	3.0	m			
	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ桝　100φ-200φ	～500H　90Y	1.0	組			
	〃	501～800H　90Y	5.0	組			
	〃	501～800H　ST	1.0	組			
	〃	801～1200　45L	1.0	組			
	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸﾏﾝﾎｰﾙ　200φ-300φ	1600H　T-14	1.0	組			
	既存管接続(樹脂管)	150A　保温なし	1.0	箇所			
	土工事	根切(機械)	36.0	m3			
	〃	埋戻し	27.0	m3			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
土工事	山砂	10.0	m3			
〃	建設発生土処理	10.0	m3			
マンホールトイレ設備工事	材工一式	1.0	式			別紙明細1

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
4-3	雨水排水設備						
	排水・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(VU)	100A　地中配管	3.0	m			
	〃	150A　地中配管	43.0	m			
	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ桝　150φ-200φ(鋳鉄製防護蓋)	501～800H　90L　ST	3.0	組			
	土工事	根切(機械)	27.0	m3			
	〃	埋戻し	13.0	m3			
	〃	山砂	14.0	m3			
	〃	建設発生土処理	14.0	m3			
	計						

(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
5	ガス設備						
	都市ガス工事	大東ガス	1.0	式			別紙明細2
	計						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
6	空気調和設備						
6-1	冷暖房設備		1.0	式			
6-2	換気設備		1.0	式			
	計						

(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)　富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
6-1	冷暖房設備						
	MAC-1　ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ	同時ﾂｲﾝ　天カセ4方向					
	ｴｺﾊﾟﾈﾙ,ﾘﾓｺﾝ,防振ゴム	C:12.5KW　H:14.0KW	1.0	台			
	MAC-2 ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ	同時ﾂｲﾝ　天カセ4方向					
	ｴｺﾊﾟﾈﾙ,ﾘﾓｺﾝ,防振ゴム	C:14.0KW　H:16.0KW	1.0	台			
	PAC-1 ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ						
	ｴｺﾊﾟﾈﾙ,ﾘﾓｺﾝ,防振ゴム	天カセ2方向　C:5.0KW　H:5.6KW	1.0	台			
	冷媒用断熱材被覆銅管	6.35外径(1/4B) 厚10mm以上	40.0	m			
	〃	9.52外径(3/8B) 厚10mm以上	35.0	m			
	〃	9.52外径(3/8B) 厚20mm以上	40.0	m			
	〃	15.88外径(5/8B) 厚20mm以上	35.0	m			
	600Vﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ絶縁耐燃性ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ	EM-EEF2.0mm-3C　冷媒管共巻	75.0	m			
	排水・保温機能付空調用ﾄﾞﾚﾝ管	25A　屋内一般	11.0	m			
	〃	50A　屋内一般	15.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
排水・耐候性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(VP)	25A　屋内一般	3.0	m			
〃	50A　屋内一般	3.0	m			
制御ｹｰﾌﾞﾙ(EM-CEE)	1.25mm2-2C　ｺﾛｶﾞｼ	14.0	m			
〃	1.25mm2-2C　PF内	6.0	m			
合成樹脂製可とう電線管	PF16　隠ぺい	6.0	m			
ドレントラップ	耐候形　25A	1.0	個			
〃	耐候形　50A	1.0	個			
空調ﾘﾓｺﾝ	取付のみ	3.0	個			
総合調整費	配管系統　調整	75.0	m			
計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
6-2 換気設備						
HEX-1 全熱交換機	天井埋込ダクト形 250φ×750m3/h×100Pa	1.0	台			
HEX-2 全熱交換機	天井埋込ダクト形 250φ×1050m3/h×100Pa	1.0	台			
HEX-3 全熱交換機	天井埋込ダクト形 150φ×210m3/h×100Pa	1.0	台			
EF-1 排気ファン	有圧扇 35cm×2450m3/h×50Pa	4.0	台			
EF-2 排気ファン	天井扇 100φ×60m3/h×50Pa	1.0	台			
EF-3 排気ファン	天井扇 100φ×60m3/h×50Pa	1.0	台			
EF-4 排気ファン	天井扇 150φ×390m3/h×50Pa	1.0	台			
EF-5 排気ファン	天井扇 150φ×350m3/h×50Pa	1.0	台			
EF-6 排気ファン	天井扇 150φ×170m3/h×50Pa	1.0	台			
EF-7 排気ファン	天井扇(2部屋換気用) 100φ×70m3/h×50Pa	1.0	台			

(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
EF-8 排気ファン	天井扇(2部屋換気用) 100φ×70m3/h×50Pa	1.0	台			
ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ(低圧ﾀﾞｸﾄ)	100φ	18.0	m			
〃	150φ	18.0	m			
〃	200φ	15.0	m			
〃	250φ	38.0	m			
〃	300φ	1.0	m			
ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ 保温	屋内隠ぺい,ﾀﾞｸﾄｼｬﾌﾄ内Nｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ GW	46.0	m2			
制御ｹｰﾌﾞﾙ(EM-CEE)	1.25mm2-5C コロｶﾞｼ	21.0	m			
〃	1.25mm2-5C PF内	6.0	m			
合成樹脂製可とう電線管	PF16 隠ぺい	6.0	m			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
SUS製ﾍﾞﾝﾄｷｬｯﾌﾟ深型・ｶﾞﾗﾘ付	100φ	4.0	個			
SUS製ﾍﾞﾝﾄｷｬｯﾌﾟ深型・FD・ｶﾞﾗﾘ付	150φ	5.0	個			
〃	250φ	4.0	個			
全熱交換器ﾘﾓｺﾝ	取付のみ	3.0	個			
ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙ形吹出口	VHS　200×200	1.0	個			
〃	VHS　250×250	2.0	個			
〃	VHS　300×300	2.0	個			
〃	VHS　400×400	1.0	個			
〃	HS　200×200	1.0	個			
〃	HS　250×250	2.0	個			
〃	HS　300×300	2.0	個			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙ形吹出口	HS　400×400	1.0	個			
外壁ｶﾞﾗﾘ	1500×1000	2.0	個			
ｱﾝｸﾞﾙﾌﾗﾝｼﾞ工法ﾀﾞｸﾄ(BOX)	0.5mmt	5.0	m2			
〃	0.6mmt	8.0	m2			
BOX内張	GW25mt	13.0	m2			
ｱﾝｸﾞﾙﾌﾗﾝｼﾞ工法ﾀﾞｸﾄ(ﾁｬﾝﾊﾞ)	1.6mmt	9.0	m2			
総合調整費	ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ系統　調整	90.0	m			
計						

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	別紙明細-1						
1	マンホールトイレ設備工事	材工一式					
		機械・人力					
	掘削工	人孔部及び管路部	23.3	㎥			
		4t					
	残土処分工	15%割増	16.4	㎥			
		人力　管周り150mm					
	基礎及び埋戻工	砕石・発生土使用 ﾀﾞﾝﾊﾟ転圧	10.5	㎥			
		機械・人力					
	埋戻工	砕石・発生土使用 ﾀﾞﾝﾊﾟ転圧	12.8	㎥			
		特殊人孔設置工 φ900					
	RCP製貯留弁	基礎工含む(ﾀﾞﾝﾊﾟ転圧RC-40 t=200mm)	1.0	箇所			
		親子蓋設置工 φ600					
	付特殊MH工		1.0	箇所			
	管布設工	貯留管敷設工(φ450)	9.0	m			
		接続管敷設工(φ200)					
	管布設工	立上り管・支管・鉄蓋設置工	3.0	箇所			
		RCP製貯留弁付マンホール					
	RCP製特殊マンホール部材	1460用・流出200	1.0	基			
	RCP製特殊マンホール部材	人孔用調整リング H=50	1.0	個			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
RCP製特殊マンホール部材	人孔用調整リング H=30	1.0	個			
RCP製特殊マンホール部材	人孔用調整リング H=10	2.0	個			
RCP製特殊マンホール部材	人孔用親子蓋T-25 600*200	1.0	個			
トイレ用ﾏﾝﾎｰﾙ部材及び	ゴム輪差口片受け直管					
点検口ﾏﾝﾎｰﾙ部材	SRA-PRP450*4000L	2.0	本			
トイレ用ﾏﾝﾎｰﾙ部材及び	ﾘﾌﾞ受口-VU差口変換(専用)					
点検口ﾏﾝﾎｰﾙ部材	継手450	1.0	本			
トイレ用ﾏﾝﾎｰﾙ部材及び	90°　自在支管					
点検口ﾏﾝﾎｰﾙ部材	90SVR-F-PRP 450*200	3.0	個			
トイレ用ﾏﾝﾎｰﾙ部材及び						
点検口ﾏﾝﾎｰﾙ部材	塩ビ製蓋200	3.0	個			
トイレ用ﾏﾝﾎｰﾙ部材及び	ブレーエンド直管					
点検口ﾏﾝﾎｰﾙ部材	VU200*4000L	1.0	本			
トイレ用ﾏﾝﾎｰﾙ部材及び	ﾘﾌﾞ止水ｷｬｯﾌﾟ					
点検口ﾏﾝﾎｰﾙ部材	450　受口用	1.0	個			
トイレ用ﾏﾝﾎｰﾙ部材及び	防護ﾊｯﾄ T-25 300					
点検口ﾏﾝﾎｰﾙ部材	トイレ用・台座	2.0	組			
トイレ用ﾏﾝﾎｰﾙ部材及び	防護ﾊｯﾄ T-25 300					
点検口ﾏﾝﾎｰﾙ部材	点検口用・台座	1.0	組			

(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
その他部材	滑材 1kg	1.0	缶			
	ﾏﾝﾎｰﾙ充填剤					
その他部材	ﾄﾞﾚﾝﾀｲﾄ10kg	1.0	組			
	支管用接合材					
その他部材	ﾘﾌﾞﾀｲﾄ 10kg	1.0	組			
その他部材	鉄蓋開閉専用ﾊﾞｰﾙ	1.0	個			
その他部材	貯留弁開閉器具	1.0	個			
その他部材	搬入費	1.0	式			
諸経費		1.0	式			
計						
改め						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
別紙明細-2						
2 ガス設備						
カラー鋼管	32A	2.0	m			
PE管	30A	1.5	m			
PE管	50A	23.0	m			
フレキ管	20A	1.5	m			
CDフレキ管	20A	18.5	m			
UI型ネジガス栓	20A	2.0	個			
メータガス栓	32A	1.0	個			
直埋設型ボールバルブ(PE管)	50A	1.0	個			
バルブピット	26型 A	1.0	個			
ガスメータ取付工事費	10ｶﾗ16	1.0	台			

(　　)

富士見市　総務部　営繕課

積　算　用　紙

上段　変更設計
下段　原　設計

名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
メータ固定サドル	32＊32	2.0	個			
検圧プラグ		1.0	個			
PC絶縁ソケット	32A	1.0	個			
トラジション継手 エルボ	30A	1.0	個			
標示ピン等		1.0	式			
設計費		1.0	式			
諸経費		1.0	式			
計						
改め						

（＿＿＿＿＿＿＿＿）　富士見市　総務部　営繕課

富士見市中央防災センター建設工事

図面リスト							
富士見市中央防災センター建設工事							
意匠		構造		電気設備		機械設備	
A-00	表紙・図面リスト	S-01	構造設計特記仕様書（1）	E-01	電気設備特記仕様書	M-01	機械設備　特記仕様書（1）
A-01	特記仕様書（その1）	S-02	構造設計特記仕様書（2）	E-02	配置図	M-02	機械設備　特記仕様書（2）
A-02	特記仕様書（その2）	S-03	鉄筋コンクリート構造標準図（1）	E-03	引込開閉器盤・動力分電盤図	M-03	給排水衛生設備　配置図
A-03	特記仕様書（その3）	S-04	鉄筋コンクリート構造標準図（2）	E-04	電灯分電盤図	M-04	給排水衛生設備　機器表・器具表
A-04	特記仕様書（その4）	S-05	鉄筋コンクリート構造標準図（3）	E-05	幹線動力設備　平面図	M-05	給排水衛生設備　平面図
A-05	特記仕様書（その5）	S-06	鉄骨構造標準図（1）	E-06	照明器具姿図	M-06	給排水衛生設備　平面詳細図
A-06	特記仕様書（その6）	S-07	鉄骨構造標準図（2）	E-07	電灯設備　平面図	M-07	空調換気設備　機器表・換気計算書
A-07	案内図　計画概要	S-08	ジャストベース標準図	E-08	非常灯誘導灯設備　平面図	M-08	空調設備　平面図
A-08	計画配置図	S-09	NDコア標準図（1）	E-09	コンセント設備　平面図	M-09	換気設備　平面図
A-09	現況図	S-10	NDコア標準図（2）	E-10	トイレ呼出設備機器姿図	M-10	マンホールトイレシステム標準図
A-10	敷地求積図	S-11	基礎、杭伏図	E-11	ITV設備機器姿図・システム図		
A-11	建物・延床求積図　　各室求積図	S-12	R階伏図	E-12	弱電設備　平面図		
A-12	外部・内部仕上表	S-13	軸組図（1）	E-13	自動火災報知設備系統図・凡例		
A-13	平面図　屋根伏図	S-14	軸組図（2）	E-14	自動火災報知設備　平面図		
A-14	立面図	S-15	基礎リスト	E-15	機械警備配管設備　平面図		
A-15	断面図	S-16	地中梁、梁型、スラブリスト				
A-16	矩計図（1）	S-17	鉄骨リスト				
A-17	矩計図（2）	S-18	架構詳細図				
A-18	平面詳細図（1）	S-19	擁壁詳細図				
A-19	平面詳細図（2）						
A-20	展開図（1）						
A-21	展開図（2）						
A-22	展開図（3）						
A-23	トイレ詳細図						
A-24	天井伏図						
A-25	建具キープラン						
A-26	建具表						
A-27	サッシ詳細図						
A-28	スライディングウォール詳細図						
A-29	ユニット詳細図						
A-30	部分詳細図						
A-31	屋根詳細図						
A-32	法令チェック図						
A-33	外構図						
A-34	雨水排水計画図						
A-35	外構詳細図						
A-36	乗入整備図						
A-37	緑化計画図						
A-38	既存擁壁図						
A-39	擁壁下地盤改良計画図						
A-40	L型擁壁割付図、L型擁壁正面展開図（参考図）						
A-41	L型擁壁図（既成ｺﾝｸﾘｰﾄ）（参考図） 現場打ちｺﾝｸﾘｰﾄ擁壁図						
A-42	仮設計画図（1）						
A-43	仮設計画図（2）						
A-44	工事区分表						

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号　須賀 温

Project 富士見市中央防災センター建設工事
Index 図面リスト
Scale -
設計年月 令和8年03月
Number A-00

工事名　富士見市中央防災センター建設工事

特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1．工事場所　埼玉県富士見市鶴瀬東２丁目２３１７番２

2．敷地面積　1514.98 ㎡

3．工事種目（建物概要）　防災備蓄倉庫兼会議室ｽﾍﾟｰｽ　鉄骨　造　1　階建て（地下　階・ＰＨ　階）

建築面積	659.90	㎡
延べ面積	599.90	㎡
床面積		㎡
1　階	599.90	㎡
階		㎡
階		㎡
階		㎡
階		㎡

4．工　　期

契約工期	契　約	日から令和１０年３月２４日まで
共通仮設費率の算定に用いる工期	契　約	日から令和９年１２月２８日まで
主任技術者又は監理技術者の専任を要しない期間	現場施工に着手するまで	
現場代理人の現場への常駐を要しない期間	現場施工に着手するまで	
現場施工期間	契　約	日から令和９年１２月２８日まで
	ただし、仮設工事等は施設との協議による	

5．工事範囲

※「３．工事種目」全てを工事範囲とする。
・「３．工事種目」のうち……の工事範囲は下記表のとおりとする。
　ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

② 仮設工事	
③ 土工事	
④ 地業工事	
⑤ 鉄筋工事	
⑥ コンクリート工事	
⑦ 鉄骨工事	
８ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ＡＬＣﾊﾟﾈﾙ・押出成形セメント板工事	
⑨ 防水工事	
１０ 石工事	
１１ タイル工事	
１２ 木工事	※工事範囲全て
１３ 屋根及びとい工事	
１４ 金属工事	
１５ 左官工事	
１６ 建具工事	
１７ カーテンウォール工事	
１８ 塗装工事	
１９ 内装工事	
２０ ユニット及びその他の工事	
２１ 排水工事	
２２ 舗装工事	
２３ 植栽及び屋上緑化工事	

Ⅱ　建築工事仕様

（１）質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「埼玉県建築工事特別共通仕様書」及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下、「標準仕様書」という。）による。
　なお、新たな版が出版され、当該基準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を決定する。
（２）標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。
（３）特記仕様書の表記
　１）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
　２）特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
　　・印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。・ 印と ※の場合は、・のみを適用する。
　３）特記事項に記載の｛　．　．｝内の表示番号は、「埼玉県建築工事特別共通仕様書」の当該項目、当該図表を示す。
　４）特記事項に記載の（　．　．）内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
　５）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内は製品名を示す。
　６）本工事において、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（最新版）」及び、「埼玉県グリーン調達・環境配慮契約推進方針（最新版）」による特定調達品目のうち、「判断の基準」を満たす環境物品等（以下「特定調達物品等」という）を選択するよう努めるものとする。
　　なお、Ｇ 印は設計図書で定めのある品目を示す。
　７）注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

章	項　目	特　記　事　項
①一般共通事項	① 適用基準等	※埼玉県建築工事実務要覧に記載の要領等 ※建築工事監理指針（国土交通省監修）（参考図書） ※建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修　令和４年版） なお、新たな版が出版され、当該基準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を決定する。
	② 条件明示事項	保険の種類　{1.1.3} ※法定外の労災保険（工事に従事する者(全ての下請負人を含む)の業務上の負傷等を対象とするもの） ※建設工事保険等（工事目的物及び工事材料等を対象とするもの） ※請負業者賠償責任保険等　・ 保険の期間　※工事完成期日後１４日を含む期間　・
	③ 工事実績情報ｼｽﾃﾑ コリンズへの登録	※行う（請負代金額500万円以上，10日以内に登録）　・行わない　(1.1.4){1.1.8}
	④ 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ○風圧力　風速（V0=32.0m/s）　地表面粗度区分（・Ⅰ　・Ⅱ　○Ⅲ　・Ⅳ） ○積雪荷重　H12.5.31告示第1455号における区域　別表（　）
	⑤ 別契約の関連工事	※監督員指定の別契約工事を今回工事全体としてとらえ，主導的に調整する。(1.1.7) ・監督員指定の別契約工事が行う全体調整に全面的に協力する。
	６ 施工に注意を要する区域等	本工事場所は以下の区域等に指定等されているため、施工計画の作成及び施工に当たっては関係法令等の遵守に十分注意する。(1.1.12、13) ・周知の埋蔵文化財包蔵地　・史跡名勝天然記念物 ・　・
	⑦ 工事の記録	埼玉県建築工事写真作成要領に基づき作成し、監督員に提出する。(1.2.4){1.6.5} 埼玉県電子納品運用ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　※適用する(CD-R又はDVD-Rで１部提出)・適用しない
	⑧ 電気保安技術者	適用する　(1.3.3){1.3.1}
	⑨ 施工条件	施工時間　(1.3.5) ・行政機関の休日に関する法律（S63第91号）に定める行政機関の休日以外とする。 　ただし、監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない ※公告に別に添付する<埼玉県営繕工事における「週休２日制モデル工事」特記仕様書>を参照のこと 施工時間以外の施工条件 ・図示による　・
	⑩ 施工中の安全確保	本工事の受注者を、作業が同一の場所において行われることによって生じる労働災害を防止するために必要な措置を講ずべき者（統括安全衛生管理義務者）とする。(1.3.7)
	⑪ 施工中の環境保全等	建設機械は、原則として排出ガス対策型、低騒音型、低振動型を使用する。　(1.3.10)
	⑫ 発生材の処理等	引渡しを要するもの　(1.3.11){1.1.13} ※無し（全て構外搬出適正処理）　・有り（※図示　・　） 注 a）発生材のうち特記により、引き渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調書を添えて監督員に報告する。 b）産業廃棄物処理許可書及び最終処理受入票の写しを提出する。 c）引き渡しを要しないものは、すべて構外に搬出し、「資源の有効な利用の促進に関する法律」「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という。）「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」その他関係法令等により適切に処理し監督員に報告する。
	⑬ 県産品の使用	受注者は、工事材料に係る納入契約を締結する場合には、当該契約の相手方は埼玉県内に本店を有する者の中から選定するように努めるとともに、調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努める。　{1.4.2}
	⑭ 環境への配慮	建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。　(1.4.1){1.4.3} ① 合板、木質系フローリング、構造用ボード、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑剤（フタル酸ｼﾞn－ブチル及びフタル酸ｼﾞ2－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
	⑮ 材料の品質等	※本工事に使用する材料等は、設計図書に定める品質及び性能と同等以上のものを使用する。ただし製造業者等が指定されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督員の承諾を受ける。　(1.4.2) ※材料・機材等の製造業者等は次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督員の承諾を受ける。 ① 品質及び性能に関する試験データが整備されていること ② 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること ③ 安定的な供給が可能であること ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること ⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられていること ※製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、グリーン購入法の基本方針の判断の基準に従い、あらかじめ「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」（林野庁 H18.2.15）に準拠した証明書を監督員に提出する。
	⑯ 技能士	(1.5.2){1.3.3}

適用工事種別	技　能　検　定　作　業
仮設工事	○とび作業
鉄筋工事	○鉄筋組立て作業
コンクリート工事	○型枠工事作業　○ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
鉄骨工事	○構造物鉄工作業　○とび作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ALCﾊﾟﾈﾙ押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業 ・ｴｰｴﾙｸﾚｰﾊﾟﾈﾙ工事作業
防水工事	・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業　・ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業　・合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業　・ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ○ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業　・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾁ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	・石張り作業
タイル工事	・タイル張り作業
木工事	・大工工事作業
屋根及びとい工事	○内外装板金作業
金属工事	○鋼製下地工事作業　・内外装板金作業
左官工事	○左官作業
建具工事	○ｱﾙ製ｻｯｼ施工作業　○ガラス工事作業　・自動ドア施工作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	・金属製カーテンウォール工事作業　・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業 ・ガラス工事作業
塗装工事	○建築塗装作業　・木工塗装作業
内装工事	・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業　・カーペット系床仕上作業 ○ボード仕上げ工事作業　・壁装作業　・保温保冷工事作業
排水工事	○建築配管作業
舗装工事	・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業　・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	○造園工事作業
その他	○ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業

⑰ 化学物質の濃度測定		(1.5.9)
18 中間検査	中間検査　※行う（埼玉県建設工事検査要綱第５条）　・行わない　(1.6.2){1.5.1} 中間検査実施回数（　2回　）　実施段階（　　）監督員の指示による 中間検査成績評定　※対象外　・対象（埼玉県建築工事成績評定要領第２）	
⑲ 完成図等	監督員の指示により埼玉県建築工事監督要綱別表第１に示す書類を原則電子データで提出する　(1.7.1～3){1.6.1～3} 完成図等の種類及び記入内容 完成（竣工）図（※監督員が指定した設計図面に完成時の状態を表現したもの） 図面情報電子化媒体　※CD-R又はDVD-R，１部 CADデータの形式　※SXF(sfc)　○DXF　○JWW （埼玉県建築工事図面情報電子化媒体作成要領による。CADﾃﾞｰﾀのﾊﾞｰｼﾞｮﾝは監督員と協議する。） 保全に関する資料（通常取扱いに注意を要するものの使用方法を解説する） 完成写真（埼玉県建築工事写真作成要領に基づき作成する） 埼玉県電子納品運用ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　※適用する(CD-RⅩはDVD-Rで提出)・適用しない 撮影者　※監督員の承諾する撮影者　・ 撮影箇所　※外部（　）内部（　） 着工時と完成時の状況を比較できるように撮影する ○埼玉県建築工事写真作成要領別表５ 原本及びアルバムを各１部提出 原本（電子媒体：撮影時のJPEG）及びアルバム（紙媒体又は電子媒体）を各1部提出 パネル入り（外部全景）完成写真　・要　○不要 施設CADデータ　○更新して提出　・更新しない	
⑳ 保証書	防水工事　※屋上防水　・外壁防水　○金属屋根　・ 建物引渡し日から10年間、受注者、施工者、材料ﾒｰｶｰの3者連名とし2部提出する。 上記以外　○1 部提出	(1.6.4)
21 その他	・予備材料　※監督員の指示による　・ ・下請契約　※全体及び県内に分け、契約数及び契約金額の総計を提出する。	

② 仮設工事	① 足場その他	(2.2.4) 「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」における2の(1)手すり据置き方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行う。 墜落制止用器具の使用は、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」（厚生労働省 H30.6.22）による。 ・フルハーネス型墜落制止用器具を用いる。 幅が1メートル以上の箇所において足場を使用するときは、原則として本足場を使用する（労働安全衛生規則第561条の2）
	② 監督員事務所	(2.3.1) 規模　・既存建物内の一部を使用 ○構内に新設　㎡ ・設置しない（下記備品のみ用意する） 備品（　　名分相当） ○机　○椅子　○書棚　・黒板　・掛時計　・寒暖計　○長靴　○雨合羽　○保護帽 ○懐中電灯　○墜落制止用器具　○軍手　・衣類ロッカー　・荷物ロッカー（鍵付き） ○冷暖房機器　○消火器　○湯沸器　○茶器　・掃除用具　・電話機　・ＦＡＸ ○電子メール通信機器　○スキャナー　○プリンター
	③ 現場表示板	※設置する（{1.1.12}による表示　※要　・不要）　・設置しない　(2.3.1){1.1.12}
	④ 工事用水	構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）
	⑤ 工事用電力	構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（別途施設調整を行うこと）
	⑥ 工事用搬入路	※図示　・
	⑦ 仮囲い	※設置位置等は監督員の指示による　・図示
	⑧ 交通誘導員	必要に応じ搬入路付近に交通誘導員を配置する。 配置箇所　※監督員の指示による　・図示
	９ 快適トイレ	仕様　※図示　・
③ 土工事	① 埋戻し及び盛土	(3.2.3) 材料及び工法　※標準仕様書表3.2.1による 種別 ・Ａ種　適用場所（　　） ○Ｂ種　適用場所（基礎・擁壁） ・Ｃ種　適用場所（　　）土質（　　）受渡場所（　　） ・Ｄ種　適用場所（　　） （品質　細粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする。） ・材料（　　）・工法（　　）
		・六価クロム溶出試験　・行う　・行わない　(3.2.5)
	② 建設発生土の処理	○場外搬出適切処理（搬出場所：　　） ・構内指示の場所にたい積　・構内指示の場所に敷き均し ○UCRの受け入れに必要な土質調査を実施する。また、この調査による資料は他工区の工事へも利用する。　(3.3.3)
	３ 山留めの撤去	鋼矢板等の抜き跡　※地盤の変形を防止する適切な措置を講ずる
④地業工事 ⑤鉄筋工事 ⑥コンクリート工事 ⑦鉄骨工事		特記仕様書（構造関係）による

８ コンクリートブロック・ＡＬＣパネル及び押出成形セメント板工事

１ 補強コンクリートブロック造	ブロックの種類　(8.2.2、3、5、7、8)	
	断面形状及び圧縮強さによる区分 / 正味厚さ(mm) / ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ / 高さ / 化粧の有無 / 適用箇所 / 備考	
	※空洞ブロックC(16)	・無　・有
	・	・無　・有
	モルタルの調合（容積比）※標準仕様書表8.2.1による　・セメント（　）：砂（　） 各部の配筋　※図示　・ 目地仕上げ　・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲 ※図示による	
２ コンクリートブロック帳壁及び塀	ブロックの種類　(8.3.2～7)	
	断面形状及び圧縮強さによる区分 / 正味厚さ(mm) / ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ / 高さ / 化粧の有無 / (表8.3.1)以外の適用箇所 / 備考	
	・空洞ブロックC(16)	・無　・有
	・型枠状ブロック 20	・無　・有
	モルタルの調合（容積比）※標準仕様書表8.2.1による　・セメント（　）：砂（　） 塀に用いるブロックの正味厚さ　・ 壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　※図示　・ 各部の配筋　※図示 充填するブロックの範囲　・図示　・	
３ ＡＬＣパネル	ＡＬＣパネルの区分等　(8.4.2～5)	

区分			単位荷重(N/㎡) 正荷重	負荷重	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火性能(時間)	構造の種別
・外壁用	・一般・コーナー	・平・意匠	・	・	・	図示による	・なし・1	・A種・B種
・間仕切用	・一般・コーナー	・平・意匠	—	—	・	図示による	・なし・1	・C種・D種・E種
・屋根用	—	—	・	・	・	図示による	・0.5	※F種
・床用	—	—	・	—	・	図示による	・1 ・2	

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材　・
外壁・腰板パネルの構法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の耐風圧性能
　パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　・
目地幅
　パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁パネルの出隅及び入隅パネル接合部、パネルと他部材との取合い部の目地幅（mm）　※10～20　・
　外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない

４ 押出成形セメント板（ＥＣＰ）	ECPの種類等　(8.5.2～5)	
	パネルの種類 / 形状 / 厚さ(mm) / 幅(mm) / 工法の種別 / 備考	
	・外壁パネル	・F（ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ）・50・60・ / ・A種
		・D（ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ）・50・60 / 600 / ・B種
		・T（ﾀｲﾄﾙﾊﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ）60
	・間仕切壁パネル	・F（ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ）・50・60・ / ・B種
		・D（ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ）・50・60 / 600 / ・C種
		・T（ﾀｲﾄﾙﾊﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ）60

外壁パネルの工法における耐風圧性能
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の耐風圧性能
　パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　・図示
　パネル相互の目地幅（mm）　・長辺（　）　・短辺（　）
　出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅（mm）　※15程度　・
　耐火構造以外の目地及び隙間の処理　※パネルの製造所の仕様

やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認の上、施工計画書を提出する。

		孔あけ及び欠き込みの大きさ		切断後のパネルの残り部分の幅
ﾊﾟﾈﾙに孔あけを設ける場合	短辺	ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下		150mm以下
	長辺	500mm以下		300mm以下
ﾊﾟﾈﾙに欠き込みを設ける場合	短辺	ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下		300mm以下
	長辺	500mm以下		300mm以下

９ 防水工事

１ アスファルト防水	屋根保護防水　(9.2.2～5)（表9.2.3～9）	
	防水層の種別 / 種別 / 施工箇所 / 断熱材 G / 絶縁用シート / 立上り部の保護	
	・Ａ－１	※ｽﾀﾞﾘｽﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上又はﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/㎡程度 / ・乾式保護材
	・Ａ－２	・コンクリート押え
	・Ａ－３	・れんが押え（※JIS R 1250）
	・Ｂ－１	・モルタル押え（屋内）
	・Ｂ－２	
	・ＡＩ－１	（材質）※JIS A 9521による押出法ｽﾀﾞﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA（ｽﾁﾚﾝ層付き） （厚さ）・　mm　・ / ※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/㎡程度
	・ＡＩ－２	
	・ＡＩ－３	
	・ＢＩ－１	
	・ＢＩ－２	

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による
　・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分
　　材料による区分　※Ｒ種
　　厚さ　※（　　）mm以上　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による
　・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・
　　材料による区分　※Ｒ種
　　厚さ　※（　　）mm以上　・
立上り部への断熱材及び絶縁シート　※設置しない　・設置する
平場の保護コンクリートの厚さ
　こて仕上げ　※水下　80mm以上　・
　床タイル張り　※水下　60mm以上　・

・乾式保護材
　窯業系パネルⅠ類　厚さ（　　）mm　幅（　　）mm

屋根露出防水
　防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	仕上塗料
・Ｄ－１			種類 ※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・
・Ｄ－２			
・ＤＩ－１		※標準仕様書9.2.2(9)（種類） （厚さ）(mm)	使用量 ※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・
・ＤＩ－２			

高日射反射率防水の適用 G　※適用する　・適用しない
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書　表9.2.7及び表9.2.8による
　・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・
　　材料による区分　※Ｒ種
　　厚さ　※（　　）mm以上　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書　表9.2.7及び表9.2.8による
　・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・
　　材料による区分　※Ｒ種
　　厚さ　※（　　）mm以上　・

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀 温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　特記仕様書（その１）
Scale　－
設計年月　令和8年03月
Number　A-01

絶縁断熱工法のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
・種類（　　）　設置数量（　　）
屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・Ｅ－１		・Ｅ－２	

保護層　・設ける（※図示　・　　）　・設けない
E-1の工程3を行う部位　　※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位
防水層の下地の立上り
※コンクリート打放し仕上げ　標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げの種別]のＢ種
・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度　・
防水層の下地のモルタル塗り
・適用する（施工範囲　※図示　・　　）　・適用しない
屋上排水溝　※図示　・

2 改質アスファルトシート防水

屋根露出防水　(9.3.2、3)(表9.3.1～3)
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	防湿用シート	仕上塗料
・ＡＳ－Ｔ１				種類 ※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ＡＳ－Ｔ２				
・ＡＳ－Ｔ３				
・ＡＳ－Ｔ４				
・ＡＳ－Ｊ１				
・ＡＳＩ－Ｔ１		(材質) ※標準仕様書9.3.2(3)(ｶ)による ・ (厚さ) ・25mm　・50mm　・	・設ける（改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様による） ・設けない	使用量 ※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ＡＳＩ－Ｊ１				

高日射反射率防水の適用G　・適用する　・適用しない
改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による　・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※Ｒ種
厚さ　※（　　）mm以上　・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による　・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※Ｒ種
厚さ　※（　　）mm以上　・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による　・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※Ｒ種
厚さ　※（　　）mm以上　・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製　L－30×15×2.0(mm)程度　・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
※改質アスファルト製造所の仕様による　・
・種類（　　）　設置数量（　　個）

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種別　(9.4.2～4)(表9.4.1～3)

種別	施工箇所	可塑剤移行防止用ｼｰﾄの材質	仕上塗料
・Ｓ－Ｆ１	・ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地 ・	※発砲ｽﾀﾘﾚﾝｼｰﾄ ・	種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・Ｓ－Ｆ２			
・Ｓ－Ｍ１			種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・Ｓ－Ｍ２			
・Ｓ－Ｆ１	・ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地 ・	※発砲ｽﾀﾘﾚﾝｼｰﾄ ・	種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・Ｓ－Ｆ２			
・Ｓ－Ｍ１			種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・Ｓ－Ｍ２		※発砲ｽﾀﾘﾚﾝｼｰﾄ ・	

合成高分子系ルーフィングシート防水工法（断熱工法）における断熱材G
SI-F1、SI-F2の場合　※標準仕様書9.4.2(3)(ｲ)(b)による　・
SI-M1、SI-M2の場合　※標準仕様書9.4.2(3)(ｲ)(a)による　・
（種類）　（厚さ）・25mm　・50mm　・
高日射反射率防水の適用G　・適用する　・適用しない
S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様　※非歩行仕様　・軽歩行仕様
SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルムの設置
・設ける　・設けない
S-M2またはSI-M2の場合立上り部の工法
・接着工法
・機械的固定方法

屋内防水
防水層の種類

種別	施工箇所	保護層		
		平場の保護モルタル塗り		立上り部の保護ﾓﾙﾀﾙ塗り厚さ
		塗り厚さ	工法	
・S-C1		・　mm	・床塗り工法 ・下地モルタル塗り	※７mm以下 ・

平場の保護モルタル床塗りにおける目地の目地割及び種類
目地割　※目地割2㎡程度、最大目地間隔3m程度
目地の種類　※押し目地
合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書　表9.4.1から表9.4.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類　・
厚さ　・
固定金具の材質、寸法、形状
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの
・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
※ルーフィングシートの製造所の仕様
・種類（　　）　設置数量（　　個）
接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・行う（・図示　・　　）　・行わない
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別　S-F1、SI-F1の場合）
・行う（・図示　・　　）　・行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力（・1　・　　・　　）倍の風圧力に対応した工法

4 塗膜防水

※特定化学物質障害予防規則の対象とならない材とする　(9.5.3)(表9.5.1～2)
防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料	保護層
・Ｘ－１		種類・使用量 ※主材料の製造所の仕様 ・	
・Ｘ－２		種類・使用量 ※主材料の製造所の仕様 ・	
・Ｙ－１	※地下外壁防水 ・		
・Ｙ－２	※屋内防水 ・		・設ける ・保護ﾓﾙﾀﾙ ・保護ｺﾝ ・設けない

（Ｘ－１、Ｘ－２）高日射反射率防水の適用G　・適用する　・適用しない

ウレタンゴム系塗膜防水Ｘ－１の脱気装置の種類及び設置数量
※主材料の製造所の仕様
・種類（　　）　設置数量（　　個）

5 ケイ酸質系塗布防水

防水層の下地　(9.6.4)(表9.6.1)
壁　※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4　B種）
天井部　※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4　B種）
下地処理
コンクリートの打継ぎ箇所の処理
※打継ぎ部分に対し、幅30mm及び深さ30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い清掃し、ｹｲ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ﾎﾟﾘﾏｰﾏｰﾓﾙﾀﾙを充填　・図示　・
型枠締付け材にコーンが使用されている部位及びｹｲ酸質系塗布防水材の塗布面以外の下地処理
・図示　・

⑥ シーリング

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による　(9.7.2～5)(表9.7.1)
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
建具・庇廻り	MS-2
ライニング	MS-2

仕上を行わない施工箇所（・図示による　・　　）
シーリング材の目地寸法
※標準仕様書9.7.1(1)(ｱ)～(ｳ)による
・図示　・
外部に面するシーリング材の接着性試験
※簡易接着性試験　・引張接着性試験

注　練り混ぜた２成分形シーリング材は、１組の作業班が１日に行った施工箇所を１ロットとして、各ロットごとにサンプリングを行い、サンプリング試料を監督員に提出すること。

7 防水工事施工票

※設置する（　　ヶ所）　[2.1.2]
（施工年月日は防水工事施工完了日（手直しは除く）を記入）

10 石工事

1 施工

石材の割付け　・図示　・　(10.1.3)

2 石材等

天然石　(10.2.1、3)(表10.2.1、2)

施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
・床石		・図示による			

ジェットバーナー仕上げの場合のバフ仕上げの有無
・あり　・なし

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・３００型 ・４００型		
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・３００型 ・４００型		

その他の材料
取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、浸透性吸水防水材、石裏面処理材、
裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料
※専門工事業者の指定する製品　・
ドレンパイプの材質
・樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き25～35φ

3 外壁湿式工法

受金物　(10.2.2、3)(10.3.2、3)
材質　・SUS304　・
形状及び寸法　・図示による

アンカーの材質及び寸法
※SS400　・
あと施工アンカーの材質及び寸法等　種類・　材質・　寸法・
ドレンパイプ　・設ける（設置位置：図示による）　・設けない
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法
・流し筋工法

目地
一般目地　・目地モルタル　（目地幅　・　）
・既調合の目地モルタル（目地幅　・　）
※シーリング材（種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　）
（目地幅及び深さ　・　）
伸縮調整目地
位置　・図示による
シーリング材の種類　※標準仕様書　表9.7.1による
目地寸法　※幅・深さとも10mm以上　・図示による

4 内壁空積工法

受金物　(10.2.2、3)(10.4.2、3)
材質　・SUS304　・
形状及び寸法　・L-75×75×6(mm)の加工　長さ100mm又は150mm　・図示による
あと施工アンカーの材質及び寸法等　種類・　材質・　寸法・
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置　※標準仕様書　表11.1.1による　・図示　(11.1.3)(表11.1.1)
目地寸法　・図示

2 見本焼 試験施工

見本焼　・行う（施工箇所：　　）　・行わない　(11.1.4)
試験張り　・行う（範囲、仕様等は図示による）　・行わない

3 セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状・寸法等　(11.2.2、3、6)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材の適用 G	耐凍害性		耐滑り性	備考
			Ⅰ種	Ⅱ種	Ⅲ種	無ゆう	施ゆう	有	無	標準	特注		有	無		
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

下地モルタル塗りのコンクリート素地面の処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）　・MCR工法　・
壁タイル張りの工法
内外装タイル　・密着張り　・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り

・既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

タイルの形状・寸法等　(11.3.2～5)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材の適用 G	耐凍害性		耐滑り性	備考
			Ⅰ種	Ⅱ種	Ⅲ種	無ゆう	施ゆう	有	無	標準	特注		有	無		
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）・MCR工法　・
目地のシーリング材
打継ぎ目地　※ポリウレタン系シーリング材　・
ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系シーリング材　・
伸縮調整目地及びその他の目地　※変成シリコーン系シーリング材　・
外装タイルの目地詰め
・行う　・行わない

4 有機系接着剤によるタイル張り

一般目地　・目地モルタル　（目地幅　・　）
・既調合の目地モルタル（目地幅　・　）
・シーリング材（種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　）
（目地幅及び深さ　・　）
伸縮調整目地
位置　・6mm程度
シーリング材の種類　※標準仕様書　表9.7.1による
目地寸法　※幅・深さとも10mm以上
・図示による

5 外壁乾式工法

金物の種類、形状、寸法等　(10.2.2、3)(10.5.2、3)(表10.2.4)
※標準仕様書表10.2.4による　・
取付け方式
・スライド方式　・ロッキング方式
あと施工アンカーの材質及び寸法等　種類・　材質・　寸法・
だ円形用の穴の位置　※標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による　・図示
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
建築基準法に基づく風圧力の（・1、・1.15、・1.3）倍の風圧力に対応した工法
シーリング材　種類　※標準仕様書　表9.7.1による
目地幅及び深さ

6 床及び階段の石張り

透水性吸収防水剤　(10.6.2、3)
（床石張り）　・適用する　・適用しない
石裏面処理
（床石張り）　・適用する　・適用しない
（階段張り）　・適用する　・適用しない
裏打ち処理
（床石張り）　・適用する　・適用しない
一般目地　・目地モルタル　（目地幅　・　）
・既調合の目地モルタル（目地幅　・　）
・シーリング材（種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　）
（目地幅及び深さ　・　）
伸縮調整目地
位置　※標準仕様書　10.6.2(5)(ｲ)(a)による　・図示による
シーリング材の種類　※標準仕様書　表9.7.1による
目地寸法　※幅・深さとも10mm以上　・図示による

7 笠木、甲板等の石張り

取付け工法　・湿式工法　・乾式工法　(10.2.2)(10.7.2)
特殊部位用金物　標準仕様書10.2.2(3)参照
材質　※ステンレス（SUS304）　・
寸法　引金物　・
だぼ　・
かすがい　・
受金物　・
ファスナーの形状　・スライド式　・ロッキング方式
あと施工アンカーの材質及び寸法等　種類・　材質・　寸法・
石裏面処理　・適用する　・適用しない
乾式工法の場合の取付け代　※70mm程度　・
乾式工法の場合の石材の裏面の補強用モルタル　・適用する　・適用しない
一般目地　・目地モルタル　（目地幅　・　）
・既調合の目地モルタル（目地幅　・　）
・シーリング材（種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　）
（目地幅及び深さ　・　）

12 木工事

① 施工一般

材料のホルムアルデヒド放散量　(12.2.1)
※F☆☆☆☆ 又は 標準仕様書 12.2.1(1)(ｳ)(b)による

② 製材 G

(-)JAS 1083-5 製材-第5部に基づく　(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)
下地用製材　(表12.2.2)

施工箇所	樹種名	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
			※2級 ・	※A種　・B種	
			※2級 ・	※A種　・B種	

・JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材

施工箇所	樹種名	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
見え掛り面			※上小節 ・	※A種　・B種	
見え掛り面以外			※小節以上 ・	※A種　・B種	
				※A種　・B種	

3 造作用集成材 G

(12.2.1)

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	見付け材面	寸法(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※１等　・２等	・
					※１等　・２等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	材種名	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	寸法(mm)	見付け材面の品質
		化粧薄板：芯材：				※１等・２等
		化粧薄板：芯材：				※１等・２等

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	
				※15%以下　・	
				※15%以下　・	

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	
	化粧薄板：芯材：				※15%以下・	
	化粧薄板：芯材：				※15%以下・	

4 造作用単板積層材G

(12.2.1)

・JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質（化粧加工の有無）	防虫処理の適用	
			・有り（加工　・天然木加工・塗装加工） ・無し（等級　・１等　・２等　・３等）	・する ・しない	

・JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質（化粧加工の有無）	含水率	防虫処理の適用	
		・有り（加工　・天然木加工・塗装加工） ・無し（　　）	※14%以下・	・する ・しない	
		・有り（加工　・天然木加工・塗装加工） ・無し（　　）	※14%以下・	・する ・しない	

・JAS 3079に基づくＣＬＴ（直交集成板）G

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種名	寸法(mm)	

⑤ 合板等

(12.2.1)

・「合板の日本農林規格」による普通合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	板面の品質	単板の樹種名	防虫処理の適用	
	※5.5 ・	※1類 ・2類	広葉樹　※２等以上　・１等 針葉樹　※C-D以上　・		・する ・しない	

(-)・「合板の日本農林規格」による構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	等級	板面の品質	単板の樹種名	強度等級	防虫処理の適用	
	※12 ・	※1類 ・特類	※2級 以上 ・1級	※C - D以上 ・		・適用する ・ (-)適用しない	・する (-)しない	

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用	
			・1類　・特類	・する ・しない	

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	化粧板に使用する単板の樹種名	防虫処理の適用
		・1類　・2類		・する ・しない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理の適用
		・1類　・2類			・する ・しない

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号　須賀 温

Project 富士見市中央防災センター建設工事
Index 特記仕様書（その２）
Scale －
設計年月 令和8年03月
Number A-02

⑬ 屋根及びとい工事

・パーティクルボード Ⓖ

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ・	※PヌはM・		※15・

・JAS 0360に基づく構造用パネル

施工箇所	寸法(mm)

・MDF Ⓖ

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)

6 接合具等　造作材の化粧面の釘打ち　(12. 2. 2)
※隠し釘打ち　・釘頭埋め木　・つぶし頭釘打ち　・釘頭現し
諸金物の形状、寸法及び材質
※かすがい、座金、箱金物及び短冊金物
（標準仕様書 表12. 2. 3～5に示す程度の市販品　表14. 2. 2の[F]種程度）
・　（形状：　寸法：　材質：　）

7 接着剤　接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆　(12. 2. 2、3)

8 防腐・防蟻・防虫処理　・薬剤の加圧注入による防腐、防蟻処理　(12. 3. 1、2)

適用部材	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐、防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※薬剤の製造所の仕様による・	※JIS K 1571に適合又は同等品

・薬剤の接着剤への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（　）
・合板等の加圧注入処理の適用
適用部位（　）

9 不燃処理木材等　不燃材料　適用部位（部位）　・図示による
準不燃材料　適用部位（部位）　・図示による
難燃材料　適用部位（部位）　・図示による

10 内部間仕切軸組及び床組み　間仕切軸組　※杉又は松　・　(12. 4. 1)
床組　※杉又は松　・
土台、根太 ※ひのき又は保存処理木材

11 窓、出入口その他　窓、出入口その他　吊元枠、水掛かりの下枠及び敷居　※ひのき　・　(12. 5. 1)
その他　※松又は杉　・

12 床板張り　縁甲板及び上がりがまち　※ひのき　・　(12. 6. 1)

13 壁及び天井下地　壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木　※杉又は松　・　(12. 7. 1)

① 長尺金属板葺　(13. 2. 1～3)(表13. 2. 1)

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用 着色 ⊙有・	⊙5類 (AZ150)	⊙0. 4・0. 5・	・心木なし瓦棒葺 ・立て平葺・繰掛葺 ・横葺 ⊙ﾊﾟﾈﾙ葺	

下葺材料　⊙アスファルトルーフィング　940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ）
横葺きの場合のけらば納め
・つかみ込み納め　・けらば包み納め
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1. 15・1. 3）倍の風圧力に対応した工法
雪止め　・設置する（施工箇所　※図示　・　）　⊙設置しない

2 折板葺　(13. 2. 2)(13. 3. 2、3)(材料：表13. 2. 1)

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	防火性能
		山高	山ﾋﾟｯﾁ					
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形			（　）種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し

材料
鋼板の種類（※JIS G 3322の屋根用（着色　・有　・　））
塗膜の耐久性の種類、めっき付着量（・5種(AZ150)　・　）
断熱材　・有り（種別：　厚さ(mm)：　防火性能：　時間）
・無し
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1. 15・1. 3）倍の風圧力に対応した工法
耐雪性能に対応した工法の適用　・適用する　・適用しない
折板のけらば納め　※けらば包みによる方法　・
雪止め　・設置する（施工箇所　※図示　・　）　・設置しない

3 粘土瓦葺　(13. 4. 2、3)

施工箇所	種類			大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦の使用
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分				
							・する ・しない
							・する ・しない

桟瓦の防災瓦の使用　・適用する　・適用しない
JIS A 5208 に基づく凍害試験等　※行わない　・行う（　）
瓦桟木　材質　※杉　・ひのき　・
寸法　※幅21×高さ15(mm)以上　・
棟補強用心材　材質　※杉　・ひのき　・
寸法　※幅40×高さ30(mm)以上　・
瓦緊結用釘又はねじ
種類（　）　径（　）　長さ（　）
棟補強等に使用する金物等
材質　・ステンレス製　・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状、寸法及び留付け方法　・図示　・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1. 15・1. 3）倍の風圧力に対応した工法
風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等　※図示による
瓦桟木の留付け工法　※図示　・
棟の工法　・７寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟　・のし積み棟
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
・モルタル　・瓦葺き用しっくい

⑭ 金属工事

④ とい　(13. 5. 2、3)(表13. 5. 1、2、4)

といその他の材種
・配管用鋼管　⊙硬質ポリ塩化ビニル管　・ルーフドレン
・表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類）
とい受け金物
材種　※標準仕様書表13. 5. 2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）　・
形状　※市販品（とい径100以下）　・25×4. 5(mm)以上（とい径100超）
取付け間隔　※標準仕様書表13. 5. 2による　・
足金物
材種　※標準仕様書表13. 5. 2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）　・
形状　※市販品
取付け間隔　※標準仕様書表13. 5. 2による　・
多雪地域の場合の鉄どいの取付間隔　※0. 5m以下　・
防露材のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・
鋼管製といの防露巻き
※標準仕様書表13. 5. 4による　・

ルーフドレンの種類及び呼び

種別		呼び			施工箇所
・ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80	・100		
		・125	・150		
・ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80	・100		
		・125	・150		
・バルコニー中継用	・ねじ込み式	・50	・80	・100	
	・差し込み式	・50	・75	・100	
・バルコニー用	・ねじ込み式	・50	・80	・100	
	・差し込み式	・50	・75	・100	

1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　※表面処理は標準仕様書表14. 2. 1による　(14. 2. 1)(表14. 2. 1)

種別	施工箇所（成形版、笠木、建具以外）
・AB－1種	
・AB－2種	
・AC－1種	
・AC－2種	
・BA－1種	
・BA－2種	
・BB－1種	
・BB－2種	
・BC－1種	
・BC－2種	
・C 種	

陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色
色合等　・シルバー
・アンバー　・ブロンズ
・ブラック系　・ステンカラー　・
・特注色（　）

2 鉄鋼の亜鉛めっき　(14. 2. 2)(表14. 2. 2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

3 軽量鉄骨天井下地　野縁等の種類　(14. 4. 2～4)(表14. 4. 1)
屋外（※25形　・19形）　屋内（※19形　・25形）
屋外の形式及び寸法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔　⊙図示　・
周辺部の端からの間隔　⊙図示　・
野縁の間隔　⊙図示　・
・つりボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法　※図示　・
⊙天井のふところが3. 0mを超える場合の補強方法　※図示　・
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所　※図示　・
補強方法　※図示　・
屋外の軒天井、ピロティ天井の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1. 15・1. 3）倍の風圧力に対応した工法

④ 軽量鉄骨壁下地　スタッド、ランナーの種類　(14. 5. 3、4)(表14. 5. 1)
※標準仕様書表14. 5. 1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示　・
スタッドの高さが5. 0mを超える場合　※図示　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※標準仕様書14. 5. 4(5)による　・

5 金属成形板張り　(14. 6. 2、3)(表14. 2. 1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理 種別	表面処理 色合い等
・アルミニウム	・押出し・ロール	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形				
	・プレス・	パネル形				

取付け用下地　※標準仕様書14. 4による　・図示　・
伸縮調整継手　・設ける（施工箇所　・図示　・　）　・設けない
屋外の軒天井、ピロティ天井の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1. 15・1. 3）倍の風圧力に対応した工法

6 アルミニウム製笠木　種類　・250形　・300形　・350形　(14. 7. 2、3)(表14. 2. 1)(表14. 7. 1)
笠木本体
※押出形材
表面処理　種別　（　）種
色合等　・標準色（　）
・特注色（　）
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1. 15・1. 3）倍の風圧力に対応した工法

⑮ 左官工事

① モルタル塗り　モルタル　・現場調合材料　・既調合材料　(15. 3. 2、5)
既製目地材　・設ける　施工箇所（　）　形状（※図示　・　）
・設けない
床の目地　・設ける（目地割り　※2㎡程度（最大目地間隔3m程度）　・　）
（種類　※押し目地　・　）
・設けない
屋外のタイル張り下地及び屋内の吹付部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・適用する　・適用しない

② せっこうボード その他のボード下地　せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ　(15. 2. 5)
種類（・GB-R　GB-L　）　厚さ（　mm）
木質系セメント板の種類及び厚さ
種類（・　）　厚さ（　mm）

3 仕上塗材仕上げ　内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量　(15. 6. 2)
※F☆☆☆　・

⑯ 建具工事

1 防火戸　※建具表による　・　(16. 1. 3)

2 見本の製作等　建具見本の製作　・行う（建具符号：　）　・行わない　(16. 1. 4)
建具見本製作の目的等
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　）　・行わない

3 防犯建物部品　・適用する（※建具表による　・　）　・適用しない　(16. 1. 6)

④ アルミニウム製建具　性能値等（建具符号、枠の見込み寸法：建具表による）　(16. 2. 2～5)(表16. 2. 1、2)
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級　※建具表による　・図示
外部に面する建具の種別

種別	耐風圧性	気密性	水密性	施工箇所
⊙A種	S-4	A-3	W-4	※図示による
・B種	S-5			※図示による
・C種	S-6	A-4	W-5	※図示による
・D種	S-2	A-3	W-3	※図示による
・E種	S-3			※図示による

・防音ドア、防音サッシとする場合　遮音性の等級　・T－1種　・T－2種
・断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合　断熱性の等級　・H-4種　・H-5種　・H-6種　・H-7種　・H-8種
外部に面する建具の日射熱取得性の等級
枠の見込み寸法　※建具表による
ガラス　※複層ガラス（組合せは建具表による）　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※HL
形状及び仕上げ
表面色　・標準色　・特注色
工法　水切り板、ぜん板　※図示　・
木下地の場合の内付け建具　・適用しない　・適用する

⑤ 網戸等　(16. 2. 3)

種類	材種	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0. 25mm以上・	※16～18メッシュ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1. 5mm	網目寸法15mm

6 樹脂製建具　(16. 2. 5)(16. 3. 2～5)(表16. 3. 1～3)
性能値等（建具符号、枠の見込み寸法：建具表による）
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級　※建具表による　・図示
外部に面する建具の種別

種別	耐風圧性	気密性	水密性	施工箇所
・A種	S-4	A-4	W-4	※図示による
・B種	S-5		W-5	※図示による
・C種	S-6			※図示による
・D種	S-2		W-3	※図示による
・E種	S-3			※図示による

仕上塗材の種類
薄付け仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・外装薄塗材 Si	・	・砂壁状
・可とう形外装薄塗材 Si	・	・ゆず肌状（・吹付け　・ローラー塗り）
・外装薄塗材 E	・	・さざ波状
・可とう形外装薄塗材 E	・	・平たん状
・防水形外装薄塗材 E	・	・凹凸状（・吹付け　・こて塗り）
・外装薄塗材 S	・	・着色骨材砂壁状（・吹付け　・こて塗り）
・内装薄塗材 C	・	・砂壁状じゅらく
・内装薄塗材 L	・	・京壁状じゅらく
・内装薄塗材 Si	・	
・内装薄塗材 E	・	・吸放湿性　・適用する　・適用しない
・内装薄塗材 W	・	

厚付け仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・外装厚塗材 C	・	・吹放し　・凸部処理　・平たん状
・外装厚塗材 Si	・	・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし
・外装厚塗材 E	・	
・内装厚塗材 C	・	・吸放湿性　・適用する　・適用しない
・内装厚塗材 L	・	・上塗材　・適用する　・適用しない
・内装厚塗材 G	・	・外装厚塗材 C の上塗材 ・ｾﾒﾝﾄｽﾀｯｺ　・
・内装厚塗材 Si	・	
・内装厚塗材 E	・	

複層仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・複層塗材 CE	・	・ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸状
・可とう形複層塗材 CE	・	
・複層塗材 Si	・	・耐候性　※耐候形３種　・
・複層塗材 E	・	・上塗材
・複層塗材 RE	・	溶　媒　※水系　・溶剤系　・弱溶剤系
・防水形複層塗材 CE	・	樹　脂　※アクリル系　・
・防水形複層塗材 E	・	外　観　※つやあり　・つやなし
・防水形複層塗材 RE	・	・メタリック

軽量骨材仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・吹付用軽量塗材	・	
・こて塗用軽量塗材	・	

4 マスチック塗材塗り　種別　・A種　・B種　(15. 7. 2)

5 ロックウール吹付け　ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・　(15. 12. 2、3)
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・
吹付け厚さ(mm)　・図示　・25　・

6 しっくい塗り　(15. 10. 2～4)
しっくい
・既調合材料
色しっくい　・適用する　・適用しない
下地
・せっこうボード　・せっこうラスボード　・モルタル塗り　・木ずり
・こまい　・下塗りをせっこうプラスターとし上塗りに使用する場合
既調合しっくいの調合
・せっこうボード下地　※標準仕様書表15. 10. 1
・モルタル塗り下地　※標準仕様書表15. 10. 2
・せっこうラスボード下地　※製造所の仕様による
現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
・木ずり下地　※標準仕様書表15. 10. 3
・せっこうプラスター下地、こまい下地　※標準仕様書表15. 10. 4
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
・なで切り仕上げ　・パターン仕上げ　・押え仕上げ

⑦ 鋼製建具　性能値等（建具符号：建具表による）　(16. 2. 2)(16. 4. 2～4)(表16. 4. 2)
⊙簡易気密型ドアセット　・適用する　・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
・耐風圧性の等級　（・　）
・防音ドア、防音サッシとする場合　遮音性の等級（　）
・断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合　断熱性の等級（　）
材料　ステンレス鋼板　※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※HL
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ　※標準仕様書　表16. 4. 2による　・　使用箇所（　）
標準型鋼製建具の形式及び寸法　※建具表による　・

⑧ 鋼製軽量建具　性能値等（建具符号：建具表による）　(16. 2. 2)(16. 5. 2～4、6)
・簡易気密型ドアセット　・適用する　・適用しない
・防音ドア、防音サッシとする場合　遮音性の等級（　）
・断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合　断熱性の等級（　）
材料
鋼板　・亜鉛めっき鋼板　・ビニル被覆鋼板　・カラー鋼板　・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板　※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※HL
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ　※標準仕様書　表16. 4. 2による　・　使用箇所（　）
標準型鋼製建具の形式及び寸法　※建具表による　・

9 ステンレス製建具　性能値等（建具符号：建具表による）　(16. 2. 2)(16. 4. 2)(16. 6. 2～5)
・簡易気密型ドアセット（建具符号：・建具表による　・　）
外部に面する建具の耐風圧性
・耐風圧性の等級　（・　）
・防音ドア、防音サッシとする場合　遮音性の等級（　）
・断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合　断熱性の等級（　）
材料　ステンレス鋼板　※SUS304、SUS430J1L、SUS443J1　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※HL
形状及び仕上げ　表面仕上げ　※HL　・鏡面仕上げ　・
工法　ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

10 木製建具　建具材の加工、組立時の含水率　※A種　・　(16. 7. 2～4)
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
・フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等
※標準仕様書16. 7. 2(2)(4)(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板 Ⓖ	表面の樹種・ 板面の品質（※広葉樹１号　・　） 接着の程度（・１類　・２類）	
・天然木化粧合板 Ⓖ	樹種名（　） 接着の程度（・１類　・２類）	
・特殊加工化粧合板 Ⓖ	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度（・１類　・２類）	
・MDF Ⓖ		

表面板の厚さ　※表16. 7. 6による　・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用　・適用しない　・適用する
・かまち戸
かまち樹種（　）　鏡板樹種（　）
見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ　・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19. 5mm　・建具表による　・
表面板の仕上　・建具表による
・戸ぶすま
表面板の仕上　・建具表による
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
枠及びくつずりの材料　・建具表による　・

⑪ 建具用金物　金物の種類及び見え掛り部の材質等　(16. 8. 2、3)(表16. 8. 1)
※標準仕様書表16. 8. 1及び適用は建具表による　・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16. 8. 2による　・建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16. 8. 3による　・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16. 8. 4による　・建具表による
木製建具に使用する戸車及びレール
※標準仕様書表16. 8. 5による　・建具表による
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置
・建具表による　・

⑫ 鍵　マスターキー　⊙製作する（　）　(16. 8. 4)
・製作しない
鍵の製作本数　※各室３本１組（室名札付き）
鍵箱　※有り　・無し

13 自動ドア開閉装置　戸の開閉方式　(16. 9. 2)
・建具表による
引き戸用駆動装置
※標準仕様書　表16. 9. 1による（防錆　・適用する　・適用しない）
・種類・開閉方式（　）　・耐電圧（　）
・温度上昇（　）　・耐久性(サイクル)（　）
・防錆（　）　・電源（　）
車椅子使用者用便所出入口引き戸用駆動装置（表16. 9. 2）
※標準仕様書　表16. 9. 2による（防錆　・適用する　・適用しない）
・耐電圧（　）　・温度上昇（　）
・耐久性(サイクル)（　）　・防錆（　）
・電源（　）
引き戸用検出装置（表16. 9. 3）
※標準仕様書　表16. 9. 3による（防錆　・適用する　・適用しない）
・放射無線周波数電磁界耐性（　）　・耐電圧（　）
・防錆（　）　・防滴（　）　・電源（　）
引き戸用検出装置の種類（表16. 9. 4）　・建具表による
タッチスイッチの種類
・無線式タッチスイッチ　・光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便所操作スイッチの種類
・太形押しボタンスイッチ　・非接触スイッチ
凍結防止措置　・行う　・行わない

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号 須賀 温
Project 富士見市中央防災センター建設工事
Index 特記仕様書（その３）
Scale －
設計年月 令和8年03月
Number A-03

14 自閉式上吊り引戸装置

性能　※標準仕様書表16.10.1による　・　(16.10.3)(表16.10.1)
・手動開き力（　）　・手動閉じ力（　）
・閉じ速度の調整（　）　・制動区間（　）
・開閉緩返し（　）　・耐衝撃性（　）

15 重量シャッター

シャッターの種類　(16.11.2、3)
・管理用シャッター
・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（　）pa
開閉方式の種類　※電動式（手動併用）　・手動式
安全装置
急降下制御装置、急降下停止装置、障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　）
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構
（設置箇所　・建具表による　・　）
管理用シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量　※Z12又はF12　・　・
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いる
スイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板　※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1

16 軽量シャッター

開閉形式の種類　※手動式　・電動式（手動併用）　(16.12.2~4)
耐風圧強度　（　800　）pa
安全装置
電動シャッターの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　）
スラットの材質の種類
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっき付着量　（※Z06又はF06　・　・　）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム一亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっき付着量　（※AZ90　・　・　）
スラットの形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形

⑰ オーバーヘッドドア　(16.13.2、3)

セクション材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	㋐125（1250Pa） ・100（1000Pa） ・75（ 750Pa） ・50（ 500Pa）	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	㋐スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置（設置箇所　・建具表による　・　）

⑱ ガラス　(16.14.2~4)(図16.14.1)

適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さの組み合わせは建具表及び図面による。
フロート板ガラスの品種、厚さの呼びによる種類　※建具表による　・図示
型板ガラスの厚さによる種類　※建具表による　・図示
網入り板ガラス、線入り板ガラスの網、線の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類　※建具表による　・図示

・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ並びに合わせガラスの合計厚さ、特性による種類　※建具表による　・図示
形状　・平面合わせガラス　・曲面合わせガラス
落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性
・Ⅰ類　・Ⅱ－１類　・Ⅱ－２類　・Ⅲ類

・強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類、厚さの呼びによる種類及び性能による種類
※建具表による　・図示
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類　・Ⅰ類　・Ⅲ類

・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類、性能による種類
※建具表による　・図示
性能　・１種　・２種

㋑複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ並びに複層ガラスの厚さ
※建具表による　・図示
断熱性による区分　・Ｔ１　・Ｔ２　・Ｔ３　・Ｔ４　・Ｔ５　・Ｔ６
日射取得性及び日射遮蔽性による区分　・Ｇ　・Ｓ
乾燥気体の種類　・空気　・アルゴン

・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類　※建具表による　・図示
日射熱遮へい性による区分　・１種　・２種　・３種
耐久性による区分（日射熱遮へい性が２種の場合）　・Ａ類　・Ｂ類

・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類　※建具表による　・図示

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	㋐シーリング材 ・グレイジングチャンネル ・	・図示による ※建具の製造所の仕様による
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材 ・	・図示による ※建具の製造所の仕様による
ステンレス製	・シーリング材 ・	・図示による ※建具の製造所の仕様による
樹脂製	・グレイジングチャンネル ・	・図示による ※建具の製造所の仕様による

19 ガラスブロック積み　(16.14.5)

呼び寸法(mm)	厚さ(mm)	色調	目地幅(mm)	伸縮調整目地位置(mm)	防火性能
・160×160	・95 ・				
・200×200	・95 ・				

壁用金属枠及び補強材　・図示による
力骨　材質　※ステンレス鋼（SUS304）　・
寸法　※径5.5mm　・
形状　※はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地モルタルの色（・白　・グレー）
シーリングの種類　（・SR-1　・PS-1）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法　※図示　・
形状　※図示　・
木下地の場合のアンカー等の取付け間隔　・図示による
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による　・図示　・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

17 カーテンウォール工事

1 取付方法、性能等

取付け形態による分類　(17.1.3)
・層間方式　・柱・梁方式　・方立方式　・スパンドレル方式　・

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐湿度差性(℃)
				・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60

耐風圧性
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能
4m以下	・たわみ量が土(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること ・
4mを超える	・

性能の確認方法及び判定方法
※性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督職員の承諾を受ける

2 メタルカーテンウォール

金属系材料の種類　(17.2.2、3、5、6)
・アルミニウム材　・鋼材　・ステンレス鋼材
シーリング材の種類（目地等）
種類及び寸法等　※図示による
ガラスの取付け材料
・シーリング　種類（・SR-2　・SR-1）
・構造ガスケット　形状、寸法等　・図示　・
断熱材 G
種類及び範囲　※図示による
形状及び仕上げ
製品の寸法許容差　※標準仕様書表17.2.1による　・
見え掛り部の仕上げ　・
（アルミニウム材の場合）
規格等　※標準仕様書16.2.3による
種別　・　（標準仕様書表14.2.1）
着色　・標準色　・特注色
（鋼材及びステンレス鋼材の場合）
ガラス溝の寸法、形状　※カーテンウォールの製造所の仕様　・
取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向　※±10mm　・
水平方向　※±25mm　・
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅　※±3mm　・
目地の心の通り　※2mm　・
目地両側の段差　※2mm　・
各階の基準墨から各部材までの距離　※±3mm　・
耐火処理　適用部位、材料等　※図示による
ガラスの取付け材料
ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法　※4辺支持　・

3 PCカーテンウォール　(17.3.2~6)(表17.3.1、2)

材料
コンクリート　種類　（・普通コンクリート　・軽量コンクリート1種　・　）
品質　設計基準強度(Fc)　※30N/mm²　・
スランプ　※12cm　・
気乾単位容積質量
・普通コンクリートの場合　2.1t/m³を超え2.5t/m³以下
・軽量コンクリートの場合　1.8t/m³ ～ 2.1t/m³
・
単位水量の最大値　※185kg/m³　・
鉄筋　種類記号　※SD295
補強鉄線の径(mm)　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
・
網目寸法　・
シーリング材の種類（目地等）
種類及び寸法等　※図示による
ガラスの取付け材料
・構造ガスケット　形状、寸法等　・図示　・
耐火処理
適用部位、材料等　※図示による
断熱材 G
種類（　）
種類及び範囲　※図示による
先付けの材料
・表面仕上げ材　・セラミックタイル
・石材（・花こう岩　・大理石　・　）
・建具枠
・ゴンドラ用ガイドレール
・図示による
形状及び仕上げ
製品に見え掛り部の寸法許容差
辺長　※±2mm　・　ねじれ、そり　※5mm　・
対角線長の差　※5mm　・　曲がり　※3mm　・
版厚　※±2mm　・　面の凹凸　※3mm　・
開口部内法寸法　※±2mm　・　先付け金物の位置　※5mm　・
PCカーテンウォールの仕上げ　・
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差
※図示による
製作
PC版の配筋　※図示による
取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向　※±10mm
水平方向　※±25mm
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅　※±5mm　・
目地の心の通り　※3mm　・
目地両側の段差　※4mm　・
各階の基準墨から各部材までの距離　※±5mm　・
ガラスの取付け方法
・ガラスの取付け材が構造用ガスケットで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

18 塗装工事

① 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　(18.1.3)
※F☆☆☆☆

・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・仕上表による

② 素地ごしらえ　(18.2.2~7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗りの場合	・A種　※B種
鉄鋼面（DP以外）		・A種　・B種　※C種
鉄鋼面（DPのみ）		・A種　※B種　・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		・A種　※B種
コンクリート面（ＤＰ以外）及びＡＬＣパネル面		・A種　※B種
押出成形セメント板面		・A種　※B種
コンクリート面（ＤＰのみ）		※A種　・B種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種　・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	・A種　※B種

③ 錆止め塗料塗り　(18.3.2、3)

下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
	DP	C種及びD種	表18.3.4
	EP-G	・A種　※B種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	※A種　・B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種
	DP	B種	表18.3.6
	EP-G	C種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種

④ 塗装　(18.4.1~18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類
㋐合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	―
	木部屋内	・A種　※B種	
	鉄鋼面	・A種　※B種	
	亜鉛めっき鋼面	―	
・クリヤラッカー塗り（CL）		・A種　※B種	―
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		・A種　※B種	―
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	上塗り塗料の等級（　）級
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗り塗料の等級（　）級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　・B種　・C種	―
・つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	・A種　※B種	―
	屋内の木部、鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	・A種　※B種	―
㋐合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		・A種　※B種	―
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		・A種　※B種	―
・ステイン塗り		・ﾋﾞｰﾁﾞﾒﾝﾄｽﾃｲﾝ塗り ・ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り(OS)	―
・木材保護塗料塗り(WP)		・A種　※B種	―

屋上、屋根面の金属面に塗装する場合の塗料は高日射反射率塗装 G とする。
クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用
・適用しない　・適用する（着色剤：・溶剤系着色剤　・油性染料着色剤）
・適用する　・適用しない
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
オイルステン塗りの工程等　※製造所の仕様による

19 内装工事

① 接着剤　(19.2.2)
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ、ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ、ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ用接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示　・

② 下地の工法

標準仕様書19.2.3(1)～(3)以外の下地の工法　・図示　・

③ ビニル床シート G　(19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
※FS(複層ﾋﾞﾆﾙｼｰﾄ) ・ ・	㋐無地 ・ﾏｰﾌﾞﾙ柄 ・柄物	※2.0 ㋐2.5	

接合部の処理　※熱溶接工法　・

4 ビニル床タイル G　(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法	厚さ(mm)	備考
※KT(ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・TT(単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・FT(複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・FOA(量数きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・FOB(薄型量数きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	※2.0 ・2.5 ・3.0 ・	

5 特殊機能床材　(19.2.2)

シート種別	厚さ、寸法、形状	性能	種類
・帯電防止床シート	(mm)		
・帯電防止床タイル	× (mm)		
・視覚障害者用床タイル	(mm)	視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による	
・耐動荷重性床シート	(mm)		
・防滑性床シート	(mm)		
・防滑性床タイル	× (mm)		

⑥ ビニル幅木　(19.2.2)
材質　・軟質　・硬質　・床シート巻上げ（端部の処理は図示）
高さ(mm)　※60　・75　・100
厚さ(mm)　※1.5以上　・

7 ゴム床タイル　(19.2.2)
色柄　（　）
厚さ(mm)　（　）
寸法(mm)　（　）

8 カーペット敷き G　(19.3.2、3)(表19.3.1)
・織じゅうたん

織り方	パイル形状	備考
・ウィルトンカーペット ・フェイストゥフェイスカーペット ・アキスミンスターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループパイル	

色柄、※模様のない無地
パイル糸の種類等　※無地の織りじゅうたんの種別（・A種　・B種　・C種）
帯電性　・適用する　・適用しない
織じゅうたんの接合方法　※ヒートボンド工法　・つづり縫い
下敷き材　※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

・タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・カットパイル ・ループパイル ・カット、ループ併用	・5~7　・ ・4~6　・ ・	・全面接着工法 ・グリッパー工法	・適用する（　） ・適用しない	

下敷き材（グリッパー工法の場合）
※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm　・
タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆

・タイルカーペット

パイル形状	種別	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
※ループパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆
タイルカーペットの敷き方　平場　※市松敷き　・模様流し　・
階段部分　※模様流し　・市松敷き　・
見切り、押え金物　・材質、種類、形状等　※図示　・

9 合成樹脂塗床

塗床材のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・　(19.4.2、3)(表19.4.4~8)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床			※平滑仕上げ
・ｱｸﾘﾙ樹脂塗床 (JIS K 5970) (防塵塗料塗り)		※製造所の指定による	工程 塗布量（kg/㎡） ※0.25kg/㎡以上 表面仕上げ ※平滑　・防滑 溶剤 ※水性　・溶剤系　・無溶剤系 仕上げ色 ※標準色　・

10 フローリング張り

フローリングのホルムアルデヒド放散量等　(19.5.2~5)(表19.5.1~6)
※標準仕様書19.5.2(2)による
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆

単層フローリング
・フローリングボード１等
工法　・釘止め工法（・根太張り　・直張り）　・接着工法
樹種　※なら　・
仕上塗装　・塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用　・する　・しない
・フローリングブロック１等
工法　※接着工法　・
樹種　※ なら　・
厚さ（mm）　・
大きさ　・
仕上塗装　・塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用　・する　・しない
複合フローリング
・天然木化粧複合フローリング
工法　・釘止め工法（・根太張り　・直張り）　・接着工法
樹種　※なら　・
種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
仕上塗装　・塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用　・する　・しない
接着工法の場合の不陸緩和材　※合成樹脂発泡シート　・
・現場塗装仕上げ　※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り

11 畳敷き　(19.6.2)(表19.6.1)

種別　・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N）
下地の種類　・標準仕様書表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン G ）
・
畳表及び畳床にはホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衛挙緩和型畳（畳表：・C1　・C2）

⑫ せっこうボード、その他のボード及び合板張り

ＭＤＦ、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・　(19.7.2、3)(表19.7.1)
合板のホルムアルデヒド放散量　※標準仕様書 19.7.2(2)(ｲ)の(a)～(d)のいずれか

合板の防虫処理の適用
・行う　㋐行わない

木毛セメント板

種類	厚さ（mm）、規格等
㋐硬質木毛セメント板 G	・15　・20　㋐25　・
・中質木毛セメント板 G	・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板 G	・15　・20　・25　・

木片セメント板

種類	厚さ（mm）、規格等
・硬質木片セメント板 G	・12　・15　・18　・21　・
・普通木片セメント板 G	・30　・

繊維強化セメント板

㋐けい酸カルシウム板	普通ボード0.8FK　ﾀｲﾌﾟ2(無石綿)　㋐6　・8
・化粧けい酸カルシウム板	普通ボード0.8FK　ﾀｲﾌﾟ2(無石綿)　・6　・8 表面への化粧張り等の加工　・ｱｸﾘﾙ樹脂系焼付

火山性ガラス質複層板（VSボンド）

・火山性ガラス質複層板 ・普通　・化粧	・図示による

繊維板

ハードボード スタンダードボード（無処理）	・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（・未研磨板(RN)・研磨板(RS)） ・内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(DE) 厚さ　・2.5　・3.5　・5　・7
ハードボード テンパードボード（処理）	・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（・未研磨板(RN)・研磨板(RS)） ・外装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(DE) 厚さ　・2.5　・3.5　・5　・7
・ミディアムデンシティファイバーボード（MDF） G	・3　・7　・9　・12　・
・インシュレーションボード G	Ａ級（・天井仕上　・内装仕上　・　） ・9　・12　・15　・18

パーティクルボード

・単板張りパーティクルボード G	・無研磨板 VN　・研磨板 VS ・10　・12　・15　・18　・
・化粧パーティクルボード G	・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ DV　・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ DO ・塗装 DC ・10（難燃）　・12（難燃）　・

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀 温
Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　特記仕様書（その４）
Scale　－
設計年月　令和8年03月
Number　A-04

吸音材料

・ロックウール化粧吸音板(DR)	・フラットタイプ （・9(不燃)　・12(不燃)　・　） ・凹凸タイプ （・12(不燃)　・15(不燃)　・　）
・ロックウール吸音ボード1号	・25　・
・グラスウール吸音ボード32K	・25（ガラスクロス包）　・

・せっこうボード製品

・せっこうボード(GB-R)	・12.5（不燃）　・15（不燃）
・不燃積層せっこうボード(GB-NC)	9.5（不燃）　・化粧無（下地張り用） ・化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード(GB-S)	12.5（※不燃　・準不燃）
㋐強化せっこうボード(GB-F)	㋐12.5（不燃）　・15（不燃）
・せっこうラスボード(GB-L)	9.5
・化粧せっこうボード(GB-D)(木目)	12.5（不燃）　幅440mm程度 模様(・柾目　・板目)専用下地材有り
㋐化粧せっこうボード(GB-D) （トラバーチン模様）	9.5（準不燃）

合板

・普通合板 G	表板の材種 生地、透明塗料塗り （※ﾗﾜﾝ合板程度　・　） 不透明塗料塗り （※しな合板程度　・　） 板面の品質（　・　） 厚さ(mm)　※図示による　・ 防虫処理　・行う　・行わない
・天然木化粧合板 G	化粧板の樹種名（　・　） 厚さ(mm)　※図示による　・ 防虫処理　・行う　・行わない
・特殊加工化粧合板 G	化粧加工の方法（・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装） 表面性能（　・　）タイプ 厚さ(mm)　※図示による　・ 防虫処理　・行う　・行わない

化粧板

・メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903による厚さ（※1.2　・　）
・ポリエステル樹脂化粧板	

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合　※図示　・
合板類の張付け　・A種　・B種
せっこうボードの目地工法等　目地工法の種類　※仕上表による　・

突付け工法のエッジの種類	・ベベルエッジ　・スクェアエッジ
目透かし工法のエッジの種類	・ベベルエッジ　・スクェアエッジ

13 壁紙張り

壁紙のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・　(19.8.2、3)

施工箇所	壁紙の種類						防火性能	備考
	紙	織物	塩化ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽﾌｫｰﾑ	ﾌｨﾙﾑ	無機質	その他		
	・	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	

モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえの種別　・A種　※B種
コンクリート面の素地ごしらえの種別　・A種　※B種
せっこうボード面及びけい酸カルシウム板面の素地ごしらえの種別・A種　※B種

⑭ 断熱材 G　(19.9.2～4)

ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材、保温剤又は接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・
開口部等補修のための張付け用の接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・

※断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・
㋐押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) （・2種bA　・3種bA　・3種bC　・3種bD）	・	・
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・
・フェノールフォーム断熱材	・	・

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　・A種1　・A種1H
吹付け厚さ(mm)
施工箇所　・図示　・

⑳ ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア　(20.2.2)

施工箇所	構　法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上げ材	備　考
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3,000 ・5,000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3,000 ・5,000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	

フリーアクセスフロアスフロアの試験方法
※標準仕様書20.2.2(2)(ｲ)(a)～(d)による　・
寸法精度
※標準仕様書20.2.2(2)(ｲ)(a)～(c)による　・
・以下による
パネルの長さの寸法精度（　）
パネルの平面形状（精度）の寸法精度（　）
フリーアクセスフロアの高さの寸法精度（　）
帯電防止性能
・評価値（U）≧0.6以上
・評価値（U）≧1.2以上
感電防止性能
漏えい抵抗（R）≧1×10⁶Ω

② 可動間仕切　パネル材料のホルムアルデヒド放出量　※F☆☆☆☆　・　(20.2.3)

構造形式	構成基材の種類		パネル表面仕上げ	遮音性(db/500HZ)	防火性能
	ｽﾀｯﾄﾞ	パネル			
㋐スタッド式（内蔵） ・スタッド式（露出） ・パネル式 ・スタッドパネル式			㋐メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　）　・なし
パネル内に取付ける建具のドアクローザ、丁番、錠前、上げ落しは、標準仕様書 16章 8節 の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。

③ 移動間仕切　パネル材料のホルムアルデヒド放射量　※F☆☆☆☆　・　(20.2.4)

構造形式	操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	パネル表面材 材質	パネル表面材 仕上げ	遮音性(dB/500Hz)
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能は、標準仕様書19章による。
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする。
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け金重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・図示
パネルをランナーに取り付ける部品
※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
ハンガーレール及びランナー
※パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの

④ トイレブース　パネル材料のホルムアルデヒド放射量　※F☆☆☆☆　・　(20.2.5)

表面材の種類	脚部種類	ドアエッジの材質	ドアエッジの形状
㋐メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	※製造所の標準仕様 ・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材	・標準 ・Rタイプ

5 手すり　材料の種類及び仕上げ　(20.2.6)
・SUS304　表面処理　※HL程度　・
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき（※標準仕様書 表14.2.2による種別(　種)）
・アルミニウム 表面処理（※標準仕様書 表14.2.1による種別（　種））
色合等　・標準色（　）　・特注色（　）
手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材(材種：　)	・ｸﾘｱﾗｯｶｰ　・	・30程度・35程度・45程度		
・ﾋﾞﾆﾙ製ﾊﾝﾄﾞﾚｰﾙ	・	・30程度・35程度・45程度		
・樹脂被膜ﾀｲﾌﾟ	・	・34φ		

6 階段滑り止め　材種　・ステンレス製　・黄銅製押出型材　(20.2.7)
・アルミニウム製押出型材　・
形状　※タイヤ型（タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂合等）　・タイヤレス製
端部の形状　フラットエンド　・あり　・なし
寸法(幅)　・35mm程度　・40mm程度　・50mm程度
取付け工法　※接着工法　・埋め込み工法　・

7 黒板及びホワイトボード G　(20.2.9)
・黒板　区分　※焼き付け　・
種類　・ほうろう　・鋼製　・
色　※緑　・
・ホワイトボード（　）

⑧ 鏡　取付箇所（　）　(20.2.10)
寸法（mm）　・図示　・
厚さ（mm）　※5　・

9 表示　衝突防止表示　(20.2.11)
・設置場所　※図示による
・形状・寸法（・30φ　・　）
・材質　（・ステンレス製　・塩ビシート　）
・設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示　※消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示による

10 タラップ　材質及び仕上げ　(20.2.12)
・SUS304（スリップ止め加工　※あり　・なし　）
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表 14.2.2による種別（※C種　・　種））

11 煙突ライニング　適用安全使用温度　・　(20.2.13)
工法
※鋼製ユニット煙突(煙突用成形ライニング材)

12 ブラインド　(20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	スラットの材種	ｽﾗｯﾄ幅(mm)	ｶﾞｲﾄﾞ･ﾚｰﾙの材種	幅・高さ取付箇所
・横形	・手動	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 G ・	※25 ・	※鋼製品 ・	・図示 ・
	・電動	ー				
・縦形	・手動	※2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・1本操作ｺｰﾄﾞ式	・アルミスラット ・クロススラット ・	・80 ・100	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・図示 ・
	・電動	ー				

縦型ブラインドのスラットの材質
アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合 G とする

13 ロールスクリーン　操作方法　・スプリング式　・コード式　・電動式　(20.2.15)
幅、高さ、取付箇所　・図示
材種　・ガラス繊維製　・合成・天然繊維製
品質等　・
その他の材料　※ロールスクリーンの製造所の仕様による　・
スクリーンの仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は G とする

14 カーテン　(20.2.16)

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付け箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾚｰﾙひだ		・図示 ・	
						(暗幕)

生地の仕様　消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は、G とする
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※300mm以上　・

15 カーテンレール　材料による区分　※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材　(20.2.16)
・ステンレス製
強さによる区分　※10-90　・
仕上げ　※アルマイト　・
形状　※角形　・

16 ブラインドボックス及びカーテンボックス　溝幅×深さ(mm)　・90×150　・120×80　・120×150　・150×80　・図示
材種　・集成材（仕上げ：　）
・アルミニウム製　押出し型材（市販品）
種別（標準仕様書表14.2.1）　・BC-1種　・BC-2種
色合い　・標準色（　）　・特注色（　）
・鋼製（仕上げ：　）

⑰ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製 ・	㋐450×450 ・600×600 ・	㋐一般形 ・気密形	・屋内外用 ㋐屋内用	㋐額縁タイプ ・目地タイプ	㋐額縁タイプ ・目地タイプ

18 床点検口

材種	寸法	形式		備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

密閉型とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

19 耐震スリット

方向	幅(mm)	タ　イ　プ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直 ・水平	・25 ・	※完全（全貫通型）	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（見え掛かり部のみ） ・	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（見え掛かり部のみ） ・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（内外とも）
目地寸法(幅mm×深さmm)	・スリット幅×深さ10 ・	・スリット幅×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による。

20 止水版　形式　・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　・図示　・

21 エキスパンション・ジョイント金物

材質	階区分	建築物間のｸﾘｱﾗﾝｽ(mm)	変位追従性(mm)	耐火性能	断熱性能	備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製	（ ）階～（ ）階 （ ）階～（ ）階	・50 ・100 ・150 ・	(避難経路の床等) ・　以上 (その他) ・　以上	・有り（　） ・無し	・有り（　） ・無し	

外部は防水型とする。
エキスパンションジョイントカバーには、脱落防止措置を講ずる。

22 くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼(SUS304)製 ・	・ステンレス製(SUS304) ・硬質アルミニウム合金 ・	

㉓ 流し台ユニット

材種	寸法(mm) W	D	H	備考
㋐流し台	・1200 ・1500 ㋐1800	・550 ㋐600 ・650	・800 ㋐850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
㋐コンロ台	㋐600	・550 ㋐600 ・650	・620 ㋐670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
㋐つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	ー	ー	市販品 ステンレス製 ・1段式　・

品質・性能　外観は、JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の4.1 による。
構成材は、JIS A 4420の8 により試験を行ったとき、表1 の規定による。
形状　※図示　・

24 旗竿

材種	形式	高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

25 旗竿受金物　材種　・ステンレス製（SUS304）　・

26 車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・
・				

27 フェンス　フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス　・アルミフェンス
高さ　・図示　・

28 プレキャストコンクリート　(20.3.2～4)
コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³ を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。　・図示
取付け方法
※図示　・

29 間知石及びコンクリート間知ブロック積み　(20.4.2、3)

	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	ー	ー	
・コンクリート間知ブロック	ー		・A　・B	

積み方　※谷積み　・布積み
目塗り　・図示　・
伸縮調整目地　材種　・図示　・
厚さ　・図示　・

30 鋼製書架及び物品棚

種　類	規　格　等	JIS による種類
・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	・1種　・2種　・3種
・鋼製物品棚		・4種　・5種　・6種　・

31 屋内掲示板　枠の材質　※アルミニウム製　・
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

32 洗面カウンター　材種　・メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材）　・人工大理石
奥行き(mm)　・約450　・約600

33 防煙垂れ壁　・固定式

材　質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備　考
※網入り磨板ガラス ・繰入り磨板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種　類	材　質	高さ(mm)	備　考
・垂直降下式（巻取り型）	※不燃布（不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

34 屋外掲示板　照明器具　※有り　・無し
施錠　※有り　・無し
製造所　（　）

35 収納家具　材質、形状、寸法　※図示　・
材料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

㉑ 排水工事

① 屋外雨水排水　材料　(21.2.1、2)(表21.2.1、2)

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（1種）・B形管 ・		※図示　・	
㋐硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		※図示　・	
	㋐VU		※図示　・	
	・RF-VP G		※図示　・	
	・RS-VU G		※図示　・	

基床の厚さ及び種類　㋐図示　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤　・ゴム輪
側塊の形状及び寸法　㋐図示　・
排水桝、ふたの種類　㋐図示　・
砂地業に用いる材料(標準仕様書4.6.2(2))
・シルト　㋐山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料(標準仕様書4.6.2(1))
㋐再生クラッシャラン G　・切込砂利　㋐切込砕石
砂利地業の厚さ　※100(mm)　㋐図示
現場打ちの場合のコンクリート材料
種類　※普通コンクリート
設計基準強度　※18N/mm²　・
スランプ(cm)　※15又は18
現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD295　・
排水桝が現場打ちの場合の足掛け金物
※標準仕様書21.2.2(6)(ｲ)
・ステンレス製　・防錆処置を行った鋼製　・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層の厚さ　・図示　・
凍上抑制層に用いる材料　・
（砂を用いる場合の粒度試験）・行う　・行わない

② 雨水ます　2 鋳鉄製ふた　鋳鉄製マンホールふた　(21.2.1)

種類	適用荷重	鍵	備考
・水封形 ・簡易密閉形(パッキン式) ・密閉形(テーパ・パッキン式) ・中ふた付き密閉形 （テーパ・パッキン式） ・	・T－2用 ・T－6用 ・T－20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は、(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

③ グレーチング　㋐鋼製　(21.2.1)

形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状
㋐受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた ㋐U字溝用	㋐歩行用 ・	㋐細目 ・	・（　）	・凹凸形 ・
		・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ㋐T-20用 ・	・普通目 ・細目	・（　）	㋐平形 ・

・ステンレス製

形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状
・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・	ー	・凹凸形 ・
		・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用 ・	・	ー	・平形 ・

④ 街きょ、縁石、側溝　(21.3.1、2)(表21.3.1)

種類	形状、寸法
・縁石	・図示　・
・L形側溝	・図示　・
㋐U形側溝	㋐図示　・
㋐U形側溝ふた ・	㋐図示　・ ・図示　・

砂地業に用いる材料
・シルト　㋐山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
㋐再生クラッシャラン G　・切込砂利　㋐切込砕石
砂利地業の厚さ　※100(mm)　㋐図示
現場打ちの場合のコンクリート材料
種類　※普通コンクリート
設計基準強度　※18N/mm²　・
スランプ(cm)　※15又は18
現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD295　・
凍上抑制層に用いる材料　・
（砂を用いる場合の粒度試験）・行う　・行わない

⑤ 埋戻し　㋐B種　(21.2.1)

㉒ 舗装工事

1 路床　路床の材料　(22.2.2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・標準仕様書 表3.2.1(・A種　・B種　・C種　・D種) ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G　・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂（標準仕様書表21.2.2による） ・	・図示 ・
・フィルター層	・標準仕様書22.2.3(3)による ・	・図示 ・

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験 ）・行う　・行わない

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀　温
Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　特記仕様書（その５）
Scale　－
設計年月　令和8年03月
Number　A-05

・路床安定処理
安定処理の方法　・安定処理工法　・置き換え工法
添加材による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントＢ種 Ⓖ
・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（・特号　・1号）　・消石灰（・特号　・1号）
添加量　・　kg/m³（CBR　・3以上　・　）

安定処理工法に関する試験
安定処理のＣＢＲ試験（配合試験含む）　・行う　・行わない
六価クロム溶出試験　・行う　・行わない

試験
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　（試料採取方法　・変状土　・現状土）
・行う（　箇所）　・行わない
現場ＣＢＲ試験　・行う（　箇所）　・行わない
路床締固め度の試験　・行う（　箇所）　・行わない

2 路盤

路盤及び厚さ　・図示　・　（22.3.2、3）（表22.3.1）
路盤材料（標準仕様書 表22.3.1による種別）

種別	
砕石	・クラッシャラン
	・粒度調整砕石
再生材	・再生クラッシャラン Ⓖ
	・再生粒度調整砕石 Ⓖ
鉄鋼スラグ	・クラッシャラン鉄鋼スラグ Ⓖ
	・粒度調整鉄鋼スラグ Ⓖ
	・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ Ⓖ

③ アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示　・　（22.4.2～4、6）（表22.4.1、4）
材料及び種類
アスファルト　・再生アスファルト Ⓖ
（標準仕様書 表22.4.1による種類：　・60～80　・80～100）
・ストレートアスファルト
骨材　・遮路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 Ⓖ
加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物（１３）
・細粒度アスファルト混合物（１３）
・密粒度アスファルト混合物（１３Ｆ）
試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

4 コンクリート舗装

構成及び厚さ　（22.5.2～4）（表22.5.1～3）

舗装の種類	部位	構成	厚さ（mm）
コンクリート舗装	・車路、駐車場	※図示	※図示
	・歩行者用通路	※図示	※70　・

材料
コンクリート
※普通コンクリート　標準仕様書表22.5.1による　・
・以下による
コンクリートの種類　・
設計基準強度（N/mm²）　・
所定のスランプ（cm）　※8　・
粗骨材の最大寸法（mm）　・
早強ポルトランドセメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
目地
種類　※標準仕様書表22.5.3による　・
間隔　※標準仕様書表22.5.3による　・　m程度ごと
構造　※標準仕様書図22.5.1による　・図示
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

5 カラー舗装

・加熱系カラー舗装　（22.6.2～4）
構成及び厚さ　※図示　・
加熱系混合物の結合材
・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加量（　％）
添加材
着色骨材　（　）
自然石　（　）
・常温系カラー舗装
工法　・ニート工法（配合その他：　）
・塗布工法（配合その他：　）
着色部の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

6 透水性舗装

・透水性アスファルト舗装　（22.7.2、3、6）
舗装の構成及び厚さ　※図示　・
材料
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 Ⓖ
（標準仕様書 表22.4.1による種類：　・60～80　・80～100）
舗装の平たん性　※著しい不陸がないもの　・
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
・透水性コンクリート舗装　（22.5.2～4、6）
コンクリート舗装に対する基準値

項目	基準値
最大粒径　（mm）	13
空隙率　（%）	20以上
透水係数　（cm/s）	1×10^{-2}以上
目地の間隔	版厚の20倍程度

出典：構内舗装・排水設計基準の資料（H27）、舗装施工便覧（H18）
構成、厚さはコンクリート舗装による

・不織布（ジオテキスタイル）
敷設位置　※フィルター層と路床の間の敷設　・図示
単位面積質量　・60g/㎡以上　・
厚さ（mm）　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数　・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・

・透水性コンクリート平板舗装　（22.8.2、3）
透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による

・透水性インターロッキングブロック舗装　（22.8.2、3）
透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による

7 半たわみ性舗装

区分	種類	厚さ（mm）
表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物Ⅰ型(13)	40
基層	再生粗粒度アスファルト混合物(20)	40

試験
半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

材料
浸透用セメントミルクの標準的な性状

項目	性状	試験方法
フロー値（Pロート）秒	10～14	舗装調査・試験法便覧（C041）
圧縮強度（７日養生）　MPa	9.8～29.4	JIS R 5201
曲げ強度（７日養生）　MPa	2.0以上	舗装調査・試験法便覧（C042）

配合
半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準配合

ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率（%）
19.0　mm	100
13.2　mm	95～100
4.75　mm	10～35
2.36　mm	5～22
600　μm	4～15
300　μm	3～12
75　μm	1～6
アスファルト量（%）	3～4.5

半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマーシャル安定度試験に対する基準値

項目	基準値
密度　（g/cm³）	1.9以上
安定度　（kN）	2.94以上
フロー値　（1/100cm）	20～40
空隙率　（%）	20～28
突固め回数（回）	50

施工
半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書22.4.5による。
浸透用セメントミルクの施工は、(1)から(5)による。
(1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動式ミキサによって行うが、工事規模が大きい場合には専用の移動式や固定式の混合プラントを用いることもある。
(2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下になってから行う。その場合、舗装体にごみ、泥、水などが残っていないことを確認する。浸透作業は、一般に振動ローラ等により行う。
(3) セメントミルクが舗装表面に残っていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムレーキ等で除去する。特にすべり止め対策を必要とするところは、硅砂の使用及び余剰セメントミルクのよりいっそうの除去等、材料や施工法等で対処するか、場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。
(4) 交通開放までの一般的な養生期間は、下表に示すとおりである。

セメントミルクの種類	養生期間
普通タイプ	約 3 日
早強タイプ	約 1 日
超速硬タイプ	約 3 時間

(5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の剥脱や飛散、またはごみ、泥等による汚れが生じることがあるので、基本的には注入前に交通開放を行わないようにする。

締固め度　標準仕様書22.4.2(2)による
舗装厚さの許容差　※標準仕様書 22.4.2(3) による
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度

8 弾性舗装

弾性舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ　※図示　・

区分	種類	厚さ（mm）
表層	弾性舗装材	15～20
基層	再生密粒度アスファルト混合物（13）	30

加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による

9 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 Ⓖ　（22.8.2、3）
※図示　・

種類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材	備考
※普通平板（N） ・透水平板（P） ・保水性平板（M）	※300角 ・	※60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し
敷砂層	・砂 ・空練りﾓﾙﾀﾙ			

クッション材　※砂　・空練りモルタル

普通平板はⒼ（再生材料を用いた舗装用ブロック）、
透水平板はⒼ（透水性コンクリート）とする。

仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。
・

・インターロッキングブロック舗装 Ⓖ

種類	部位	形状寸法	厚さ（mm）	曲げ強度（N/mm²）	横断面勾配	目地材	備考
※普通ブロック（N） ・透水性ブロック（P） ・保水性ブロック（M）	車路、駐車場	・図示 ・	80	※5.0	2%	砂	色彩、表面加工 ・標準品 ・
※普通ブロック（N） ・透水性ブロック（P） ・保水性ブロック（M）	歩行者用通路	・図示 ・	60	※3.0	1.5～2%		

クッション材　※砂　・空練りモルタル
歩行者用通路に使用する普通ブロックは Ⓖ（再生材料を用いた舗装用ブロック）、
透水性ブロックは Ⓖ（透水性コンクリート）とする。

仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。
・

区分	部位	厚さ（mm）	種類
敷砂層	・車路、駐車場	20	砂
	・歩行者用通路	30	
フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量6%以下）

・不織布（ジオテキスタイル）
敷設位置　※図示
・敷砂層と路盤の間に敷設　・フィルター層と路床の間に敷設
単位面積質量　・60g/㎡以上　・
厚さ（mm）　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数　・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・
舗装の割付（車路、駐車場）
・ヘリンボンボンド(45°)　・ヘリンボンボンド(90°)
仕上り面の平たん性　※走行、歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm 以内とする。
・

・舗石舗装

種類	形状・寸法（mm）	厚さ（mm）	張り方	基層	基層の厚さ（mm）
・花こう岩 ・	・割石・図示 ・	・	・うろこ張り ・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版 ・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※70　・ ※70　・

クッション材　※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm 以内とする。
・

⑩ 砂利敷き

種別　（22.9.2）（表22.9.1）
・Ａ種（施工範囲：・図示　・通路　・　）
・Ｂ種（施工範囲：・図示　・建物周囲他　・　）

11 路面標示用塗料

路面標示用塗料は JIS K 5665 による。

種類	施工	適用	色	幅（mm）	塗布厚さ（mm）
・１種 Ⓖ	常温	液状	・白	・150	・1.0
・２種 Ⓖ	加熱		・	・100	・
※３種１号	溶融	粉体状			

Ⓖ 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

㉓ 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度（pH）試験　・行う　・行わない　（23.1.3）
電気伝導度（EC）の試験　・行う　・行わない

2 植栽基盤の整備

（23.2.2）

植栽	工法	有効土層の厚さ（cm）	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種	樹高12m以上 （※100　・120　・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80　・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60　・80） 樹高3m未満 （※50　・60）	・葉張り部分 ・植栽帯部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※Ｂ種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備　・設ける（※図示　・　）　・設けない

③ 植込み用土

・現場発生土の良質土　・客土　・　（23.2.3）

4 土壌改良材

（23.2.3）
種類及び指定量等
・パーク堆肥 Ⓖ
施工箇所　※植栽範囲　・図示
使用量　植栽基盤面積１㎡あたり（・50L　・　）
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）Ⓖ
施工箇所　※植栽範囲　・図示
使用量　植栽基盤面積１㎡あたり（・10L　・　）
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。

⑤ 樹木

樹種、寸法、株立数等　※図示　・　（23.3.2）

⑥ 支柱

支柱材　※丸太（間伐材）Ⓖ　・真竹　・　（23.3.2、3）
防腐処理方法　※加圧式防腐処理丸太材　・
形式　・図示　・

7 幹巻き用材料

材料　※幹巻き用テープ　・わら及びこも　・　（23.3.2）

⑧ 芝

種類　※コウライシバ　・ノシバ　・　（23.4.2、3）
芝張りの工法
平地　※目地張り　・べた張り
法面　・目地張り　※べた張り法面

9 吹付けは種

（23.4.2）

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）	備考
※洋芝類（採取後２年以内）	※発芽率80%以上		
・	・		

10 地被類

（23.4.2）

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・

11 新植、移植樹木、芝等の枯補償

（23.3.4、6）（23.4.7）（23.5.5）
新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
※引渡しの日から１年　・無し　・
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から１年　・無し　・

12 屋上緑化 Ⓖ

植栽基盤及び材料　（23.5.2～4）
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・図示　・
排水層　・軽量骨材（層の厚さ：　）　・板状成型品
植込み用土　※改良土　・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等　※図示　・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等　※図示　・
支柱　・設置する（形式　・図示　・　）
かん水装置　・設置する（種類　・　）
工法
「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（平成12年5月31日　建設省告示第1458号）に基づく風圧力に対応した工法
・図示による

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀 温

敷地概要

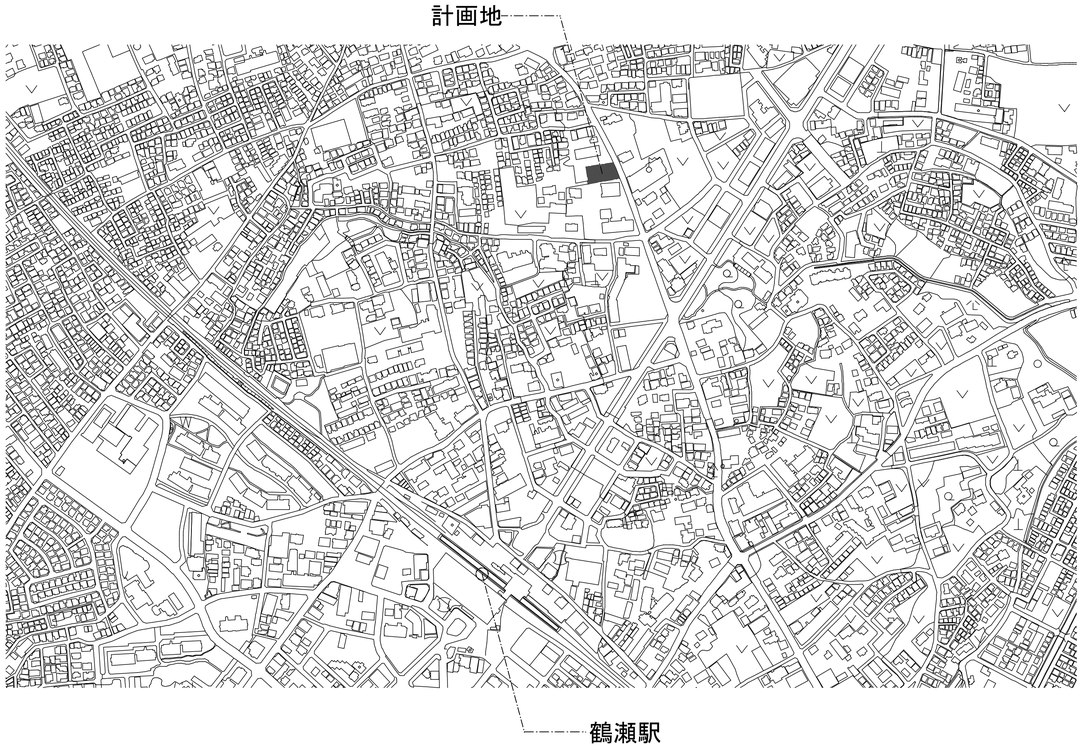
計画地	富士見市鶴瀬東2 丁目2317番2 鶴馬1 丁目2264番2
面積	1514.98㎡
用途地域	第一種住居地域、第一種中高層住居専用地域
建ぺい率	60%
容積率	200%
地域・地区	建築基準法第22条区域
日影規制	4時間-2.5時間(4m)、3時間-2時間(4m)
周辺道路	県道266号線　ふじみ野・朝霞線　幅員8.0m

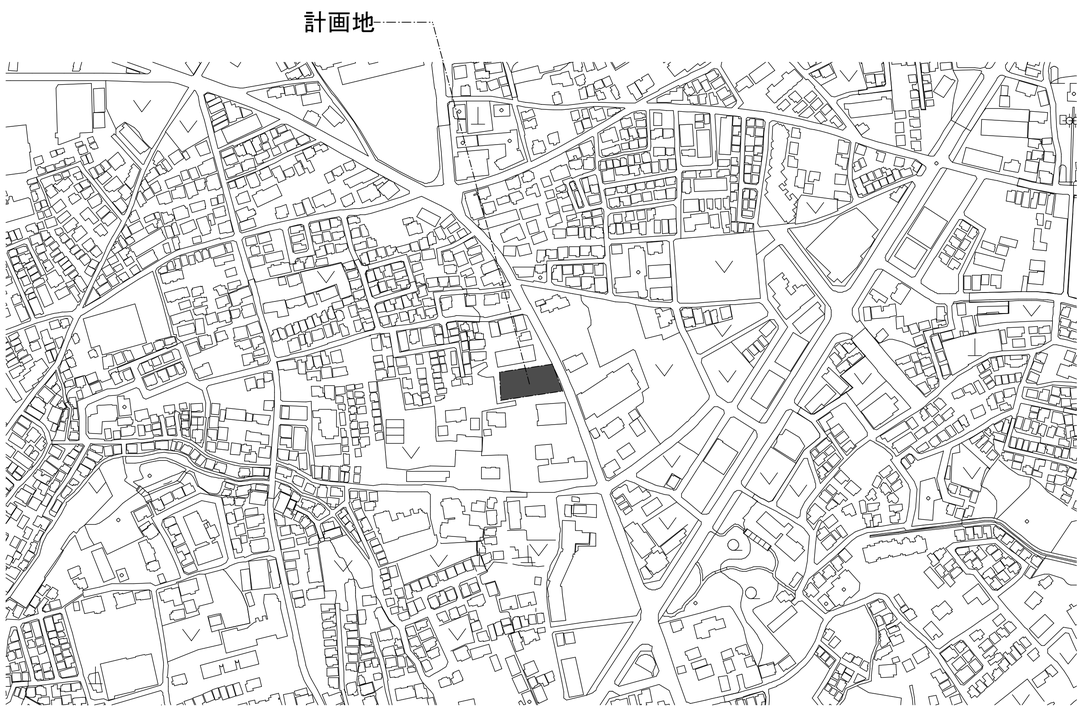
建築概要

主要用途	防災備蓄品倉庫　会議スペース
工事種別	新築工事
建築面積	663.85㎡
延床面積	599.90㎡
容積率	38.81%
建蔽率	43.82%
階数・高さ	地上１階　平屋建て　最高高さ 7.480m

構造概要

基礎	羽根付　鋼管杭
主体構造	鉄骨造
構造形式	ラーメン構造



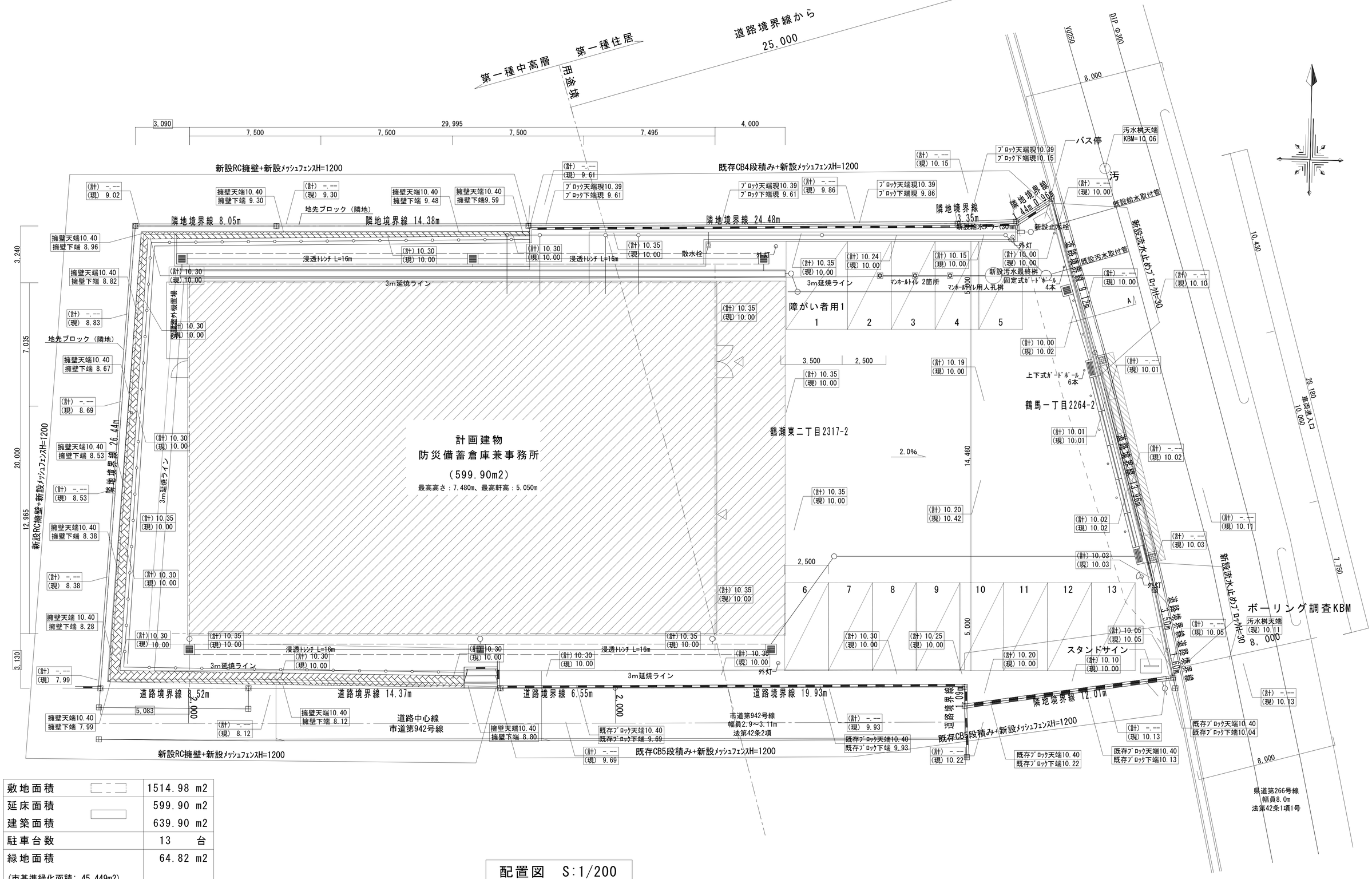


株式会社 SuKA建築設計事務所

Address 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号　須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	案内図・計画概要	1/100(A1) 1/200(A3)	令和8年03月

Number A-07



配置図　S:1/200

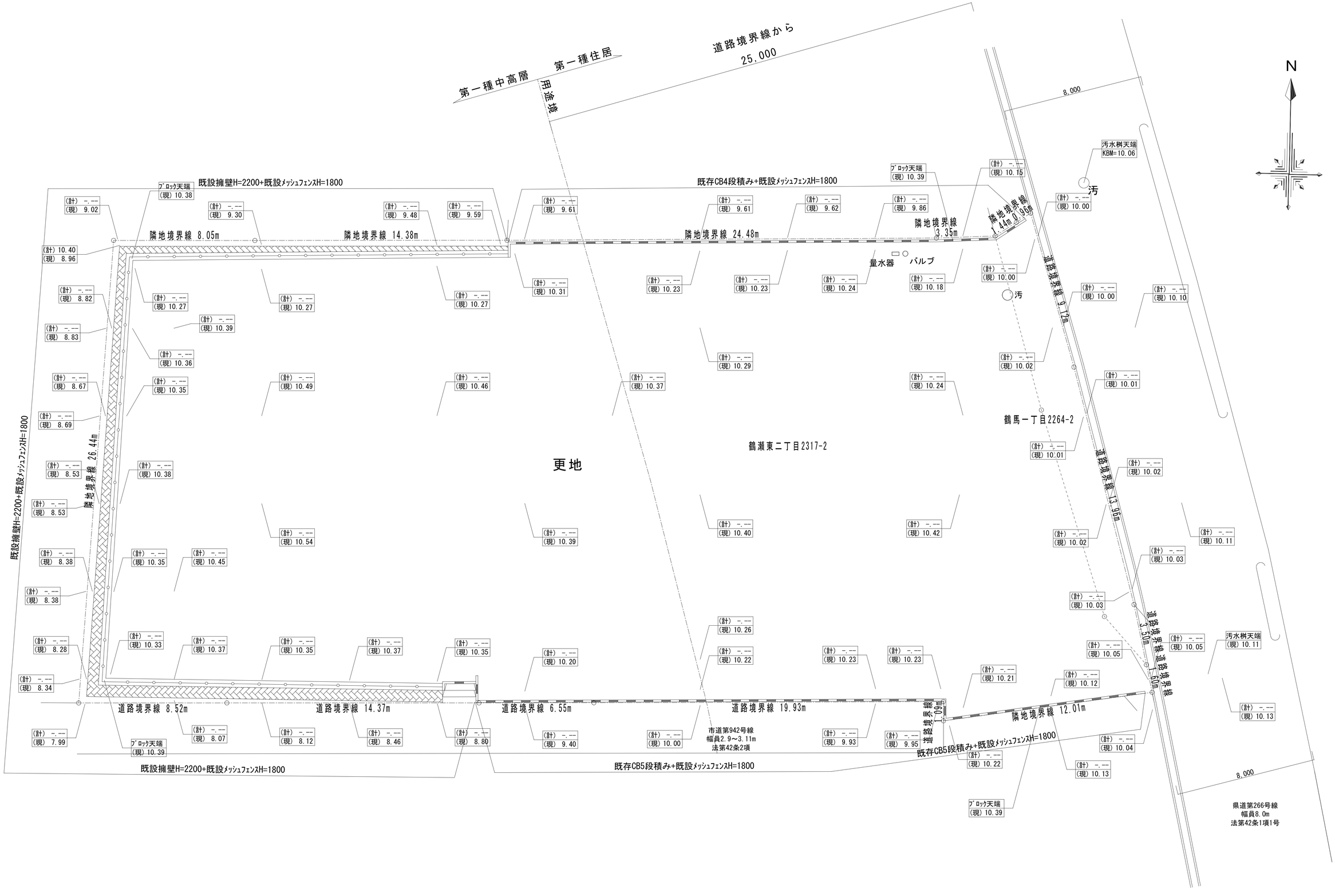
敷地面積	1514.98 m2
延床面積	599.90 m2
建築面積	639.90 m2
駐車台数	13　台
緑地面積 (市基準緑化面積: 45.449m2) (県基準緑化面積:302.996m2)	64.82 m2
(計) 10.40 ←計画レベル (現) 8.07 ←現況レベル	

※都計法34条の2みなし許可による擁壁　富建第114号　令和8年4月23日
※道路斜線制限については明らかに適合するため検討を省略する

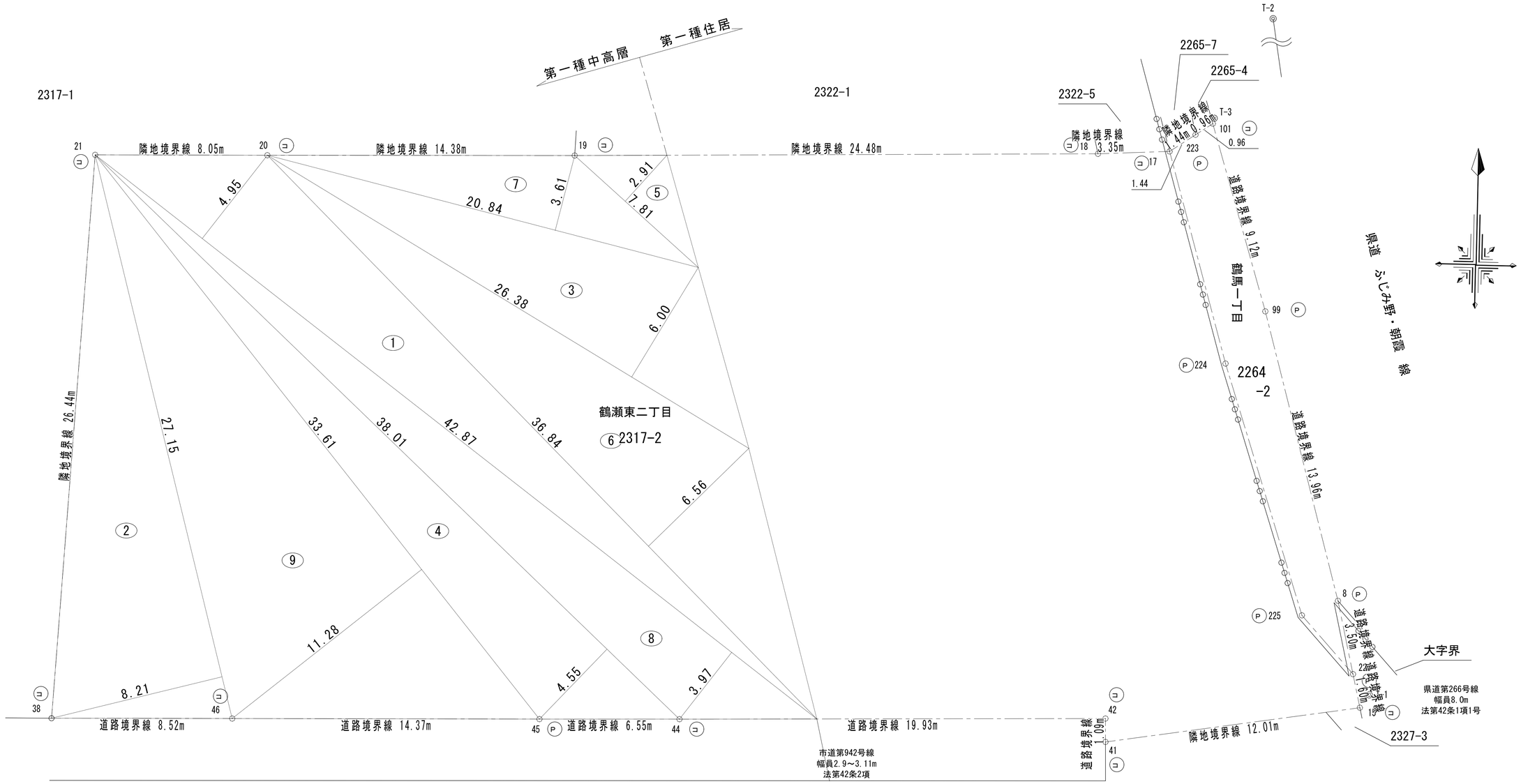
株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	計画配置図	1/100(A1) 1/200(A3)	令和8年03月 Number A-08



株式会社 SuKA建築設計事務所								
Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月 令和8年03月
〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号 須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	現況図	1/100(A1) 1/200(A3)	Number A-09



地　番	2317-2			
NO	Ｘｎ	Ｙｎ	Ｙｎ+1－Ｙｎ-1	Ｘｎ・（Ｙｎ+1－Ｙｎ-1）
15	499.392	499.570	11.510	5748.001920
220	500.956	499.214	-2.806	-1405.682536
225	503.654	496.764	-6.283	-3164.458082
224	515.357	492.931	-6.668	-3436.400476
17	525.223	490.096	-6.184	-3247.979032
18	525.038	486.747	-27.829	-14611.282502
19	524.419	462.267	-38.858	-20377.873502
20	524.116	447.889	-22.433	-11757.494228
21	523.958	439.834	-9.515	-4985.460370
38	497.550	438.374	6.991	3478.372050
46	497.723	446.825	22.825	11360.527475
45	498.013	461.199	20.924	10420.424012
44	498.155	467.749	26.480	13191.144400
42	498.623	487.679	19.955	9950.021965
41	497.528	487.704	11.891	5916.105448
			合　計	-2922.033458
			合　計　面　積	1461.0167290
			地　積	1461.01 ㎡

地　番	2264-2			
NO	Ｘｎ	Ｙｎ	Ｙｎ+1－Ｙｎ-1	Ｘｎ・（Ｙｎ+1－Ｙｎ-1）
17	525.223	490.096	-1.640	-861.365720
223	526.030	491.291	1.993	1048.377790
101	526.568	492.089	3.447	1815.079896
99	517.840	494.738	6.347	3286.730480
8	504.374	498.436	4.476	2257.578024
220	500.956	499.214	-1.672	-837.598432
225	503.654	496.764	-6.283	-3164.458082
224	515.357	492.931	-6.668	-3436.400476
			合　計	107.943480
			合　計　面　積	53.9717400
			地　積	53.97 ㎡

総合計面積　1514.9884690 ㎡

2327-1

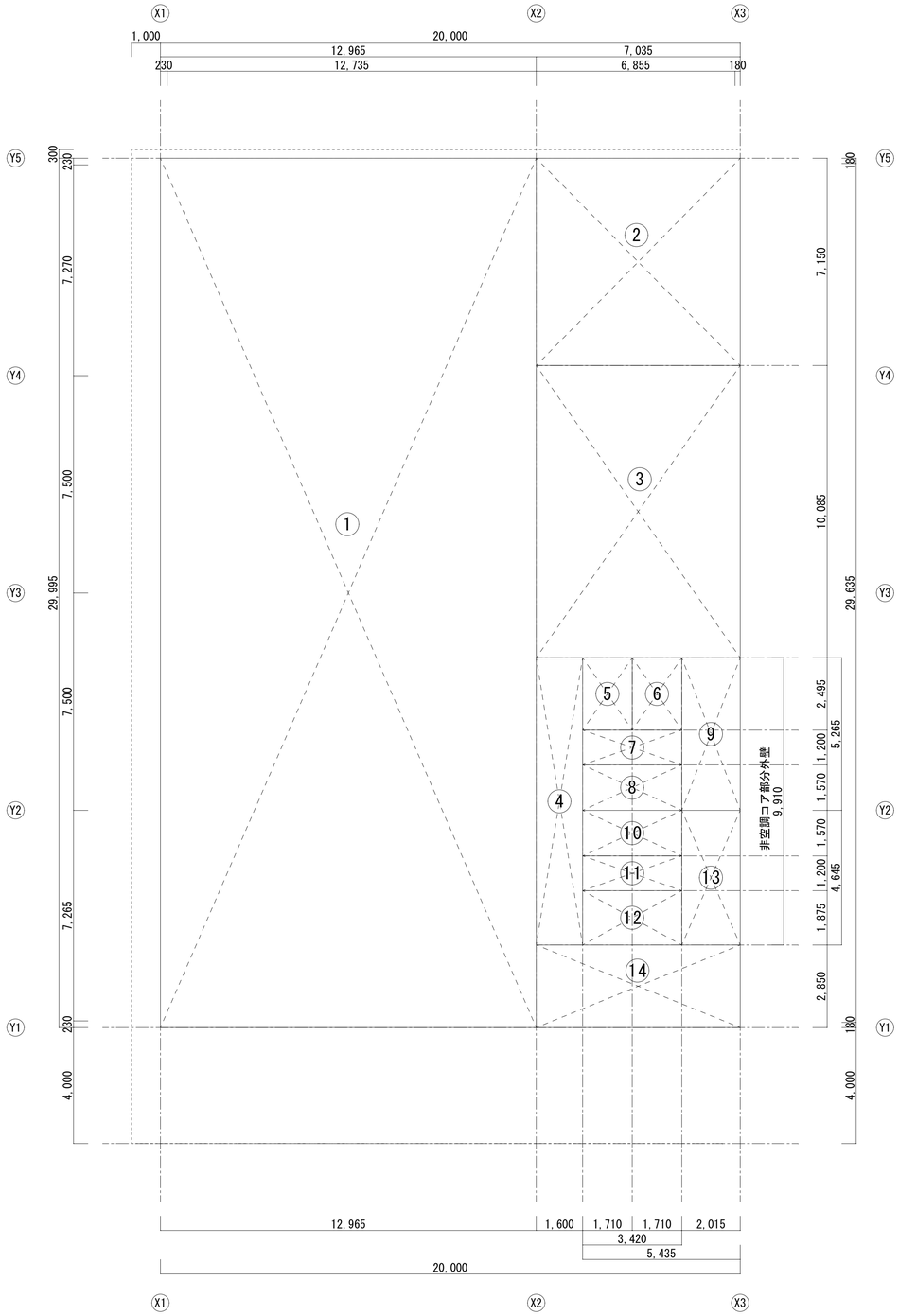
番号	底　辺	高　さ	倍　面　積	面　　積
1	42.87	4.95	212.2065	106.10325
2	27.15	8.21	222.9015	111.45075
3	26.38	6.00	158.2800	79.14000
4	38.01	4.55	172.9455	86.47275
5	7.81	2.91	22.7271	11.36355
6	36.84	6.56	241.6704	120.83520
7	20.84	3.61	75.2324	37.61620
8	42.87	3.97	170.1939	85.09695
9	33.61	11.28	379.1208	189.56040
合　　計				827.63905
敷 地 面 積				827.63 ㎡

敷地全体面積　左記計算表より　1514.98 ㎡
第一種中高層　上記計算表より　827.63 ㎡
第一種住居　1514.98 ㎡- 827.63 ㎡= 687.35 ㎡

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 敷地求積図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-10



各室求積図　S=1/200

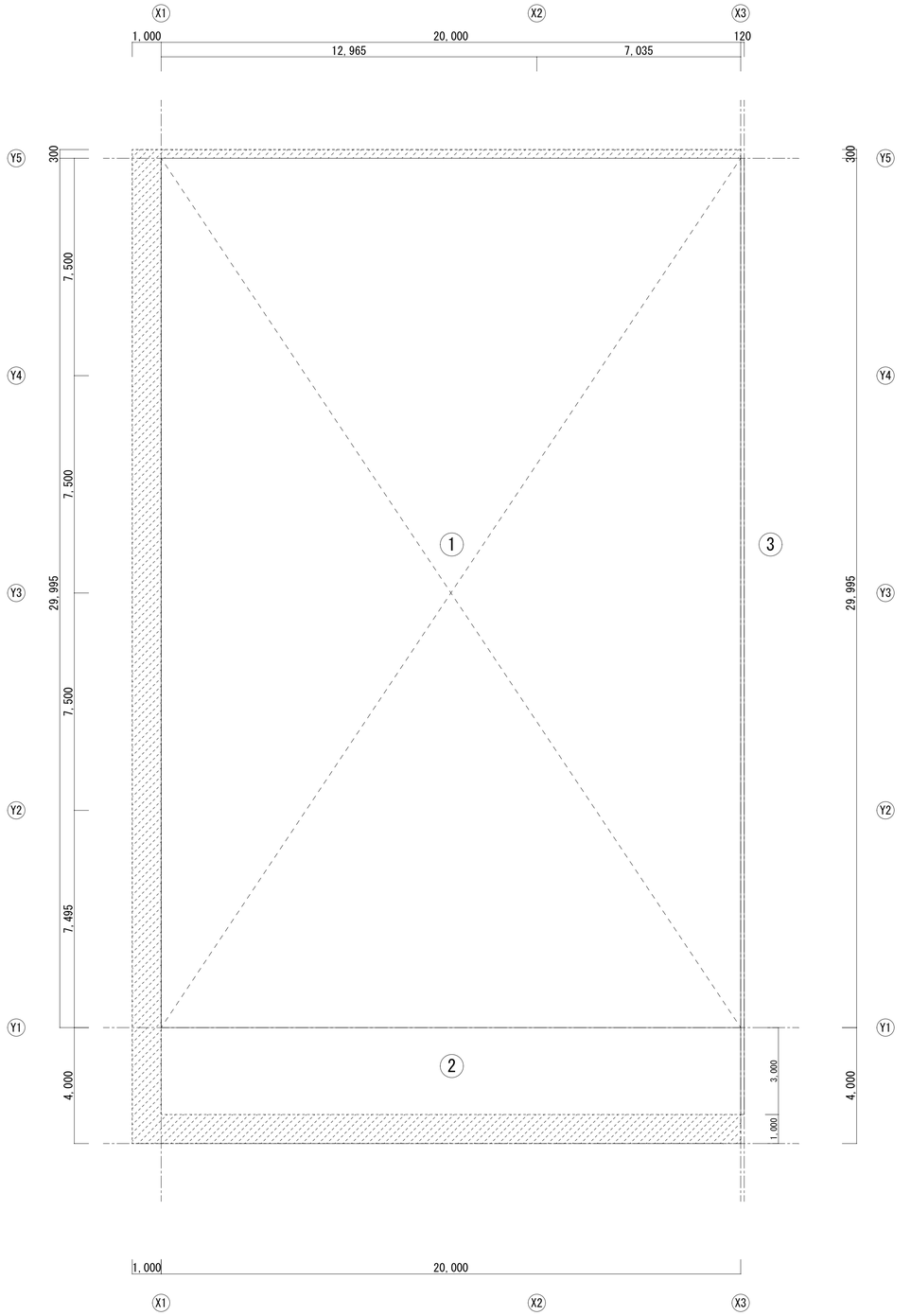
	各室面積			
		底辺	高さ	面積
1	倉庫	12.9650	29.9950	388.8852
2	倉庫兼会議室①	7.0350	7.1500	50.3003
3	倉庫兼会議室②	7.0350	10.0850	70.9480
4	共用部①	1.6000	9.9100	15.8560
5	洗濯室	1.7100	2.4950	4.2665
6	給湯室	1.7100	2.4950	4.2665
7	共用部②	3.4200	1.2000	4.1040
8	女子ｼｬﾜｰ室・脱衣所	3.4200	1.5700	5.3694
9	女子ﾄｲﾚ	2.0150	5.2650	10.6090
10	男子ｼｬﾜｰ室・脱衣所	3.4200	1.5700	5.3694
11	共用部③	3.4200	1.2000	4.1040
12	多目的ﾄｲﾚ	3.4200	1.8750	6.4125
13	男子ﾄｲﾚ	2.0150	4.6450	9.3597
14	ｴﾝﾄﾗﾝｽ兼災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ	7.0350	2.8500	20.0498
			合計	599.9003

※省エネ適判空調対象床面積　②+③+④+⑭＝157.1541

	容積対象面積算定			
		底辺	高さ	面積
1	防災備蓄倉庫部分	12.9650	29.9950	388.8852
2～14	支所部分	7.0350	29.9950	211.0149
			合計	599.9001
	容積不算入部分	599.90 / 50	= 11.9980	11.9980
	容積対象面積	599.90 - 11.99 = 587.91		587.91

	建築面積			
		底辺	高さ	面積
1		20.000	29.995	599.900
2		20.000	3.000	60.000
2		0.120	32.995	3.959
			合計	663.859

	延床面積			
		底辺	高さ	面積
1		20.000	29.995	599.900
			合計	599.900



建築・延床求積図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 建築・延床求積図　各室求積図
Scale: 1/200(A1) 1/400(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-11

外　部　仕　上　表

屋　根	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4竪ﾊｾﾞ葺き（ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ940）　（不燃認定番号：NM-8697） 改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ t=2.0 断熱材：高性能ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱 t=30　（高性能ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材2種2号） 野地板：硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板 t=25　吹付塗装	軒天井	ｹｲｶﾙ板 t=6mm（面取り突付けの上、NAD塗）	軒樋	塩ビ軒樋	外　構	
外　壁 （北側）	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4竪ﾊｾﾞ葺き 透湿防水ｼｰﾄt=0.2 鉄骨地の上、構造用合板 12.0mm 断熱材　高性能ｸﾞﾗｽｳｰﾙ24K t=100	基礎巾木	コンクリート打放し補修の上撥水保護剤	竪樋	塩ビφ90		
外　壁 （北側以外）	カラーガルバリウム鋼板 t=0.5　スパンドレル 透湿防水ｼｰﾄt=0.2 鉄骨地の上、構造用合板 12.0mm 断熱材　高性能ｸﾞﾗｽｳｰﾙ24K t=100	開口部	アルミ製建具（二次電解着色）	断熱材	屋根：高性能ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱 t=30　（高性能ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材2種2号）		
			鋼製建具（焼付塗装）		外壁：高性能ｸﾞﾗｽｳｰﾙ24K t=100		
			入口：ｵｰﾊﾞｰｽﾗｲﾀﾞｰ（電動）		土間スラブ下：押出ﾎﾟﾘｽﾃﾚﾝﾌｫｰﾑ t=30（B類3種）（ｽｷﾝ層付）		
			トップライト（菱晃：長尺フラット垂直開閉タイプ　アストラムASL-90x4500同等）	室外機置場	場所打ちｺﾝｸﾘｰﾄ t=80		
		ガラス	フロートガラス、網入りガラス				
		庇	庇：アルミ既製品				

内　部　仕　上　表

階	室　名	床		H	巾　木	H	壁　（腰）			H	天　井	CH	廻り縁	備　考
1	中央防災センター エントランス兼 災害ボランティアセンター	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30 （ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材t=10）	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ（ア）2.5	FL±0	ソフト巾木	60	S下地 LGS下地	PB t=12.5　PB t=9.5	EP仕上げ	——	化粧PB t=9.5　LGS下地	2,600	塩ビ	
	通路	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30 （ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材t=10）	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ（ア）2.5	FL±0	ソフト巾木	60	S下地 LGS下地	PB t=12.5　PB t=9.5	EP仕上げ	——	化粧PB t=9.5　LGS下地	2,600	塩ビ	
	災害対策本部代替施設 倉庫兼会議室 A	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30 （ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材t=10）	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ（ア）2.5	FL±0	ソフト巾木	60	S下地 LGS下地	PB t=12.5　PB t=9.5	EP仕上げ	——	ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板 t=9.0（PB t=9.5捨張り） LGS下地	2,600	塩ビ	
	災害対策本部代替施設 倉庫兼会議室 B	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30 （ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材t=10）	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ（ア）2.5	FL±0	ソフト巾木	60	LGS下地	PB t=12.5　PB t=9.5	EP仕上げ	——	ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板 t=9.0（PB t=9.5捨張り） LGS下地	2,600	塩ビ	
	倉　庫	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ 無機質系硬質塗床	FL±0	ソフト巾木	60	S下地 LGS下地	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=8.0	EP-G仕上げ	——	塗装硬質木毛セメント板t=25 鉄骨表しSOP仕上げ	5,000 7,150	——	オーバースライダー（電動） 消火器　中量棚
	男子トイレ	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30 （ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材t=10）	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ（ア）2.5	FL±0	塩ﾋﾞｼｰﾄ立上げ	100	S下地 LGS下地	PB t=12.5　ｹｲｶﾙ板 t=6.0 ﾗｲﾆﾝｸﾞ壁：化粧ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0	EP-G仕上げ	——	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0 目透し　LGS下地 PB t=9.5　EP-G仕上げ	2,600	塩ビ	汚垂石：TOTOハイドロセラ（テーパー加工品）同等品
	女子トイレ	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30 （ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材t=10）	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ（ア）2.5	FL±0	塩ﾋﾞｼｰﾄ立上げ	100	S下地 LGS下地	PB t=12.5　ｹｲｶﾙ板 t=6.0 ﾗｲﾆﾝｸﾞ壁：化粧ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0	EP-G仕上げ	——	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0 目透し　LGS下地 PB t=9.5　EP-G仕上げ	2,600	塩ビ	
	多目的トイレ	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30 （ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材t=10）	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ（ア）2.5	FL±0	塩ﾋﾞｼｰﾄ立上げ	100	S下地 LGS下地	PB t=12.5　ｹｲｶﾙ板 t=6.0 ﾗｲﾆﾝｸﾞ壁：化粧ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0	EP-G仕上げ	——	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0 目透し　LGS下地 PB t=9.5　EP-G仕上げ		塩ビ	
	洗濯室	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ（ア）2.5	FL±0	ソフト巾木	60	S下地 LGS下地	PB t=12.5　ｹｲｶﾙ板 t=6.0 ﾗｲﾆﾝｸﾞ壁：化粧ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0	EP-G仕上げ	——	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0 目透し　LGS下地 PB t=9.5　EP-G仕上げ	2,600	塩ビ	
	給湯室	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ（ア）2.5	FL±0	ソフト巾木	60	S下地 LGS下地	PB t=12.5　PB t=9.5	EP-G仕上げ	——	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0 目透し　LGS下地 PB t=9.5　EP-G仕上げ	2,600	塩ビ	消火器 電気温水器
	脱衣室	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち t=30	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ（ア）2.5	FL+210	ソフト巾木	60	S下地 LGS下地	PB t=12.5　PB t=9.5	EP-G仕上げ	——	化粧PB t=9.5　LGS下地	2,600	塩ビ	中量棚
	シャワー室		ユニットシャワー	FL+210			S下地 LGS下地							ユニットシャワー

※使用建築材料は以下の仕様とする。
1. 石綿等の添加がないもの
2. ホルムアルデヒド発散材料区分：F☆☆☆☆

材料・材料略号			
AL	ｱﾙﾐﾆｳﾑ	PC	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ
ALC	軽量気泡ｺﾝｸﾘｰﾄ	PVC	塩化ﾋﾞﾆｰﾙ
AS	ｱｽﾌｧﾙﾄ	RW	ﾛｯｸｳｰﾙ
RC	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	S	ｽﾁｰﾙ
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ	SGL	配管用炭素鋼管
FA	ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱｰ	ST	ｽﾃﾝﾚｽｽﾁｰﾙ
GW	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ（ﾎﾞｰﾄﾞ）	VP	硬質塩化ﾋﾞﾆｰﾙ管
LGS	軽量鉄骨	W	木質
MO	ﾓﾙﾀﾙ	RS	ｾﾒﾝﾄ押出成型板
PB	石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ	SL	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材
GFPB	ｶﾞﾗｽ繊維不織布入り石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ	UB	ﾕﾆｯﾄﾊﾞｽ

塗装種別略号	
OP	油性調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗
SOP	合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗
ALP	ｱﾙﾐﾆｳﾑﾍﾟｲﾝﾄ塗
FE	ﾌﾀﾙ酸樹脂ｴﾅﾒﾙ塗
OS	ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗
OSW	ｵｲﾙｽﾃｲﾝ・ﾜｯｸｽ塗
OSCL	ｵｲﾙｽﾃｲﾝｸﾘｱｰﾗｯｶｰ塗
UE	２種ｳﾚﾀﾝｴﾅﾒﾙ塗
UEC	２種ｳﾚﾀﾝｸﾘｱｰ塗
CL	ｸﾘｱｰﾗｯｶｰ塗
LE	ﾗｯｶｰｴﾅﾒﾙ塗

塗装種別略号	
AE	ｱｸﾘﾙｴﾅﾒﾙ塗
VE	塩化ﾋﾞﾆﾙｴﾅﾒﾙ塗
EP-1	JIS　K5663　1種塗
EP-2	JIS　K5663　2種塗
AB-E	ｱｸﾘﾙ樹脂焼付塗装
EP	合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
EP-G	つや有り合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ

その他	
H	高さ
W	巾
D	深さ
T	厚さ
R	半径
EXP-J	ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ
EV	ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ
CD	ｺﾝｸﾘｰﾄﾀﾞｸﾄ

不燃認定番号	
番号	材料名
NM-0441	石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ　（ア）9.5
NM-8619	石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ　（ア）12.5・（ア）15.0
NM-8615	強化石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ　（ア）12.5・（ア）21.0
NM-2286	ｶﾞﾗｽ繊維不織布入り石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ（ア）8.0
NM-8578	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板
NM-9889	壁紙
NM-1864	化粧石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ（不燃）
NM-8606	ｸﾞﾗｽｳｰﾙﾎﾞｰﾄﾞ、ｸﾞﾗｽｳｰﾙｶﾞﾗｽｸﾛｽ
NM-8599	ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板
NM-2183	ﾒﾗﾐﾝ化粧板

不燃認定番号	
NM-8697	外壁、屋根：ガルバリウム鋼板
準不燃認定番号	
番号	材料名
QM-9828	石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ　（ア）9.5
QM-0515	ﾊﾟｽﾘﾌﾞ
QM-9413	壁紙
QM-0524	化粧石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
QM-9701	硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板

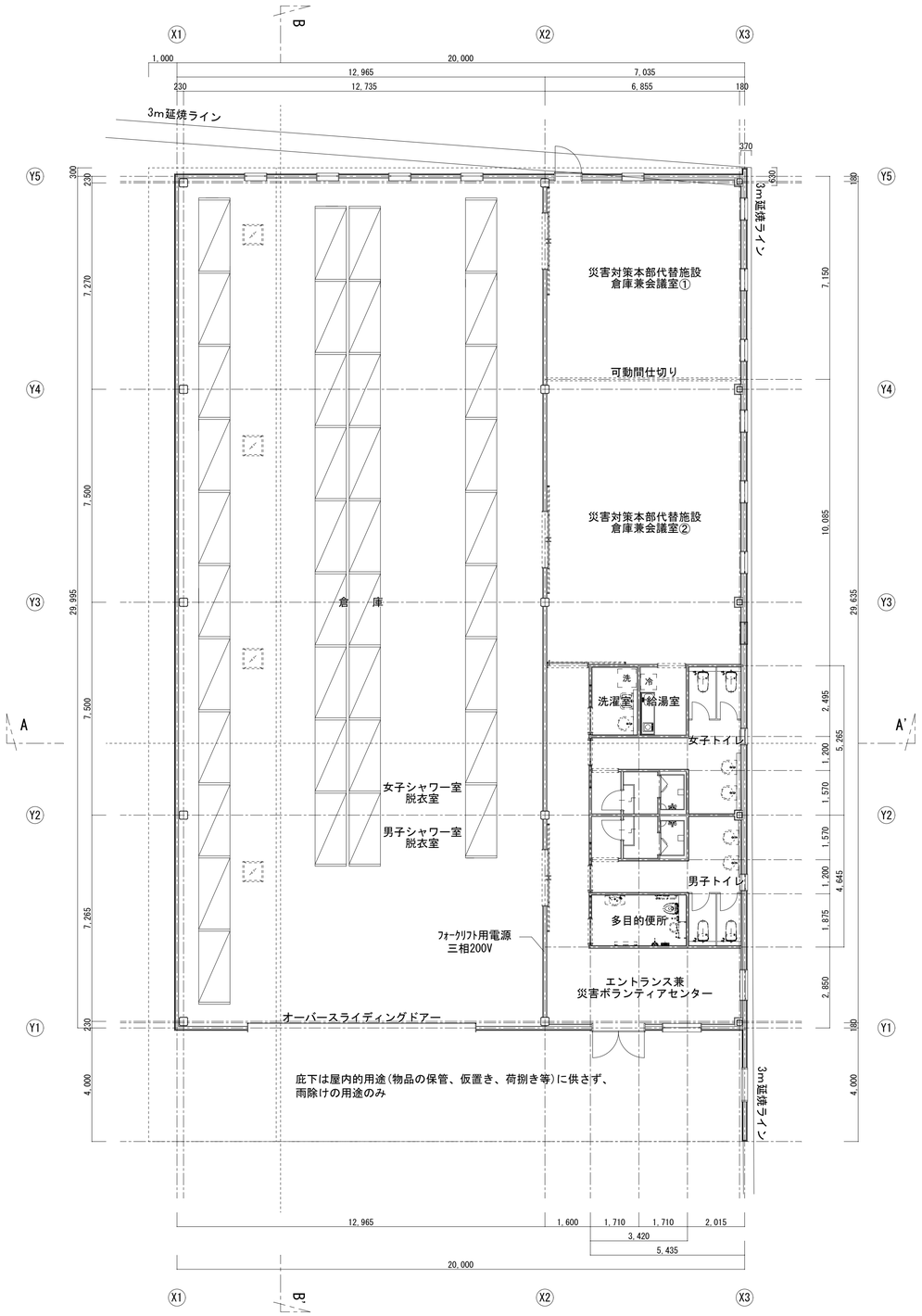
耐火建築物　耐火性能（令107条）			
部分	耐火時間	使用材料	認定番号
間仕切壁(耐力壁)			
外壁(耐力壁)			
柱(RC造)			
柱(S造)	1時間	吹付ロックウール	FP060CN-9460
床(RC造 t=250)			
床(デッキスラブ)	1時間	デッキスラブ+RC	FP060FL-9095
梁(RC造)			
梁(S造)	1時間		告示1399号
屋根	30分間		FP030RF-1694-3(1)
開口部(延焼部分)	防火設備		建具表による

株式会社 SuKA建築設計事務所

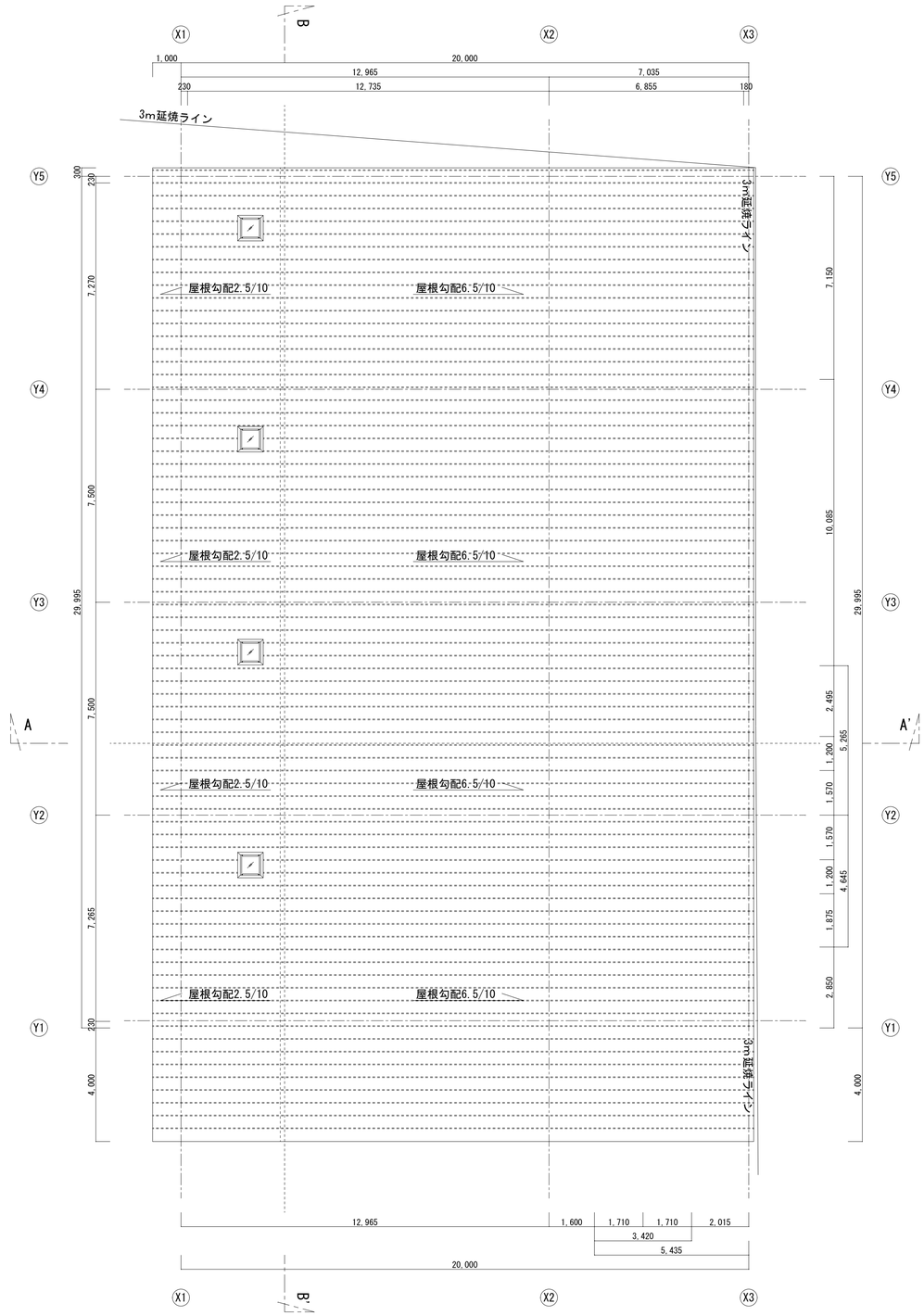
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀 温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　外部・内部仕上げ表
Scale　—
設計年月　令和8年03月
Number　A-12

X方向+370mm　Y方向+630mm移動



平面図　S=1/200



屋根伏図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所

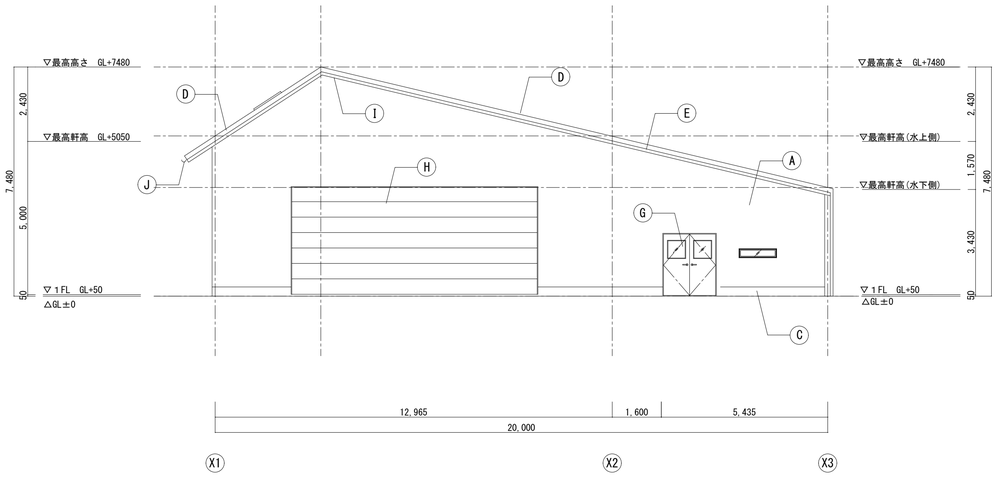
Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	平面図　屋根伏図	1/100(A1) 1/200(A3)	令和8年03月

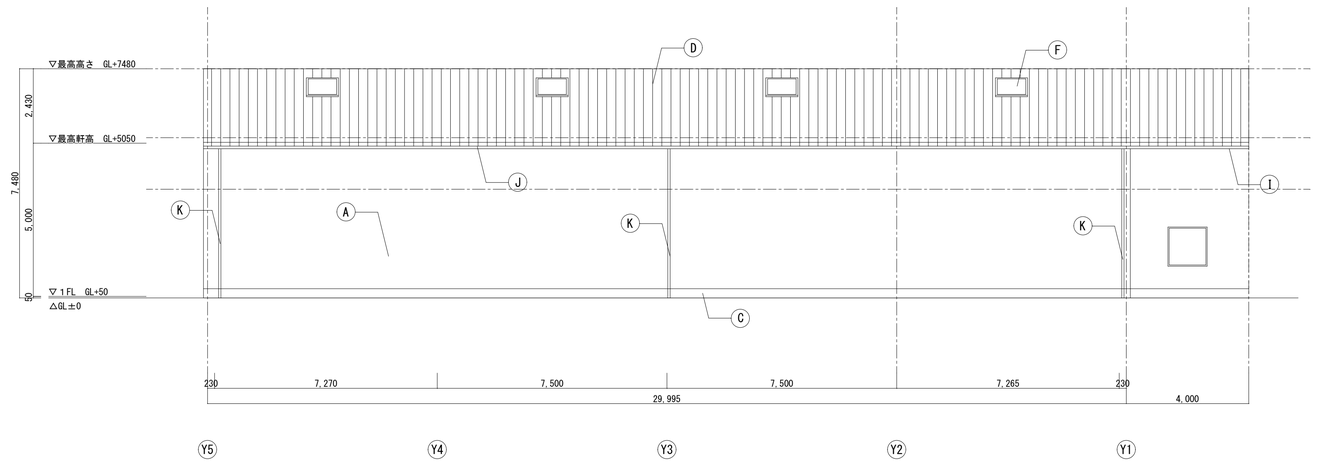
Number　A-13

外部仕上げ　凡例

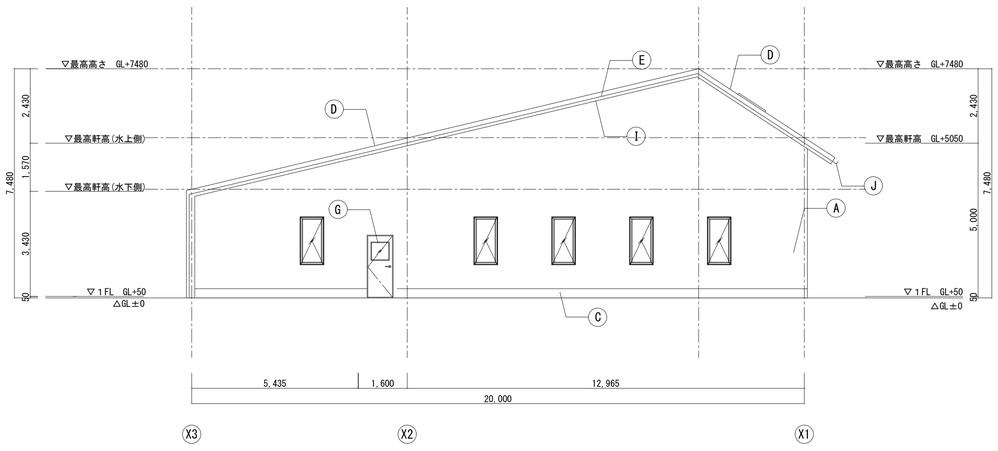
記号	部位	外部仕上表
A	外壁	カラーガルバリウム鋼板 t=0.5　　スパンドレル
B	外壁	ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 縦ﾊｾﾞ葺き
C	外巾木	コンクリート打放しの上、撥水材仕上げ
D	屋根	ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 縦ﾊｾﾞ葺き
E	庇	幕板:ガルバリウム鋼板
F	建具	アルミ製サッシ
G	建具	SD
H	建具	オーバースライダー
I	軒天	ケイカル板　t=6.0　EP仕上げ
J	横樋	塩ビ製横樋
K	竪樋	塩ビ製竪樋



東側立面図　S=1/200



北側立面図　S=1/200



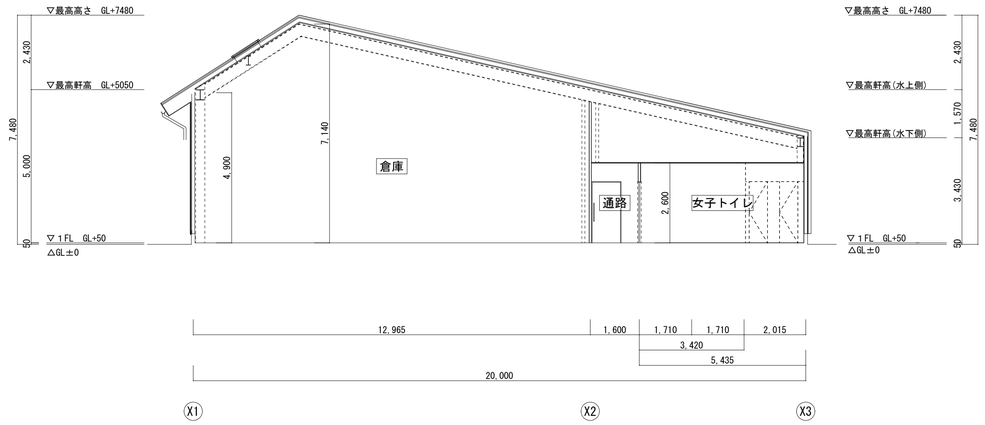
南側立面図　S=1/200

西側立面図　S=1/200

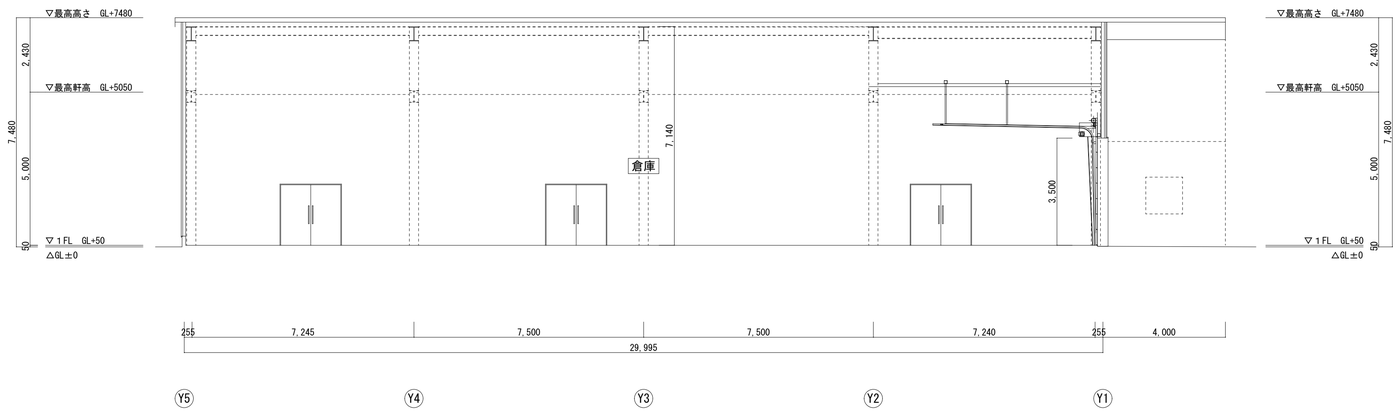
株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 立面図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-14



A-A'断面図　S=1/200

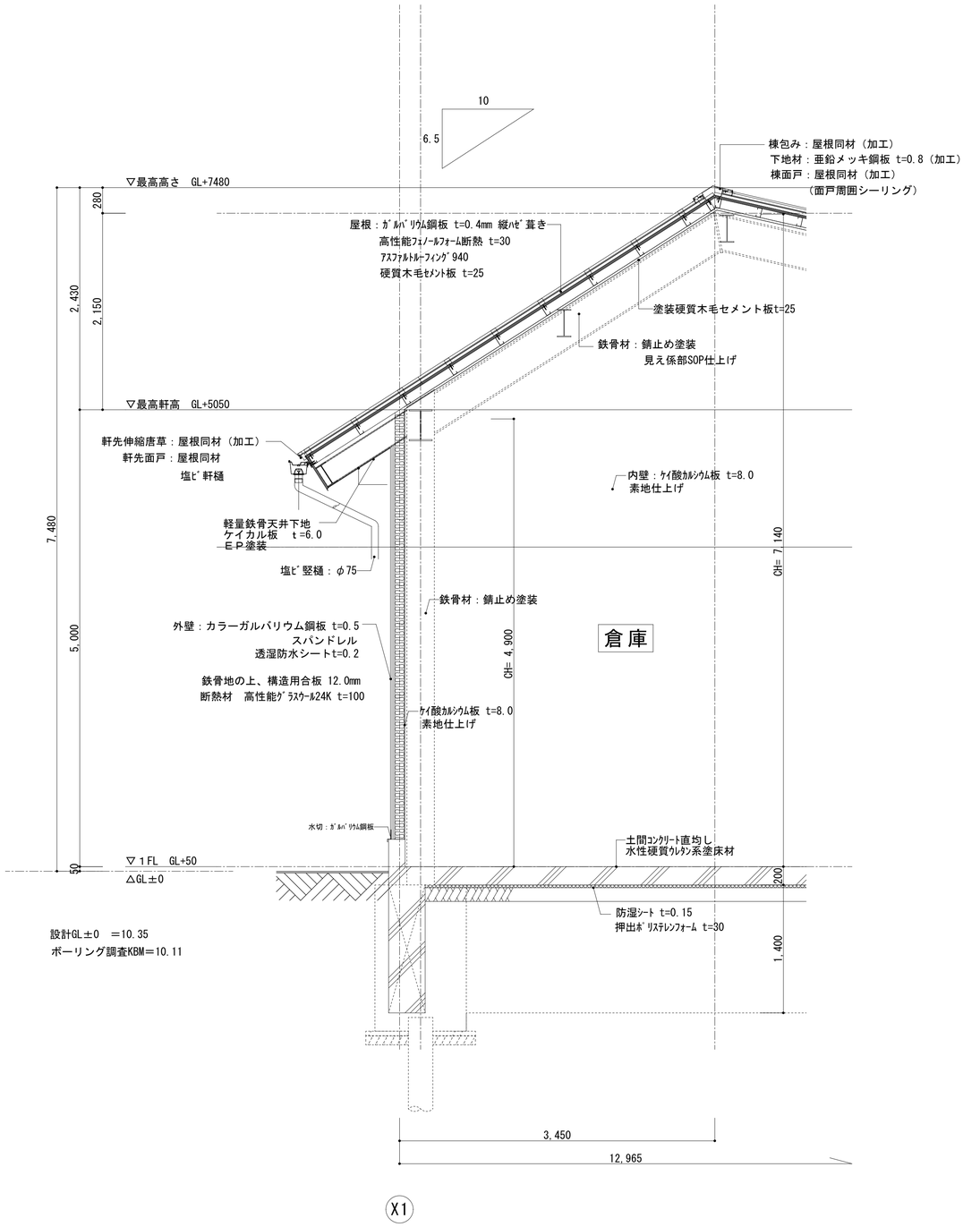


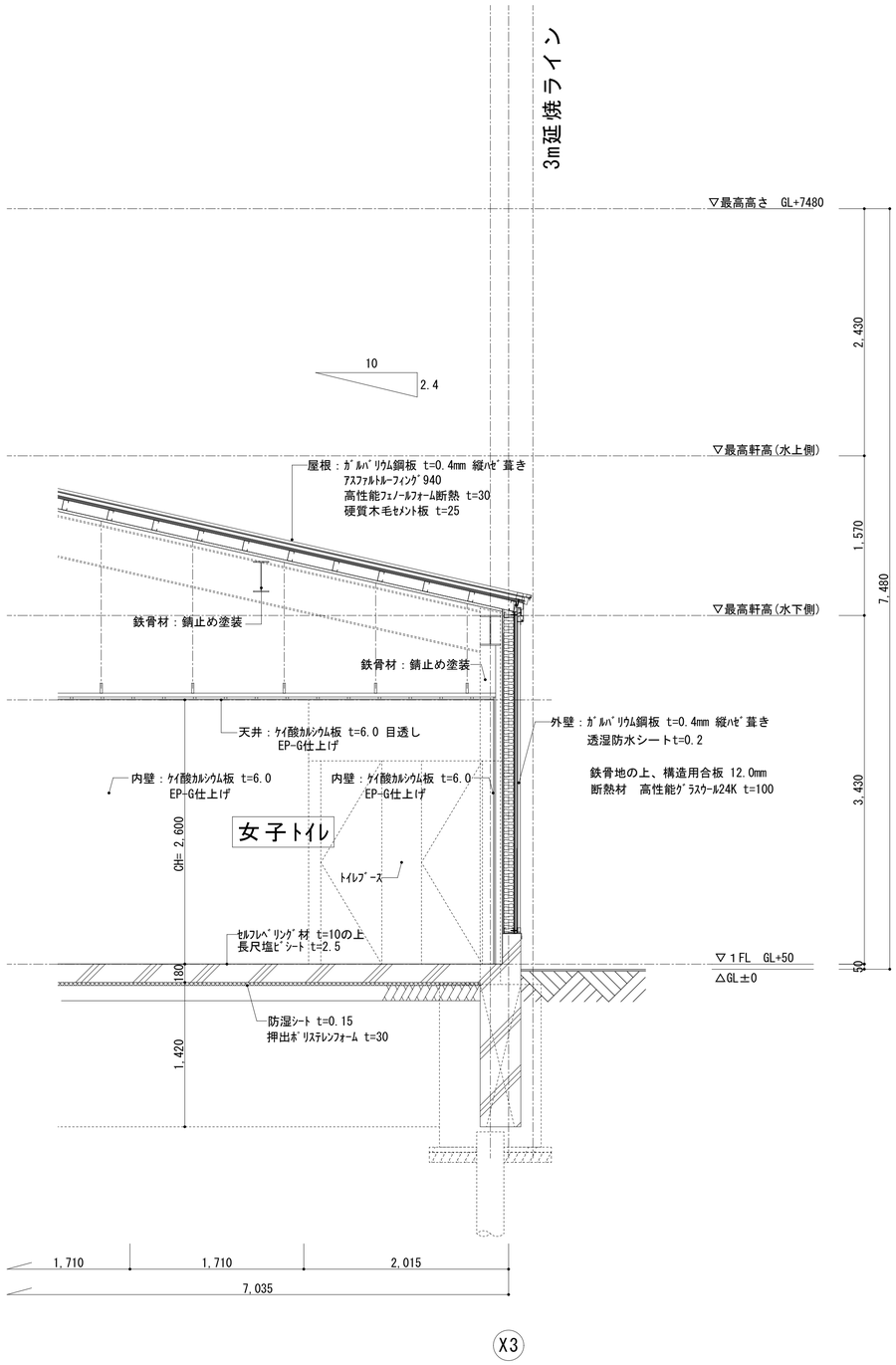
B-B'断面図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 断面図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-15



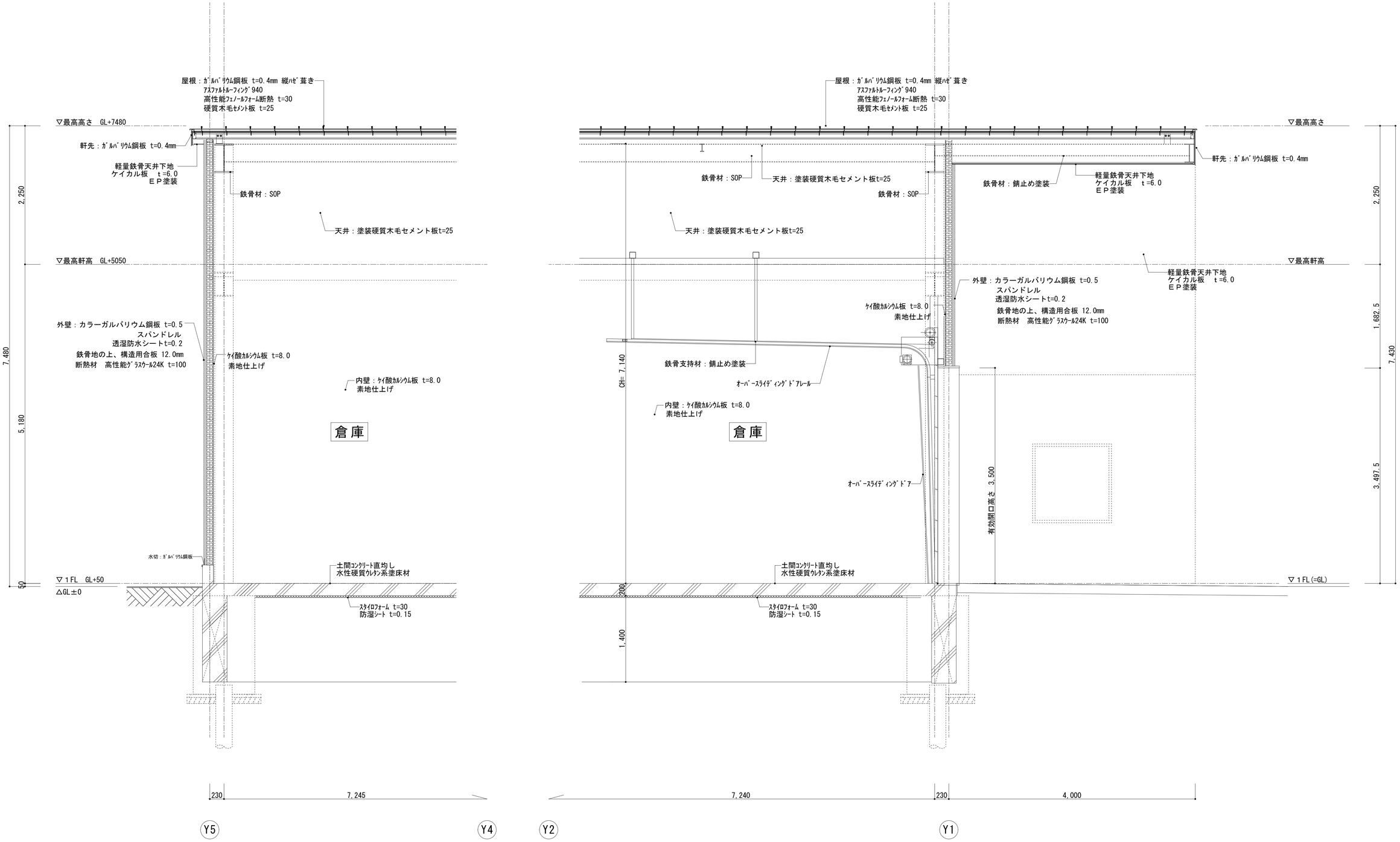


A-A'矩計図 S=1/60

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号 須賀 温

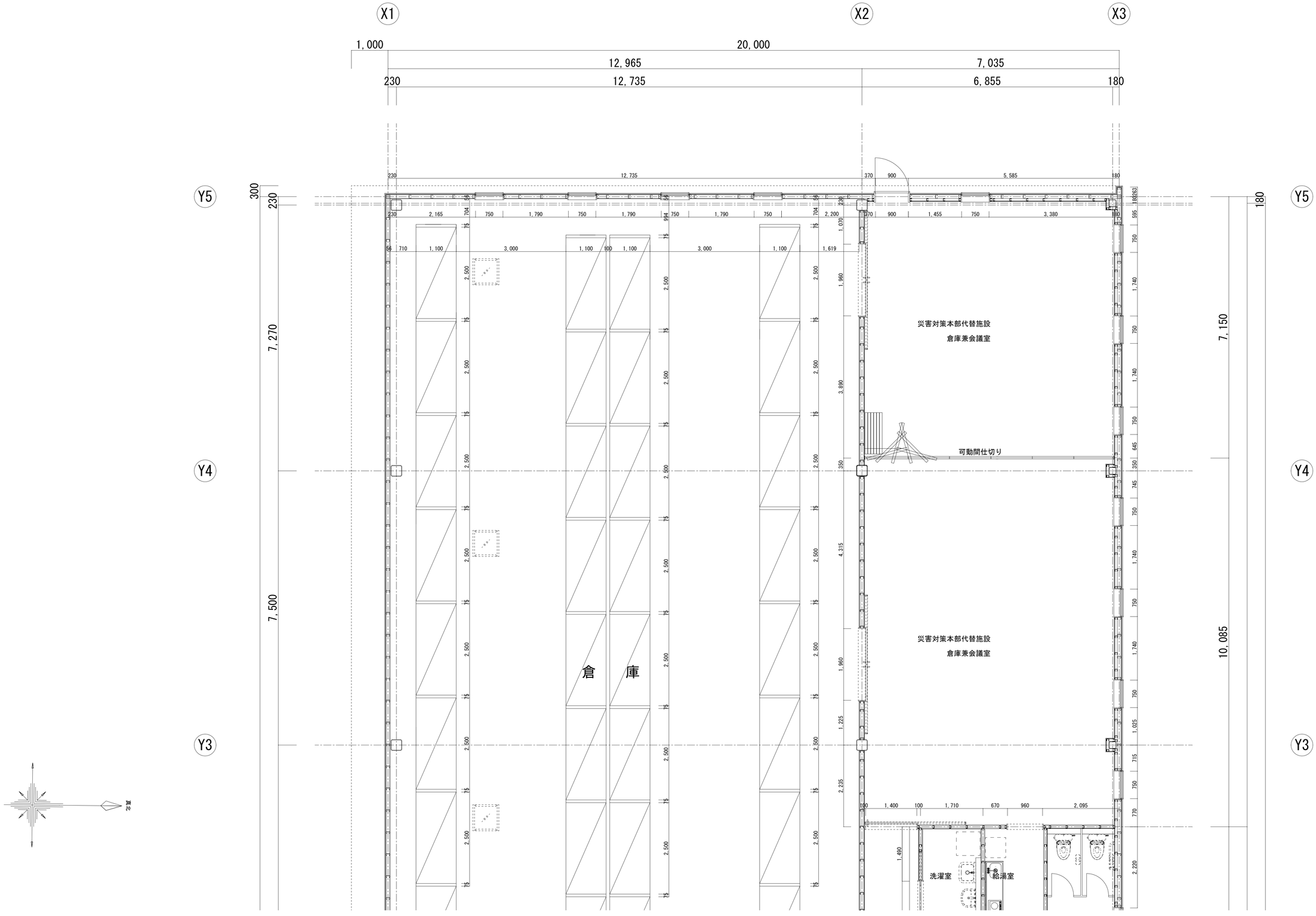
Project	Index	Scale	設計年月	Number
富士見市中央防災センター建設工事	矩計図(1)	A1：1/30 A3：1/60	令和8年03月	A-16



A-A'矩計図 S=1/60

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号 須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	矩計図(2)	A1：1/30 A3：1/60	令和8年03月 Number A-17

株式会社 SuKA建築設計事務所



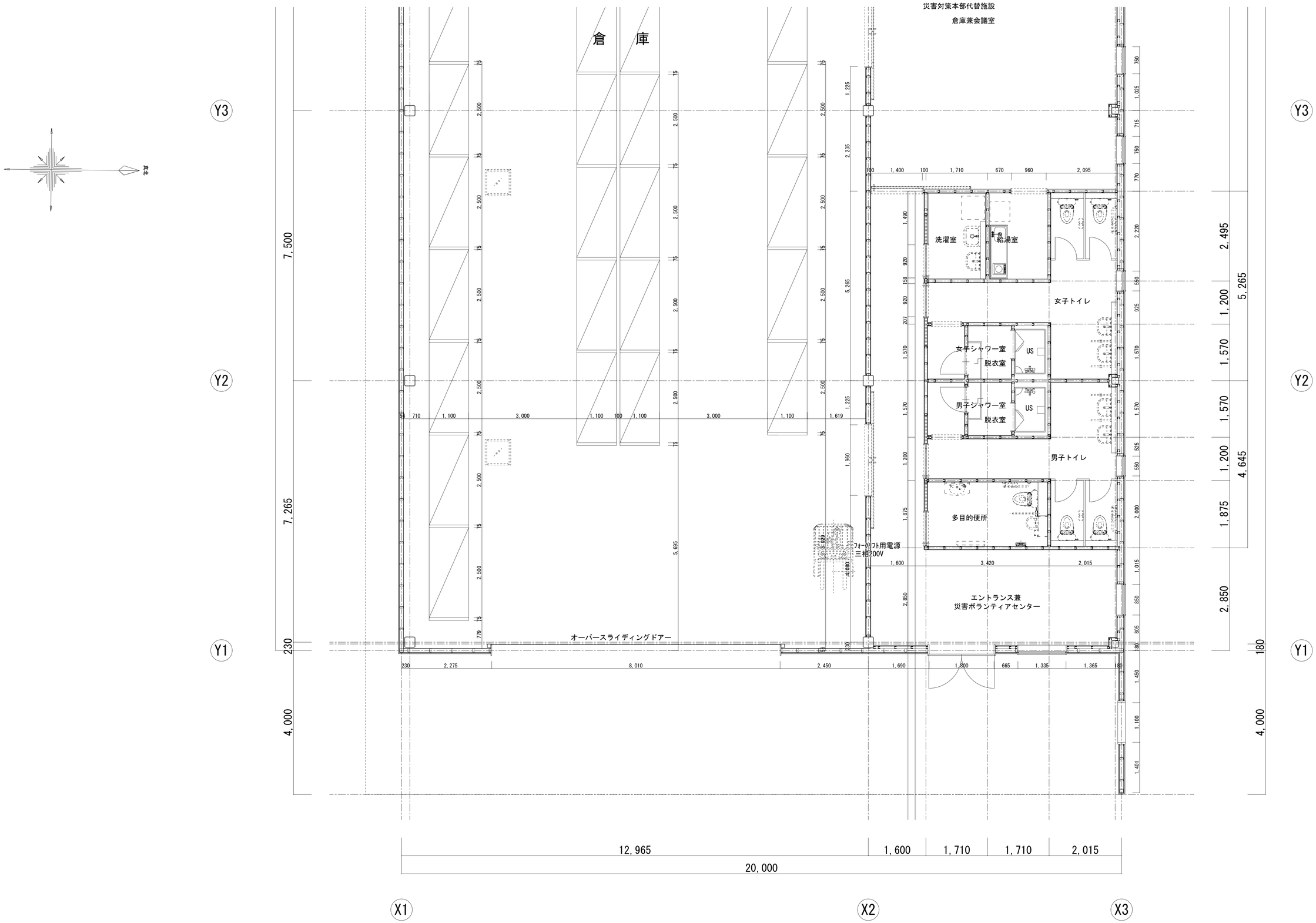
平面詳細図（1）S=1/100

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	平面詳細図（1）	1/50(A1) 1/100(A3)	令和8年03月

Number A-18

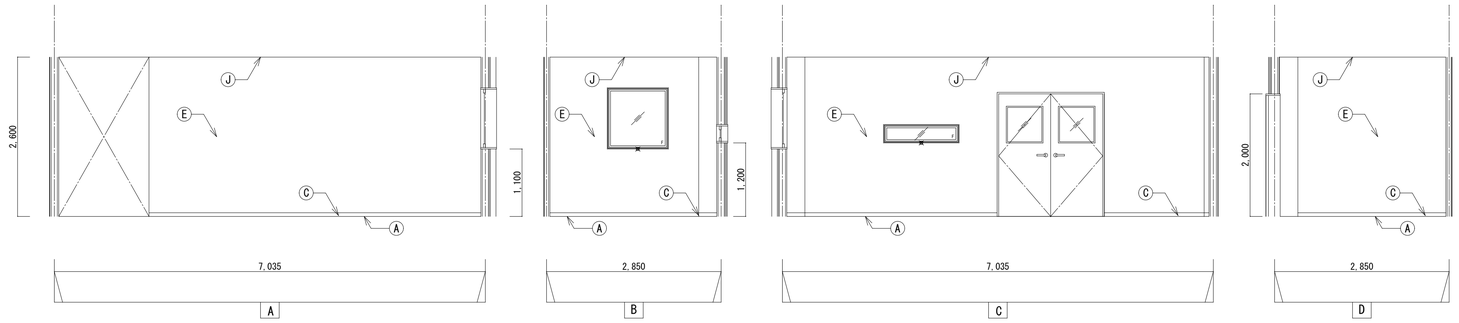


平面詳細図（2）S=1/100

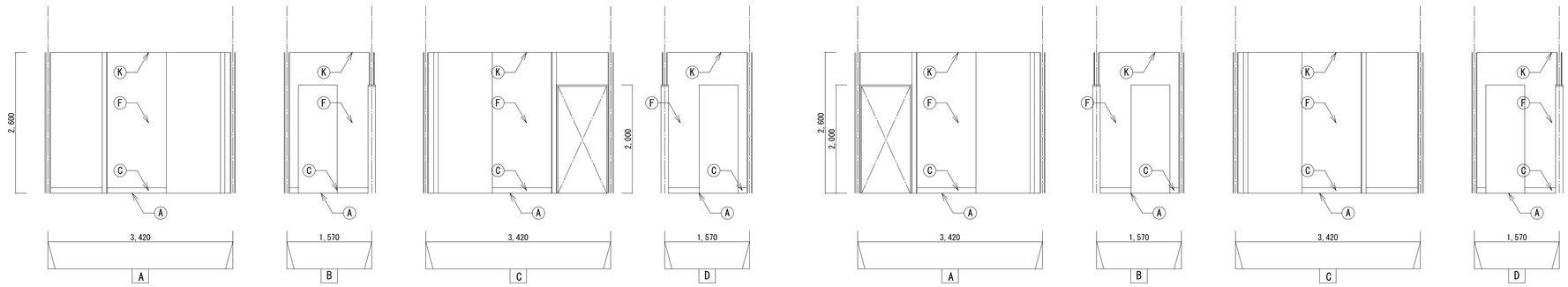
Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	平面詳細図（2）	1/50(A1) 1/100(A3)	令和8年03月 Number A-19

株式会社 SuKA建築設計事務所

エントランス兼災害ボランティアセンター

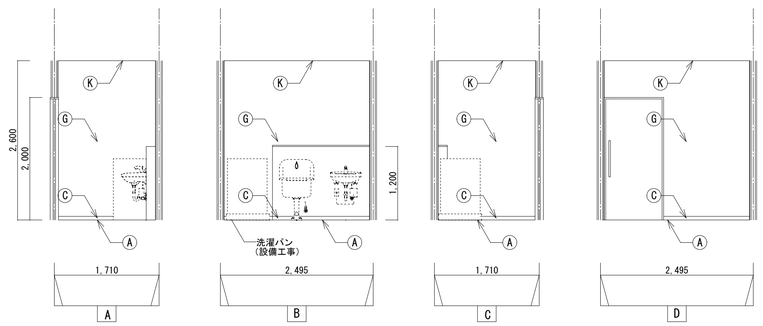


男子シャワー室・脱衣室

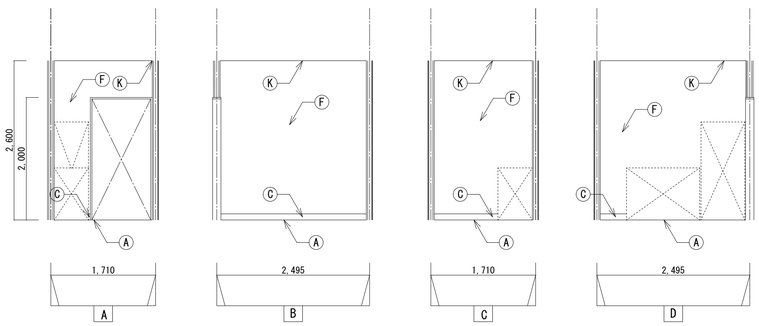


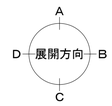
女子シャワー室・脱衣室

洗濯室



給湯室





仕上凡例

床	長尺塩ビシート t=2.5		A
	コンクリート金ゴテ仕上 無機質系硬質塗床		B
巾木	ソフト巾木 H=60		C
	塩ビシート立上げ H=100		D
壁	石膏ボード t=12.5+9.5	EP仕上げ	E
	石膏ボード t=12.5+9.5	EP-G仕上げ	F
	石膏ボード t=12.5の上、 ケイ酸カルシウム板 t=6.0	EP-G仕上げ	G
	ケイ酸カルシウム板 t=8.0	素地仕上げ	H
天井	ロックウール化粧吸音板 t=9.0 (PB t=9.5捨張り)		I
	化粧石膏ボード t=9.5		J
	石膏ボード t=9.5の上、 ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透し EP-G仕上		K
	塗装硬質木毛セメント板 t=25 鉄骨表しSOP仕上		L

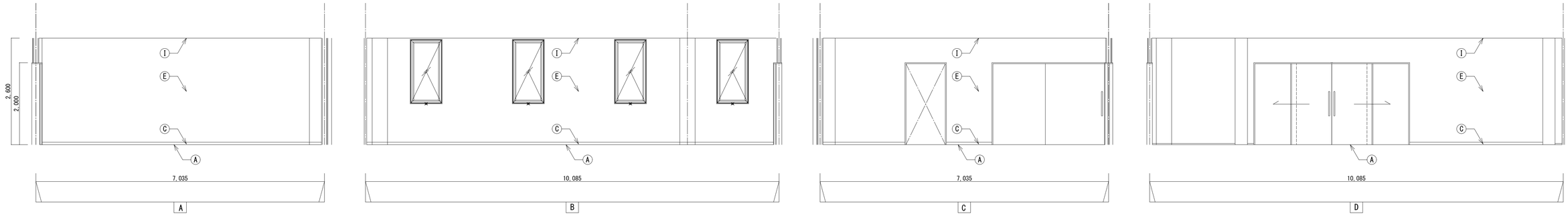
株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温

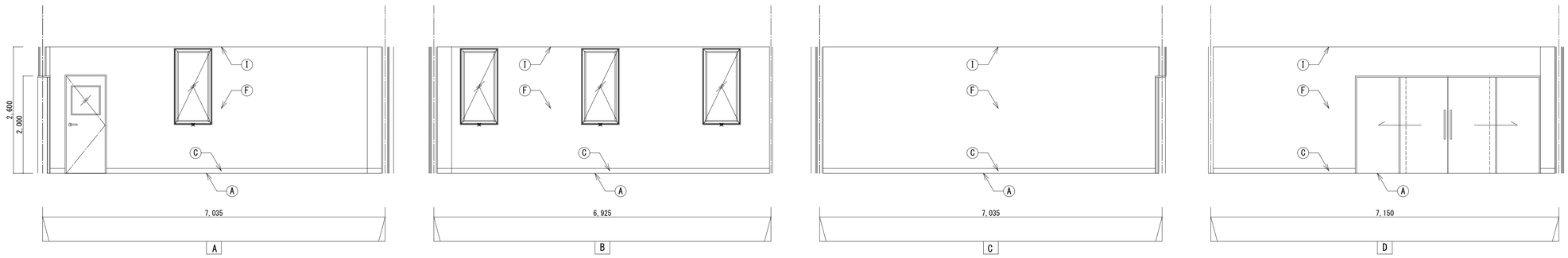
Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	展開図(1)	1/100(A3)	令和8年03月

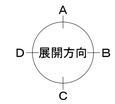
Number A-20

災害対策本部代替施設
倉庫兼会議室A



災害対策本部代替施設
倉庫兼会議室B





仕上凡例

床	長尺塩ビシート t=2.5	A
	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ仕上 無機質系硬質塗床	B
巾木	ｿﾌﾄ巾木 H=60	C
	塩ビシート立上げ H=100	D
壁	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12.5+9.5　EP仕上げ	E
	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12.5+9.5　EP-G仕上げ	F
	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12.5の上、 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0　EP-G仕上げ	G
	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=8.0　素地仕上げ	H
天井	ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板 t=9.0 (PB t=9.5捨張り)	I
	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5	J
	石膏ボード t=9.5の上、 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0 目透し EP-G仕上	K
	塗装硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板 t=25 鉄骨表しSOP仕上	L

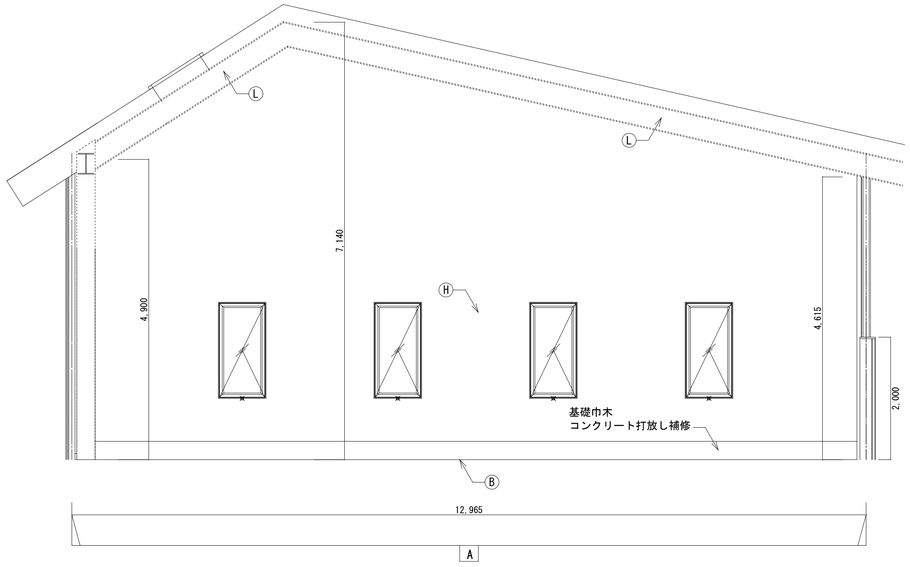
株式会社 SuKA建築設計事務所

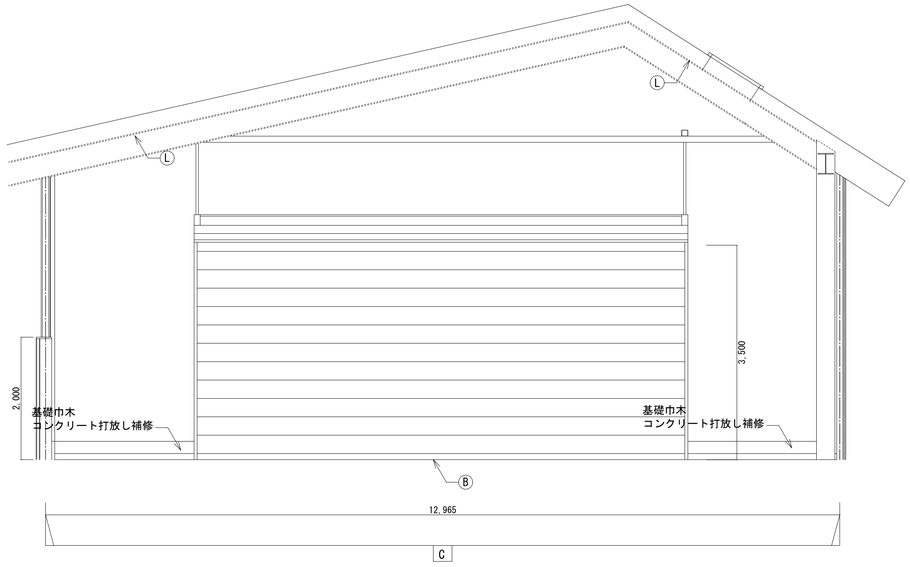
Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

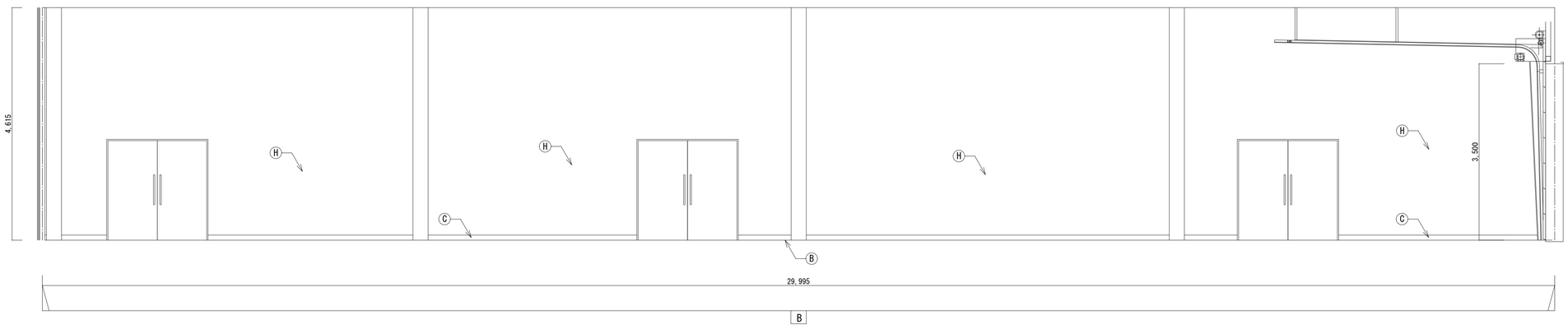
Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 展開図(2)
Scale: 1/100(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-21

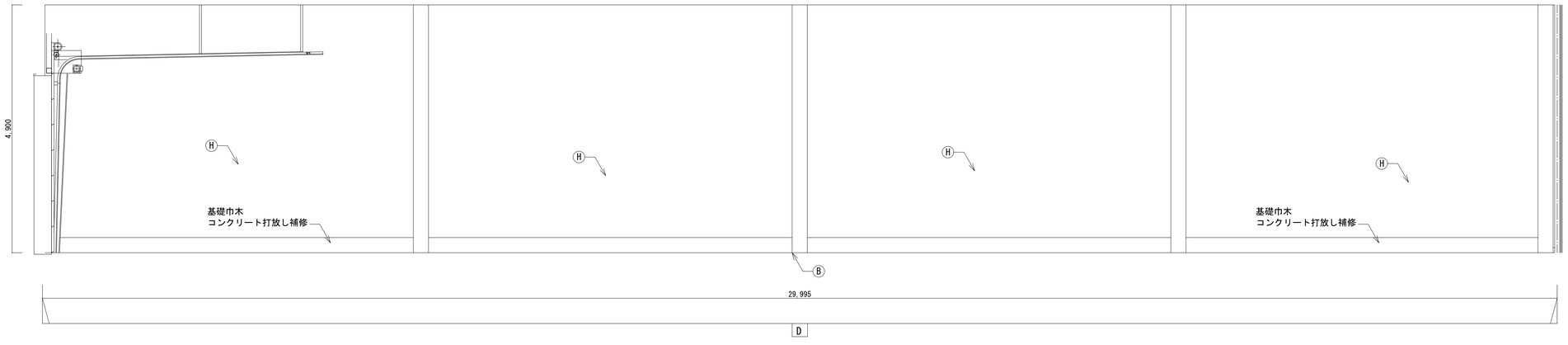
展開図(3)

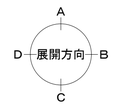
倉庫











仕上凡例

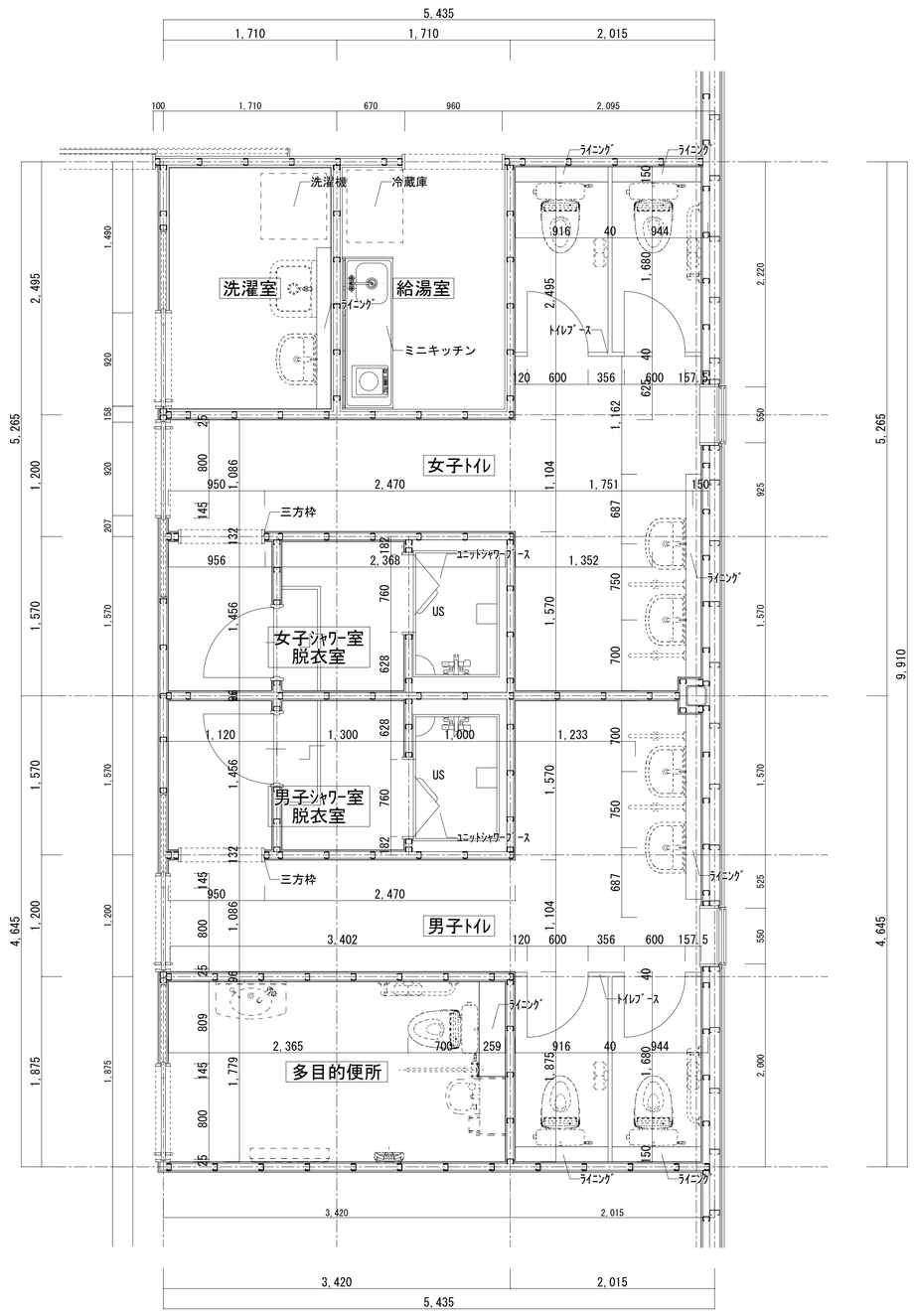
床	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ t=2.5	A
	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ仕上 無機質系硬質塗床	B
巾 木	ｿﾌﾄ巾木 H=60	C
	塩ﾋﾞｼｰﾄ立上げ H=100	D
壁	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12.5+9.5 EP仕上げ	E
	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12.5+9.5 EP-G仕上げ	F
	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12.5の上、 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0 EP-G仕上げ	G
	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=8.0 素地仕上げ	H
天 井	ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板 t=9.0 (PB t=9.5捨張り)	I
	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5	J
	石膏ボード t=9.5の上、 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6.0 目透し EP-G仕上	K
	塗装硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板 t=25 鉄骨表しSOP仕上	L

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号 須賀 温

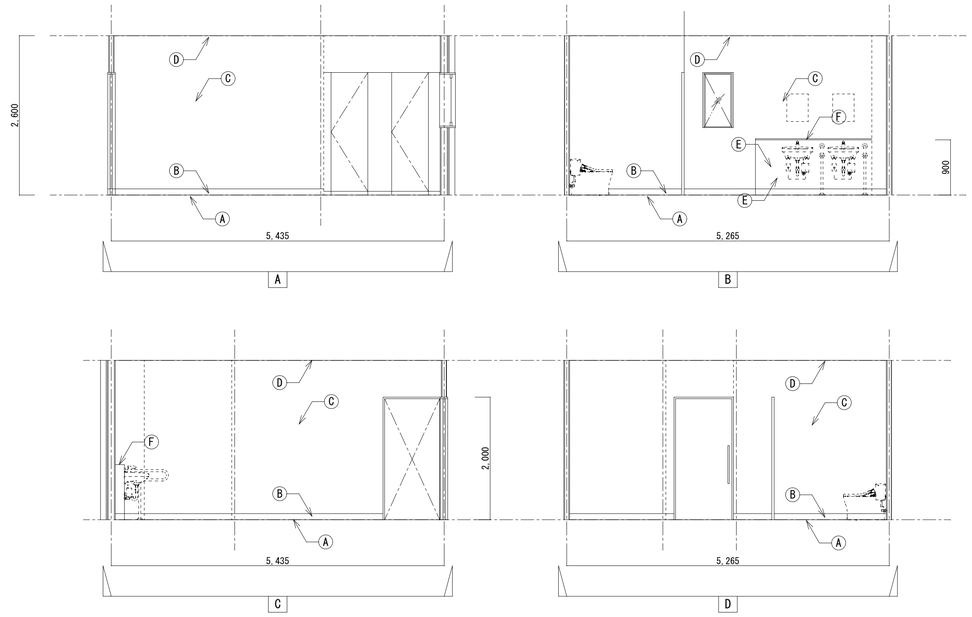
Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	展開図(3)	1/100(A3)	令和8年03月

Number A-22

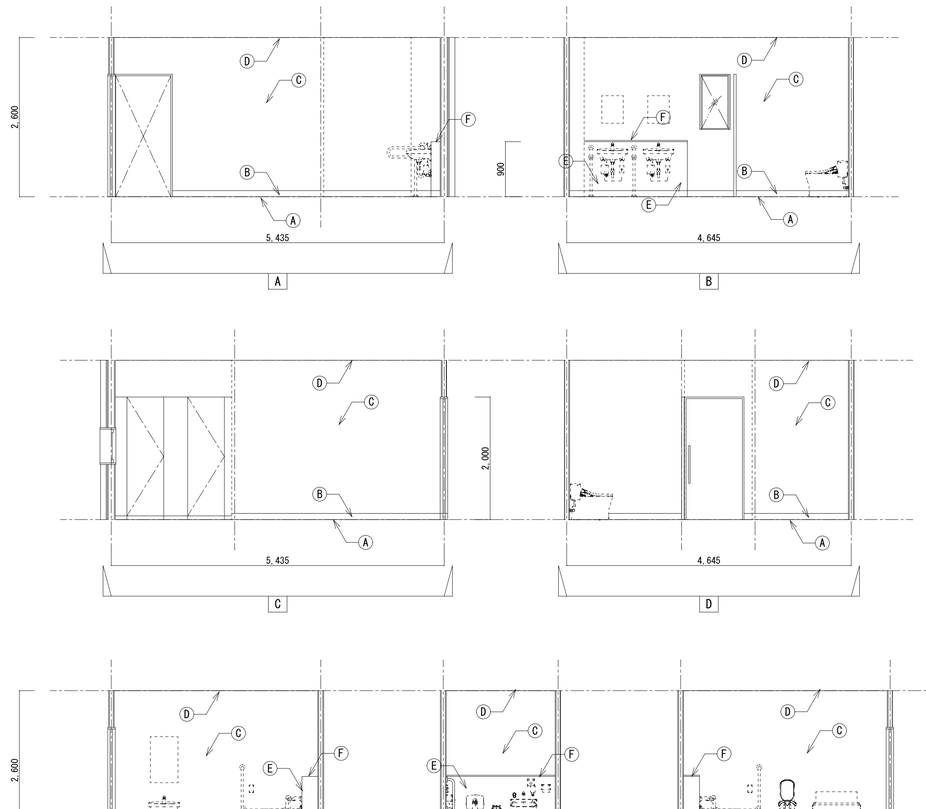


トイレ詳細図　S:1/30

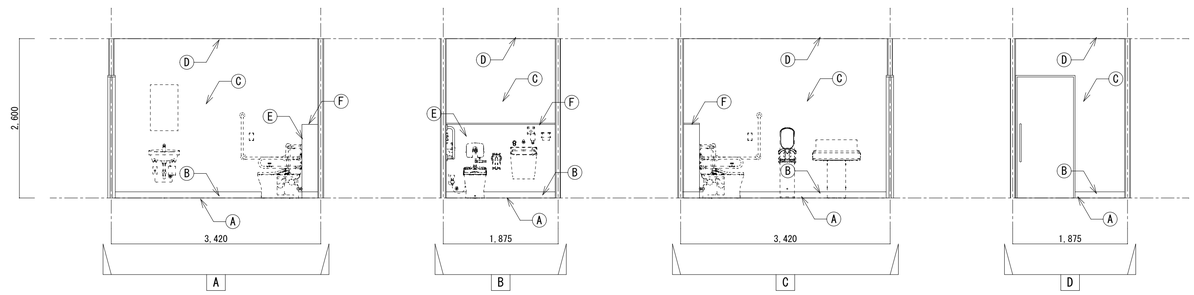
女子トイレ 1/100



男子トイレ 1/100



多目的トイレ 1/100





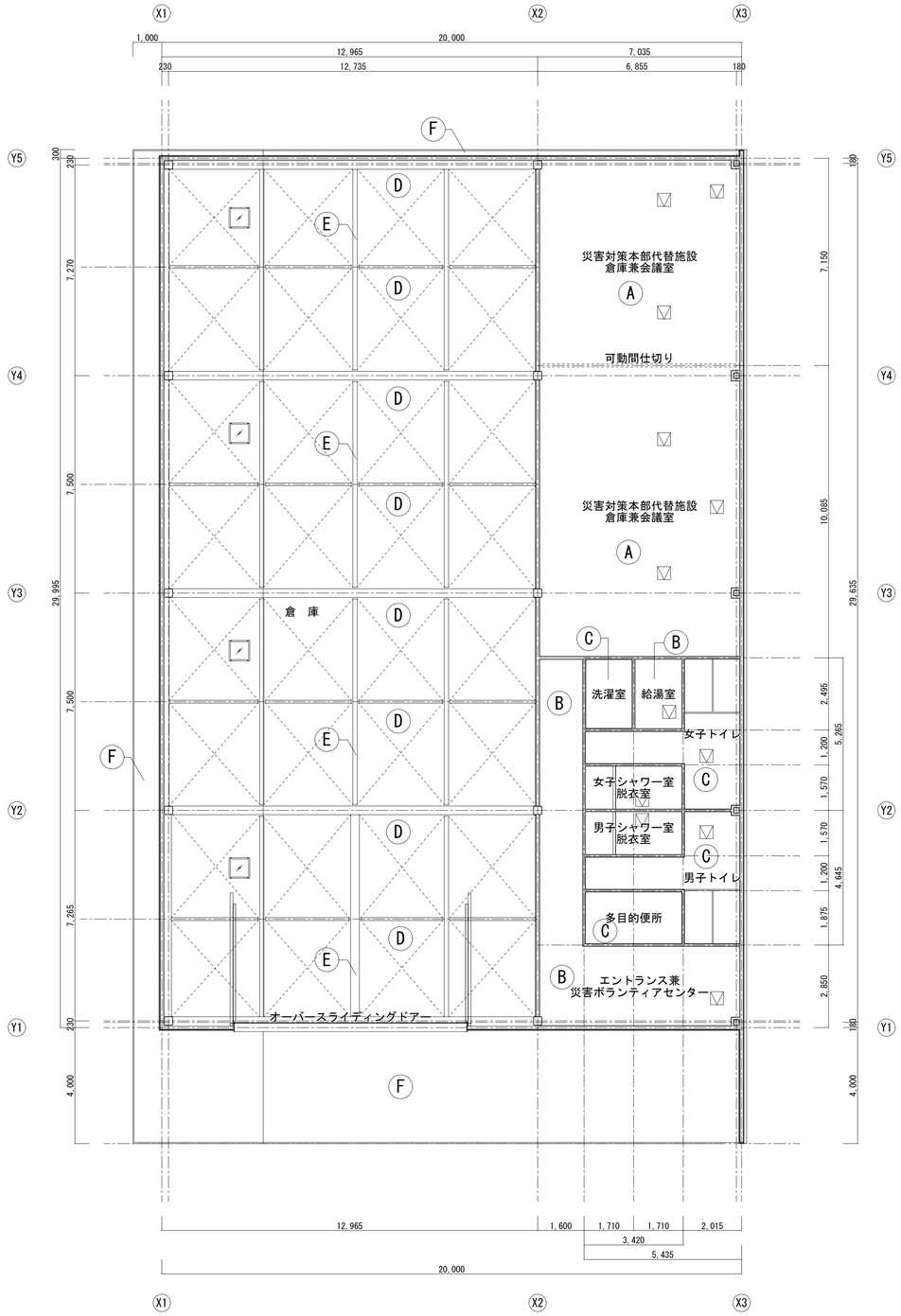
仕上凡例

床	長尺塩ビシート t=2.5	A
巾木	塩ビシート立上げ H=100	B
壁	石膏ボード t=12.5の上、ケイ酸カルシウム板 t=6.0　EP-G仕上げ	C
天井	石膏ボード t=9.5の上、化粧ケイ酸カルシウム板 t=6.0	D
ライニング	ライニング壁：　石膏ボード t=12.5の上、化粧ケイ酸カルシウム板 t=6.0	E
	ライニング天端：メラミンポストフォーム t=20 端部R付	F

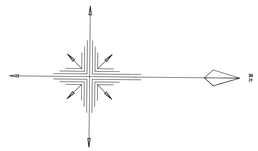
株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: トイレ詳細図
Scale: 1/50(A1) 1/100(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-23



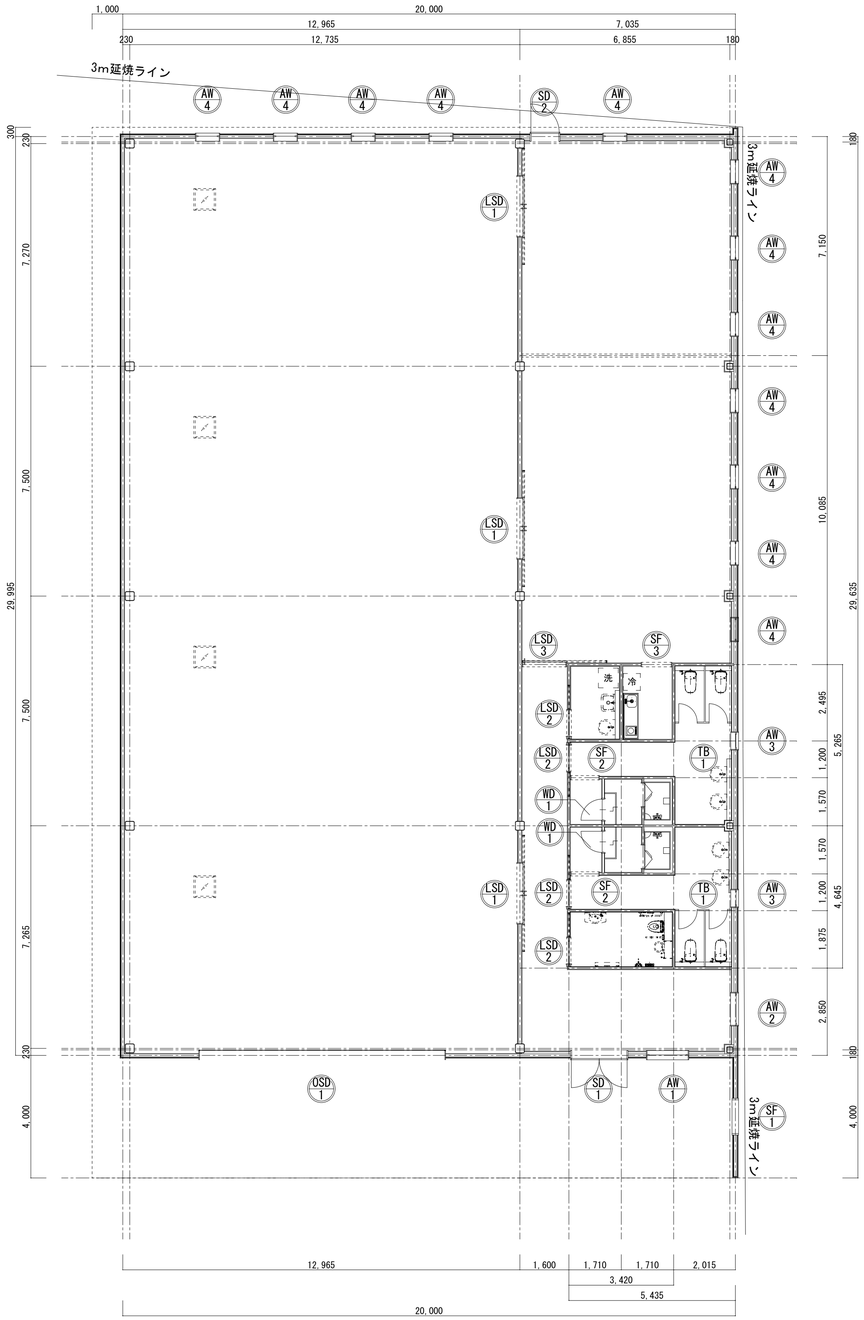
天井伏図　S=1/200



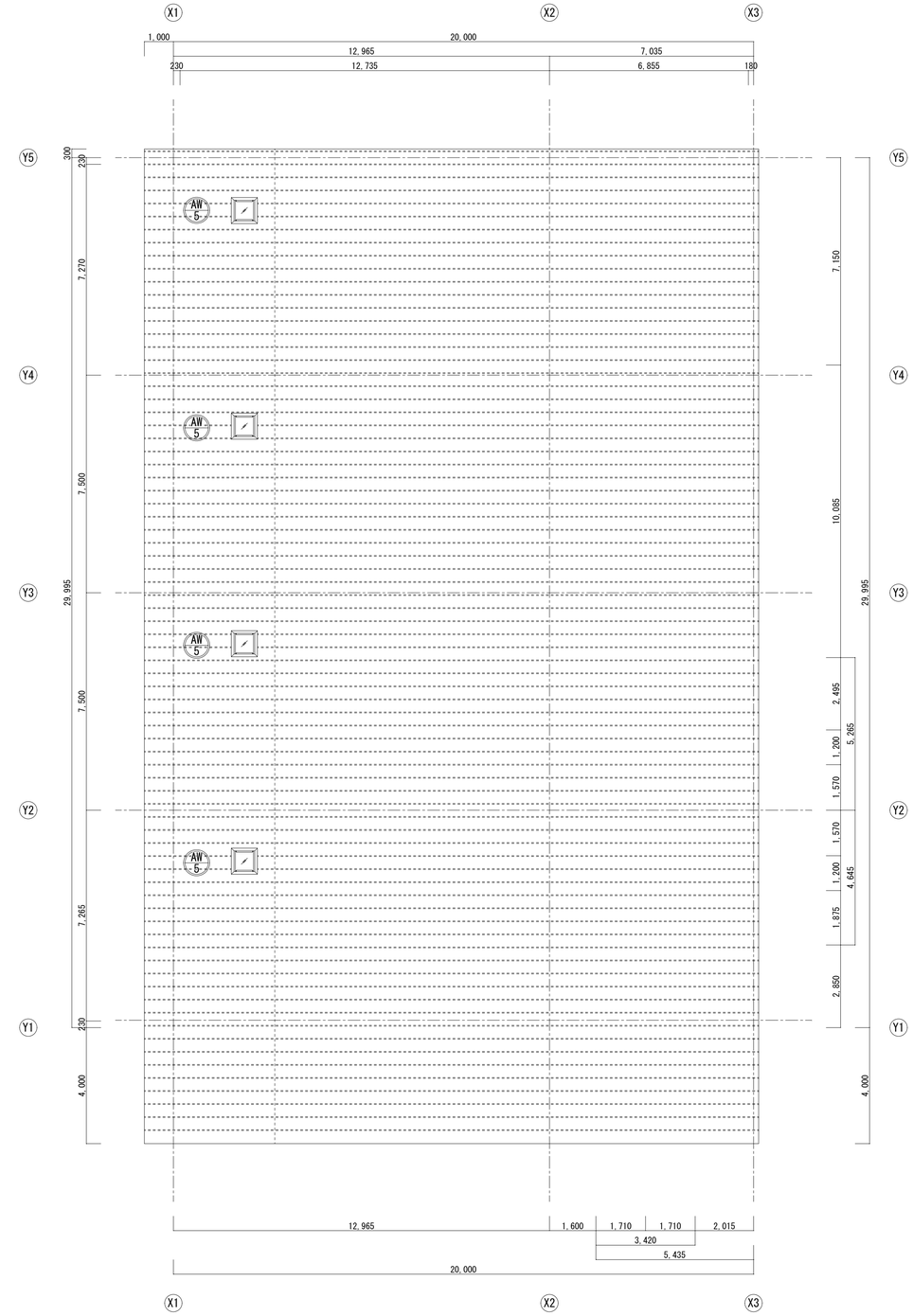
天井仕上凡例		
記号	部位	仕上げ
▽	天井	天井点検口 450×450（開口補強共）
A	天井	ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板 t=9.0（PB t=9.5捨張り）
B	天井	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5
C	天井	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし　EP-G塗装
D	天井	塗装硬質木毛セメント板t=25（表し）
E	天井	鉄骨表しSOP仕上げ
F	軒天井	ケイ酸カルシウム板 t=5mm（面取り突付けの上、NAD塗）

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	天井伏図	1/100(A1) 1/200(A3)	令和8年03月 Number A-24

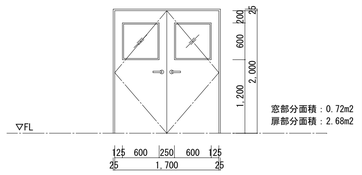
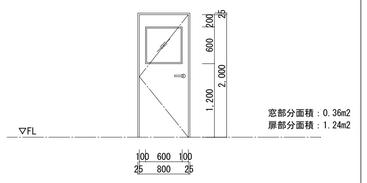
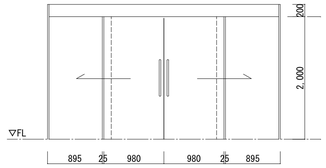
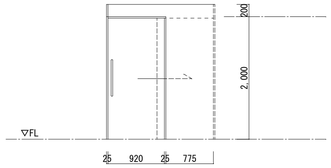
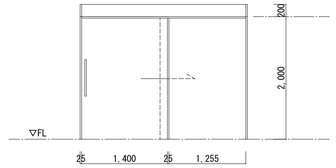


1階建具キープラン　S：1/200

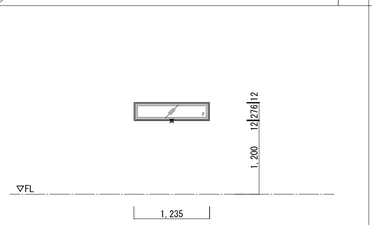
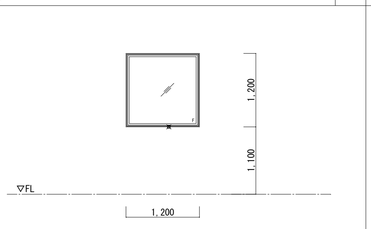
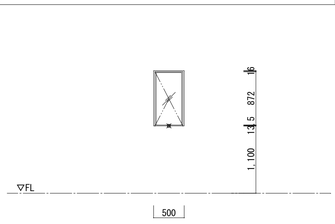
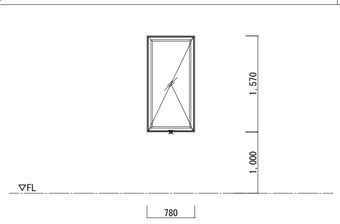
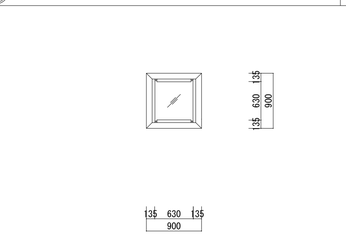


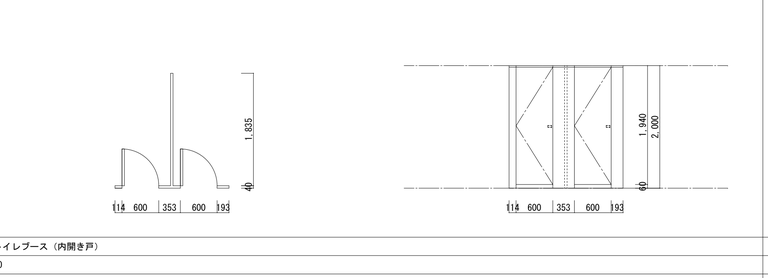
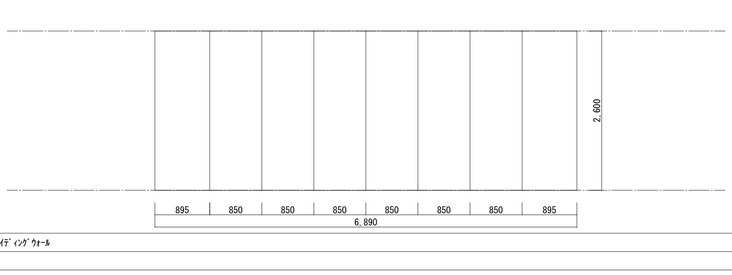
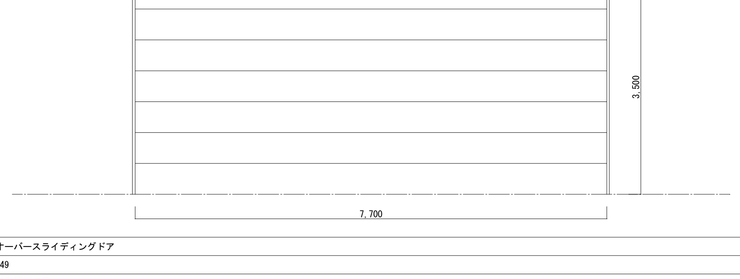
R階建具キープラン　S：1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月 令和8年03月
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	建具キープラン	1/200(A1) 1/400(A3)	Number A-25

符号・使用場所・数量	SD 1 エントランス	1	SD 2 会議室裏口	1	LSD 1 倉庫、倉庫兼会議室	3	LSD 2 男子・女子トイレ、多目的トイレ、洗濯室	4	LSD 3 倉庫兼会議室	1	
形状									
型式・機種	鋼製両開きフラッシュ戸		鋼製片開きフラッシュ戸		軽量鋼製両引戸		軽量鋼製片引込戸		軽量鋼製片引戸		
枠見込	171		171		152		115		115		
防火・防音・仕様	―		―		―		―		―		
材質・仕様	鋼製 焼付塗装		鋼製 焼付塗装		亜鉛メッキ鋼板 焼付塗装		亜鉛メッキ鋼板 焼付塗装		亜鉛メッキ鋼板 焼付塗装		
ガラス種類	―		―		―		―		―		
建具金物	付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式		
備考	―		―		―		―		―		

符号・使用場所・数量	SF 1 エントランス	1	SF 2 男子・女子脱衣室	2	SF 3 給湯室	1			WD 1 脱衣室	4	
形状											
型式・機種	鋼製四方枠		鋼製三方枠		鋼製三方枠				片開きフラッシュ戸		
枠見込	273		96		109				171		
防火・防音・仕様	―		―		―				―		
材質・仕様	アルミシルバー		アルミシルバー		アルミシルバー				ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ化粧合板　　見込　40		
ガラス種類	―		―		―				―		
建具金物	―		―		―				付属金物一式		
備考	―		―		―						

符号・使用場所・数量	AW 1 エントランス兼災害ボランティアセンター	1	AW 2 エントランス兼災害ボランティアセンター	1	AW 3 男子トイレ、女子トイレ	2	AW 4 倉庫兼会議室	12	AW 5 天窓	4	
形状											
型式・機種	FIX窓		FIX窓		縦すべり出し窓		縦すべり出し窓		トップライト		
枠見込	235		276		270		276		296		
防火・防音・仕様	―		―		―		―		―		
材質・仕様	アルミ製		アルミ製		アルミ製		アルミ製		アルミ製		
ガラス種類	FL5.0		FL5.0		FL5.0		FL6.0		FL5.0		
建具金物	付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式		
備考	―		―		―		開放角度45°以上		―		

符号・使用場所・数量	TB 1 男子・女子トイレ	2	SP 1 倉庫兼会議室	1	OSD 1 倉庫	1
形状						
型式・機種	トイレブース（内開き戸）		ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞｳｫｰﾙ		オーバースライディングドア	
枠見込	40		60		149	
防火・防音・仕様	―				自動閉鎖装置	
材質・仕様	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板（下地MDF・芯材ﾍﾟｰﾊﾟｰﾊﾆｶﾑ）		ｶﾗｰ鋼板 t=0.5mm、アルミ押出材		ｽﾁｰﾙSOP	
ガラス種類	―		―		―	
建具金物	ｽﾗｲﾄﾞﾛｯｸ、中心吊金物、戸当り兼帽子掛け、付属金物一式		ﾚｰﾙ、ﾗﾝﾅｰ、付属金物一式		付属金物一式,ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ	
備考	Rﾋｯｼﾞ、非常開錠機能付、指挟み防止、SUS巾木、ｱﾙﾐ笠木		―		―	

株式会社 SuKA建築設計事務所

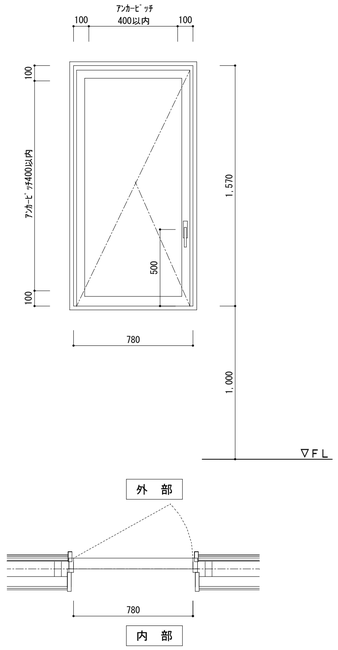
Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

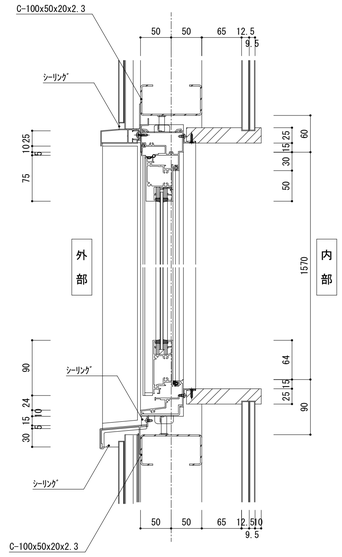
Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 建具表
Scale: 1/50(A1) 1/100(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-26

ＡＷ－４詳細図

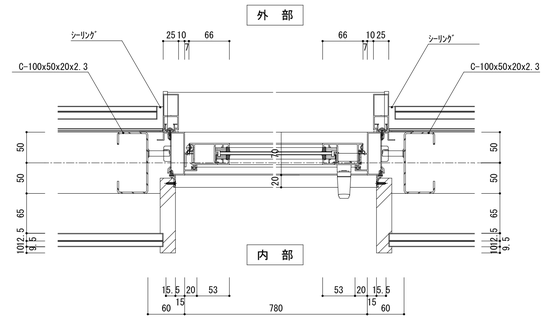
S=1/5
S=1/20

符　号	数　量	
AW 4	12	
耐風圧性	S-5 (2400pa)	
気密性	A-5	
遮音性	W-5	
水切出	m/m	額縁アングル　４方
硝子厚		網戸　可動・固定（　　）
FL6．0	m/m	硝子仕舞　ビード・(シール)





断面詳細図 S=1/10

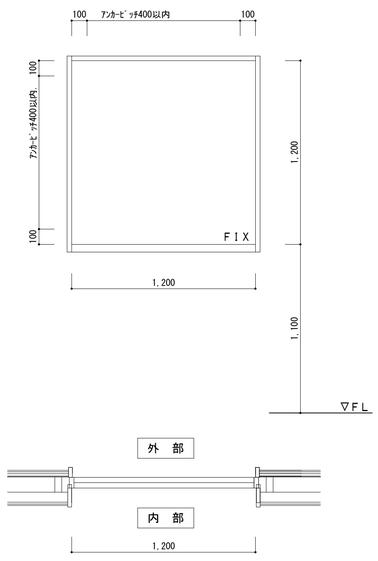


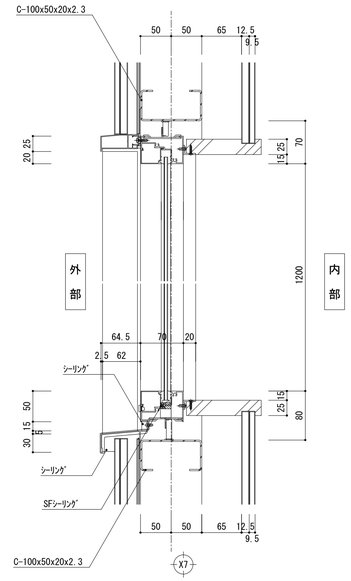
平面詳細図 S=1/10

ＡＷ－２詳細図

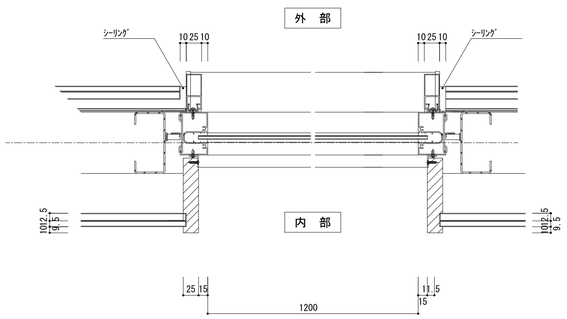
S=1/5
S=1/20

符　号	数　量	
AW 2	1	
耐風圧性	S-5 (2400pa)	
気密性	A-5	
遮音性	W-5	
水切出	m/m	額縁アングル　４方
硝子厚		網戸　可動・固定（　　）
FL6．0	m/m	硝子仕舞　ビード・(シール)





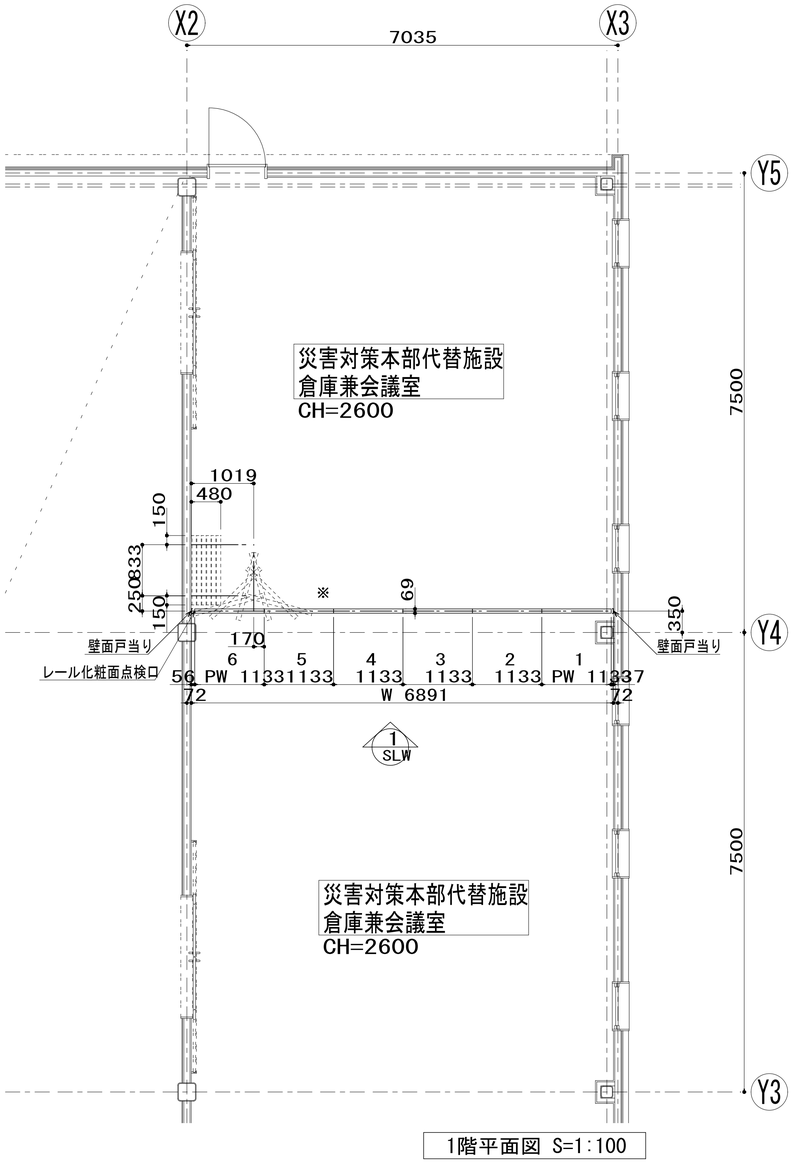
断面詳細図 S=1/10



平面詳細図 S=1/10

株式会社 SuKA建築設計事務所

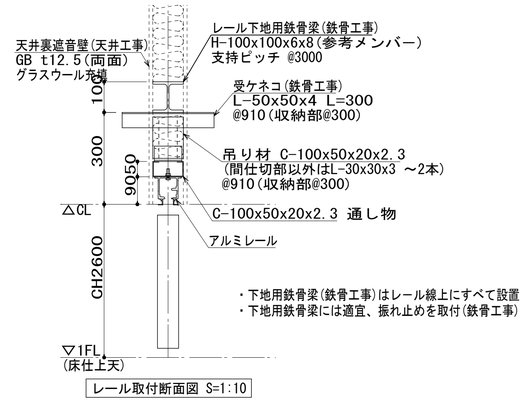
Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	サッシ詳細図	1/5(A1) 1/10(A3)	令和8年03月 Number A-27



1階平面図 S=1:100



展開図 S=1:100

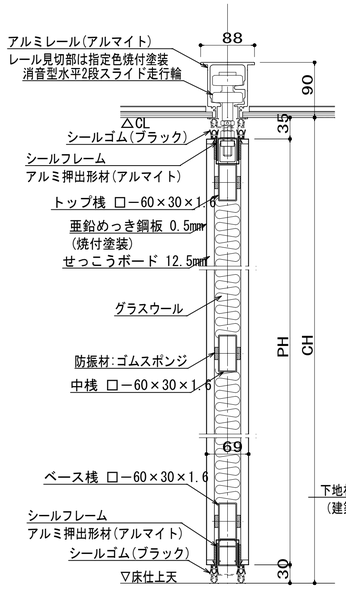


レール取付断面図 S=1:10

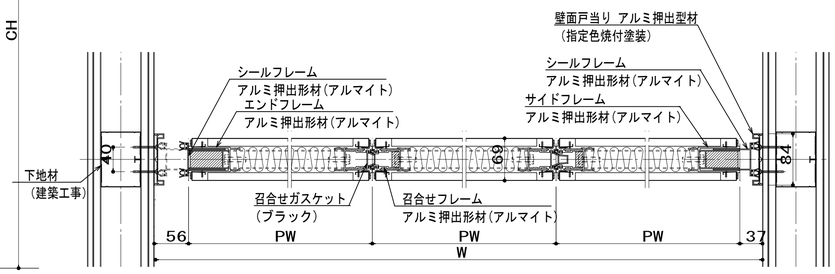
スライディングウォール 厚み69mm(LW-60D)

1
SLW

レール仕様	レール	アルミ押出型材ハンガーレール(アルマイト処理) ※パネル断面詳細図の特記部分は指定色焼付塗装
		コーナー部 直角レール
ランナー仕様	走行輪	水平2段スライド走行輪(ベアリング内蔵)
	吊ボルト	M 14
パネル仕様	表面仕上	
	表面材	亜鉛めっき鋼板 0.5mm (指定色焼付塗装)
		下張り:せっこうボード 12.5mm
	充填材	グラスウール
	骨組	アルミフレーム + 鉄骨造
	フレーム	アルミ押出形材 (アルマイト処理)
	召合せ	固定ゴム嵌合
	壁面シールド	機械駆動式
	上部シールド	機械駆動式
	下部シールド	機械駆動式
	パネル分離型構造(廃棄時分別可能)・・・環境対応型	



縦断面詳細図 S=1:10



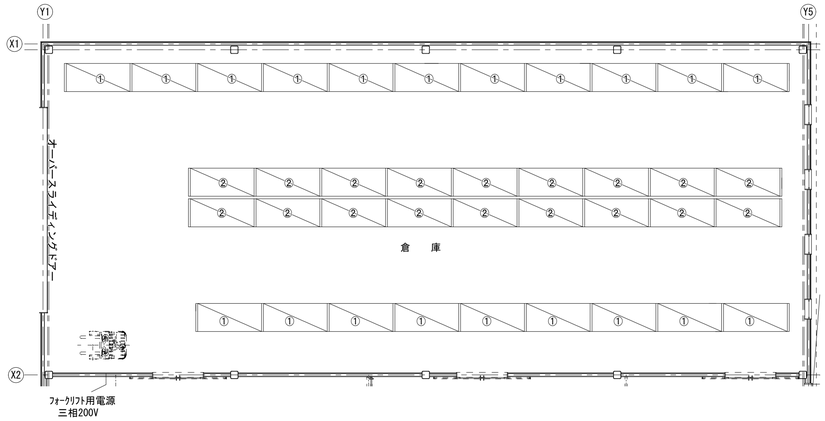
横断面詳細図 S=1:10

スライディングウォール 厚み69mm

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号 須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	スライディングウォール詳細図	1/5(A1) 1/10(A3)	令和8年03月 Number A-28

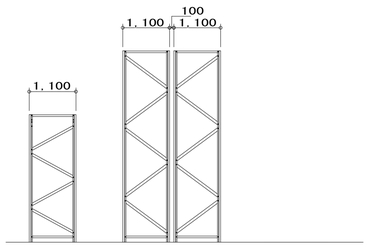
株式会社 SuKA建築設計事務所

倉庫　ラック詳細図　S:1/100

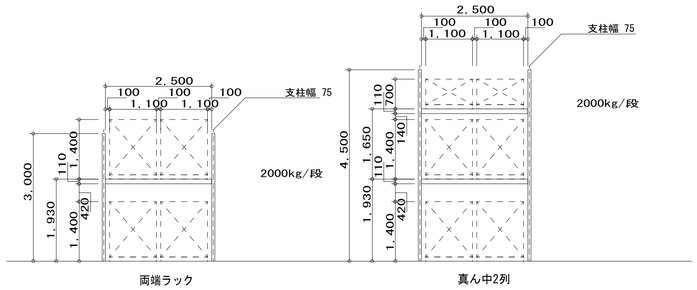


パートナーラック固定タイプ仕様

重量級			
①	荷姿	寸　法	W 1100 × D 1100 × H 1400
		重　量	MAX 1000 kg／ﾊﾟﾚｯﾄ
		固定ラック	2 列 × 11 連 × 2 段
	総収納値		80 ﾊﾟﾚｯﾄ
②	荷姿	寸　法	W 1100 × D 1100 × H 1400
		重　量	MAX 1000 kg／ﾊﾟﾚｯﾄ
		固定ラック	2 列 × 9 連 × 3 段
	総収納値		108 ﾊﾟﾚｯﾄ

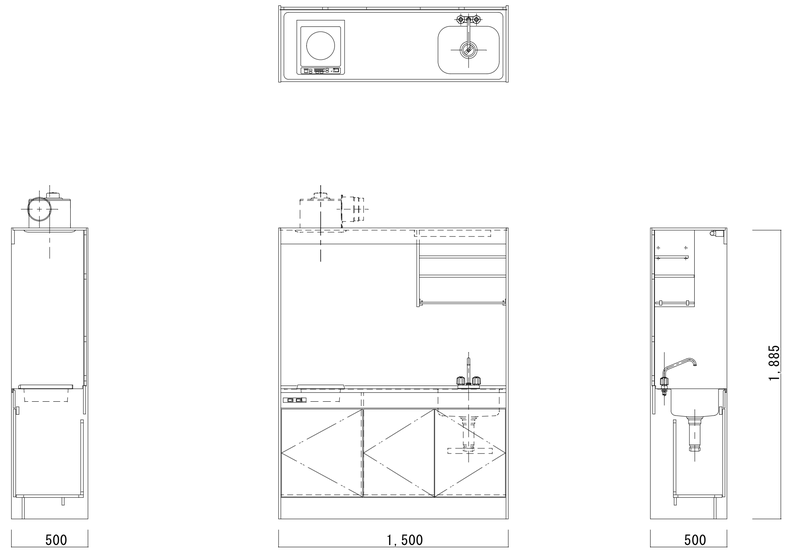


側面図（1/100）



正面図（1/100）

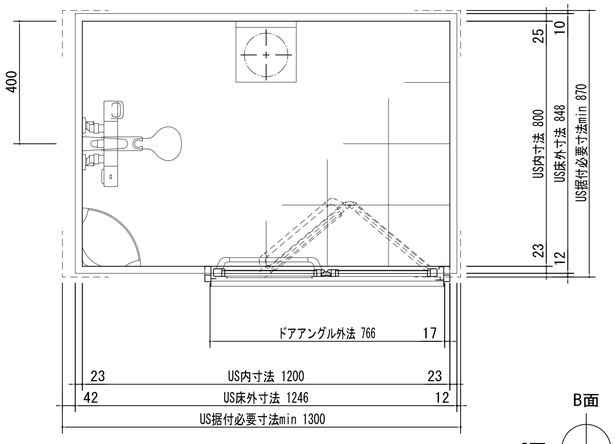
ミニキッチン詳細図　S:1/15



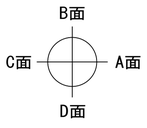
ユニットシャワー　詳細図　S:1/20

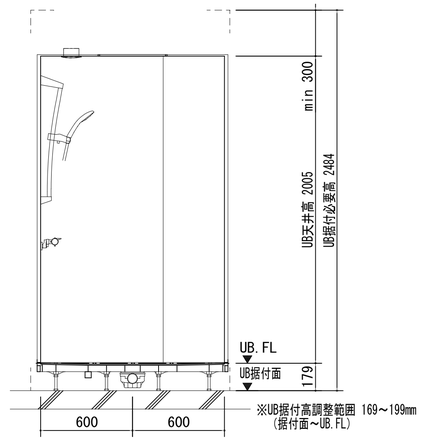
NSPB-0812LBEL-C（同等品）

部位／項目	仕様（寸法単位：mm）
床	FRP 200mm角床タイル貼 床目地〈グレー〉
壁	Lパネル(ハイクラス)
天井	化粧鋼板複合パネル
ドア	折り戸：アルミアルマイト処理（キレイドア） 面　材：型板調樹脂板
水栓金具	壁付サーモ水栓(クロマーレS) シャワー専用 シャワー：エコアクアシャワー〈メタル調-ホワイト〉 メタル調ホース
照明	ダウンライト(防湿型) LED〈ホワイト〉1灯
収納	コーナー棚〈クリア〉2段　樹脂製
スライドバー	フルフォールスライドバー〈メタル調〉(800L)
換気口	2体式換気グリル ABS樹脂製 換気口有効面積 42cm ^{2} 接続口径 φ100
トラップ	ABS樹脂製 封水50mm
給水管	Rc1/2　めねじ止
給湯管	Rc1/2　めねじ止
雑排水管	塩ビ管　VP50

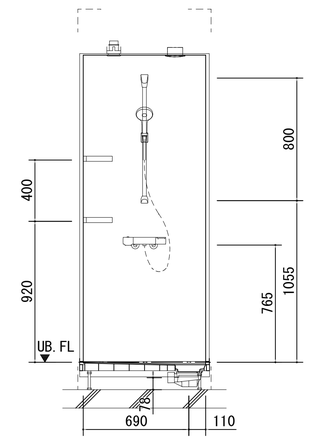


平面図

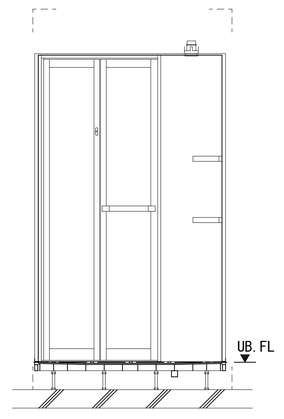




B面



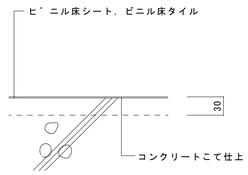
C面



D面

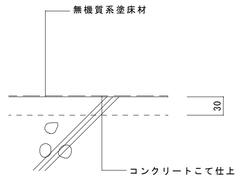
Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
株式会社 SuKA建築設計事務所 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	ユニット詳細図	1/10(A1) 1/20(A3)	令和8年3月 Number A-29

ビニル床シート，ビニル床タイル　S=1/10



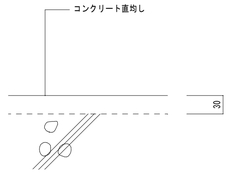
平坦さ標準値
3mに付7m／m以下（建共通仕様　表6.2.4）

無機質系塗床　S=1/10



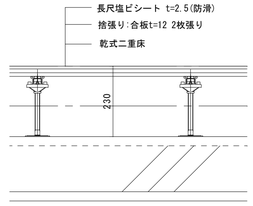
平坦さ標準値
3mに付7m／m以下（建共通仕様　表6.2.4）

土間コンクリート直均し　S=1/10

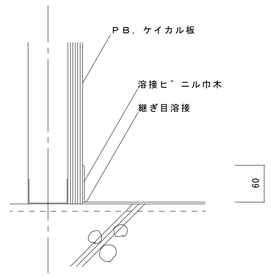


平坦さ標準値
3mに付7m／m以下（建共通仕様　表6.2.4）

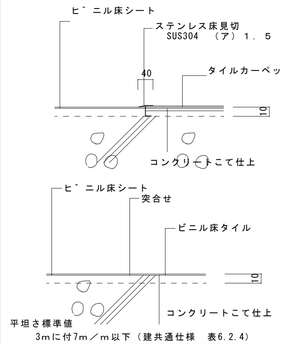
乾式2重床　S=1/10



ビニル巾木（ボード下地）　S=1/10

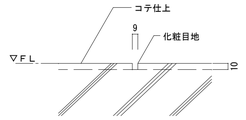


ステンレス床見切り　S=1/10

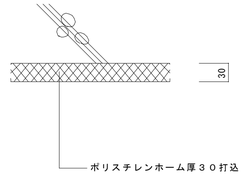


平坦さ標準値
3mに付7m／m以下（建共通仕様　表6.2.4）

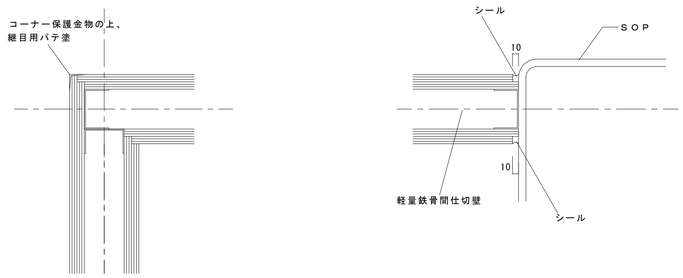
化粧目地　S=1/10



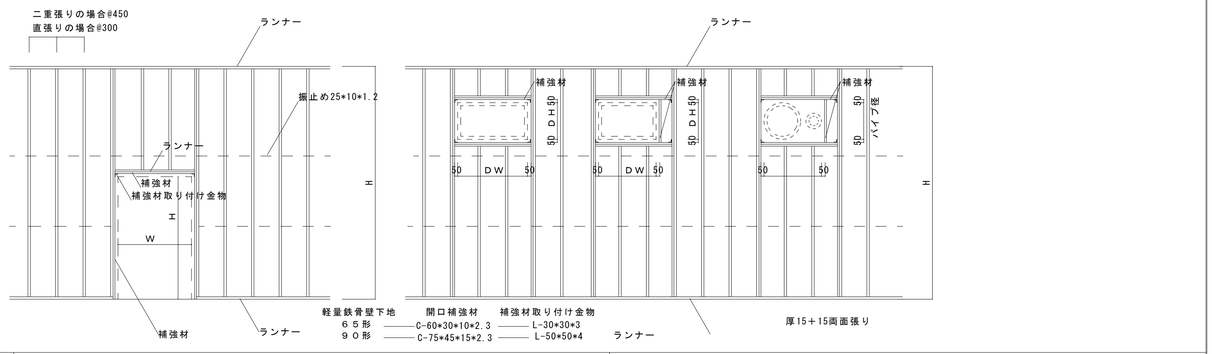
断熱材打込　S=1/10



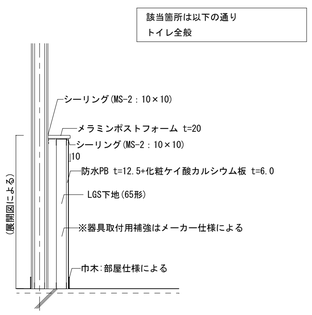
壁：ボード・コンクリート平面取合い　S=1/40



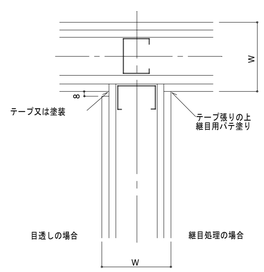
軽量鉄骨壁下地および開口補強（国土交通省　建築工事標準詳細図による。）　S=1/100



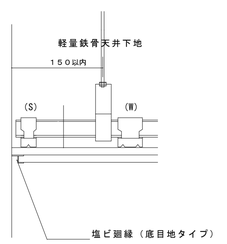
ライニング詳細図　S=1/40



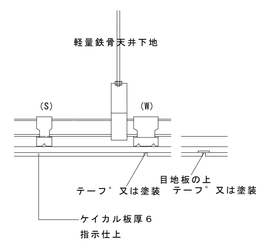
軽量鉄骨壁取合い　S=1/10



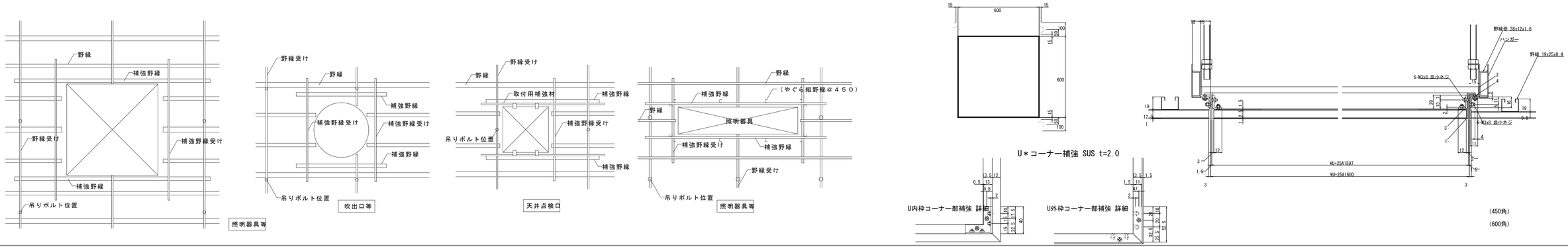
塩ビ廻縁　S=1/10



天井：ケイカル板（化粧ケイカル板）指示仕上　S=1/10



天井開口補強　詳細図（国土交通省　建築工事標準詳細図による。）　S=1/40

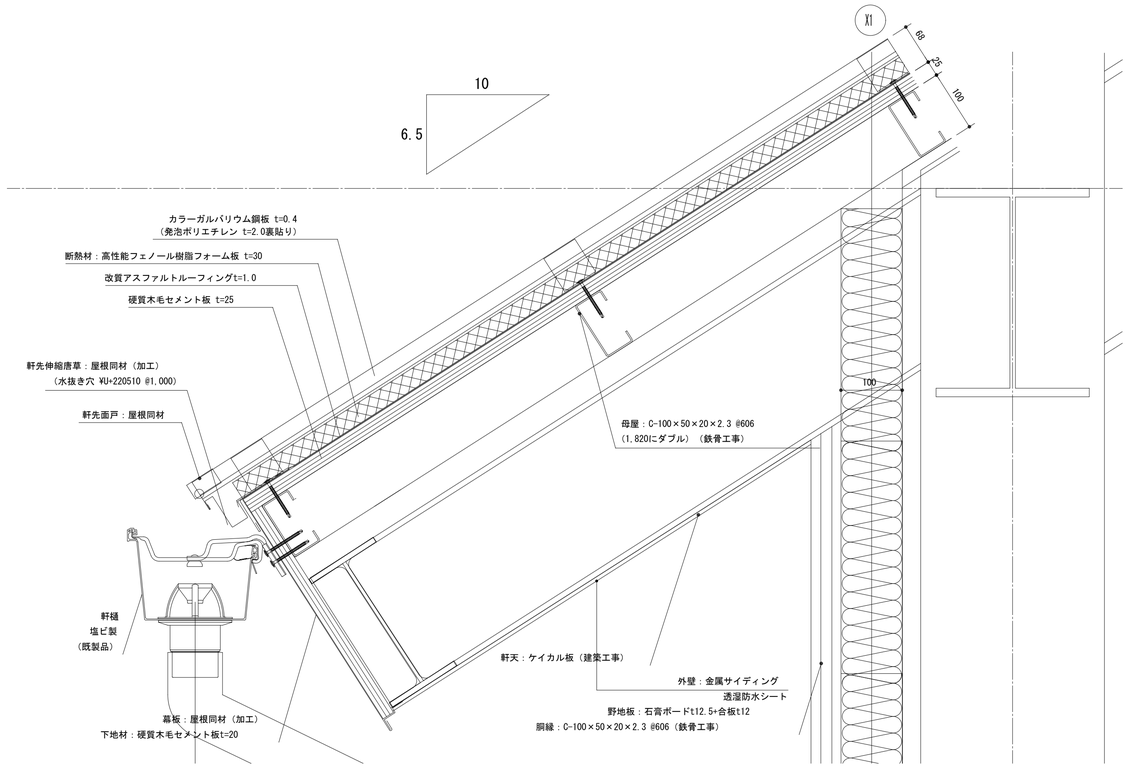


株式会社 SuKA建築設計事務所

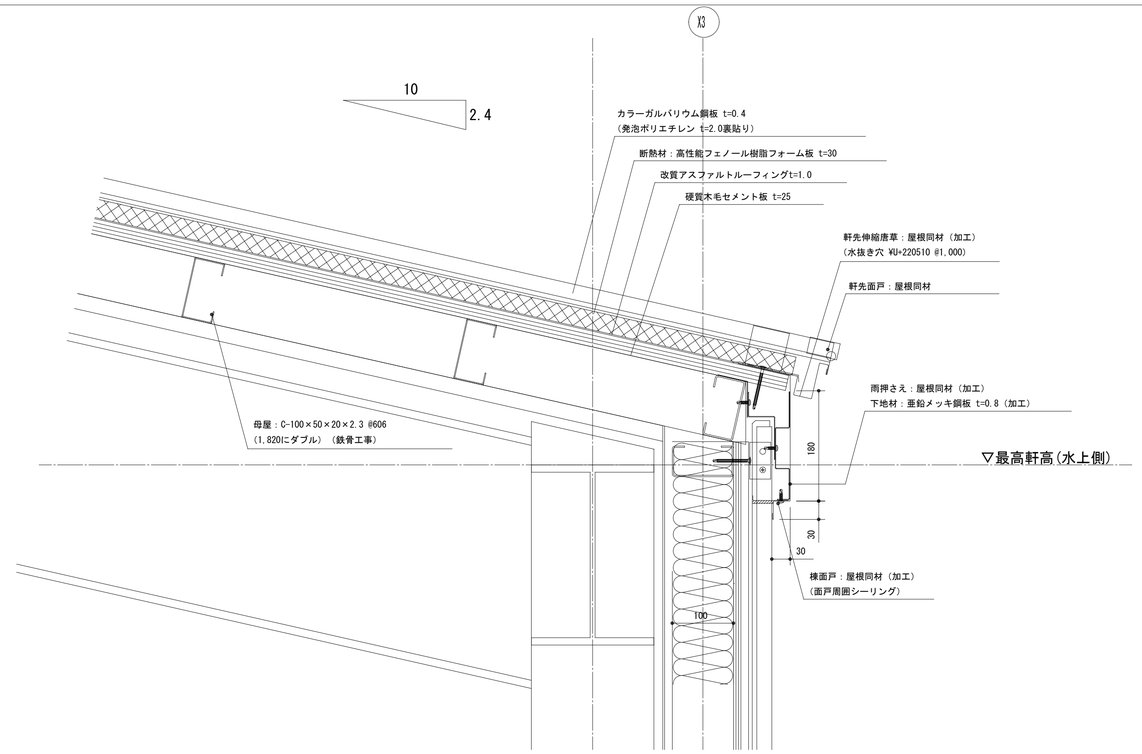
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	部分詳細図	1/5(A1) 1/10(A3)	令和8年3月 Number A-30

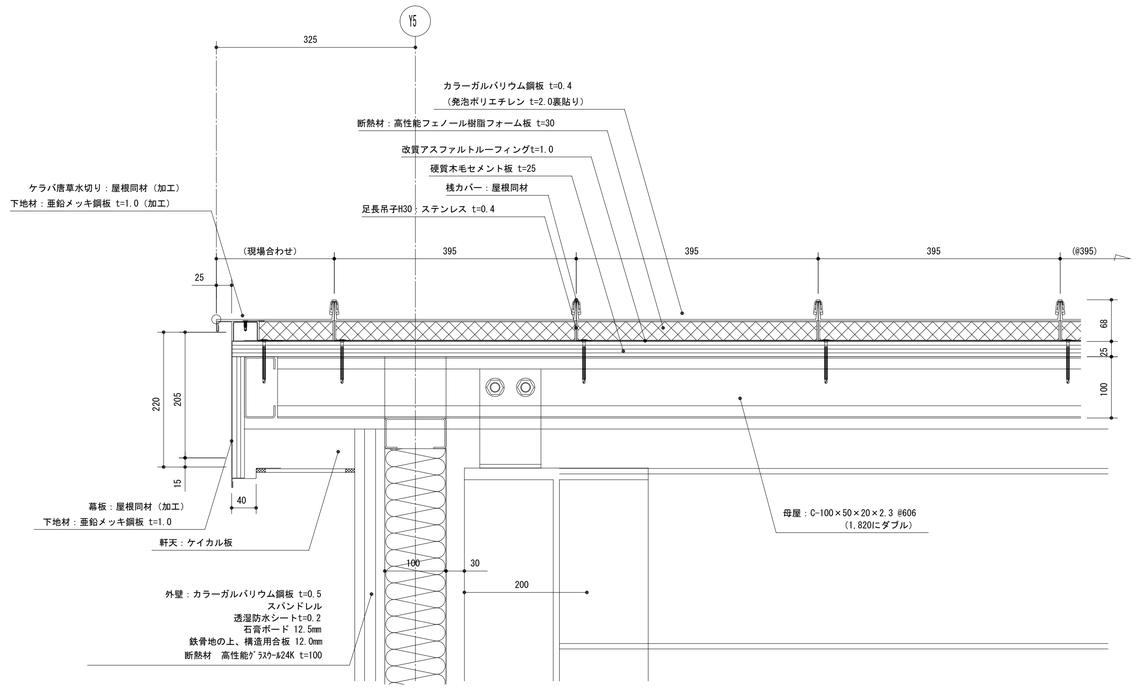
X1通り軒先断面図　S:1/10



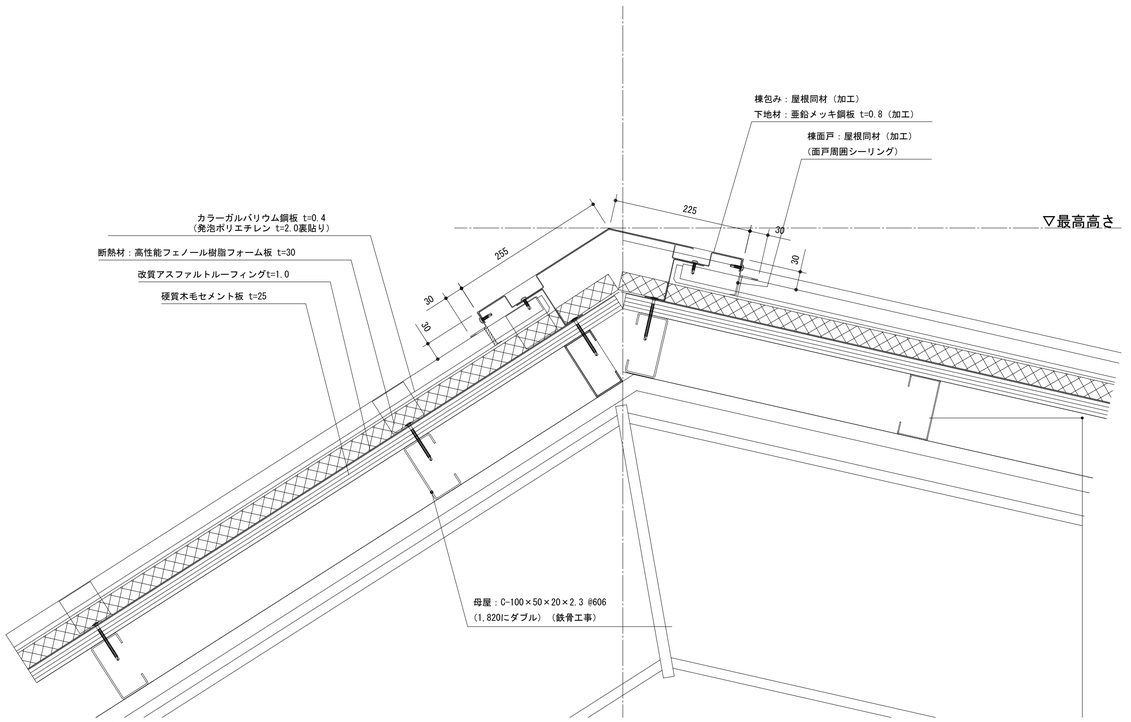
X3通り軒先断面図　S:1/10



ケラバ断面図　S:1/10



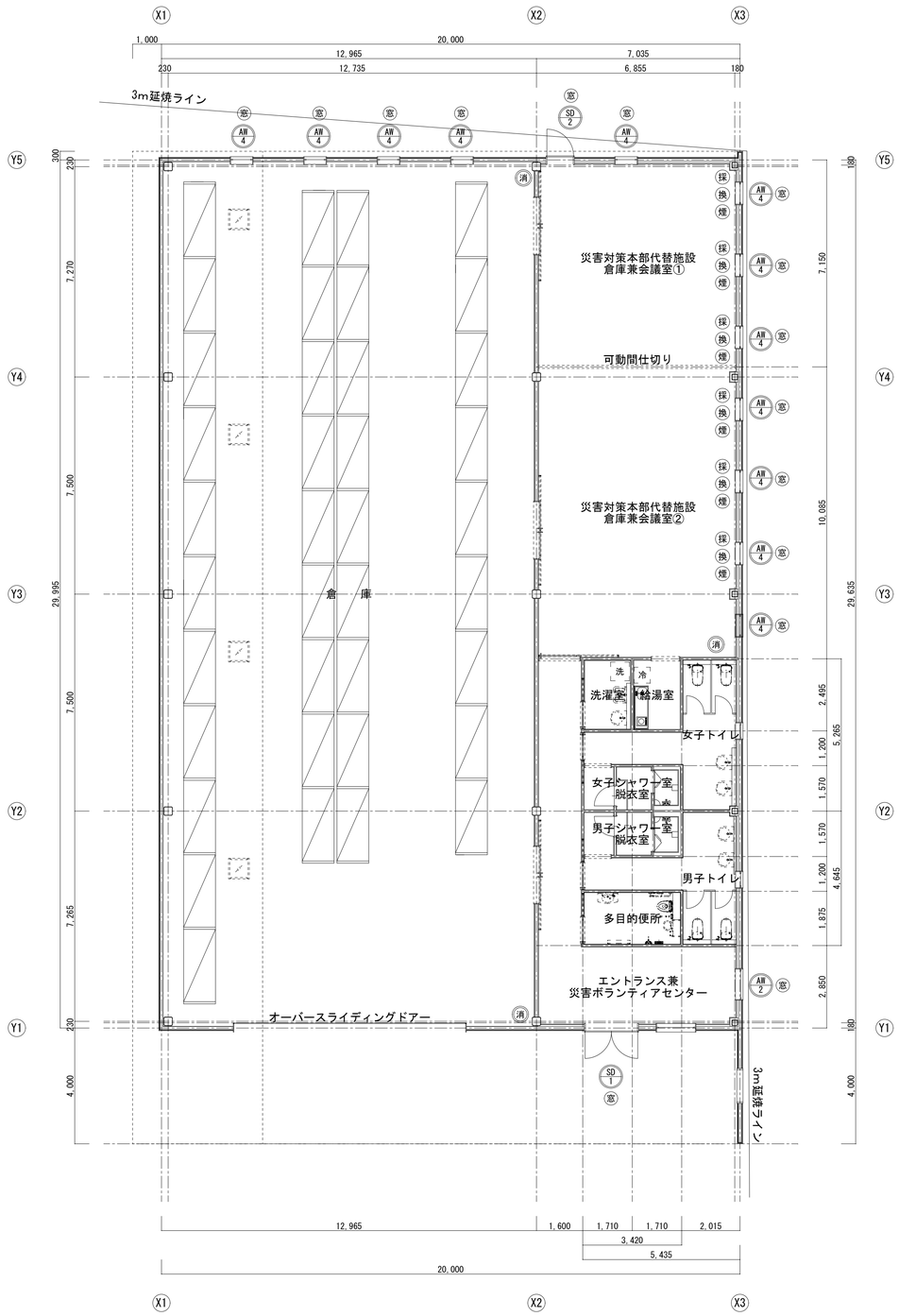
棟断面図　S:1/10



株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 屋根詳細図
Scale: 1/5(A1) 1/10(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-31



平面図　S=1/200

凡例

採	採光窓を示す。
換	換気窓を示す。
煙	排煙窓を示す。
消	消火器を示す。
窓	無窓階判定開口部を示す。

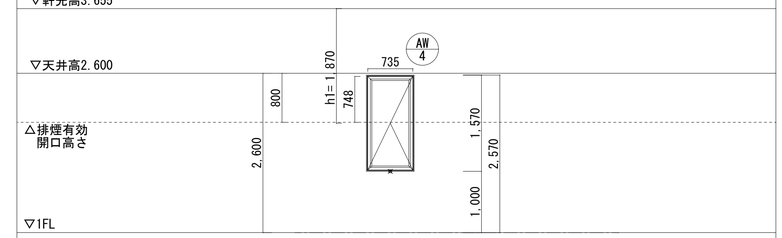
消防法：無窓階判定

1F床面積：599.90㎡×1/30＝19.997㎡

AW-2　1.20　x 1.20 x 1.0 = 1.440
AW-4　0.78　x 1.57 x14.0 = 14.6952
SD-1　1.70　x 2.00 x 1.0 = 3.400
SD-2　0.80　x 2.00 x 1.0 = 1.600

有効面積：21.1352 ＞ 19.997 ∴ OK

災害対策本部代替施設 倉庫兼会議室①

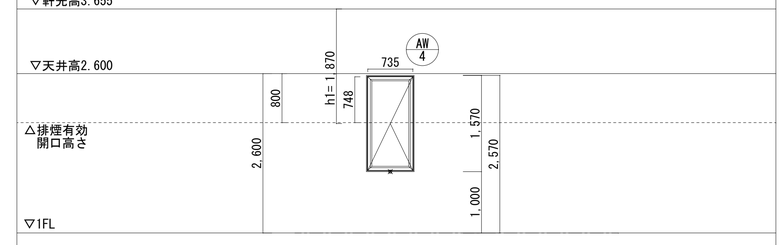


採光補正係数
d1, h1 :d1 (≧1.372) / 1.870 x 6-1.4 = 3.00
→ 3.0

CH=2,600
床面積： 50.30㎡

有効採光面積(㎡)		有効換気面積(㎡)		有効排煙面積(㎡)	
AW-4	0.78 x1.57 x3.0 x3.0 = 11.021	AW-4	0.735 x 1.57 x 3.0 = 3.461	AW-4	0.735 x 0.748 x 3.0 = 1.649
必要採光面積： 50.30 / 20 = 2.515 ㎡		必要換気面積： 50.30 / 20 = 2.515 ㎡		必要排煙面積： 50.30 / 50 = 1.006 ㎡	
有効採光面積： 11.021 ＞ 2.515 ∴OK		有効換気面積： 3.461 ＞ 2.515 ∴OK		有効排煙面積： 1.649 ＞ 1.006 ∴OK	

災害対策本部代替施設 倉庫兼会議室②



採光補正係数
d1, h1 :d1 (≧1.372) / 1.870 x 6-1.4 = 3.00
→ 3.0

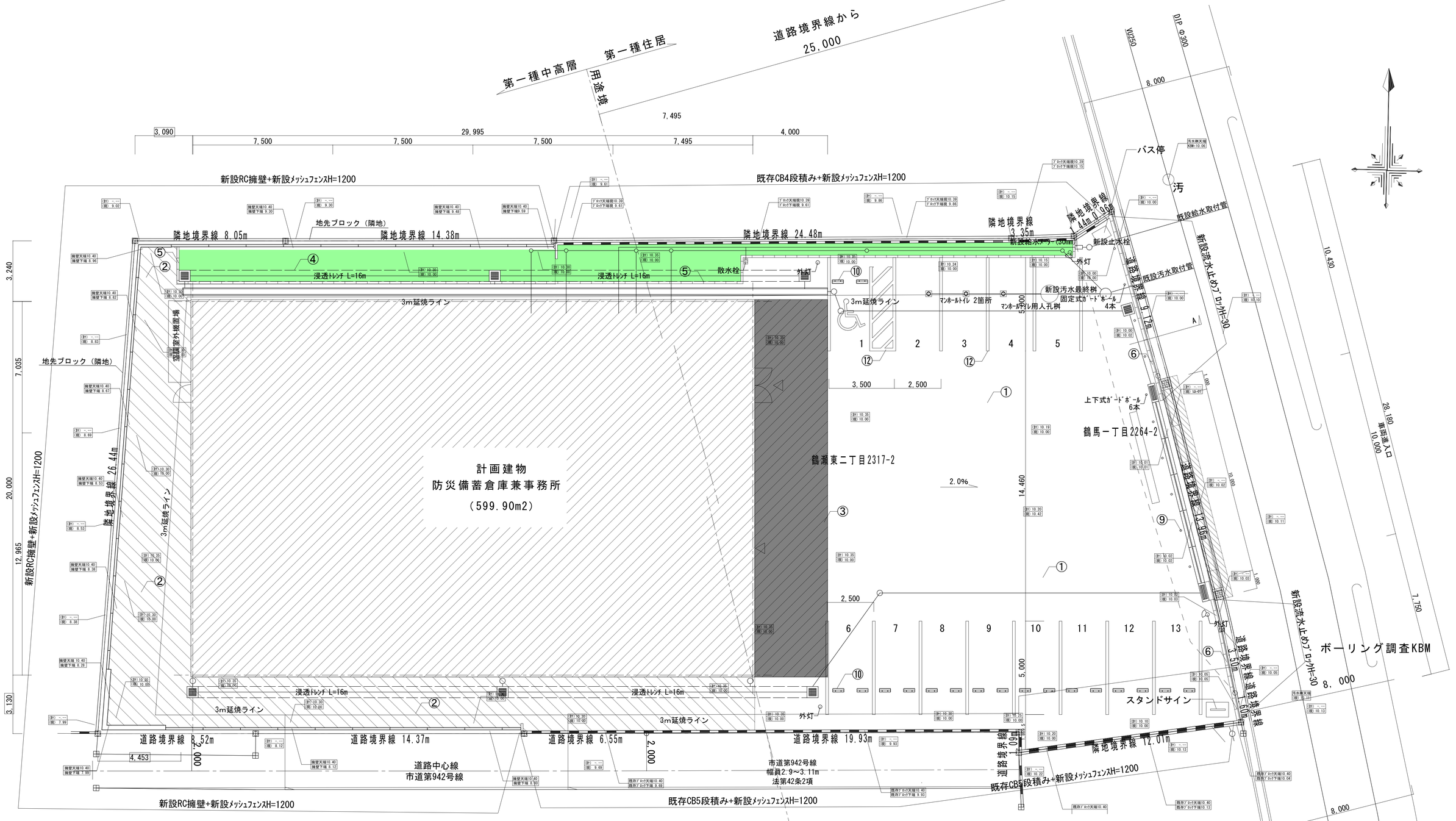
CH=2,600
床面積： 70.94㎡

有効採光面積(㎡)		有効換気面積(㎡)		有効排煙面積(㎡)	
AW-4	0.78 x1.57 x3.0 x3.0 = 11.021	AW-4	0.735 x 1.57 x 3.0 = 3.461	AW-4	0.735 x 0.748 x 3.0 = 1.649
必要採光面積： 70.94 / 20 = 3.547 ㎡		必要換気面積： 70.94 / 20 = 3.547 ㎡		必要排煙面積： 70.94 / 50 = 1.419 ㎡	
有効採光面積： 11.021 ＞ 3.547 ∴OK		有効換気面積： 3.461 ＞ 3.547 ∴NG (機械設備により対応)		有効排煙面積： 1.649 ＞ 1.419 ∴OK	

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 法チェック図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-32



———	新設給水管
———	新設汚水管　VU管φ150
○	新設汚水桝　塩ﾋﾞ製φ200
◎	新設汚水最終桝　塩ﾋﾞ製φ300
———	新設雨水管　VP管φ150
○	新設雨水桝　塩ﾋﾞ製φ200
▣	新設雨水集水浸透桝　ｺﾝｸﾘｰﾄ製300角ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋
═══	新設雨水浸透ﾄﾚﾝﾁ　有孔塩ﾋﾞ管φ150

（凡例）

番号	記　号	仕　様	番号	記　号	仕　様	番号	記　号	仕　様
	(計) 10.40 ←計画レベル (現) 8.07 ←現況レベル		④		緑地（詳細は緑化計画図参照）	⑨	○	上下式ポール（SK-11同等品）
		建築物範囲	⑤		地先境界ブロック150×150×600 （流水止めﾌﾞﾛｯｸ）	⑩		スタンドサイン（ST118H同等品）
①		ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装（車路）（A-5-10）	⑥		緑化境界ブロック120×120×600	⑪		車止めコンクリート（既製品）
②		ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装（歩行）（A-5-10）	⑦		横断用スリット側溝300（T25）	⑫		線引（白）：カラー塗装 車椅子使用者用駐車表示：線幅W150 セブラマーク：線幅W150 停止線
③		土間コンクリート舗装（C-7-10歩行）	⑧		横断用スリット側溝300　ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋（T25）			

配置図　S:1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

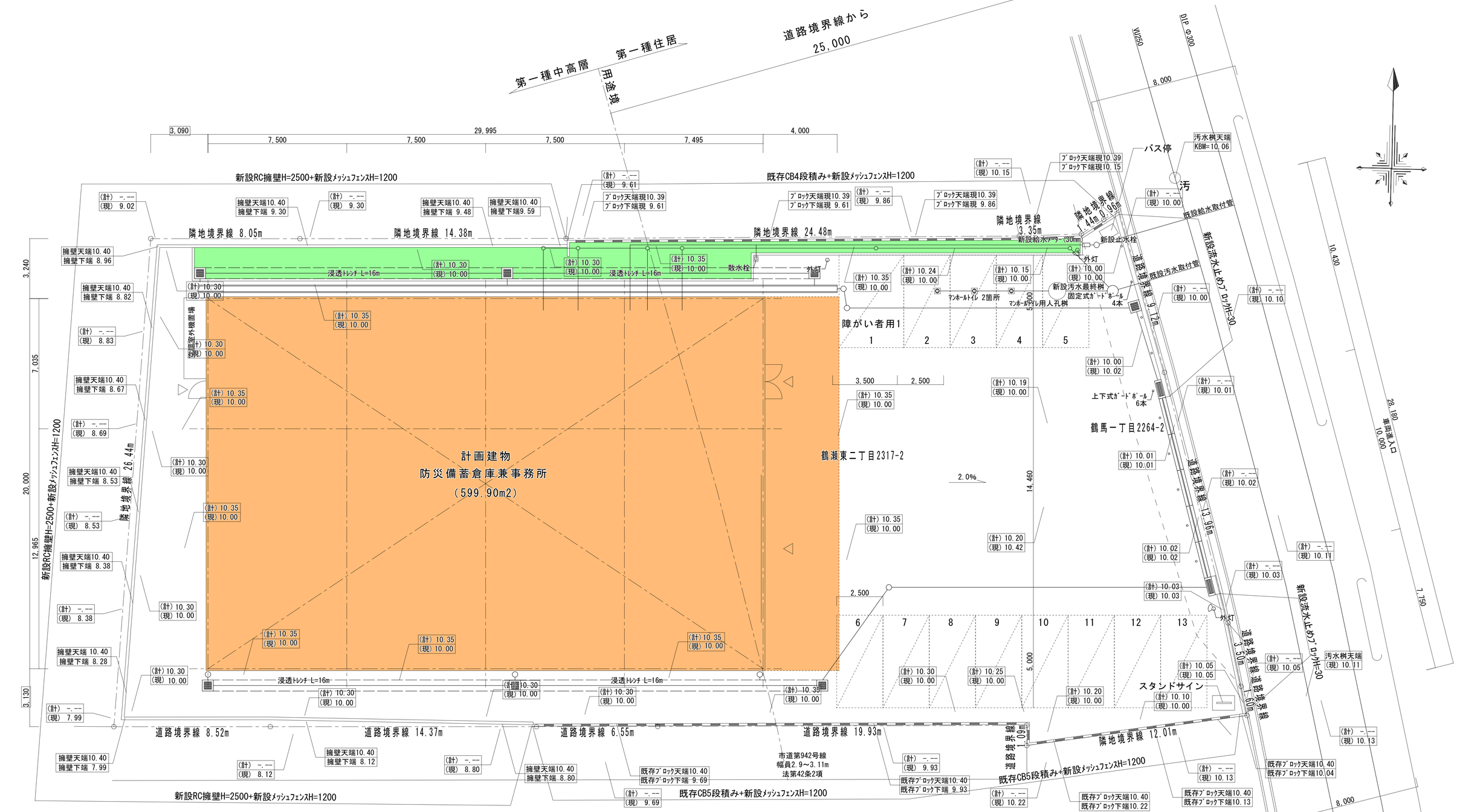
Project: 富士見市中央防災センター建設工事

Index: 外構図

Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)

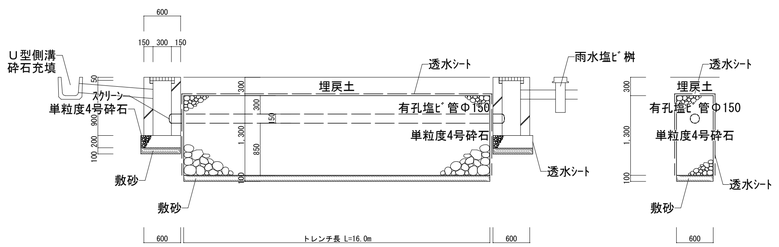
設計年月: 令和8年03月

Number: A-33



敷地面積	1514.98 m2
延床面積	599.90 m2
建築面積	639.90 m2
駐車台数	13 台
緑地面積	64.82 m2
(市基準緑化面積: 45.449m2) (県基準緑化面積:302.996m2)	

	新設給水管
	新設汚水管 VU管φ150
○	新設汚水桝 塩ﾋﾞ製φ200
◎	新設汚水最終桝 塩ﾋﾞ製φ300
	新設雨水管 VP管φ150
○	新設雨水桝 塩ﾋﾞ製φ200
▤	新設雨水集水浸透桝 ｺﾝｸﾘｰﾄ製300角ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋
	新設雨水浸透ﾄﾚﾝﾁ 有孔塩ﾋﾞ管φ150
	新設雨水側溝 ｺﾝｸﾘｰﾄ製300x300



透水ｼｰﾄ：ポリエステル系繊布 t 0.5以上

宅地内雨水処理施設 計算式 (必要処理量：500m3/ha)
必要浸透ﾄﾚﾝﾁ長
敷地面積：1514.98m2 →0.151498ha
計画水深：1.3m、幅0.6m →設計値257
設計値257 x 敷地面積0.151498ha = 38.934986 → 38.94m3
38.94m3 - (浸透桝 0.3m x 0.3m x 6基) / 浸透ﾄﾚﾝﾁ幅0.6m = 64.0m

計画浸透ﾄﾚﾝﾁ長
16.0m x4 = 64.0m

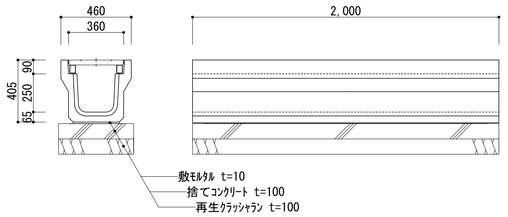
計画浸透ﾄﾚﾝﾁ長：64.0m > 必要浸透ﾄﾚﾝﾁ長：64.0m
∴必要長さ以上確保

※給水ﾒｰﾀｰは道路から2m以内とする
ﾒｰﾀｰ上に車が乗る可能性がある場合は鉄蓋とすること

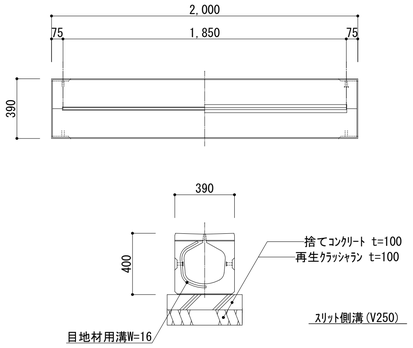
株式会社 SuKA建築設計事務所
Address: 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号 須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 雨水排水計画図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年3月
Number: A-34

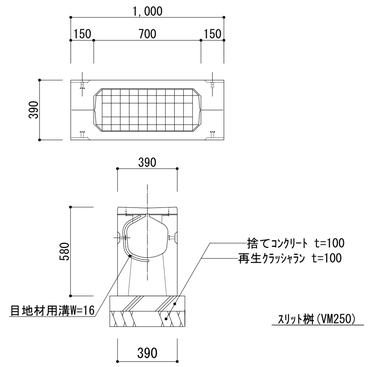
U型側溝　S＝1／20　駐車場



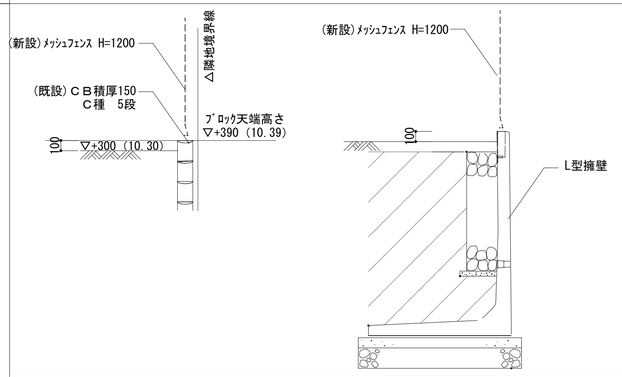
ｽﾘｯﾄ側溝　S＝1／20　車両出入口



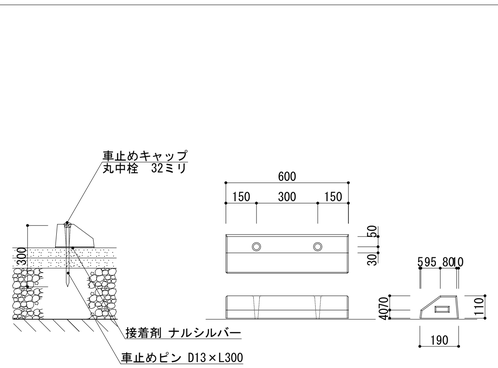
ｽﾘｯﾄ側溝端部集水桝　S＝1／20　車両出入口



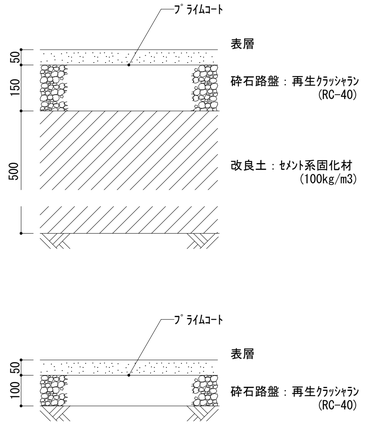
境界フェンス　S＝1／30



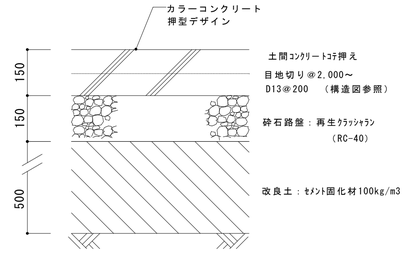
車止めﾌﾞﾛｯｸ　S＝1／15　駐車場



ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装　S＝1／10

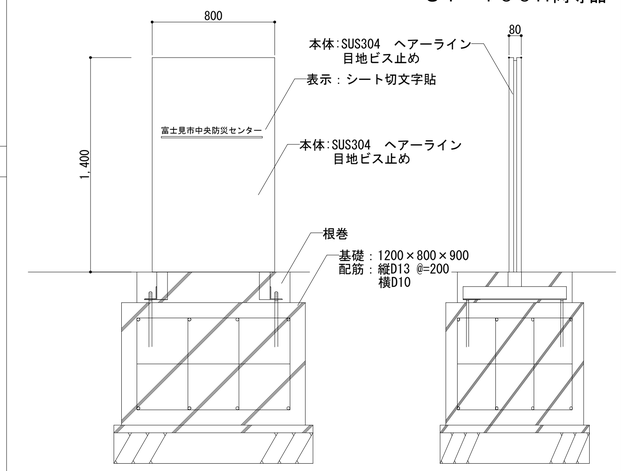


土間コンクリート舗装（車路）　S＝1／10



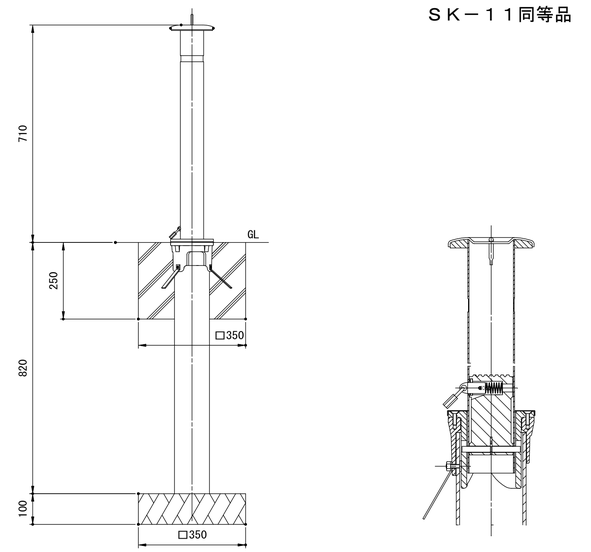
スタンドサイン　S＝1／20

ＳＴ－１６６Ｈ同等品

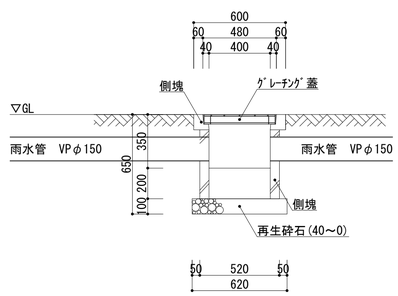


上下式ﾎﾟｰﾙ　S＝1／10、5

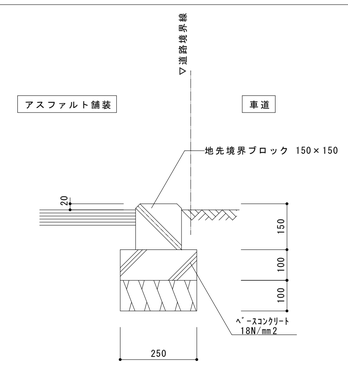
ＳＫ－１１同等品



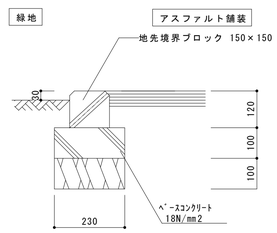
雨水集水桝(浸透型)　S＝1／10　駐車場



地先境界ブロック（道路境界）　S＝1／10



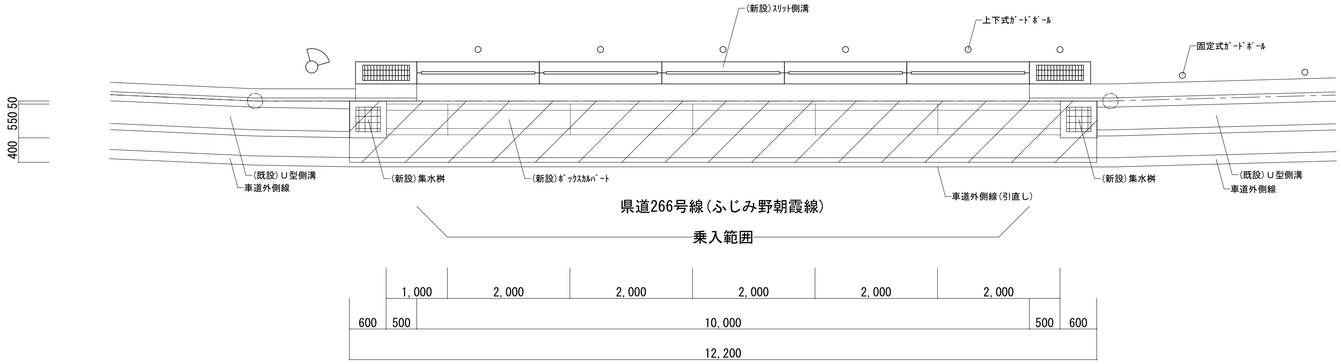
地先境界ブロック（緑地境界）　S＝1／10



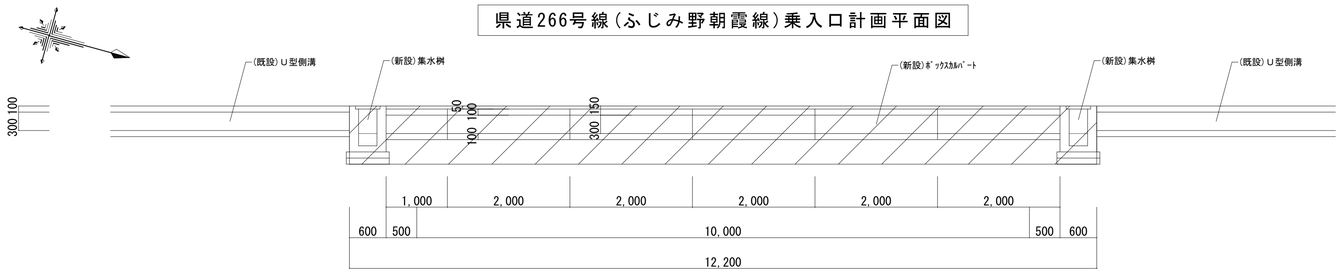
株式会社 SuKA建築設計事務所	Address 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	Phone 048-977-6072	Fax 048-971-7171	Registered Office 埼玉県知事10064	Registered Architect 第330549号　須賀 温	Project 富士見市中央防災センター建設工事	Index 外構詳細図	Scale 1/10,20(A1) 1/20,40(A3)	設計年月 令和8年03月 Number A-35

埼玉県(影響部同じ)　　(単位：mm)

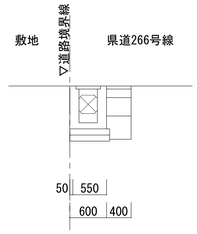
乗入部		
舗装	表層 改質Ⅱ型As(20)-75	50
	基層 改質Ⅱ型As(20)-75	140
路盤	再生粒調砕石 ＲＣ－４０	300
路床	再生切込砕石 ＲＭ－４０	380
	計	870
	道路工事・復旧範囲	



県道266号線(ふじみ野朝霞線)乗入口計画平面図



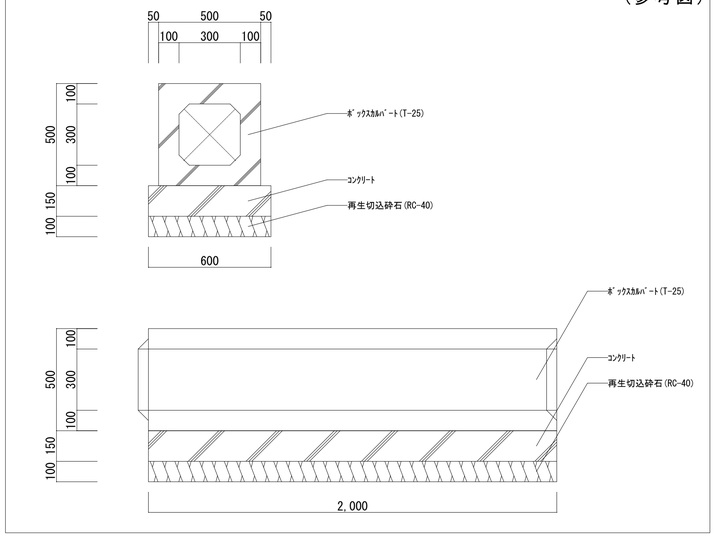
県道266号線(ふじみ野朝霞線)乗入口計画断面図

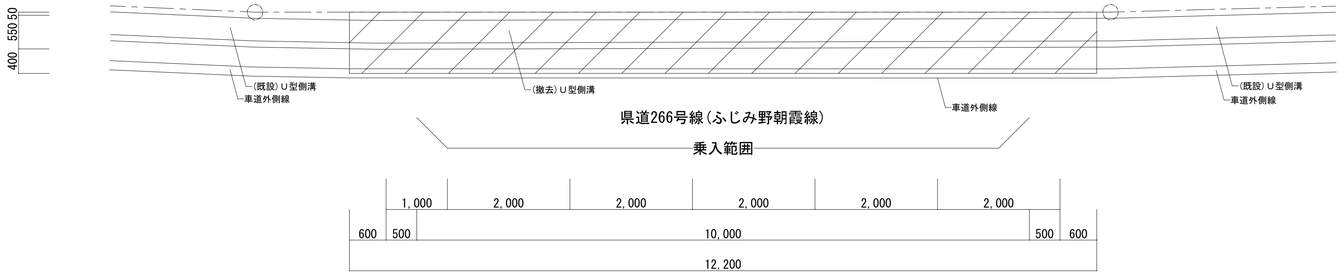


乗入口計画断面図

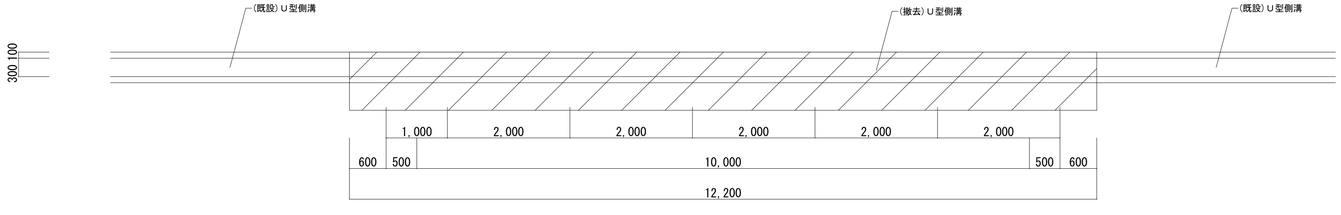
ボックスカルバート(300x300) 既製品　　S=1/30

(参考図)

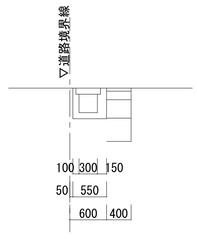




県道266号線(ふじみ野朝霞線)乗入口現況平面図



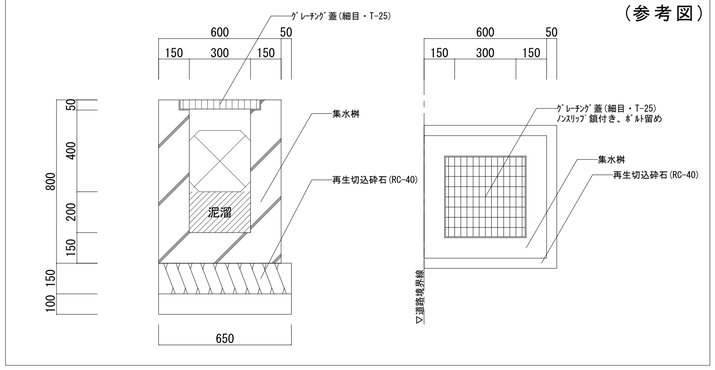
県道266号線(ふじみ野朝霞線)乗入口現況断面図



乗入口現況断面図

集水桝(300) 既製品　　S=1/30

(参考図)

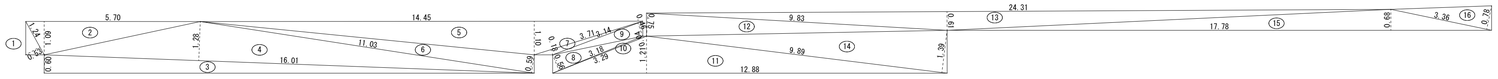


株式会社 SuKA建築設計事務所

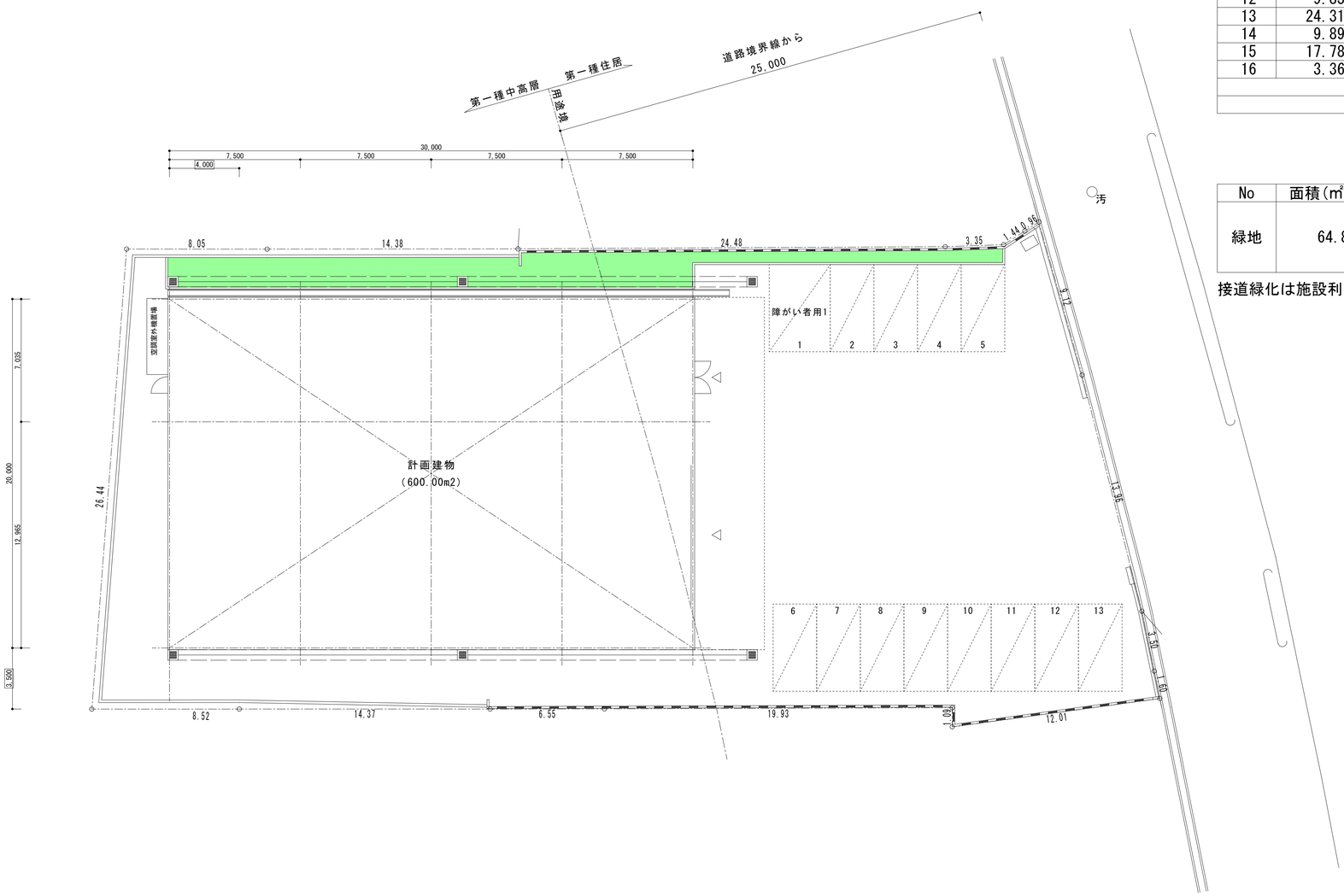
Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	乗入整備図	1/50(A1) 1/100(A3)	令和8年03月

Number　A-36



番号	底　辺	高　さ	倍　面　積	面　　積
1	1.24	0.53	0.6572	0.32860
2	5.70	1.09	6.2130	3.10650
3	16.01	0.60	9.6060	4.80300
4	16.01	1.28	20.4928	10.24640
5	14.45	1.10	15.8950	7.94750
6	11.03	0.59	6.5077	3.25385
7	3.71	0.18	0.6678	0.33390
8	3.18	0.56	1.7808	0.89040
9	3.14	0.46	1.4444	0.72220
10	3.29	0.04	0.1316	0.06580
11	12.88	1.21	15.5848	7.79240
12	9.83	0.75	7.3725	3.68625
13	24.31	0.61	14.8291	7.41455
14	9.89	1.39	13.7471	6.87355
15	17.78	0.68	12.0904	6.04520
16	3.36	0.78	2.6208	1.31040
合　　計				64.82050
敷 地 面 積				64.82 ㎡



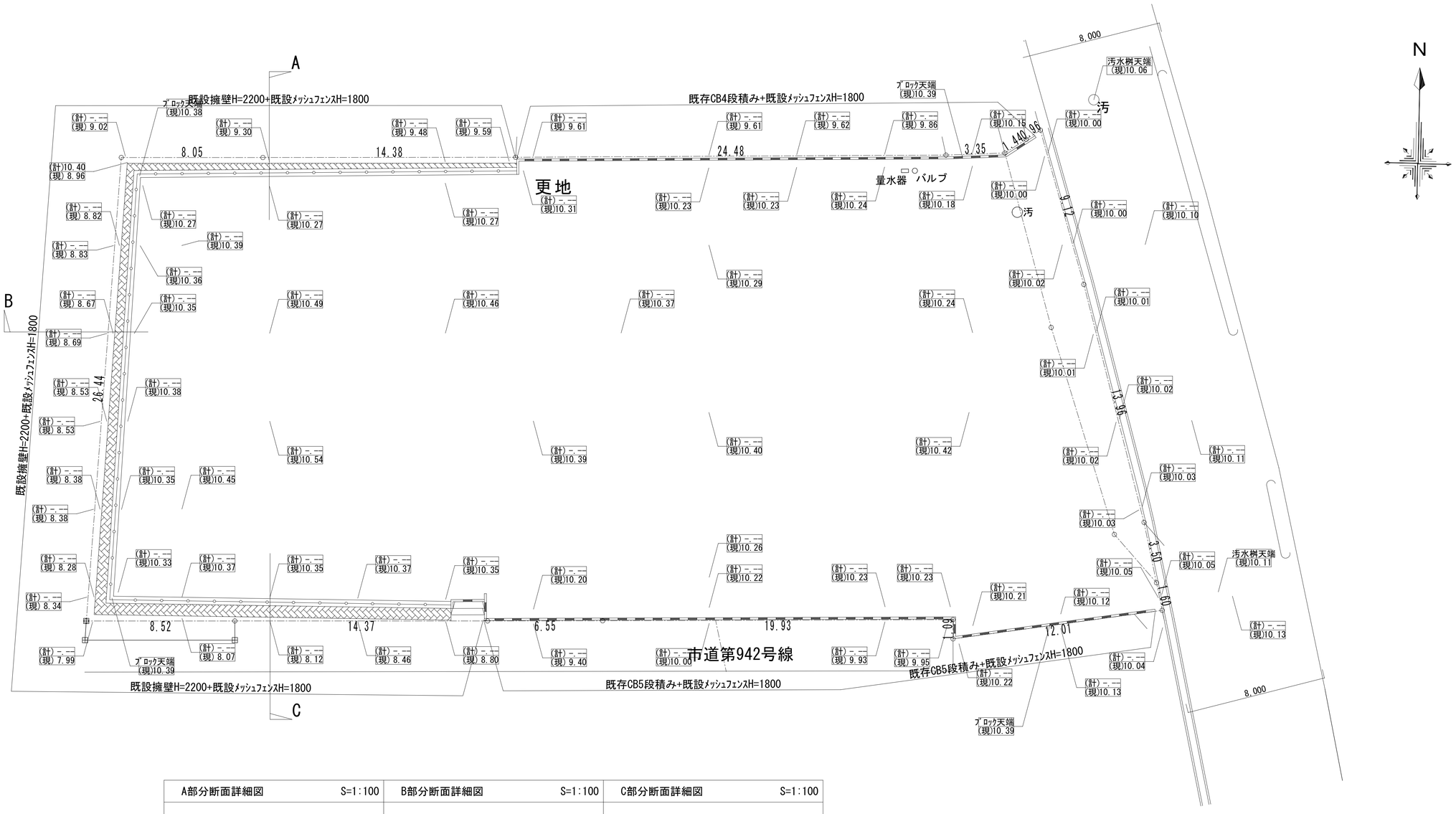
No	面積(㎡)	樹木
緑地	64.82	低木: ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ（高さ0.4m） 65本

接道緑化は施設利用上、困難であるため計画なし

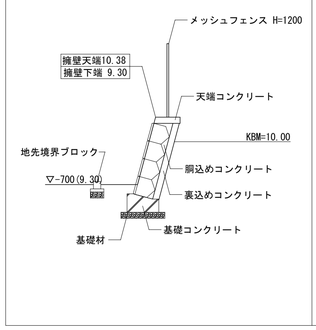
緑地	
緑地面積・駐車場緑化	64.82 m2
(市基準緑化面積: 45.449m2)	敷地面積の 3%
(県基準緑化面積:302.996m2)	敷地面積の20%
(計) 10.40 ←計画レベル (現) 8.07 ←現況レベル	

株式会社 SuKA建築設計事務所

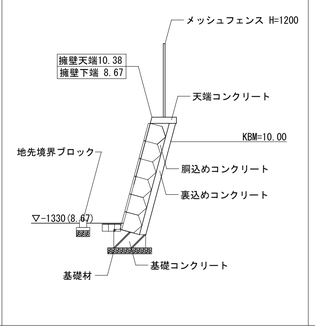
Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設設工事	緑化計画図	1/200(A1) 1/400(A3)	令和8年03月 Number A-37



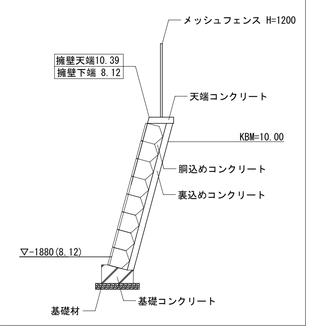
A部分断面詳細図 S=1:100



B部分断面詳細図 S=1:100



C部分断面詳細図 S=1:100

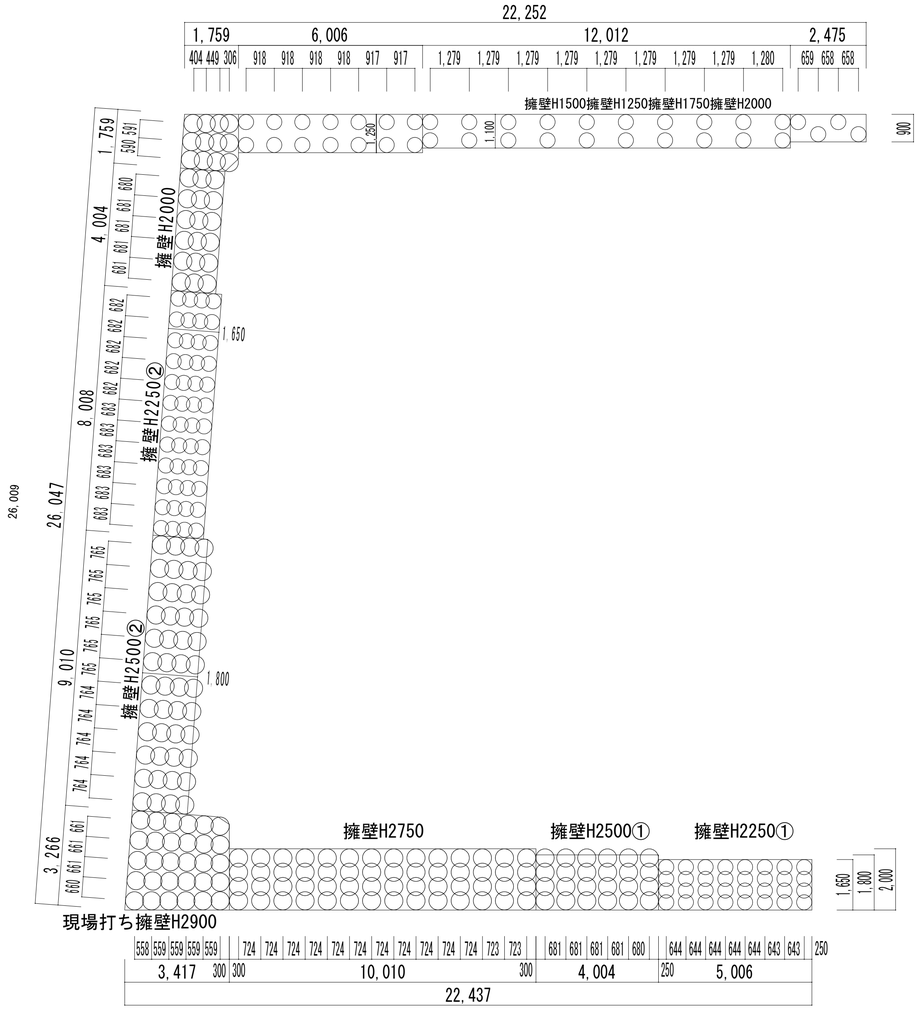


株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号 須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設設工事
Index: 既存擁壁図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和7年6月
Number: A-38

方位



擁壁H1250	改良径φ500	改良天端FH=9.15m	改良深度FH＝4.20m	改良長4.95m	本数4本
擁壁H1500	改良径φ500	改良天端FH=8.90m	改良深度FH＝4.20m	改良長4.70m	本数20本
擁壁H1750	改良径φ500	改良天端FH=8.65m	改良深度FH＝4.20m	改良長4.45m	本数14本
擁壁H2000	改良径φ600	改良天端FH=8.40m	改良深度FH＝4.20m	改良長4.20m	本数18本
擁壁H2000コーナー	改良径φ600	改良天端FH=8.40m	改良深度FH＝4.20m	改良長4.20m	本数12本
擁壁H2250①	改良径φ500	改良天端FH=8.15m	改良深度FH＝4.20m	改良長3.95m	本数32本
擁壁H2250②	改良径φ500	改良天端FH=8.15m	改良深度FH＝4.20m	改良長3.95m	本数48本
擁壁H2500①	改良径φ600	改良天端FH=7.90m	改良深度FH＝4.20m	改良長3.70m	本数24本
擁壁H2500②	改良径φ600	改良天端FH=7.90m	改良深度FH＝4.20m	改良長3.70m	本数48本
擁壁H2750	改良径φ600	改良天端FH=7.65m	改良深度FH＝4.20m	改良長3.45m	本数56本
現場打ち擁壁H2900	改良径φ600	改良天端FH=7.50m	改良深度FH＝4.20m	改良長3.30m	本数30本

○ Φ500mm（118本）
○ Φ600mm（188本）

擁壁下地盤改良

改良径　：φ500mm、φ600mm
改良深度：FH＝4.20m
改良天端：FH＝7.50m～FH＝9.15m
改良長　：3.30m～4.95m
改良本数：306本
総改良長：1176.7m

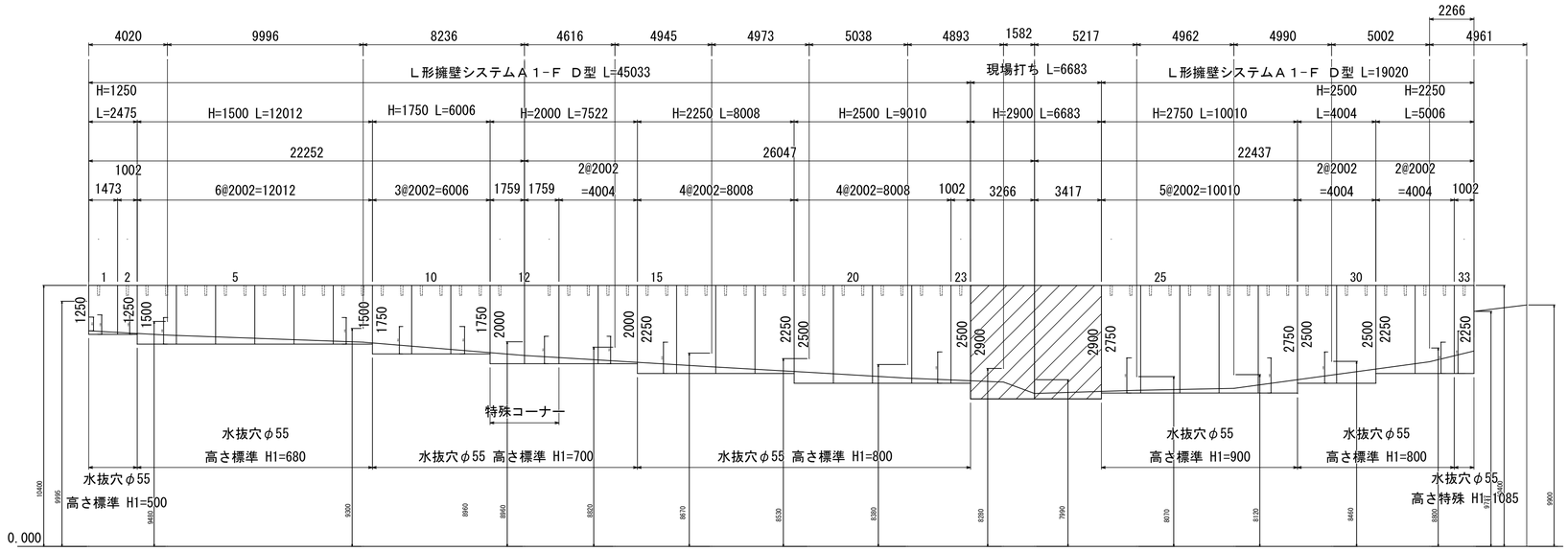
設計地耐力　：70kN/㎡～140kN/㎡
設計基準強度：Fc=800kN/㎡

※　施工に当たっては、工事監理者に施工計画書を提出し、承認の上施工すること。

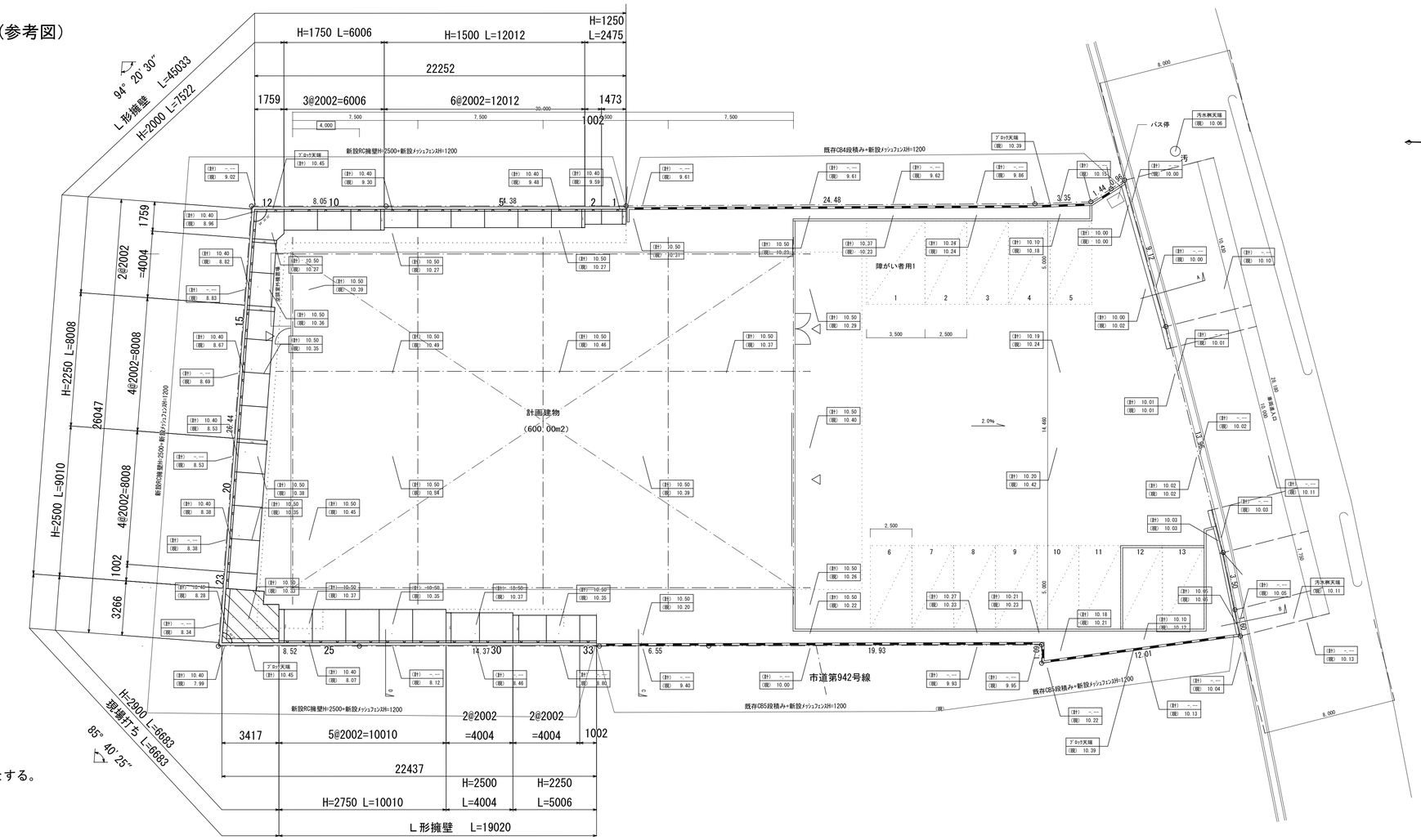
株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 擁壁下地盤改良計画図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-39



L形擁壁展開図　1/200（参考図）



L形擁壁割付図　1/200（参考図）

1. Ｌ形擁壁の既成コンクリート製品は、
「宅地造成等規制法施行令第14条に基づく大臣認定製品」とする。

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事

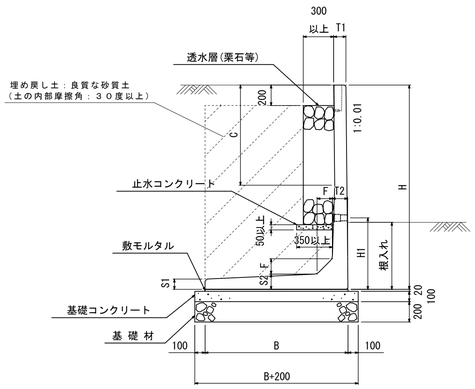
Index: L形擁壁割付図（参考図）
L形擁壁正面展開図（参考図）

Scale: 1/100(A1)
1/200(A3)

設計年月: 令和8年03月

Number: A-40

L形擁壁（既成コンクリート）参考図



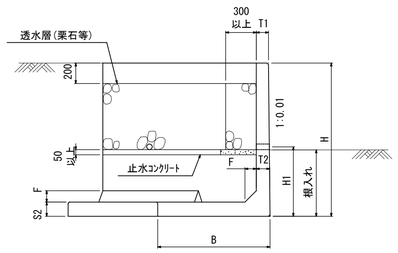
※根入れは擁壁高さの15/100かつ35cm以上確保する。

寸 法 表(参考)

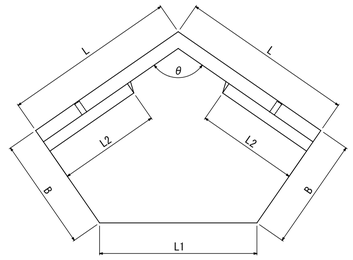
サ イ ズ	寸法仕様(mm)						
H x 公称長さ	B	T1	T2	S1	S2	F	C
1250 x 2000	900	120	120	100	120	120	-
1500 x 2000	1100	120	130	110	130	120	900
1750 x 2000	1250	120	140	110	140	150	900
2000 x 2000	1450	120	150	110	150	150	900
2250 x 2000	1650	120	160	110	160	200	900
2500 x 2000	1800	120	180	110	180	200	900
2750 x 2000	2000	120	200	150	200	200	900

特殊コーナー

側 面 図



平 面 図



※根入れは擁壁高さの15/100かつ35cm以上確保する。

寸 法 表(参考)

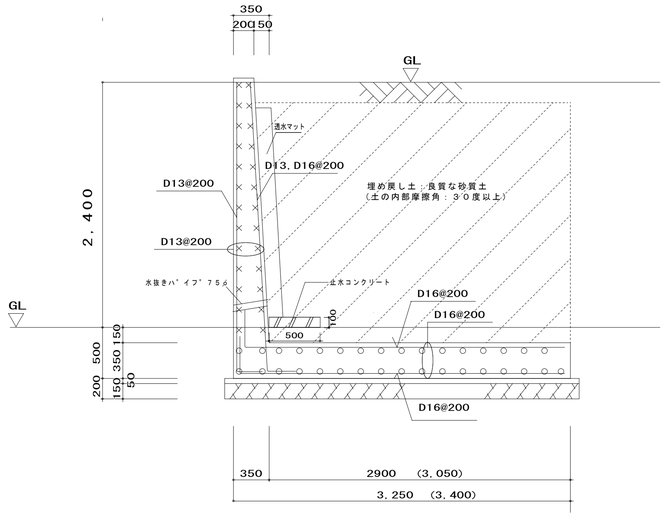
製品番号	寸法仕様(mm)										
	H	θ	B	L	T1	T2	S2	F	L1	L2	H1
12	2000	94° 20′ 30″	1450	1757	135	152	150	141	879	859	700

数量表(参考)									一式当り
製品番号	サ イ ズ H	×	L	規 格	数 量		参考質量		使用型枠	摘 要
L 形擁壁 大地震対応型										
2	1250	×	1000	調整用	1	本	590	kg		
1		×	1471	調整用	1	本	860	kg		
	1500	×	2000	標 準	6	本	1480	kg		
	1750	×	2000	標 準	3	本	1790	kg		
	2000	×	2000	標 準	2	本	2130	kg		
12		×	1757	特殊コーナー	1	本	3370	kg		94° 20′ 30″
	2250	×	2000	標 準	6	本	2530	kg		
33		×	1000	調整用 水抜穴特殊	1	本	1270	kg		H1=1085
	2500	×	2000	標 準	6	本	2960	kg		
23		×	1000	調整用	1	本	1480	kg		
	2750	×	2000	標 準	5	本	3620	kg		
				合計	33	本				

※製品1本につき伸びを2mm考慮。

1. L形擁壁の既成コンクリート製品は、
「宅地造成等規制法施行令第14条に基づく大臣認定製品」とする。

現場打ちコンクリート 擁壁図(コーナー部) 1/30



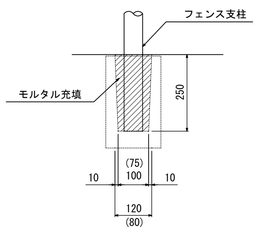
特記 仕様
鉄筋 D19以上－SD345, D16以下－SD295
コンクリート F＝24N／mm2
設計地耐力 fe＝140KN／m2
水抜きﾊﾟｲﾌﾟは、75φ 以上で、3m2 以内に1箇所以上設ける。

フェンス穴処理図

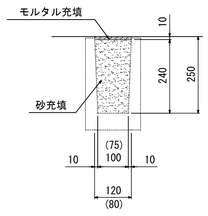
S=1:10

【正面図】

フェンス建込み部



フェンス穴不要部



※( )内は側面寸法

※L 形擁壁(既成コンクリート) は、全て参考図です。

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号 須賀 温

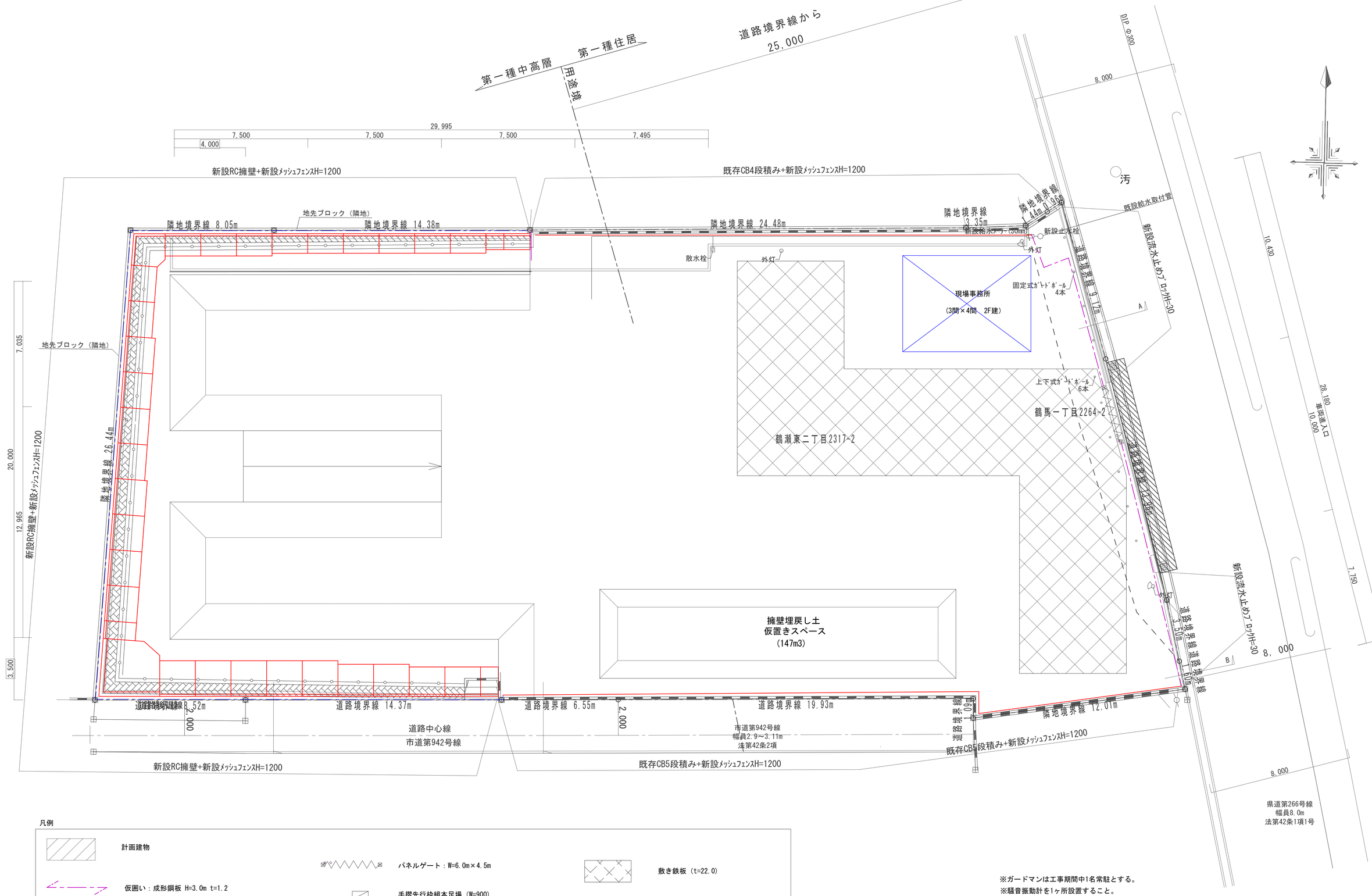
Project 富士見市中央防災センター建設工事

Index L形擁壁図(既成コンクリート) (参考図
現場打ちコンクリート 擁壁図

Scale 1/100(A1) 1/200(A3)

設計年月 令和8年03月

Number A-41



凡例

- 計画建物
- 仮囲い：成形鋼板 H=3.0m t=1.2
- 仮囲い：シート張り H=2.5m
- 仮囲い：ガードフェンス H=1.8m
- パネルゲート：W=6.0m×4.5m
- 手摺先行枠組本足場（W=900）
- 建築工事用安全ネット張り
- 敷き鉄板（t=22.0）
- 現場事務所（3間×4間　2F建）

※ガードマンは工事期間中1名常駐とする。
※騒音振動計を1ヶ所設置すること。

※既存CBは目視により
はらみ等の変形がないことを確認した
：道路工事影響範囲を示す

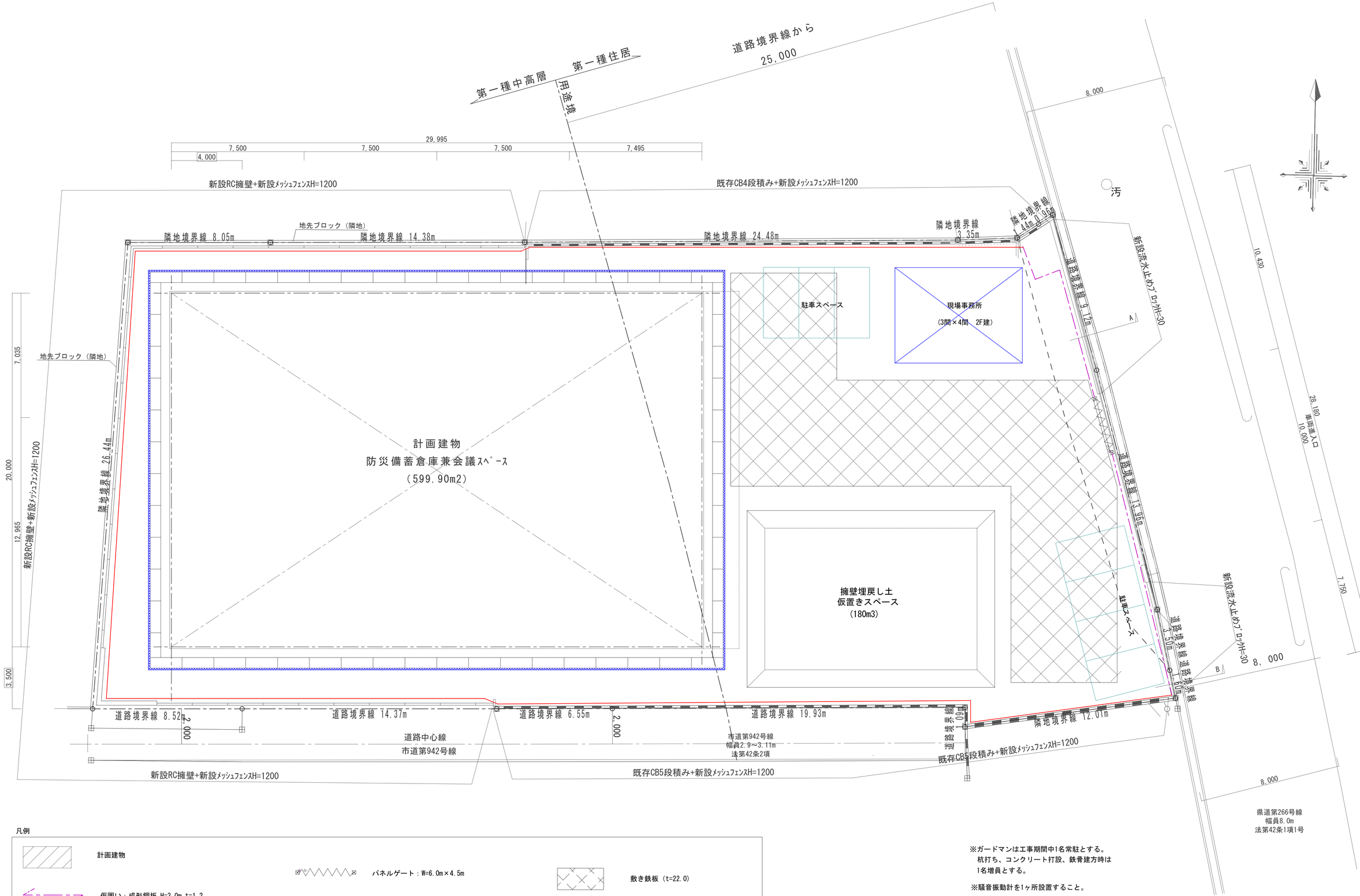
擁壁工事仮設計画図　S:1/100

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	仮設計画図（1）	1/100(A1) 1/200(A3)	令和8年03月

Number A-42



凡例

- 計画建物
- 仮囲い：成形鋼板 H=3.0m t=1.2
- 仮囲い：シート張り H=2.5m
- 仮囲い：ガードフェンス H=1.8m
- パネルゲート：W=6.0m×4.5m
- 手摺先行枠組本足場（W=900）
- 建築工事用安全ネット張り
- 敷き鉄板（t=22.0）
- 現場事務所（3間×4間　2F建）

※ガードマンは工事期間中1名常駐とする。
杭打ち、コンクリート打設、鉄骨建方時は1名増員とする。

※騒音振動計を1ヶ所設置すること。

※既存CBは目視により
はらみ等の変形がないことを確認した

：道路工事影響範囲を示す

建設工事仮設計画図　S:1/100

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 仮設計画図（2）
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: A-43

工事区分表

項　　目	建築	電気	機械		別途	備　　考
仮囲い・足場・桟橋等の架払い、維持、補修	○					
監理員事務所の架払い、備品、維持、補修	○					
工事現場保安要員、交通整理員	○					
工事用電話・電力・上水・下水・ガスの支払い、使用料 ＊＊＊建物引き渡し時までの高圧受変電設備（本設電気）の 基本料及び使用料を含む＊＊＊	○	○	○			
その他の仮設建物及び機械器具等	○					
ＲＣ造のスリーブ・箱入れ	○	○	○			
同　上　貫通箇所の補強	○					
ＲＣ造のスラブインサート	○	○	○			
防火区画・防火壁を貫通するダクト・配管等の防火処置	○	○	○			
点検口　（壁）	○					
同　上　（天井）	○					
同　上　位置出し	○	○	○			
同　上　位置の指示	○	○	○			
照明器具・スピーカー等の天井埋込機器の切込み及び補強・補修	○	○				
同　上　位置出し		○				
吹出口・吸込口空調機器等の天井埋込機器の切込み及び補強・補修	○		○			
同　上　位置出し			○			
換気扇の取付け工事			○			
同　上　取付け枠			○			
同　上　電気配管・配線及び接続		○				
同　上　リモートスイッチ取付け		○				
同　上　位置出し			○			
設備機器（ダクト・配管等）下の天井下地の吊りボルト支持及び補強	○					
鋼製間易間仕切（既製品）及び天井の開口及び開口補強	○					
同　上　配管・ボックス取付け及び補強		○	○			
同　上　機器取付け・配線及び補強		○	○			
鋼製簡易間仕切壁の貫通及び補強	○					
同　上　位置出し、位置の指示		○	○			
同　上　ボックス・機器取付け、配管・配線及び接続		○	○			
屋内設置機器の基礎	○					
同　上　仕上げ	○					
同　上　床補強	○					
同　上　アンカーボルトセット及び位置出し		○	○			
屋外設置機器の基礎	○					
同　上　仕上げ	○					
同　上　アンカーボルトセット及び位置出し		○	○			
屋外型受水槽・キュービクル等の架台・基礎	○					
機械ｽﾍﾟｰｽ等の床の溝・桝・蓋	○					
浴室等の床の排水溝・桝・蓋	○					
同　上　等の床の排水トラップ、グリストラップ			○			
電気室等床の配線ピット及び蓋	○					
OAフロア、床パネルの切込み加工	○					

項　　目	建築	電気	機械		別途	備　　考
ドアガラリ	○					
外壁の換気ガラリ　（ダクト接続用アングルピース共）	○					
同　上　取付け　（コーキングを含む）	○					
同　上　ダクト接続工事			○			
外壁の排気ガラリ　（ダクト接続用アングルピース共）	○					
同　上　取付け　（コーキングを含む）	○					
同　上　ダクト接続工事			○			
壁面のリターンガラリ　（ダクト接続用アングルピース共）	○					
同　上　取付け	○					
同　上　ダクト接続工事			○			
雨水排水竪管	○					
雨水排水管接続（横引き管）	○					
屋外排水管　（雨水）　（雨水桝を含む）			○			
雨水側溝、側溝に接続する桝			○			
同　上　（汚水）　（汚水桝を含む）			○			
同　上　（雑排水）　（雑排水桝を含む）			○			
据え付け流し　（既製品）　（据え付けを含む）	○					
同　上　排水金物			○			
同　上　接続工事			○			
同　上　給水給湯工事　（接続共）			○			
造り付け流し	○					
同　上　排水金物　（オーバーフロー付）			○			
同　上　排水金物　（オーバーフロー無）			○			
同　上　接続工事			○			
同　上　給水給湯工事　（接続共）			○			
同　上　プラスタートラップ			○			
換気フード			○			
同　上　接続工事			○			
消火器	○					
消火器ボックス	○					
化粧鏡　（既製品）			○			
洗面化粧台、同化粧鏡			○			
大型鏡、姿見鏡			○			
ベビーチェア、ベビーシート			○			
手摺、紙巻器類（トイレ内）			○			
衛生機器　（カラン共）			○			
同　上　接続工事			○			
同　上　排水金物			○			
ユニットシャワー、水栓	○					
同　上　配管、配線、換気扇工事		○	○			

項　　目	建築	電気	機械		別途	備　　考
電気錠扉	○					
同　上　一次側電気配管・配線及び接続		○				
同　上　主装置および二次側電気配管・配線及び接続	○					
案内板・掲示板・看板等	○					
防煙ダンパ及び温度ヒューズ付防煙ダンパ			○			
同　上　動作用煙感知器及び電気配管・配線・接続		○				
同　上　動作表示及び電気配管・配線・接続		○				
同　上　遠方操作用電気配管・配線・接続		○				
同　上　制御盤		○				
同　上　制御盤の一次側電気配管・配線及び接続　（予備電源共）		○				
空調設備の制御盤			○			
同　上　一次側電気配管・配線及び接続		○				
同　上　遠方操作用機器			○			
同　上　遠方操作用機器の取付け			○			
同　上　遠方操作用電気配管・配線及び接続			○			
自動制御機器の計装盤			○			
同　上　一次側電気配管・配線及び接続　（電源供給）		○				
自動制御用電気配管・配線及び接続			○			
空調機器の一次側電気配管・配線及び接続		○				
ファンコイルユニットのリモートスイッチの機器取付け・電気配管			○			
・配線及び接続　（但し機器は別途）						
セパレート型空調機の二次側電気配管・配線及び接続			○			
空調機器のドレン排水　（最寄り会所への接続を含む）			○			
ブラインド					○	
カーテン					○	
カーテンレール					○	
ブラインドボックス	○					
手摺	○					
ロールスクリーン					○	
消火設備						
同　上　据付			○			
同　上　一次側電気配管・配線及び接続　（電源供給）		○				
同　上　二次側電気配管・配線及び接続			○			

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀　温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	工事区分表	－	令和8年03月

Number A-44

工事名	富士見市中央防災センター建設設計業務	工事

特記仕様書（構造関係）

Ⅰ　建物概要

1．主要用途　防災備蓄倉庫兼会議スペース

2．工事場所　富士見市鶴瀬2丁目2317番2、鶴馬1丁目2264番2

3．棟名称及び構造・階数等

棟　S 造 1 階建て（地下 0 階・PH 0 階）

建築面積　659.90 ㎡

延べ面積　599.90 ㎡

床面積 1 階　599.90 ㎡

階　　㎡

階　　㎡

階　　㎡

階　　㎡

建物高さ 7.43 m　軒高さ 5.0 m

工事種別　・新築　・増築　・改築　・移転

増築計画　・有り　・(無し)

構造種別　地上 S 造　地下　RC 造

架構型式　X 方向　ラーメン　構造

Y 方向　ラーメン　構造

耐震構造方式　・耐震構造　・(免震構造)　・制振構造

耐震安全性の分類・Ⅰ類(Ⅰ=1.50)・(Ⅱ類(Ⅰ=1.25)・Ⅲ類(Ⅰ=1.00)

4．　構造計算条件

a　耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期	（0.18）秒	
	地盤種別	第（2）種地盤	
	地域係数	Z＝1.0	
計算ルート	X方向	※　許容応力度計算　（ルート 2 ）	
		・　その他	
		・	
	Y方向	※　許容応力度計算　（ルート 2 ）	
		・　その他	
		・	
設計層間変形角	X方向	一次設計	1/235
		二次設計	
	Y方向	一次設計	1/293
		二次設計	

b　耐風設計条件

基準風速（V0）	（32.0）m／秒
地表面粗度区分	・Ⅰ・Ⅱ・(Ⅲ)・Ⅳ

c　耐積雪設計条件

建設地の標高	（　　）m
多雪区域の指定	・有り　・(無し)
設計垂直積雪量	（30）cm

5．　地盤調査資料

調査内容	・サウンディング　（※(標準貫入試験)　・　）
	・土質試験　孔内水平載荷試験　平板載荷試験
	・
	・
調査位置ボーリング柱状図	構造図　（　／　図）　による
液状化対策の検討	・有り　(無し)

Ⅱ　建築工事仕様

（1）質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「埼玉県建築工事特別共通仕様書」及び国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。
なお、新たな版が出版され、当該基準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を決定する。
（2）標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。
（3）特記仕様書の表記
1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、○印の付いたものを適用する。◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
◎印と（※印の付いた場合は、共に適用する。○印と　※の場合は、・のみを適用する。
3）特記事項に記載の｛　．　．｝内の表示番号は、埼玉県建築工事特別共通仕様書の当該項目、当該図表を示す。
4）特記事項に記載の（　．　．）内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
5）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内は製品名を示す。
6）Gは「特定調達物品等」を表す。
7）注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

章	項目	特記事項
4 地業工事	1　支持地盤等	・杭基礎　(4.2.1)(4.3.45)(4.5.56) 支持地盤の位置及び種類（基礎ぐいの先端の位置含む） ・図示による（　　）　・ ・直接基礎 支持地盤の位置及び種類（基礎底部の位置含む） ・図示による（　　）　・ 試験掘り（根切り底の状態の確認等）　(3.2.1) ・行う（位置等　・図示による（　　）・　　） 長期設計支持力度　・（50）kN／㎡ ・地盤の載荷試験　（　　）箇所　(4.2.4) 載荷試験の方法 ・地盤工学会基準JGS 1521による　・ 試験の位置、載荷荷重 ※図示による（　　）　・ ・液状化対策 工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等　※図示
	2　既製コンクリート杭地業	種類　(4.3.3) ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭） ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭） ・外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭） SC杭の鋼管材料　SKK400　・SKK490 ・ 杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分、寸法、継手の箇所数等　(4.2.2)(4.3.3)

		種類	コンクリート強度(N/mm^2)	厚さ(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭									
	中杭									
	下杭									
本杭	上杭									
	中杭									
	下杭									

杭先端部形状　(4.3.3)
・開放形　・半開放形　・閉そく形

施工方法
・セメントミルク工法　(4.2.2)(4.3.14)
試験杭の位置　・図示による（　　）　・
掘削深さ　・図示による（　　）　・
杭の支持層への根入れ長さ
・図示による（　　）　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ寸法　・杭径の1／4かつ100㎜以下
杭の傾斜　1／100以内
根固め液及び杭周固定液の管理試験
※標準仕様書4．3．4（6）（コ）による　・

・特定埋込杭工法　(4.2.2)(4.3.15)
H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内α、β、γが
下記の値を採用できる工法
α＝（　　）、β＝（　　）、γ＝（　　）
工法
・プレボーリング拡大根固め工法
・中堀り拡大根固め工法
・
杭周固定液　・使用する　・使用しない
試験杭の位置　・図示による（　　）　・
杭の支持層への根入れ長さ
・評定等の評価内容による　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ寸法
・評定等の評価内容による　・杭径の1／4かつ100㎜以下
杭の傾斜
※評定等の評価内容による　1／100以内

杭の継手の工法　(4.3.36)(7.2.5)
・溶接継手
溶接材料
・標準仕様書7．2．5（1）、（2）による　・図示による（　　）
・
・機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　※評定等を受けた工法　・
検査　※評定等により定められた項目　・
施工　※評定等をされた施工管理基準による　・

杭頭の処理　(4.3.8)
・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による（　　）　・
杭頭の中詰め材料
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・

	3　鋼杭地業	鋼杭の材料　(4.4.235) ・ 材料、寸法、継手等

		種類	板厚(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

特定埋込杭工法　(4.2.2)(4.3.15)
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内α、β、γが
下記の値を採用できる工法
α＝（　　）、β＝（　　）、γ＝（　　）
工法
・中堀り拡大根固め工法
・
試験杭の位置　・図示による（　　）　・
杭の支持層への根入れ長さ
※評定等の評価内容による
杭の精度
水平方向の位置ずれ寸法
※評定等の評価内容による　・杭径の1／4かつ100㎜以下
杭の傾斜
※評定等の評価内容による　1／100以内

杭の継手の工法　(4.4.35)(7.2.5)
・溶接継手
形状
JIS A 5525 による　・
溶接材料
・標準仕様書7．2．5（1）、（2）による　・図示による（　　）
・機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　※評定等を受けた工法　・
検査　※評定等により定められた項目　・
施工　※評定等をされた施工管理基準による　・

杭頭の処理　(4.3.8)(4.4.6)
・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による（　　）　・
杭頭の中詰め材料　(4.3.8)
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・

	4　場所打ちコンクリート杭地業	工法　(4.5.146) ・アースドリル工法　（安定液　・使用する　・使用しない） ・リバース工法 ・オールケーシング工法　（孔内の水張り　・行う　・行わない） ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料　SKK400　SKK490　・ 鋼管径・板厚・長さ　※図示による（　　）　・ 併用する工法 ・拡底杭工法　（安定液　・使用する　・使用しない） 材料その他　(4.2.2)(4.5.4) 寸法等

	軸径(mm)	杭長(m)	セット数	長期設計支持力(kN／本)	備考
試験杭					
本杭					

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径（mm）	備考
・SD295		
・SD345		
・		

帯筋の加工及び組立
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）6．2帯筋（2）⑥（ロ））
・
鉄筋の最小かぶり厚さ
100㎜　・
鉄筋かごの補強
・図示による（　　）　・
組み立てた鉄筋の節ごとの継手
※重ね継手（重ね継手の長さ：標準仕様書　表5．3．2による）
・図示による（　　）　・
主筋の基礎底盤への定着長さ
・図示による（　　）　・
セメントの種類
※高炉セメントB種　G　・
コンクリートの設計基準強度　（　　）N／mm
コンクリートの種別
A種　B種　・評定等の評価内容による
スランプ
18cm　・21cm
構造体強度補正値
3N／mm^2　・評定等の評価内容による　・

試験杭の位置　・図示による（　　）　・
杭の支持層への根入れ長さ
・図示による（　　）　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・評定等の評価内容による　・杭径の1／4かつ100㎜以下
杭の傾斜
・評定等の評価内容による　1／100以内
孔壁の保持状況（孔壁測定）
測定箇所　・試験杭（　）箇所及び本杭（　）箇所　・
測定方法　・超音波測定器

	5　砂利地業	材料　・再生クラッシャラン　G　・切込砂利又は切込砕石　・　(4.6.23) 施工範囲　・基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・図示による（　　）　・ 厚さ　※60mm　・
	6　砂地業	材料　・シルト　(4.6.23) ・有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂 ・ 施工範囲　・図示による（　　）　・ 厚さ　※60mm　・
	7　捨コンクリート地業	材料　※普通コンクリート　・　(4.6.4)(6.14.18) 設計基準強度　※18N／mm2 スランプ　※15cmまたは18cm　・ 施工範囲　・基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下 ・図示による（　　）　・ 厚さ　※50mm（※平たん仕上げ　・　　）　・
	8　床下防湿層	材料　(4.6.25) ・ポリエチレンフィルム厚さ0．15㎜以上 範囲 ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く） ・
	9　地盤改良工法	種類及び施工方法等　・図示による（　　）　・ 六価クロム溶出試験　・行う

5 鉄筋工事	1　鉄筋	鉄筋の種類　(5.2.1)

種類の記号	呼び径（mm）	備考
・SD295	※　D16以下	
・SD345	※　D19以上	
・		
・		

	2　溶接金網	形状等　(5.2.2)

種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径（mm）	使用部位
・溶接金網			
・鉄筋格子			

	3　鉄筋の継手	鉄筋の継手方法等　(5.3.4)

部位	継手方法	呼び径（mm）
柱、梁の主筋	・ガス圧接　・機械式継手 ・溶接継手　・重ね継手	※　D19以上
耐力壁の鉄筋	・重ね継手	
基礎、副圧スラブ、土圧壁	・重ね継手　・ガス圧接	
その他の鉄筋（　　）	・重ね継手	

継手位置
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）5．1、6．1、7．1、7．3、8．1）
基礎梁主筋の継手位置　・図5．2　・図5．3　・図5．4
・図示による（　　）　・
柱及び梁の重ね継手の長さ
・図示による（　　）　・
耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ
※図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3（1）（ウ））
・図示による（　　）
柱及び梁の主筋で隣り合う継手を同一箇所に設ける部分の位置及び施工方法等
・図示による（　　）　・

	4　鉄筋の定着	鉄筋の定着長さ　(5.3.4) ・図示による（　　） 機械式定着工法 運用箇所 ・図示による（　　）　・ 種類 ・摩擦圧接継合　・螺合グラウト固定 ・鈑合グラウト固定　・ 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図（配筋標準図）による。これによらない箇所は図示による。
	5　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）	最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う）　(5.3.5) ※図示による（構造関係共通図（配筋標準図）4（1）表4．1） ・図示による（　　）　・ 柱及び梁の主筋にD29以上の使用 ・あり　適用箇所（　　） 主筋のかぶり厚さを径の1．5倍以上確保する 耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等） ・あり　適用箇所（　　） ・最小かぶり厚さに加える厚さ　（　　）㎜ ・
	6　各部配筋	※図示による　(5.3.7)
	7　圧接完了後の圧接部の試験	圧接完了後の圧接部の試験　(5.4.10) 外観試験 ※行う（全ての圧接部） 抜取試験 ※超音波探傷試験（試験方法　標準仕様書5．4．10（イ）（a）による） ・引張試験 試験方法　※標準仕様書5．4．10（イ）（b）による ・
	8　機械式継手	適用箇所　(5.5.35) ・図示による（　　）　・ H12建告第1463号に適合する性能 ・A級 種類 ・ねじ式鉄筋継手 充填方式 ・無機グラウト方式　・有機グラウト方式　・ ・端部ねじ加工継手 ・モルタル充填式継手 ・ 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法 鉄筋相互のあき ※評定等の評価内容による 品質の確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 施工完了後の継手部の試験 ・外観試験 試験対象　※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による　・ 試験方法 ・評定等の評価内容による　・ ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ロット ・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする ・ 試験の箇所数 ・1ロットに対して（　　）箇所 ・全数 試験項目　※挿入長さ 試験方法 ※JIS Z 3064（鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準）による 不合格となった場合の措置 ・
	9　溶接継手	適用箇所　(5.6.35) ・図示による（　　）　・ H12建告第1463号に適合する性能 ・A級 溶接継手の工法 ・図示による（　　）　・ 鉄筋相互のあき ・標準仕様書5．3．5（4）による ・評定等の評価内容による ・図示による（　　） 施工完了後の溶接部の試験 ・外観試験 試験対象　※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による　・ 試験方法 ・評定等の評価内容による　・ ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ロット ・1組の作業班が1日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする ・ 試験の箇所数 ・1ロットに対して（　　）箇所 ・全数 試験項目　※内部欠陥の検出 試験方法 ※JIS Z 3063（鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準）による 不合格となった場合の措置 ・

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀 温

Project　富士見市中央防災センター建設工事

Index　構造設計特記仕様書（1）

Scale　－

設計年月　令和8年03月

Number　S-01

6 コンクリート工事

1 コンクリートの種類等

類別 (6.2.1)
※Ⅰ類（ＪＩＳ Ａ 5308 への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（Ⅰ類以外でＪＩＳ Ａ 5308 に適合したコンクリート）

普通コンクリート (6.2.1)(6.2.4)

設計基準強度（N/mm²）	気乾単位容積質量（t/m³）	スランプ	適用箇所
・24	2．3程度	・15 又は18 ・18	
・		・	
・		・	
・		・	
・		・	

構造体強度補正値（Ｓ） (6.3.2)
※標準仕様書 表6．3．2による
補正値Ｓ＝3（ 月 日～ 月 日、 月 日～ 月 日）
Ｓ＝6（ 月 日～ 月 日、 月 日～ 月 日）
・

2 セメント

種類 (6.3.1)
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又は
フライアッシュセメントＡ種
適用箇所（※下記以外全て ・ ）
普通ポルトランドセメントの品質は、ＪＩＳ Ｒ 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352Ｊ/ｇ以下、かつ28日目で 402Ｊ/ｇ以下のものとする。
・高炉セメントＢ種 G
適用箇所（1FLより下部（立上り部含む） ・ ）
・フライアッシュセメントＢ種 G
適用箇所（・ ）
・

3 骨材

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
※Ａ ・Ｂ（コンクリート中のアルカリ総量が 3．0 kg/m^u3 以下）

4 混和材料

・混和剤 (6.3.1)
混和剤の種類
※標準仕様書6．3．1（4）（a）による
・混和材
混和材の種類
※標準仕様書6．3．1（4）（b）による

5 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地

打継ぎの位置 (6.6.4)
梁及びスラブ
※スパンの中央又は端から1／4の付近
・図示による（ ） ・
柱及び壁
※スラブ、壁梁又は基礎の上端
・図示による（ ） ・

目地の寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
・標準仕様書 9．7．3（1）（ｱ）による
※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する
・図示による（ ） ・

ひび割れ誘発目地の位置、形状 (6.8.1)(11.1.3)
・図示による（ ） ・

6 湿潤養生

湿潤養生の期間 (6.7.2)
・セメントの種類が普通エコセメントの場合 （ ）日

7 構造体コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2)

種別	適用箇所
・Ａ種	※図示による（ ）
・Ｂ種	※図示による（ ）
・Ｃ種	※図示による（ ）

コンクリートの仕上りの平たんさ

種別	適用箇所
・ａ種	※図示による（ ）
・ｂ種	※図示による（ ）
・ｃ種	※図示による（ ）

8 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

打増し厚さ (6.8.1)
・打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）
20㎜
・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
10㎜ 20㎜
・外装タイル後張り面の打増し処理
20㎜
打増し範囲
・図示による（ ）

9 型枠

せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
・合板（※12㎜ ・ ）G
コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。
・断熱材を兼用した型枠の使用
適用箇所 ・図示による（ ） ・
・ＭＣＲ工法用シートの使用
適用箇所 ・図示による（ ） ・
打増し厚さ 20mm ・
打増し範囲 ・図示による（ ） ・
スリーブの材種・規格等
・図示による（ ） ・

存置期間及び取外し (6.8.4)
※標準仕様書6．8．4による
・普通エコセメントの場合（※図示による（ ） ・ ）

10 軽量コンクリート

適用箇所 (6.10.12)
・図示による（ ） ・
種類
1種 2種
気乾単位容積質量
※標準仕様書 表6．10．1による ・
スランプ
※21㎝

11 寒中コンクリート

適用期間（ 月 日～ 月 日） (6.11.12)
構造体強度補正値(S)を積算温度を基に定める場合
・図示による（ ）、S＝（ ）・
(6.12.2)

12 暑中コンクリート

適用期間（ 月 日～ 月 日）
構造体強度補正値(S)
※6N/mm^u2 ・図示による（ ）、S＝（ ）・

13 マスコンクリート

適用箇所 (6.13.12)
・図示による（ ） ・
セメントの種類
・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
・高炉セメントB種 フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント
混和材料の適用
・あり（・標準仕様書6．13．2（2）（ｱ）による ・標準仕様書6．13．2（2）（ｲ）による
・ ）
スランプ
※15㎝
構造体強度補正値(S)
※標準仕様書書6．13．1による ・

14 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.14.1)
※普通コンクリート ・
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又は
フライアッシュセメントＡ種
・高炉セメントＢ種 G
・フライアッシュセメントＢ種 G
設計基準強度 ※18（N/mm2）
スランプ ※15cm又は18cm ・
適用箇所
※標準仕様書6．14．1（4）による箇所 ・図示による（ ）

15 コンクリートの単位水量測定

実施要領
（1）単位水量の測定は、150m^u3に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
（2）単位水量の上限値は、標準仕様書6．3．2（4）（c）による。
（3）単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1）測定した単位水量が、計画調合書の設計値（以下、「設計値」という。）±15kg/m3の範囲にある場合はそのまま施工する。
2）測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m3 の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m3 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
3）設計値±20kg/m3 を超える場合は、生コンを打込ますに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m3 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
4）3）の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
（4）単位水量管理についての記録を書面（計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する。
（5）単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

7 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)
建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた〈株）日本鉄骨評価センター及び（株）全国鉄骨評価機構（旧（社）全国鉄構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」により評価を受け、国土交通大臣から認定を受けた工場、又は同等以上の能力のある工場
評価の区分
・（ Ｒ ）グレード以上 ・指定しない
・監督員の承認する工場（標準仕様書7．1．1以外の適用範囲に限る）

2 施工管理技術者

配置する (7.1.34)

3 鋼材

種類等 (7.2.1)

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規格
BCR295	柱	・ＪＩＳ規格による
SS400	大梁、小梁	・ＪＩＳ規格による
SSC400	胴縁	・ＪＩＳ規格による
		・ＪＩＳ規格による

溶接亜鉛めっき工法の適用箇所
・
・

板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験 (7.2.10)
・行う 適用箇所（ ） ・行わない

4 高力ボルト

ボルトの種類 (7.2.2)
・トルシア形高力ボルト ＪＩＳ形高力ボルト
・溶融亜鉛めっき高力ボルト
・
ボルトのねじの呼び ・図示による（ ） ・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－1 縁端距離及びボルト間隔）
・

ＪＩＳ形高力ボルトの締付け（本締め） (7.4.7)
ナットの回転法の場合で、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量
・図示による（ ） ・

摩擦面の処理方法等 (7.4.2)(7.12.5)
溶融亜鉛めっき以外
※標準仕様書7．4．2（1）による ・
溶融亜鉛めっき面
・ブラスト処理（表面粗度50μm Rz以上）
・ブラスト処理以外の特別な処理方法
・図示による（ ） ・
すべり試験
・行う（※すべり係数試験 ・すべり耐力試験）
試験の方法等 ・図示による（ ） ・

5 普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)(7.5.2)
・標準仕様書 表7．2．3（ＪＩＳ附属書品）又は次による
ボルトの規格は ＪＩＳ Ｂ 1180 とする。
（ボルトの種類は、呼び径六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4．6又は4．8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、ＪＩＳ Ｂ 1181とする。ナットの種類は、六角ナットCとし、材料は鋼とする。）
・
ボルトのねじの呼び ・図示による（ ） ・
座金 ※ ＪＩＳ Ｂ 1256 による ・
戻り止め ※二重ナット ・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－1 縁端距離及びボルト間隔）
・

母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径 (7.3.8)
※ねじの呼び径＋1．0mm

6 アンカーボルト

・構造用アンカーボルト（ＪＩＳ Ｂ 1220） (7.2.4)(7.10.3)
種類 ABR400 ・ABR490 ・
・建方用アンカーボルト（ＪＩＳ Ｇ 3101）
種類 SS400 ・
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書 表7．2．3による ・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－1 縁端距離及びボルト間隔）
・

7 溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
・標準仕様書7．2．5（1）、（2）による
・標準仕様書7．2．5（1）、（2）以外の溶接材料
材料及び使用箇所 ・図示による（ ） ・

8 ターンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックル
※羽子板ボルト ・
建築用ターンバックル胴
※割枠式 ・
ねじの呼び
・図示による（ ） ・

9 床構造用のデッキプレート

材質、形状及び寸法 (7.2.7)(7.7.8)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・デッキプレート単独の構法			
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			

開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む）
・図示による（ ） ・

鉄骨部材への溶接方法
・図示による（ ） ・

耐火認定
・あり（耐火時間 ・図示による（ ） ・ ）

10 スタッド

頭付きスタッド（ＪＩＳ Ｂ 1198）の種類等 (7.2.8)(7.7.6)

呼び名	呼び長さ（mm）	適用箇所
・16		
・19		
・22		

スタッド溶接完了後、外観試験及び打撃曲げ試験を行う。

11 柱底均しモルタル

無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 (7.2.9)
※標準仕様書7．2．9（2）（ｱ）から（ｴ）による

12 製作精度

鉄骨の製作精度は、ＪＡＳＳ 6 付則6．鉄骨精度検査基準に加えて、次による。 (7.3.3)
通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
※H12建告第1464号第二号イ（2）による ・
アンダーカットの寸法
※H12建告第1464号第二号イ（3）による ・
食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・

13 溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験

試験の要領 (7.6.3)
・図示による（ ） ・

14 溶接接合

開先の形状 (7.6.4)
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－2 溶接継手の種類別開先標準）
・

鋼製エンドタブの切断する部分 (7.6.7)
切断する場所 ・図示による（ ） ・
切断範囲
・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から 5mm 以上残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。
・
切断面の仕上げ
・標準仕様書7．6．7（1）（ｶ）（b）②による ・

完全溶込み溶接
板厚が異なる場合の突合せ継手
低応力高サイクル疲労を受ける部位
・図示による（ ） ・

スカラップの形状
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－4（4）改良型スカラップ）
・

15 入熱、パス間温度の管理

適用箇所
・図示による（ ）

16 溶接部の試験

H12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 (7.6.12)
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3．5．2 受入検査による
※抜き取り検査②
・抜き取り検査①
・

ＪＡＳＳ 6 付則6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する確認方法等
・ＪＡＳＳ 6 10．4［受入検査］e．溶接部の外観検査（1）から（5）までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7．6．13による補修を行い、再試験する。
・

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
・工場溶接の場合
AOQL（%） ※4．0 2．5

節	・全て	・	・	・
検査水準	※第6水準	・	・	・

・全数 ・
・工事現場溶接の場合
※全数 ・

17 錆止め塗装

塗装の範囲 (7.8.2)
耐火被覆材の接着する面
・図示による（ ） ・
耐火被覆材の接着する面以外
※標準仕様書7．8．2（1）（ｱ）～（ｵ）による部分以外
・図示による（ ） ・

塗料の種別 (7.8.4)
・鉄鋼面の錆止め塗料
屋外
・標準仕様書 表18．3．1 A種 ・
屋内
・標準仕様書 表18．3．1（ ）種 ・
・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
・標準仕様書 表18．3．2（ ）種 ・
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る）
・標準仕様書 表18．3．1 A種
・耐火被覆材の接着する面へ塗装する場合の錆止め塗料
・標準仕様書 表18．3．1（ ）種 ・標準仕様書 表18．3．2（ ）種
・

18 耐火被覆

種類、材料、工法等 (7.9.28)

種類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付け	・乾式吹付ロックウール		
	・湿式ロックウール		
	・半乾式吹付ロックウール		
	・		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	―		
・耐火塗料	・		

19 建方精度

※ＪＡＳＳ6 付則6［鉄骨精度検査基準］付表5［工事現場］による (7.10.2)

20 アンカーボルト等の設置

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
・図示による（ ） ・

構造用アンカーフレームの形状及び寸法
・図示による（ ） ・

建方（及び付属鉄骨）用アンカーボルトの保持及び埋込み工法（標準仕様書 表7．10．1）
種別 ・Ａ種 ・Ｂ種

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別（標準仕様書 表7．10．2）
厚さ ・
種別 ※Ａ種 ・Ｂ種

21 溶融亜鉛めっき（基礎、主要構造部及びその他構造耐力上主要な部分に限る。）

種別等 (7.12.4)(表4.2.2)

亜鉛めっきの種別	材料	適用部位
・Ａ種	最小板厚3．0mm以上の形鋼、鋼板	
・Ｂ種	最小板厚3．2mm以上 6．0mm未満の形鋼、鋼板	
・Ｃ種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚2．3mm以上 3．2mm未満の形鋼、鋼板	

外観検査 ※行う ・行わない

22 梁貫通孔の補強

補強形式
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－6）
・
適用箇所
※図示による（ ） ・

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号 須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月 / Number
富士見市中央防災センター建設工事	構造設計特記仕様書（2）	－	令和8年03月 / S-02

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

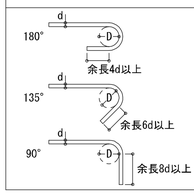
ｄ･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　　Ｄ･･･部材の成、又は鉄筋内法直径

＠･･･間隔　　ｒ･･･半径　　℄ ･･･中心線　　ℓo･･･部分間の内法距離　　ｈｏ･･･部材間の内法高さ

ＳＴ･･･あばら筋　　ＨＯＯＰ･･･帯筋　　Ｓ.ＨＯＯＰ･･･補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

［注］（１） dは呼び名に用いた数値とする。

（２） スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

（３） 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

（４） スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

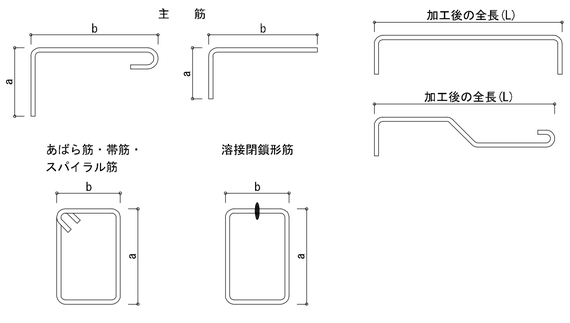
（５） 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（６） SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差　(mm)

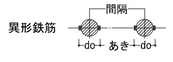
項目		符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋 D25以下	a，b	± 15
	主筋 D29以上D41以下	a，b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a，b	± 5
加工後の全長		L	± 20

［注］（１） 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

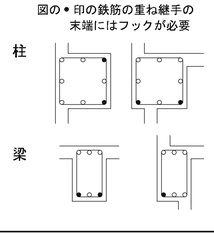
a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋

b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

c. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分および下端の両端にある場合の鉄筋（右図参照）

d. 単純梁の下端筋

e. その他、本配筋標準に記載する箇所



（５）定着長さ　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

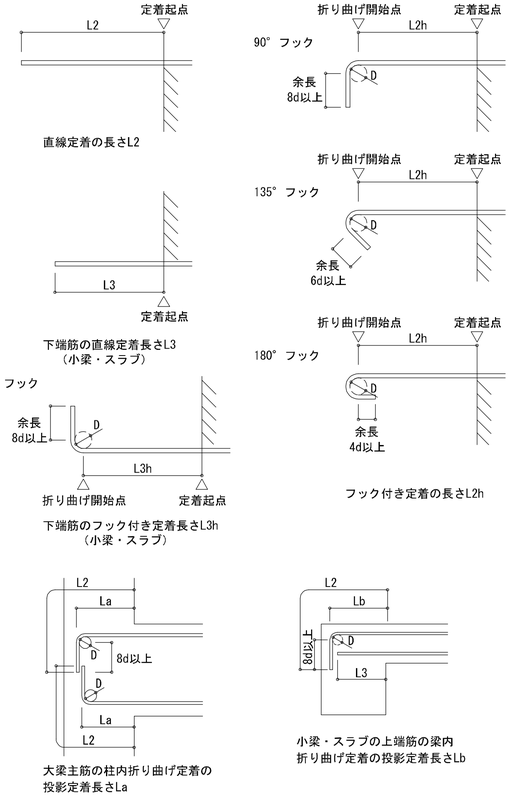
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ 一般 L2（フックなし）	一般 L2h（フックあり）	一般 La(3)	一般 Lb	小梁下端筋 L3（フックなし）	小梁下端筋 L3h（フックあり）	スラブ下端筋 L3（フックなし）
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	——	——	——	——
	30～36	40d	30d	25d	——			
	39～45	40d	30d	20d	——			
	48～60	35d	25d	20d	——			

［注］（１） フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。

（２） フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

（３） 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

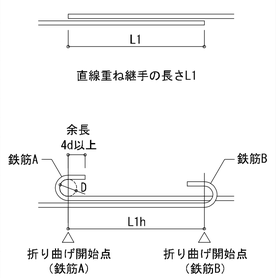
（４） 耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。



（６）継手

■重ね継手　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ L1（フックなし）	重ね継手長さ L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d



［注］（１） 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

（２） 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

（３） フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

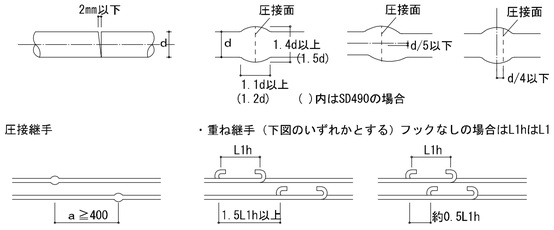
１．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。

２．D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。

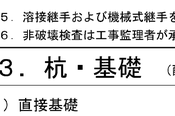
３．鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。

４．ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

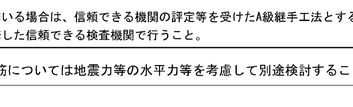
・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの）



・圧接継手



・重ね継手（下図のいずれかとする）フックなしの場合はL1hはL1



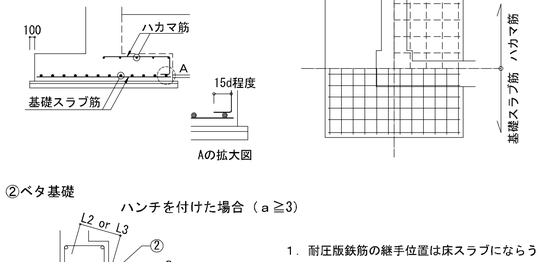
５．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。

６．非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

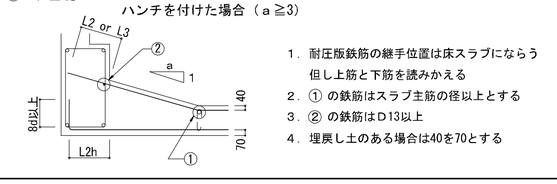
３．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

（１）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎



１．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上筋と下筋を読みかえる

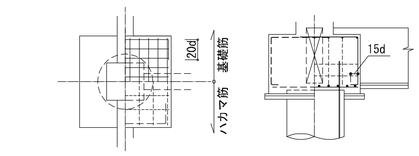
２．① の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

３．② の鉄筋はD13以上

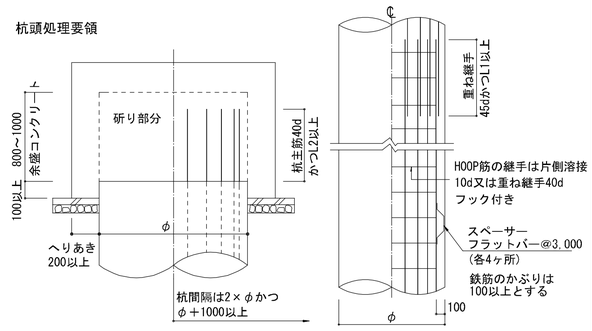
４．埋戻し土のある場合は40を70とする

（２）杭基礎

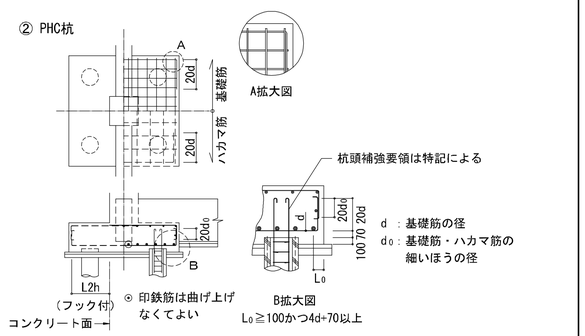
① 場所打ち杭



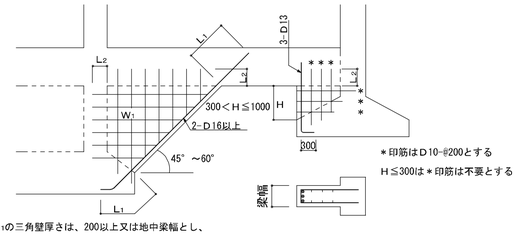
杭頭処理要領



② PHC杭



（３）基礎接合部の補強



一級建築士　第167863号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号 須賀 温

Project 富士見市中央防災センター建設工事
Index 鉄筋コンクリート構造標準（1）
Scale
設計年月 令和08年01月
Number S- 03

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

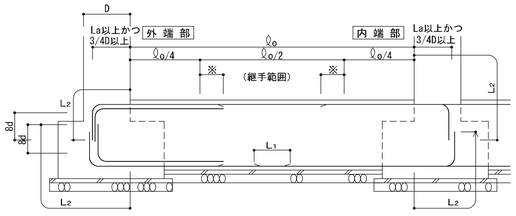
新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

４．地中梁

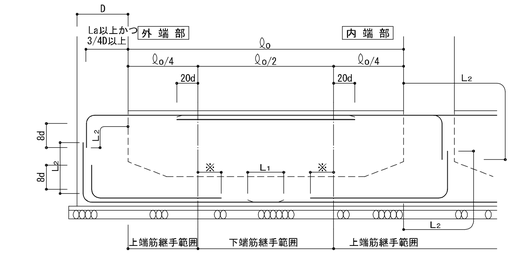
（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

（長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする。）



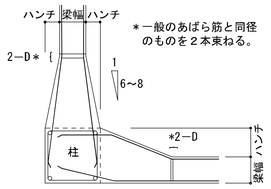
※主筋のカットオフ長さは lo/4 + 15d を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

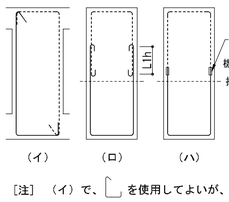


※主筋のカットオフ長さは lo/4 + 15d を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（３）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領　（４）せいの高い梁のあばら筋加工要領図



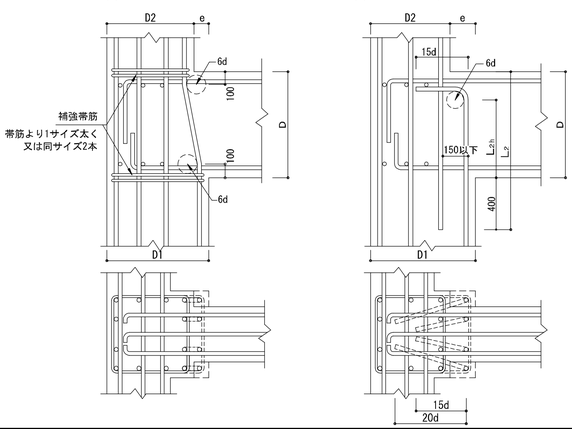
＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる。



［注］（イ）で、 を使用してよいが、 は使用してはいけない。

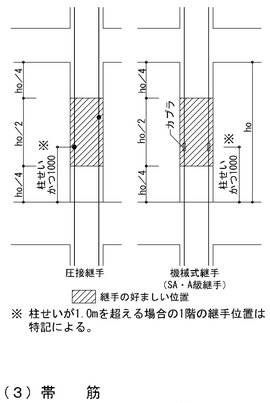
（ロ）では、あばら筋の継手は180°フック付きとする。

（６）絞り



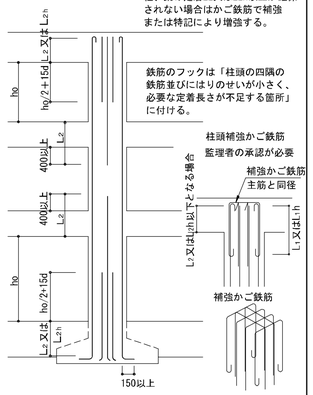
５．柱

（１）柱主筋の継手位置



※ 柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は特記による。

（２）柱主筋の定着

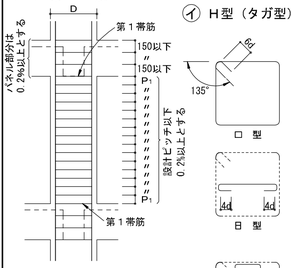


柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強または特記により増強する。

鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びにはりのせいが小さく、必要な定着長さが不足する箇所」に付ける。

柱頭補強かご鉄筋
監理者の承認が必要

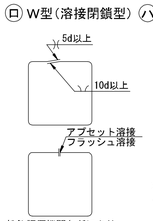
（３）帯　筋

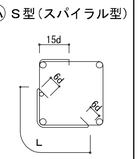


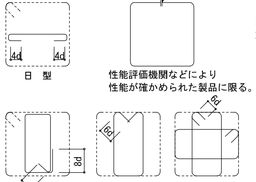
注 1. 第１帯筋は、梁づらに入れる。
注 2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさげる。
注 3. フックおよび継手の位置は、交互とする。

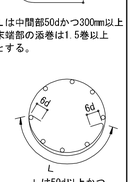
㋑ H型（タガ型）

㋺ W型(溶接閉鎖型)　㋩ S型(スパイラル型)

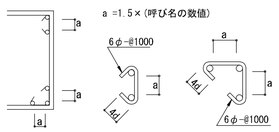




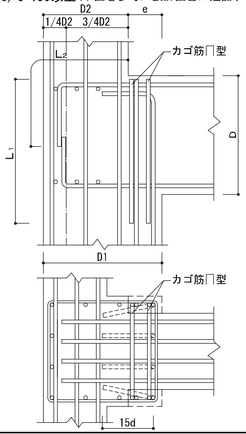




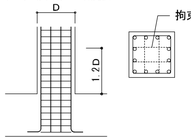
（４）寄せ筋の保持



（c）e=150以上（下図を参考に設計図書に追記する。）



（５）柱脚部の補強



1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する。

拘束筋は以下による。

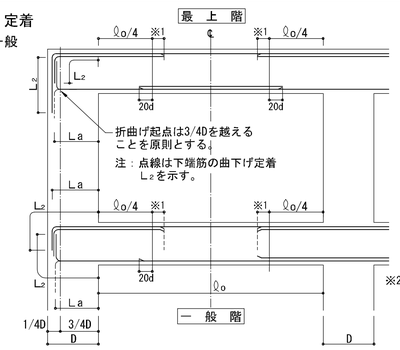
□帯筋と同径・同ピッチ、X・Y 2巻づつ

□図示による

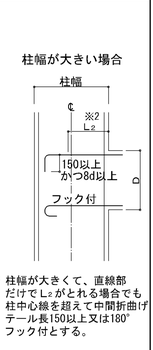
６．大梁

（１）定着

ⓐ一般



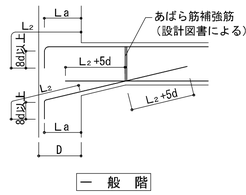
柱幅が大きい場合



※1 主筋のカットオフ長さは lo/4 + 15d を基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による。

※2 柱幅が大きくて、直線部だけでL2がとれる場合でも柱中心線を超えて中間折曲げテール長150以上又は180°フック付とする。

ⓑ ハンチがある場合



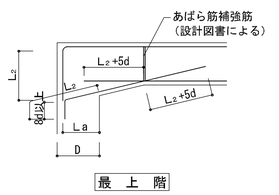
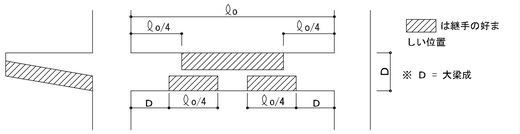


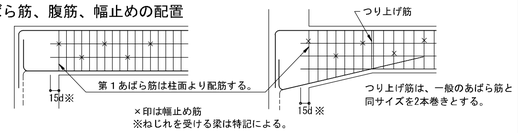
表6-1　特別なカットオフ長さを要する部材　(mm)

部 材 名	lo/4 に加える長さ	部 材 名	lo/4 に加える長さ

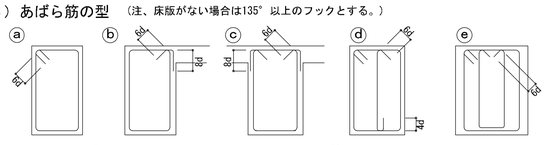
（２）大梁主筋の継手　（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。）



（３）あばら筋、腹筋、幅止めの配置



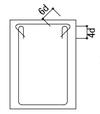
（４）あばら筋の型　（注、床版がない場合は135°以上のフックとする。）



（イ）原則として ⓐ のフック先曲とする。片側床版付（L型）梁で ⓑ 、両側床版付（T型）梁で ⓒ 又は ⓑ とすることができる。

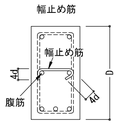
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、ⓑ にあってはスラブ付側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。



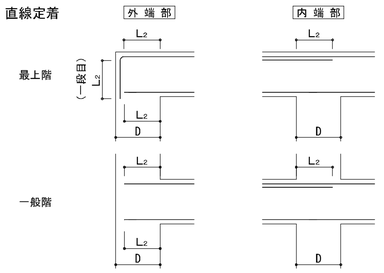
（５）幅止め筋の本数、加工

腹　筋	D＜600 不要	
	600≦D＜900	2−D10　1段
	900≦D＜1200	4−D10　2段
	1200≦D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

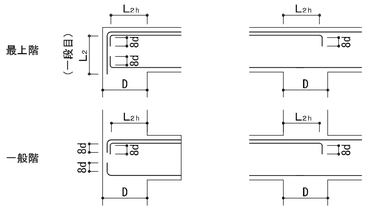


（６）梁主筋の定着

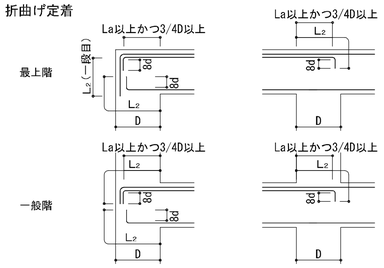
① 直線定着



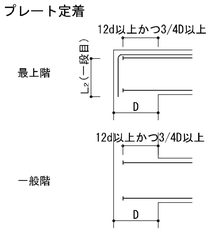
② 90° フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



※最上階 L型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。

※プレート定着には性能証明等を取得した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

一級建築士　第167863号
構造設計一級建築士　第737号　音野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330540号　須賀　温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　鉄筋コンクリート構造標準（2）
Scale
設計年月　令和08年01月
Number　S- 04

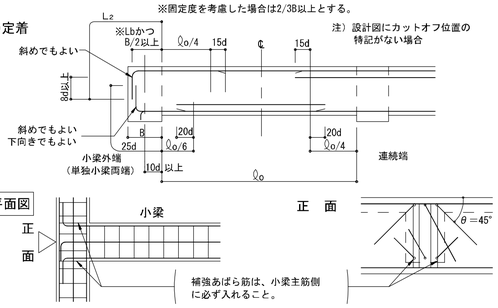
２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

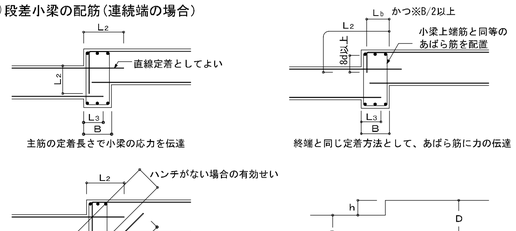
７．小梁、片持梁

（１）定着

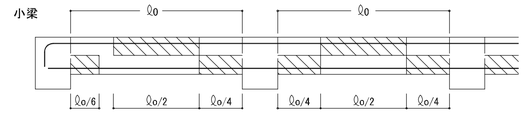
ⓐ 小梁の定着



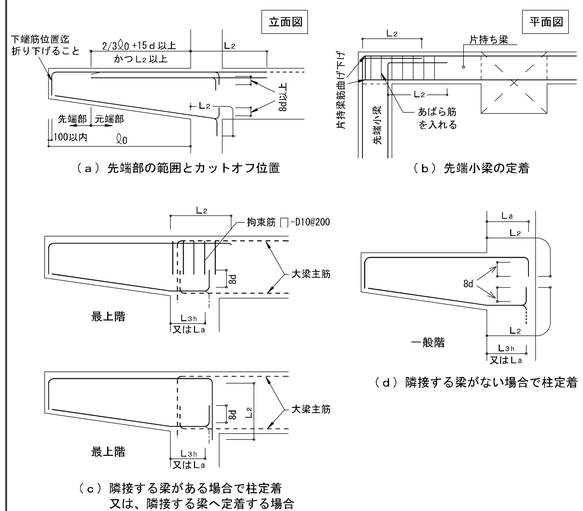
ⓑ 段差小梁の配筋（連続端の場合）



ⓒ 小梁筋の継手位置



ⓓ 片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は3/4D以上とすること。



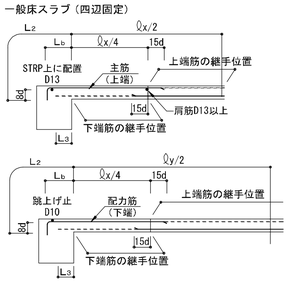
（ａ）先端部の範囲とカットオフ位置　（ｂ）先端小梁の定着

（ｃ）隣接する梁がある場合で柱定着又は、隣接する梁へ定着する場合　（ｄ）隣接する梁がない場合で柱定着

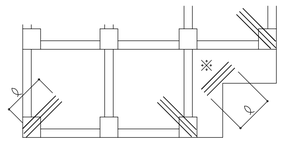
８．床　　版

（１）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）



（２）屋根スラブの補強

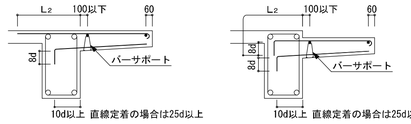


ⓐ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ₂=1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

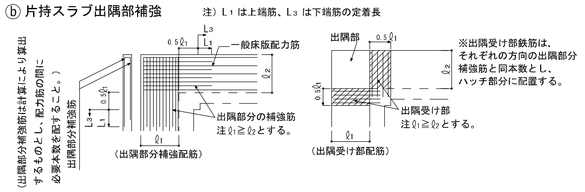
ⓑ ※の個所（入隅）は各階補強する。

（３）片持床スラブ定着及び出隅部補強

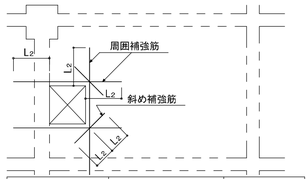
ⓐ 片持床スラブ定着



ⓑ 片持スラブ出隅部補強　注）L₁ は上端筋、L₃ は下端筋の定着長



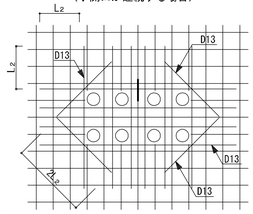
（４）床版開口部の補強（開口の径600以下程度の場合）



床版厚さD	周　囲	斜　め
D ≦ 150	上・下各 2-D13	1-D13
150 ＜ D ≦ 300	上・下各 2-D13	1-D13
300 ＜ D ≦ 500	上・下各 2-D19	1-D16

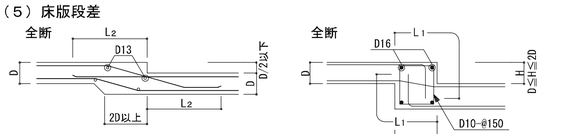
周囲、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同径、同本数鉄筋を開口横に配筋する。

（小開口が連続する場合）



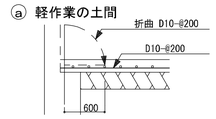
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。
孔と孔のへりあき100以上

（５）床版段差

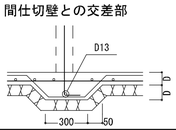


（６）土間コンクリート

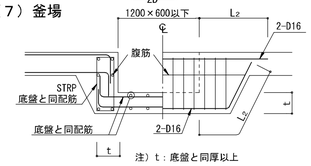
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交差部



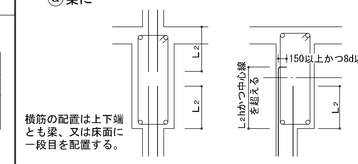
（７）釜場



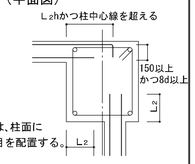
９．壁

（１）定着

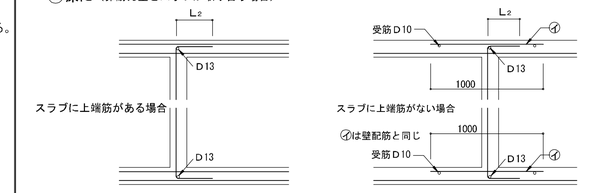
ⓐ 梁に



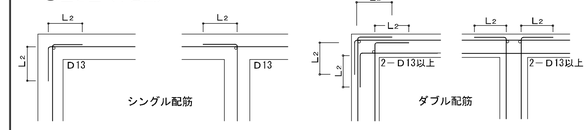
ⓑ 柱に（平面図）



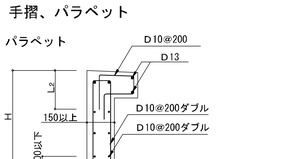
ⓒ 床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）



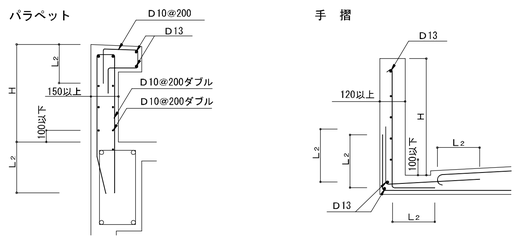
ⓓ 壁と壁（平面図）



（２）スリット部（設計図に記入のあるとき）

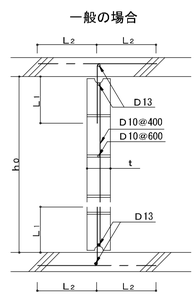


（３）手摺、パラペット



（但し、H＞８００以上の場合、設計図による）

（４）コンクリートブロック帳壁

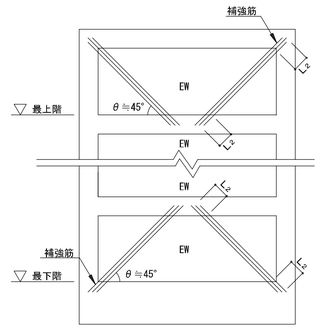


注）ho≦25ｔかつ3500以下とする。但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦ｈ≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

（５）耐震壁端部の納まり



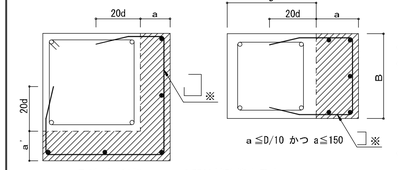
（６）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
EW180～200の場合4-D13@100シングル
EW250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10．柱、梁増打コンクリート補強（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（１）柱

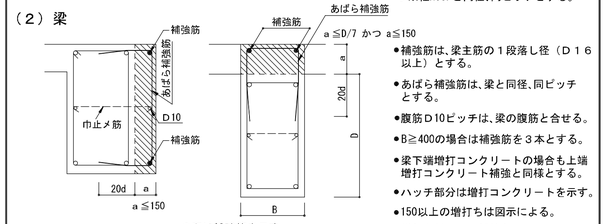


- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- ハッチ部分の面積　A ㎝²

補強タテ筋	
A＜500	500≦A＜1000
3−D16	4−D16

- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。
- ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

（２）梁

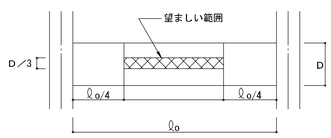


- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（Ｄ１６以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋Ｄ10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- B≧400の場合は補強筋を３本とする。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。

11．梁貫通孔補強　（開口補強筋については計算により確認すること）

（１）設置可能範囲

梁端部（スパンℓ／１０以内かつ２Ｄ以内）は原則として避ける



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２）既製品（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

□製品名

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

一級建築士　第167863号
構造設計一級建築士　第737号　音野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330540号　須賀 温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　鉄筋コンクリート構造標準（3）
Scale
設計年月　令和08年01月
Number　S- 05

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）材料及び検査

(a) 新構造設計特記仕様その1による。
(b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。
但し、ベースプレートの厚さは除く。
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。

（２）工作一般

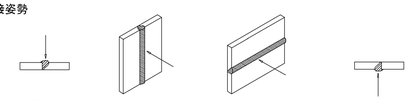
(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

（３）高力ボルト接合

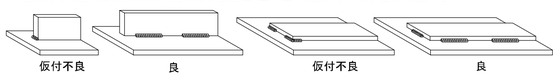
(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（４）溶接接合

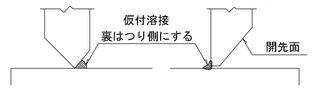
(a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(c) 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A　(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアーガウジング機(直流)　(ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) セルフシールドアーク溶接機　(ヘ) 溶接棒乾燥器
(d) 溶接方法
被覆アーク溶接(アーク手溶接、ＭＣ、ＭＰ)　ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、ＧＣ、ＧＰ)
セルフシールドアーク溶接（半自動溶接、ＮＧＣ）　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）
(e) 溶接姿勢



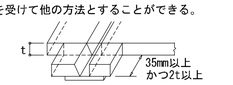
(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
(イ) 仮付位置
組立溶接は溶接の始,終端,隅角部など強度上,工作上,問題となり易い箇所は避ける。



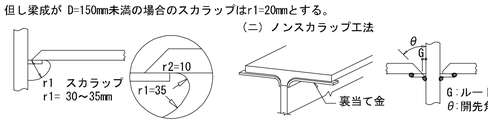
（ロ）完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



(g) 溶接施工
(イ) エンドタブ
・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
・エンドタブの材質は,母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。
・エンドタブの長さは、ＭＣ:35mm以上
ＮＧＣ,ＧＣ:40mm以上とし特記のない場合は、
溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
グラインダー仕上げとする。



・プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。
（ロ）裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
（ハ）スカラップ半径はr1=30～35mmとr2=10mmのダブルアールとする。
但し梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr1=20mmとする。



（ニ）ノンスカラップ工法

（ホ）裏はつり
規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。
（ヘ）現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う。

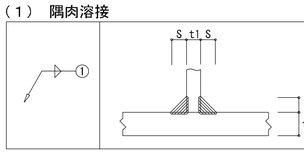
（５） 塗 装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

２．溶接規準図 （注）f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長

（単位mm）

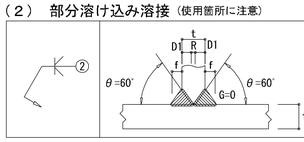
（１） 隅肉溶接



t≦16				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする。
・tはt1, t2の小なる方とする。
余盛は(1+0.1S)mm以下とする。
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

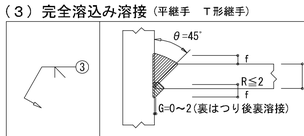
（２） 部分溶け込み溶接（使用箇所に注意）



R≦2
t/4 ≦ f ≦ 10
t≦t1

t	16＜t≦40
溶接姿勢	F.V

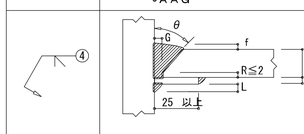
（３） 完全溶込み溶接（平継手　Ｔ形継手）



t/4 ≦ f ≦ 10

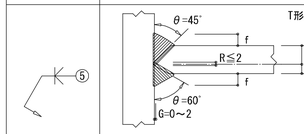
t	6≦t≦40
溶接姿勢	F.V

∘ＡＡＧ



t/4 ≦ f ≦ 10

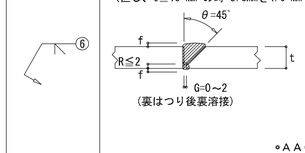
t mm	MC θ	MC G	MC t1	MC L	NGC θ	NGC G	GC θ	GC G	GC t1	GC L
6≦t＜12	45°	6	6	5	45°	6	45°	6	6	5
12≦t≦16	35°	9	9	8	45°	6	45°	6	9	8
16≦t≦40	35°	9	9	8	35°	9	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V									



t/4 ≦ f ≦ 10

のど厚t mm	余盛の高さmm
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
19＜t≦40	4
溶接姿勢	F.V

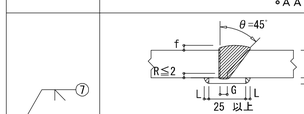
∘ＡＡＧ



0 ＜ f ≦ 3.0
（但し、t≧15 mm の時 3.0mmを4.0 mm とする）
t2/4 ≦ a ≦ 10
（平継手で板厚が異なる時）

t	6＜t≦40
溶接姿勢	F.V

∘ＡＡＧ

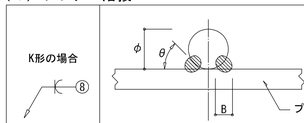


0 ＜ f ≦ 3.0
（但し、t≧15 mm の時3.0mmを4.0mmとする）

	MC θ	MC G	MC t1	MC L	NGC θ	NGC G	NGC t1	NGC L	GC θ	GC G	GC t1	GC L
t mm												
6＜t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5	45°	6	9	5
19＜t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V											

（４）フレアー溶接

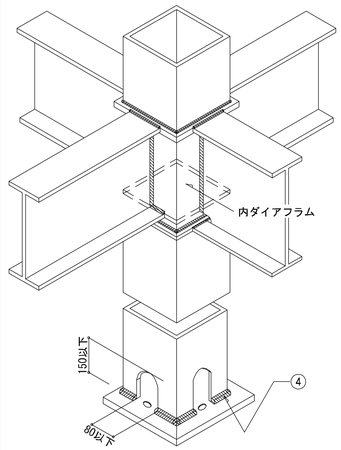
K形の場合

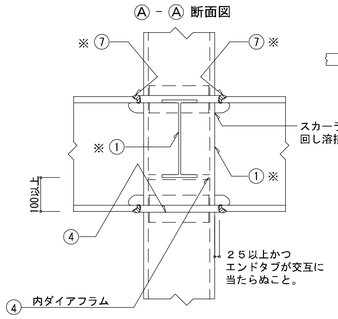


寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

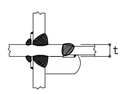
・フレアー溶接長は,鋼板に接する全長とする。
・9 mm～16 mmは1パス以上,19 mm以上は2パス以上とする。
溶接棒角度θは30° ～40° とする。

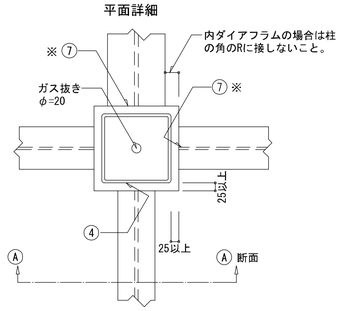
●BOX型（通しダイアフラムの場合）





⑦ ※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接すること。





ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
〈 柱材料:BCR295,BCP325を使用する場合 〉
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C　SN490B
柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C　を使用する。

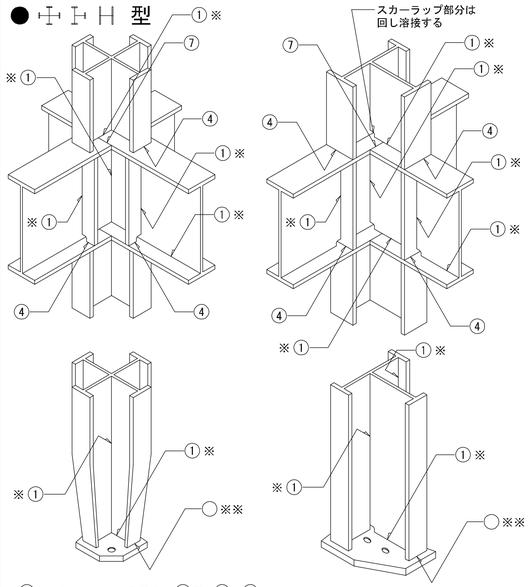
① ※ t＞16 mm 場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。

●鋼材種別による溶接条件　溶接材料と入熱量・パス間温度

鋼材の種類		規格	溶接材料	入熱(kJ/cm)	パス間温度(℃)
一般鋼材	400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11,YGW15	40 以下	350 以下
			YGW18,YGW19	30 〃	450 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30 〃	450 〃
		JIS Z 3211	E43xx,E49xx	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11,YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18,YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30 〃	250 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
		JIS Z 3211	E49xx	40 〃	350 〃
冷間成形角形鋼管	400N級炭素鋼 BCR295,BCP235 STKR400	JIS Z 3312	YGW11,YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18,YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼 BCP325 STKR490	JIS Z 3312	YGW18,YGW19	30 〃	250 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

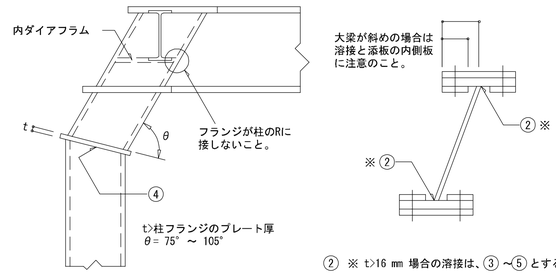
注）ロボット溶接の場合（一社）日本ロボット工業会による建築ロボットの型式認証条件に従うこと。
490N/mm² を超える部材は適合する溶着金属を使用すること。
ガスシールドアーク溶接法による完全溶け込み溶接部に適用する。

●Ｈ型



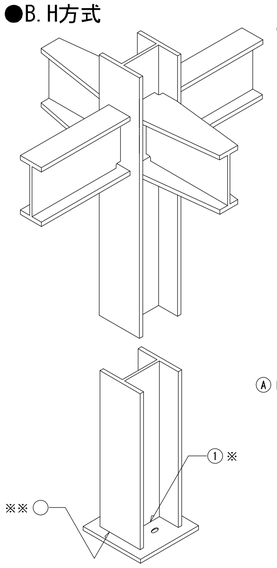
① ※ t＞16 mm 場合の溶接は、②又は③～⑤とする。
○ ※※ 印は設計者が記入すること。

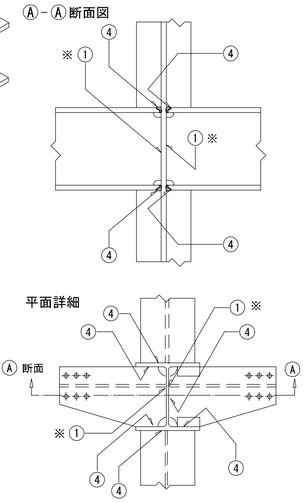
● 柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合



② ※ t＞16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

●B.H方式





① ※ t＞16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

一級建築士　第167860号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10084
Registered Architect 第330540号 須賀 温

Project 富士見市中央防災センター建設工事
Index 鉄骨構造標準図（1）
Scale
設計年月 令和03年01月
Number S- 06

鉄 骨 構 造 標 準 図 （ 2 ）

1. 継ぎ手規準図、その他

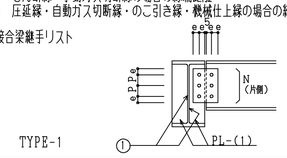
（1）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ（P）　　ボルト穴径・最小縁端距離（mm）

呼び		ボルト穴径	最小縁端距離（e）				ピッチ(P)	
			(1)	(2)	(3)	(2)X3)の標準	最小	標準
	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト	M16	21(16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25(20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27(22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29(24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M34以上	呼び径+5		9d/5	4d/3			

（ ）内はねじ切り加工をする場合

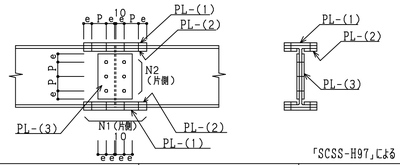
［注］（1）引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（2）せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（3）圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（2）ピン接合梁継手リスト



符　号	タイプ	部　材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
J30	2	H-150x 75x 5 x 7	6		2-16
J31	2	H-175x 90x 5 x 8	6		2-16
J32	2	H-200x100x5.5x 8	6		2-16
J33	2	H-250x125x 6 x 9	6		3-16
J34	2	H-300x150x6.5x 9	9		3-20
J35	2	H-350x175x 7 x11	9		3-20
J36	2	H-400x200x 8 x13	9		4-20
J37	2	H-450x200x 9 x14	12		5-20
J38	2	H-500x200x10 x16	12		5-20
J39	2	H-600x200x11 x17	12		6-20

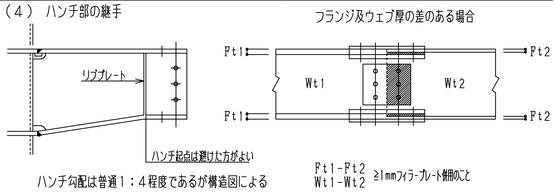
（3）剛接合継手リスト



注）端部をBHとする場合の厚板は設計図に依る　　「SCSS-H97」による

符　号	部　材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
J00	H-200x100x5.5x8	16x290		2x2-16	6x170	2-16
J01	H-250x125x6x9	12x410		3x2-16	6x170	2x2-16
J02	H-300x150x6.5x9	9x290	9x60	2x2-16	6x200	3-16
J03	H-350x175x7x11	9x290	9x70	2x2-20	6x260	3-20
J04	H-400x200x8x13	9x410	9x80	3x2-20	9x260	4-20
J05	H-450x200x9x14	12x410	12x80	3x2-20	9x320	5-20
J06	H-500x200x10x16	12x410	12x80	3x2-20	9x320	5-20
J11	H-244x175x7x11	9x290	9x70	2x2-20	9x140	2-20
J12	H-294x200x8x12	9x410	9x80	3x2-20	9x200	3-20
J13	H-340x250x9x14	12x410	12x100	3x2-22	9x200	3-22
J14	H-390x300x10x16	12x440	12x110	4x2-22	9x260	3-22
J15	H-440x300x11x18	12x440	12x110	4x2-22	9x320	5-22
J16	H-488x300x11x18	12x440	12x110	4x2-22	12x320	5-22
J17	H-588x300x12x20	12x440	16x110	4x2-22	9x440	7-22
J18	SH-600x300x12x28	19x620	22x110	6x2-22	9x440	7-22

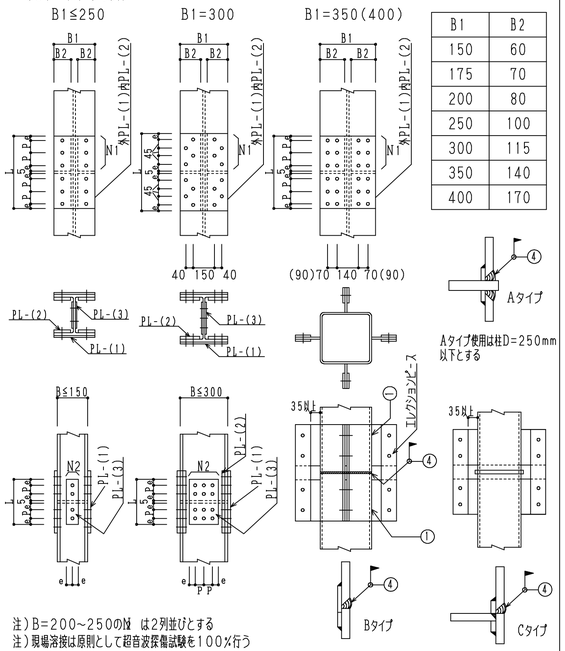
（4）ハンチ部の継手



ハンチ勾配は普通1：4程度であるが構造図による

Ft1-Ft2 ≧1mmフィラープレート開閉のこと
Wt1-Wt2

（5）柱継手リスト



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	115
350	140
400	170

注）B=200~250の場　は2列並びとする
注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う

符　号	部　材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径

（6）鉄筋ブレース（JIS規格品とする･･･JIS5540･･･1982/5541･5542･･･1993）

（a）羽子板ボルト

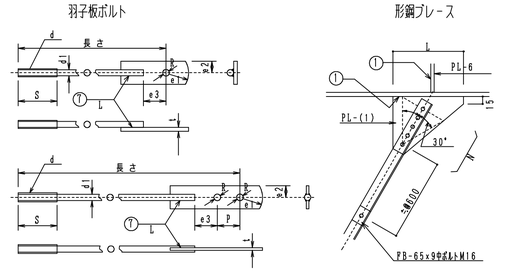
ねじの呼び（d）		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d1	最　大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最　小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ S		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差+0.-0.5mm R		13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき（最小）(2) e1		35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき（最小）(1) e2	22	28	28	34	34	38	38
	板　厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき（最小）(1) e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板　厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト縁から取付ボルト穴ものあさ（最小） e3		47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ（最小） L		40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト	種　類	JISB 1186 2種高力ボルト(F10T)又はJISB 1180 中8g10.9						
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本　数	1	1	1	1	1	1	2

注（1）e1,e2が確保されていれば形状は自由で良い
（2）羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

（b）形鋼ブレース

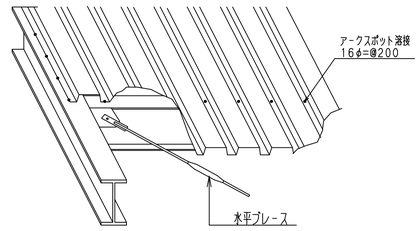
符　号	部　材	PL-(1)	N-径	L

羽子板ボルト　　形鋼ブレース

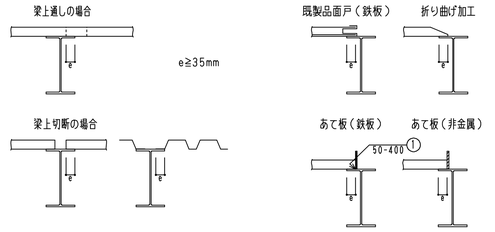


（7）デッキプレート　（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）

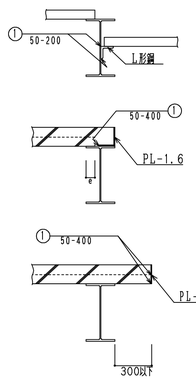
梁との溶接およびコネクター



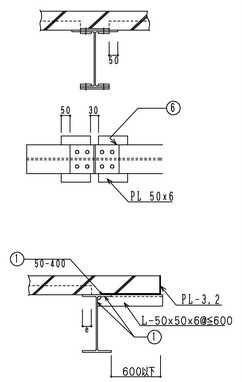
受梁へのかかり寸法及び端部処理



スラブ端部の補足材

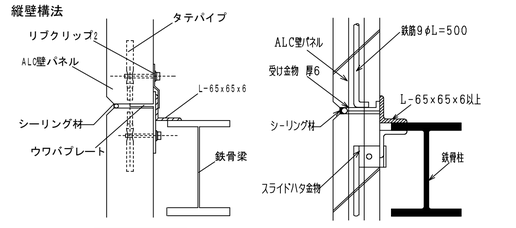


補足受材



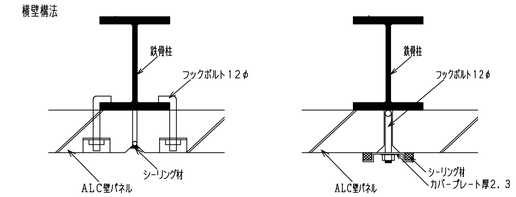
（8）ALC板取付要領

縦壁構法



□ ロッキング工法　　□ スライド構法

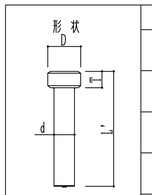
横壁構法



□ ボルト止め構法　　□ カバープレート構法

（9）頭付きスタッド（JIS 1198）

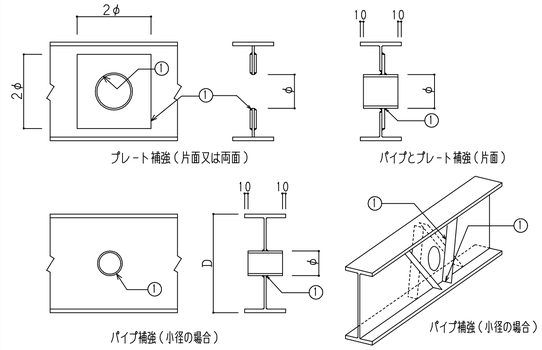
スタッド材の標準形状・寸法



スタッド材				
呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50,80,100,130
φ16mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80,100,130
φ19mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80,100,130,150
φ22mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100,130,150

（10）梁貫通補強

- 計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い。
- 梁端部（スパンのL/10以内かつ2D以内）は避ける。
- φ≦0.4D



（11）その他

プレート補強の板厚

スリーブ径	補　強　板
φ≦0.15D	補強板不要
φ≦D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦D/3	Web板厚×1.2倍以上（片面）
φ≦0.4D	Web板厚以上（両面）

一級建築士　第167860号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10084
Registered Architect　第330548号　須賀　温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　鉄骨構造標準図（2）
Scale
設計年月　令和08年01月
Number　S- 07

ジャストベース（ＪＥⅡ型）柱脚工法設計施工標準図

（財）日本建築センターＢＣＪ評定－ＳＴ０１５３－０８（令和４年１０月２１日付）　　（角形鋼管仕様）

資料番号：ＪＢ（ＪＥⅡ）－０４－０１

適用条件

- ●柱材：角形鋼管（Ｆ値 235N/mm2）－ STKR400, BCP235, SHC400B・C
  （Ｆ値 295N/mm2）－ BCR295, JBCR295, TSC295
  （Ｆ値 325N/mm2）－ STKR490, BCP325, BCP325T, SHC490B・C
- ●基礎コンクリート：普通コンクリート（21・24N/mm2）以上　30N/mm2以下
- ●鉄筋：異形鉄筋　SD295（D13, D16）　SD345（D19～D25）

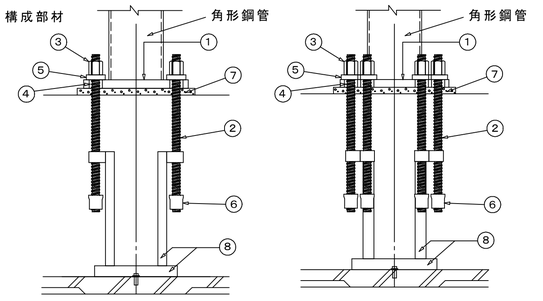
設計・施工

- ●柱脚の選定：別冊「ジャストベースカタログ」により設計者が選定する。
- ●ベースプレートの溶接：別冊「工場製作管理要領書」により鉄骨製作工場にて溶接を行う。
- ●現場施工：別冊「ジャストベース施工ガイド」によりジャストベース認定施工業者が行う。

コトブキ技研工業株式会社
広　島　TEL 0823-70-0721　FAX 0823-70-0722

１．柱脚構成部材及び基礎廻り標準図

１．１　構成部材



【アンカーボルト４本タイプ】　【アンカーボルト８本タイプ】

①	ベースプレート	⑤	座金
②	アンカーボルト	⑥	定着ナット及び固定用クサビ
③	ロックナット及び固定用クサビ	⑦	無収縮モルタル
④	ジャストリング	⑧	フレーム部材（テンプレート含む）

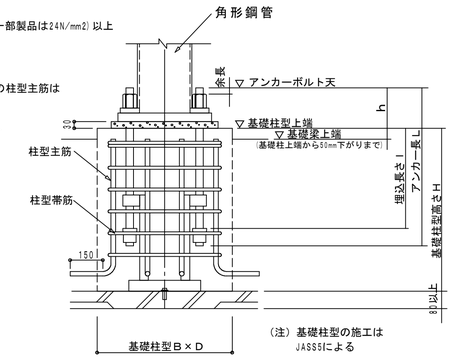
（注）１２本アンカーボルトタイプの図は省略

１．２　基礎廻りの標準図

※設計基準強度（Fc）は21N/mm2（一部製品は24N/mm2）以上30N/mm2以下の範囲です。

※ジャストベース（JEⅡ型）工法の柱型主筋は頂部フックが不要です。

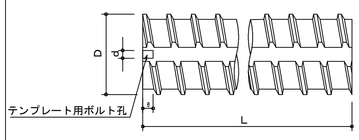
※トップフープはダブルフープ。



（注）基礎柱型の施工はJASS5による

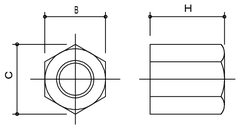
２．アンカーボルト・ロックナット・定着ナット・座金・ジャストリング

２．１　アンカーボルト（材質：ＪＢ-ＳＤ３９０・ＪＢ-ＳＤ４９０）



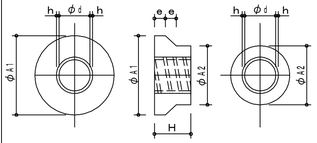
呼径	D	L	d	e
D29（SD490）	31.7	660	M8	20
D35（SD390）	38.1	720	M8	20
D35（SD490）	38.1	725	M8	20
D38（SD490）	41.9	785	M8	20
D41（SD490）	45.4	880	M8	20
D51（SD390）	57.5	990	M8	20

２．２　ロックナット（材質：Ｓ４５Ｃ　熱処理Ｈ）



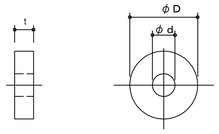
呼径	B	C	H
D29	46	53.1	56
D35	55	63.5	64
D38	60	69.3	64
D41	65	75.0	64
D51	80	92.4	76

２．３　定着ナット（材質：Ｓ４５Ｃ　熱処理Ｈ）



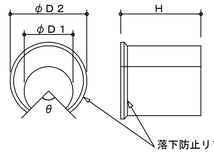
呼径	φA1	φA2	H	φd	h	e
D29	54	47	56	28.3	2.95	10
D35	64	58	64	34.3	3.30	10
D38	69	63	64	37.5	3.55	10
D41	74	69	64	40.3	3.65	10
D51	95	90	76	50.0	4.50	10

２．４　座金（材質：ＳＳ４００）



呼径	φD	φd	t
D29	74	34	19
D35	88	41	22
D38	94	45	25
D41	100	48	25
D51	119	59	28

２．５　ジャストリング（材質：Ｓ２５Ｃ又はＦＣＤ４５０－１０）

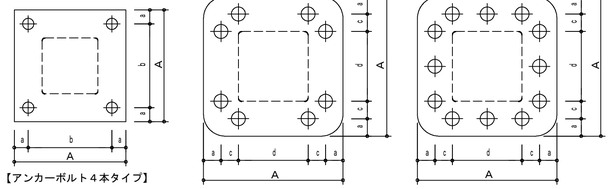


呼径	外リング		内リング		H	θ
	φD2	φD1	φD2	φD1		
D29	51.0	42.8	42.3	33.5	26	110
D35	59.0	49.8	49.2	40.0	32.40	110
D38	65.0	54.9	54.2	44.0	48	110
D41	69.0	58.8	58.0	47.5	56	110
D51	84.5	72.4	71.6	59.5	64.5	90

３．ベースプレート

３．１　ベースプレート（材質：ＳＮ４９０Ｂ又はＴＭＣＰ３２５Ｂ）

孔径φ（３．５C面取）　孔径φ（３．５C面取）　孔径φ（３．５C（２．５C）面取）
（2.5Cは51用）



【アンカーボルト４本タイプ】　【アンカーボルト８本タイプ】　【アンカーボルト１２本タイプ】

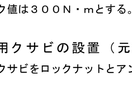
ジャストベース製品記号	タイプ	材質	t	A	a	b	c	d	φ	コーナーR
J150-12N	４本	SN490B	28	300	45	210	—	—	52	—
J175-12N	４本	SN490B	32	325	45	235	—	—	52	—
J200-09N	４本	SN490B	32	350	45	260	—	—	52	—
J200-12N	４本	SN490B	32	380	55	270	—	—	60	—
J250-09N	４本	SN490B	36	430	55	320	—	—	60	—
J250-12N	４本	SN490B	40	430	55	320	—	—	60	—
J250-16N	８本	SN490B	40	480	50	—	75	230	60	80
J300-09N	４本	SN490B	40	480	55	370	—	—	60	—
J300-12N	８本	SN490B	36	510	45	—	65	290	52	80
J300-16N	８本	SN490B	40	540	60	—	75	270	60	80
J300-19N	８本	TMCP325B	45	540	60	—	75	270	60	80
J350-12N	８本	SN490B	40	580	55	—	75	320	60	80
J350-16N	８本	TMCP325B	50	600	55	—	75	340	60	80
J350-19N	８本	TMCP325B	50	640	75	—	85	320	66	80
J350-22N	８本	TMCP325B	55	640	70	—	95	310	70	80
J400-12N	８本	SN490B	40	640	60	—	75	370	60	80
J400-16N	８本	TMCP325B	45	670	70	—	85	360	66	80
J400-19N	８本	TMCP325B	50	710	75	—	95	370	70	80
J400-22N	１２本	TMCP325B	60	710	70	—	85	400	66	80
J400-25N	１２本	TMCP325B	60	710	70	—	85	400	66	80
J450-16N	１２本	TMCP325B	50	710	65	—	85	410	66	80
J450-19N	１２本	TMCP325B	55	740	75	—	85	420	66	80
J450-22N	１２本	TMCP325B	60	760	80	—	95	410	70	80
J450-25N	１２本	TMCP325B	60	760	80	—	95	410	70	80
J500-19N	１２本	TMCP325B	55	800	80	—	95	450	70	80
J500-22N	１２本	TMCP325B	60	840	85	—	95	480	70	80
J500-25N	１２本	TMCP325B	65	840	85	—	105	460	85	80
J550-19N	１２本	TMCP325B	60	850	75	—	95	510	70	80
J550-22N	１２本	TMCP325B	65	920	75	—	95	580	70	80
J550-25N	１２本	TMCP325B	65	920	90	—	105	530	85	80

４．溶接施工

４．１　溶接

●角型鋼管のベースプレートへの溶接は突合せ溶接とする。
開先条件はＪＡＳＳ６に準じ下表による。

■溶接方法（突合せ溶接）　　突合せ溶接の開先標準

種類	図	柱部材の適用板厚 t（mm）	ルート間隔G（mm）		ルート面R（mm）		開先角度α1（度）	
			標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差
被覆アーク溶接		６以上	7	−2 ・ ＋∞	2	−2 ・ ±1	45	−2.5 ・ ＋∞
			9				35	
ガスシールドアーク溶接		６以上	6	−2 ・ ＋∞	2	−2 ・ ±1	45	−2.5 ・ ＋∞
			7				35	

※溶接姿勢は下向きを原則とする

４．２　溶接部の検査

●超音波探傷検査とし、合否の判定は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」による

５．現場施工

特記以外は元請会社の施工とする。

５．１　捨てコンクリート地業（元請施工）

●基礎柱型下部の捨てコンクリートは厚さ８０mm以上とし、上面をコテで平滑に仕上げる。上面レベルのチェックを行う。

５．２　フレーム及びアンカーボルトの設置（※１）

①フレームベース設置：柱中心地墨に対し、平面位置を調整する。レベル調整用ボルトでフレームベースを水平にする。

②アンカーボルト設置：フレームポスト上部の部材にアンカー調整ボルトにて固定し垂直を確認する。

③テンプレート設置　：テンプレートをアンカーボルトに上部からボルトにて固定し、テンプレート中心線を、柱中心地墨に調整後、フレームベースをホールインアンカーで固定する。

④定着ナット固定措置　：定着ナットをアンカーボルト下部位置に取り付け、アンカーボルトと定着ナットの隙間に鋼製クサビを打ち込む。

許容誤差	
	−5≦e1≦5
	−5≦e2≦5

５．３　基礎柱型配筋及びコンクリート打設（元請施工）

５．４　鉄骨柱の建入れ（元請施工）

５．５　ジャストリング設置及びロックナット本締め（元請施工）

●ジャストリングを全数設置し、レンチ等でロックナットを本締めする。
トルク値は３００N・mとする。（マーキング等による確認推奨）

５．６　固定用クサビの設置（元請施工）

●鋼製クサビをロックナットとアンカーボルトの隙間に全数セットし、打ち込む。

５．７　無収縮モルタル注入

①無収縮モルタル用型枠施工（元請施工）

②基礎コンクリート清掃・水洗いの後、無収縮モルタルをシュートにより一方向から注入する。（※１）

※１：現場施工及び施工管理は、ジャストベース施工技術委員会が認定した有資格者が行う。

ジャストベース（ＪＥⅡ型）柱脚工法（角形鋼管）標準仕様一覧表

適用（○印）	ジャストベース製品記号	適用角形鋼管　（該当するＦ値　○印）　※（ ）はＢＣＰのみ適用 サイズ	Ｆ＝２３５N/mm2	Ｆ＝２９５N/mm2	Ｆ＝３２５N/mm2	柱脚構成部材 アンカーボルト 本数-呼径×L	材質	h	ベースプレート t×A×A	座金 t×φD	ＲＣ基礎柱型（下記の寸法・配筋とする） 寸法（mm） B×D（標準寸法）	B×D（最大寸法）	H以上	主筋	帯筋	設計基準強度 Fc（N/mm2）	柱脚回転剛性 kN・m/rad	備考
	J150-12N	150×150	6・9・12	6・9・12	6・9	4-D29×660	SD490	165	28×300×300	19×74	500×500	620×620	550	12-D16	D13 @ 150	21以上 30以下	12,000	
	J175-12N	175×175	6・9・12	6・9・12	6・9	4-D29×660	SD490	165	32×325×325	19×74	530×530	650×650	550	12-D16	D13 @ 150	21以上 30以下	17,000	
	J200-09N	200×200	6・8・9	6・8・9	6・8	4-D29×660	SD490	165	32×350×350	19×74	550×550	670×670	600	12-D16	D13 @ 150	21以上 30以下	21,000	
◈	J200-12N		6・8・9・12	6・8・9・(12)	6・8・9	4-D35×720	SD390	180	32×380×380	22×88	560×560	680×680	600	12-D19	D13 @ 150	21以上 30以下	30,000	
	J250-09N	250×250	6・8・9	6・8・9	6・8	4-D35×720	SD390	180	36×430×430	22×88	620×620	740×740	600	12-D19	D13 @ 150	21以上 30以下	47,000	
	J250-12N		6・8・9・12	6・8・9・12	6・8・9	4-D35×725	SD490	185	40×430×430	22×88	620×620	740×740	600	12-D19	D13 @ 150	21以上 30以下	47,000	
	J250-16N		6・8・9・12・16・19	6・8・9・12・14・16	6・8・9・12	8-D35×720	SD390	180	40×480×480	22×88	650×650	850×850	600	16-D22	D13 @ 150	21以上 30以下	61,000	
	J300-09N	300×300	6・8・9・(12)	6・8・9	6・(9)	4-D35×725	SD490	185	40×480×480	22×88	680×680	800×800	600	12-D19	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	66,000	
◈	J300-12N		6・8・9・12・(16)	6・8・9・(12)	6・8・9・(12)	8-D29×660	SD490	165	36×510×510	19×74	700×700	900×900	600	12-D22	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	65,000	
	J300-16N		6・8・9・12・16・19	6・8・9・12・14・16	6・8・9・12・(16)	8-D35×720	SD390	180	40×540×540	22×88	740×740	940×940	600	12-D22	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	89,000	
	J300-19N		6・8・9・12・16・19	6・8・9・12・14・16・19	6・8・9・12・16・(19)	8-D35×725	SD490	185	45×540×540	22×88	740×740	940×940	600	16-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	90,000	
	J350-12N	350×350	9・12・(16)	9・12	9・(12)	8-D35×720	SD390	180	40×580×580	22×88	780×780	980×980	700	12-D22	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	119,000	
	J350-16N		9・12・16・19・(22)	9・12・14・16	9・12・(16)	8-D35×725	SD490	190	50×600×600	22×88	800×800	1,000×1,000	750	16-D22	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	129,000	
	J350-19N		9・12・16・19・22	9・12・14・16・19	9・12・16・(19)	8-D38×785	SD490	200	50×640×640	25×94	830×830	1,030×1,030	750	16-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	148,000	
	J350-22N		9・12・16・19・22	9・12・14・16・19・22	9・12・16・19・(22)	8-D41×880	SD490	210	55×640×640	25×100	830×830	1,030×1,030	750	24-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	156,000	
	J400-12N	400×400	9・12	9・12	9・(12)	8-D35×725	SD490	185	40×640×640	22×88	850×850	1,050×1,050	800	16-D22	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	159,000	
	J400-16N		9・12・16・19・(22)	9・12・14・16	9・12・(16)	8-D38×785	SD490	200	45×670×670	25×94	870×870	1,070×1,070	800	16-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	182,000	
	J400-19N		9・12・16・19・22・(25)	9・12・14・16・19	9・12・16・(19)	8-D41×880	SD490	210	50×710×710	25×100	900×900	1,100×1,100	800	20-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	207,000	
	J400-22N		9・12・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22	9・12・16・19・(22)	12-D38×785	SD490	200	60×710×710	25×94	900×900	1,100×1,100	800	24-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	220,000	
	J400-25N		9・12・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22・25	9・12・16・19・22・(25)	12-D38×785	SD490	200	60×710×710	25×94	920×920	1,120×1,120	800	24-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	219,000	
	J450-16N	450×450	9・12・16・19	9・12・14・16	9・12・(16)	12-D38×785	SD490	200	50×710×710	25×94	920×920	1,120×1,120	800	24-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	248,000	
	J450-19N		9・12・16・19・22・(25)	9・12・14・16・19	9・12・16・(19)	12-D38×785	SD490	200	55×740×740	25×94	950×950	1,150×1,150	800	24-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	266,000	
	J450-22N		9・12・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22	9・12・16・19・(22)	12-D41×880	SD490	210	60×760×760	25×100	1,000×1,000	1,200×1,200	800	24-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	289,000	
	J450-25N		9・12・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22・25	9・12・16・19・22・(25)	12-D41×880	SD490	210	60×760×760	25×100	1,000×1,000	1,200×1,200	800	24-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	24以上 30以下	303,000	
	J500-19N	500×500	9・12・16・19・22・(25)	9・12・14・16・19	9・12・16・(19)	12-D41×880	SD490	210	55×800×800	25×100	1,000×1,000	1,200×1,200	800	24-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21以上 30以下	351,000	
	J500-22N		9・12・16・19・22・25・(28)	9・12・14・16・19・22	9・12・16・19・(22)	12-D41×880	SD490	210	60×840×840	25×100	1,050×1,050	1,250×1,250	850	24-D25	D16 @ 100	21以上 30以下	379,000	
	J500-25N		9・12・16・19・22・25・(28)・(32)	9・12・14・16・19・22・25	9・12・16・19・22・(25)	12-D51×990	SD390	230	65×840×840	28×119	1,050×1,050	1,250×1,250	850	32-D25	D16 @ 100	24以上 30以下	397,000	
	J550-19N	550×550	9・12・16・19・22・(25)	12・14・16・19	9・12・16・(19)	12-D41×880	SD490	210	60×850×850	25×100	1,080×1,080	1,280×1,280	850	24-D25	D16 @ 100	24以上 30以下	452,000	
	J550-22N		9・12・16・19・22・25・(28)	12・14・16・19・22	9・12・16・19・(22)	12-D41×880	SD490	210	65×920×920	25×100	1,130×1,130	1,330×1,330	850	24-D25	D16 @ 100	24以上 30以下	490,000	
	J550-25N		9・12・16・19・22・25・(28)・(32)	12・14・16・19・22・25	9・12・16・19・22・(25)	12-D51×990	SD390	230	65×920×920	28×119	1,130×1,130	1,330×1,330	850	32-D25	D16 @ 100	24以上 30以下	502,000	

一級建築士　第187869号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-8072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10084
Registered Architect　第330549号　須賀　温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　ジャストベース標準図
Scale
設計年月　令和08年01月
Number　S- 08

日鉄建材株式会社

（財）ベターリビング評定　CBL SS008-19（令和7年3月31日付）

角形鋼管柱・H形鋼はり接合工法 NDコア設計・施工標準仕様書【基本仕様編】

e-works+

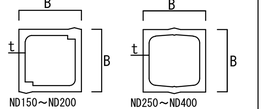
・本仕様書は別紙「NDコア設計・施工標準仕様書【柱・はり組合せ編】」と合わせて使用すること。
・本仕様書に記載の無い事項は、「NDコアカタログ」の他、日本建築学会「建築工事標準書・同解説　JASS6鉄骨工事」（一財）日本建築センター「2018年版冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」および関連規基準に従うこと。

1. NDコア仕様

部材記号	長さ(mm)	設計記号 ※1	数量(個)	斜め切断（勾配）
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 ●ND300 □ND350 □ND400				●斜め切断　（　　）度, 寸
□ND150 □ND175 ●ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				●斜め切断　（　　）度, 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断　（　　）度, 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断　（　　）度, 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断　（　　）度, 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断　（　　）度, 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断　（　　）度, 寸

※1　設計記号は、部材記号-長さ(mm)で記入する。（例）ND300-600、ND200-550

(1) NDコアの形状寸法および重量

部材記号	外径B ※2 (mm)	公差	板厚t (mm)	単位質量 (kg/m)	長さ範囲 ※3 (mm)		材質	断面形状 ※4※5
ND150	152	+2.0 -2.0	16.5	69.8	150～	+3.0 -0	SN490B-ND ※6	
ND175	177		17.0	85.1				
ND200	202		22.0	124				
ND250	252		24.0	184				
ND300	302		29.0	265				
ND350	352		33.8	360				
ND400 ※8	402		38.6	470				

※2　コラムとの食い違い防止のため、NDコアの外径Bを基準寸法としている。
※3　NDコアの長さは1.0mmピッチで対応。
※4　NDコア側面には溶接ビードの盛り上がりがあるため、はり取付時はグラインダで仕上げをするかもしくははりウェブを切り欠くなど適切に処置すること
※5　NDコアの角部に突起が生じてはりと干渉する場合、はり取付時にグラインダで仕上げをするなど適切に処置すること。
※6　SN490B-ND 日本産業規格JIS G 3136（建築構造用圧延鋼材）2012の9形状、寸法、質量およびその許容差には 適合していないが、当該JISに示されるSN490Bの4化学成分、6炭素当量及び溶接割れ感受性組成、7機械的性質　10外観、11試験、12検査、13再検査の各規定に適合している。
※7　NDコアの表面に錆が発生していることがあります。はりとの溶接時に支障となる錆は除去して下さい。
※8　四面ボックスタイプの新仕様（ND400P）は単位質量および材質が異なりますので、別途お問い合わせください。

(2) 適用する柱およびはり材

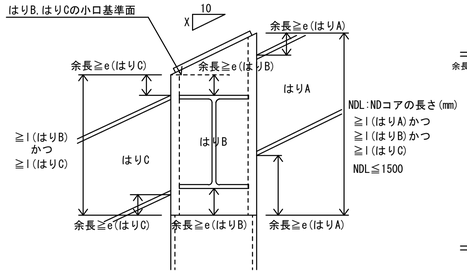
a) 適用する柱材の材質および規格
・建築構造用冷間成形角形鋼管　BCR295
・一般構造用角形鋼管（JIS G 3466）STKR400

b) 適用するはり材の材質および規格：下記規格のH形鋼
・建築構造用圧延鋼材（JIS G 3136）SN400B, C
・一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400
・溶接構造用圧延鋼材（JIS G 3106）SM400A, B

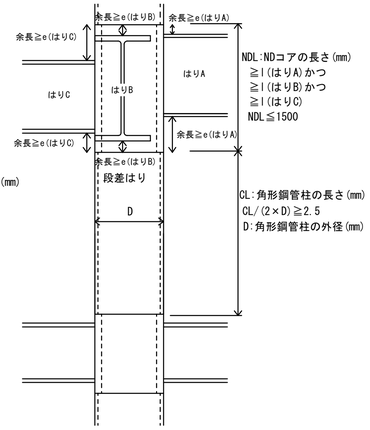
2. NDコア仕様の決め方

(1) NDコア長さLの設定方法と注意点

a) NDコアの長さLは、取付く各はり（最大で4方向）全てに対して、最小余長eを確保し、かつ最小長さl以上となるようにする。
最小余長e、最小長さlは柱はりの組合せで決まっている寸法であり「設計・施工標準仕様書【柱はり組合せ編】」を参照する。
柱の板厚が上下で異なる場合は、最小余長e、最小長さlともに長い方の数値を採用する。
b) はりに傾斜がある場合には、はり取り付き部の長さの増加を加えてNDコア長さを設定すること。
c) 柱頭部上部を斜め切断仕様とする場合は、それぞれの接合面に対応する小口において、最小余長e、最小長さlを確保する。
小口が傾斜している面では、低い位置を基準として最小余長e、最小長さlを確保する。
d) NDコアは厚肉鋼管のため角形鋼管柱より剛性が大きい特徴がある。層に占めるNDコア全長の割合が大きい場合、曲げとせん断力の比率に応じ、柱の変形性能が変わる恐れがあるため評定CBL SS008-19の適用範囲において柱せん断スパン比は2.5以上、NDコアの長さは1500mm以下としている。

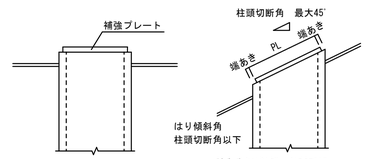


傾斜はり・斜め切断



(2) 柱頭部仕様

a) 柱頭部では、NDコア小口面に下表に示す補強プレートを取り付けること。
b) 柱頭部を斜め切断する場合は、片流れの切断とし、切断角度は45°以下とする。
（斜め切断は一方向のみとし、部分切断は不可）
c) どぶ付けめっきのため補強プレートに開口を設ける場合は、断面欠損を考慮し、板厚を割増すことが望ましい。

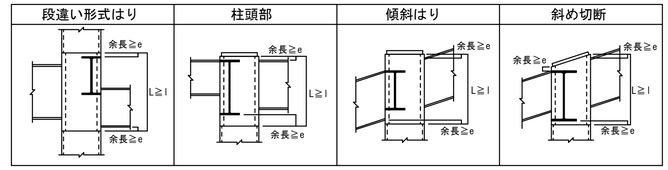


補強プレート仕様

NDコア部材記号	斜め切断無し 寸法(mm)	斜め切断無し 板厚(mm)	斜め切断有り 寸法(mm)	斜め切断有り 板厚(mm)
ND150	130×130	≧6	130×PL	≧6
ND175	155×155		155×PL	
ND200	170×170	≧9	170×PL	≧9
ND250	220×220		220×PL	
ND300	270×270	≧12	270×PL	≧12
ND350	310×310		310×PL	
ND400	360×360	≧16	360×PL	≧16

材質：SN400A, B, C, SS400, SM400A, B, C

【NDコア長さLの採り方例】



3. 鉄骨躯体の設計方法

a) NDコアは柱・はり組合せ表の範囲において柱、はりに対して、許容応力度設計、保有耐力接合条件を満足しており、あらためて接合部の検討は不要である（【柱はり組合せ編】参照）。
b) NDコアを用いた柱はり接合部では、通しダイアフラム形式の架構と同様に節点を剛とし、柱およびはりを線材置換して、鉄骨フレームの設計を行うことができる。
c) NDコアを用いた柱およびはり等の鉄骨フレームの設計については、下記の規基準等によるものとし、通常の設計フローに従って、部材の設計、架構解析、耐力の確認等を行う。ただし、ルート3を用いて設計をする場合、NDコアは適用範囲においてパネル崩壊とならないため、柱はり耐力比から崩壊形を判定して保有耐力の検討を行う。
・平成20年5月23日施行改正建築基準法
・平成19年国土交通省告示第593号、第594号、第595号、第596号
・（一財）日本建築センター「2020年版建築物の構造関係技術基準解説書」
・同「2018年版冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」

ルート1-1	通しダイアフラム形式のBCR295と同様にフレーム設計が可能。
ルート1-2	
ルート2	
ルート3	通しダイアフラム形式のBCR295と同様にフレーム設計が可能。 ただし、NDコア使用部においてパネル崩壊が生じないため、柱・はり耐力から崩壊形を判定して、フレーム設計を行う。 崩壊形の判定に影響しない、柱頭部については、特別な検討は不要である。

4. NDコア鉄骨製作要領

(1) 鉄骨製作方法

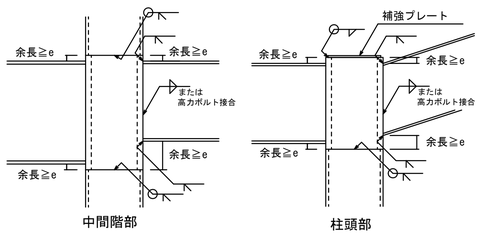
a) NDコアと柱およびはりとの接合は鉄骨製作業者が行い、施工管理は鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者が行う。鉄骨製作に関し特に確認すべき事項については「NDコア鉄骨加工要領書」に示す。
b) 記載なき事項については、（一社）日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説　JASS6鉄骨工事」、同「鉄骨工事技術指針」、および（一財）日本建築センター「2018年版冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」による。

(2) 接合方法

a) NDコアと柱およびはりフランジとの接合は完全溶け込み溶接とし、NDコアとはりウェブとの接合は隅肉溶接または高力ボルト接合とする。
b) NDコアとはりの接合はNDコア小口面から余長e以上を確保して接合する。余長eは別紙「柱はり対応表」にて特記の無い限りは25mmとする。
c) NDコアは、NDコア小口面から余長eを除いた全ての部分ではりの取り付けが可能だが、はり外面合せの場合、NDコアの角部分と裏当て金に隙間が生じたときは、隙間を溶接で埋めて本溶接を行う等適切に処置する。
d) NDコアとはりとの接合の際、NDコア製作時の溶接余盛とはりが接触する場合は、グラインダで平滑に仕上る等適切に処置する。

(3) 柱頭部補強プレート取り付け方法

a) 柱頭部は、NDコア小口面に右表に示す仕様の補強プレートを全周隅肉溶接により取り付ける。
b) 全周隅肉溶接は右表に示す溶接サイズで、490N級の溶接ワイヤを用いて行う。
c) 柱頭部を斜め切断すると、NDコア小口面の長さが増加するため、右図を参考に、実状に合わせて補強プレートを準備する。



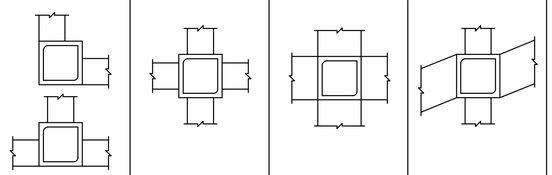
補強プレート取り付け仕様

NDコア部材記号	斜め切断無し 寸法(mm)	斜め切断無し 板厚※(mm)	斜め切断有り 寸法(mm)	斜め切断有り 板厚※(mm)	隅肉溶接仕様 溶接サイズ(mm)
ND150	130×130	≧6	130×PL	≧6	≧6
ND175	155×155		155×PL		
ND200	170×170	≧9	170×PL	≧9	≧9
ND250	220×220		220×PL		
ND300	270×270	≧12	270×PL	≧12	≧12
ND350	310×310		310×PL		
ND400	360×360	≧16	360×PL	≧16	≧16

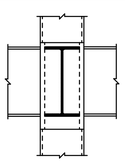
材質：SN400A, B, C, SS400, SM400A, B, C
※　角落ち防止のため、板厚は1サイズアップを推奨する。

5. NDコア納まり例

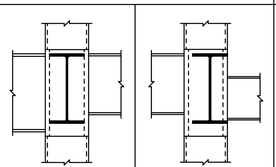
(1) はり取り付け位置



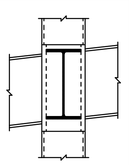
(2) 一般部



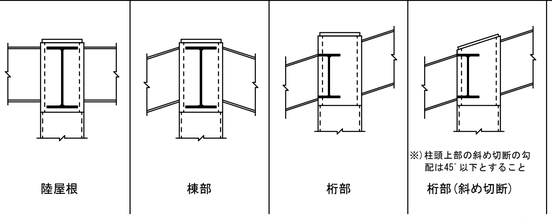
(3) 段違い形式はり



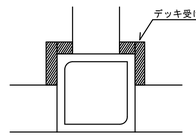
(4) スロープ



(5) 柱頭部

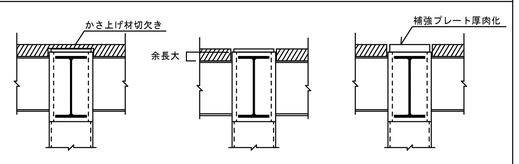


(6) デッキプレート納まり



・通しダイアフラムが無いため、デッキ受けを取付けて対応する。
・受け材の板厚は6mm以上とする。
・デッキプレートの乗せ代は、デッキの規基準等に従う。

(7) NDコアと屋根用かさ上げ材の納まり



(8) 補強プレートどぶ付けめっき用開口



※開口位置・大きさについては、どぶ付けめっきメーカーと相談して決めることが望ましい。
※開口を設ける場合は、断面欠損を考慮し、板厚を割増すことが望ましい。

一級建築士　第167869号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀　温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　NDコア標準図(1)
Scale
設計年月　令和08年01月
Number　S- 09

日鉄建材株式会社

(財)ベターリビング評定　CBL SS008-19(令和7年3月31日付)

角形鋼管柱･H形鋼はり接合工法　　NDコア設計･施工標準仕様書　【柱･はり組合せ編･別表　1/3 はり細幅】

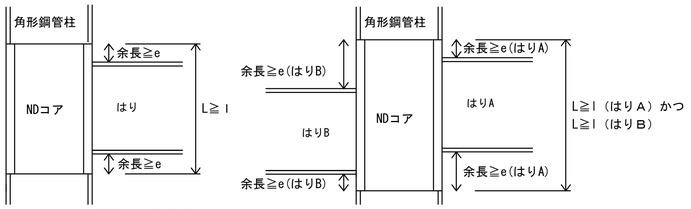
e-works+

･本紙は、「NDコア設計･施工標準仕様書【基本仕様編】」および「NDコア設計･施工標準仕様書【柱･はり組合せ編】」と合わせて使用すること。

1.表の見方

使用する柱(横軸)、はり(縦軸)を選択し、NDコアの必要最小長さｌと余長の必要最小寸法ｅ※1を確認する
※1　記載の無い場合は25mmとする。記載がある場合、数値以上の余長を確保する。

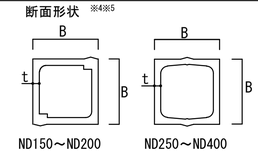
･柱材:BCR295およびSTKR400の冷間ロール成形角形鋼管
･はり材:400N級(SS400、SM400、SN400B･C等)のJIS G 3192記載のH形鋼
･NDコア長さL:NDコアの長さ
･最小長さｌ：柱はり組合せで決まるNDコアの最小長さ
･余長:NDコア小口面から はりフランジ端面までの距離
･最小余長e:確保する余長の最小値



2.NDコアの形状および寸法

部材記号	外径B ※2 (mm)	公差	板厚t (mm)	単位質量 (kg/m)	長さ範囲 ※3 (mm)	公差	材質
ND150	152	+2.0 -2.0	16.5	69.8	150～	+3.0 -0	SN490B-ND ※6
ND175	177		17.0	85.1			
ND200	202		22.0	124			
ND250	252		24.0	184			
ND300	302		29.0	265			
ND350	352		33.8	360			
ND400	402		38.6	470			

断面形状 ※4※5



※2　コラムとの食い違い防止のため、NDコアの外径Bを基準寸法としている。
※3　NDコアの長さは1.0mmピッチで対応。
※4　NDコア側面には溶接ビードの盛り上がりがあるため、はり取付時はグラインダで仕上げをするか、もしくははりウェブを切り欠くなど適切に処置すること。
※5　NDコアの角部に突起が生じてはりと干渉する場合、はり取付時にグラインダで仕上げをするなど適切に処置すること。
※6　SN490B-ND 日本産業規格JIS G 3136(建築構造用圧延鋼材)2012の9形状、寸法、質量およびその許容差には適合してないが当該JISに示されるSN490Bの4化学成分、6炭素当量及び溶接割れ感受性組成、7機械的性質 10外観、11試験、12検査、13再検査の各規定に適合している。

3.注意点

･組合せ表の最小長さｌ、最小余長ｅは、はりの短期降伏耐力をはり全断面を有効として設定している。
･NDコアの標準的な納まり等は、「NDコア設計･施工標準仕様書【基本仕様編】」に記載している。
･NDコアの表面に錆が発生していることがあります。はりとの溶接時に支障となる錆は除去して下さい。

4.NDコア最小長さｌと余長ｅ

※最小余長eに記載の無い場合は25mmとする。記載がある場合は、数値以上の余長を確保する。

4-1.ND150～ND200

※表中のNG範囲は適用不可。

NDコア		ND150						ND175						ND200						
柱 径(材質)		□150(BCR295)			□150(STKR400)			□175(BCR295)			□175(STKR400)			□200(BCR295)			□200(STKR400)			
柱 板厚		6	9	12	6	9	12	6	9	12	6	9	12	6	9	12	6	9	12	
最小長さｌ最小余長ｅ		ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	
細幅はり	H-100×50×5×7	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	H-100×50
	H-125×60×6×8	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	H-125×60
	H-150×75×5×7	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	H-150×75
	H-175×90×5×8	225	225	225	225	225	225	225	225	225	232	225	225	225	225	225	225	225	225	H-175×90
	H-198×99×4.5×7	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	H-198×99
	H-200×100×5.5×8	250	250	250	250	250	250	270	250	250	280	250	250	250	250	250	250	250	250	H-200×100
	H-248×124×5×8	298	298	298	298	298	298	310	298	298	298	310	298	298	298	298	298	298	298	H-248×124
	H-250×125×6×9	300	300	300	300	300	300	300	345 35	303	300	335	325	300	300	300	300	300	300	H-250×125
	H-298×149×5.5×8	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	H-298×149
	H-300×150×6.5×9	350	350	350	350	350	350	350	350	373	350	350	350	350	350	350	350	350	350	H-300×150
	H-346×174×6×9	NG			NG			396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	H-346×174
	H-350×175×7×11							400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	H-350×175
	H-396×199×7×11							NG			NG			446	446	446	446	446	446	H-396×199
	H-400×200×8×13													450	450	450	450	450	450	H-400×200
	H-446×199×8×12													496	496	496	496	496	496	H-446×199
	H-450×200×9×14													500	500	500	500	500	500	H-450×200
	H-496×199×9×14													546	546	546	546	546	546	H-496×199
	H-500×200×10×16													550	550	550	550	550	550	H-500×200
	H-596×199×10×15													646	646	646	646	646	646	H-596×199
	H-600×200×11×17													650	650	650	650	650	650	H-600×200
	H-606×201×12×20													NG			NG			H-606×201

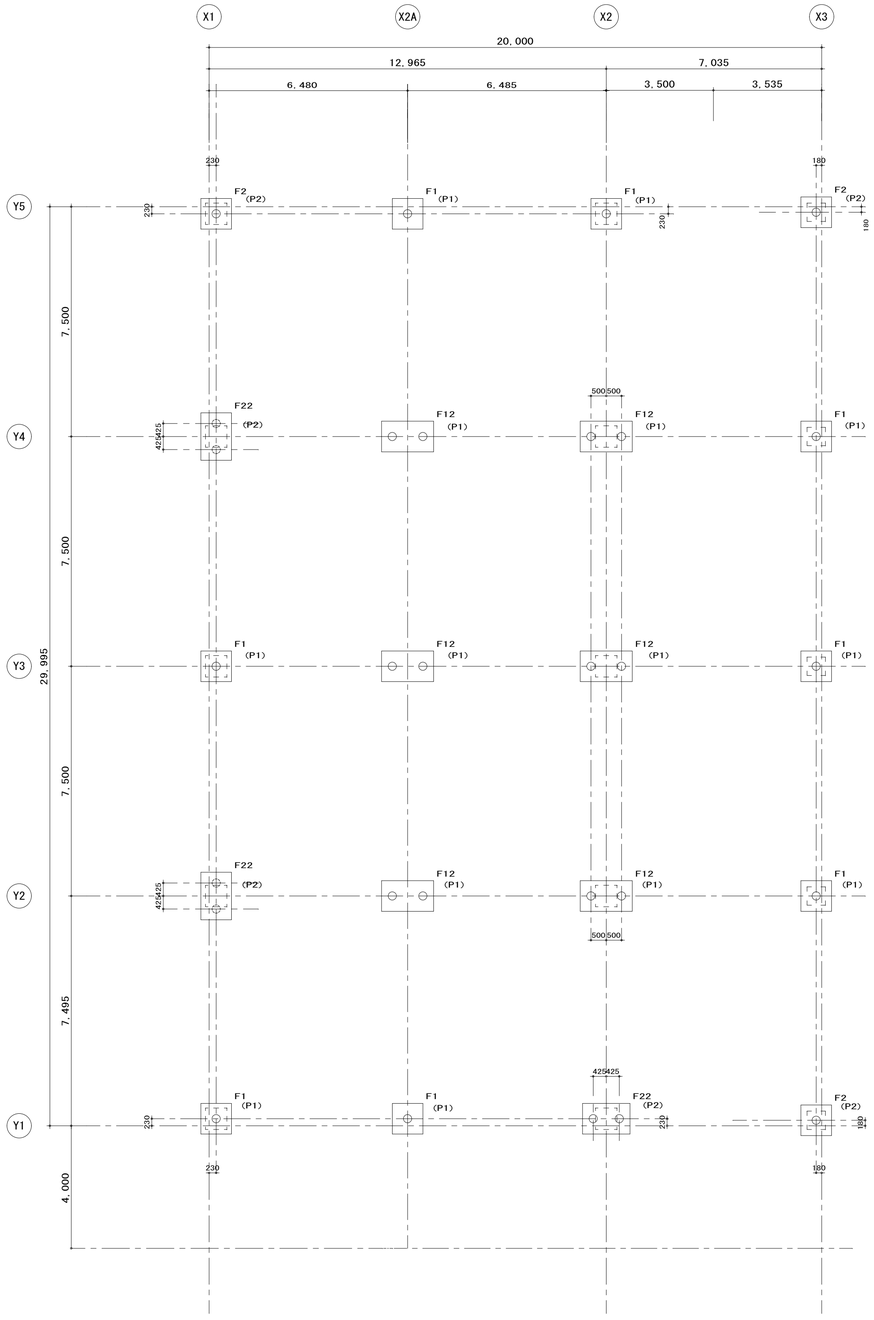
4-2.ND250～ND350

NDコア		ND250								ND300										ND350										
柱 径(材質)		□250(BCR295)				□250(STKR400)				□300(BCR295)					□300(STKR400)					□350(BCR295)					□350(STKR400)				
柱 板厚		6	9	12	16	6	9	12	16	6	9	12	16	19	6	9	12	16	19	9	12	16	19	22	9	12	16	19	22	
最小長さｌ最小余長ｅ		ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	ｌ ｅ	
細幅はり	H-100×50×5×7	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	H-100×50
	H-125×60×6×8	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	H-125×60
	H-150×75×5×7	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	H-150×75
	H-175×90×5×8	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	225	H-175×90
	H-198×99×4.5×7	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	H-198×99
	H-200×100×5.5×8	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	H-200×100
	H-248×124×5×8	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	H-248×124
	H-250×125×6×9	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	H-250×125
	H-298×149×5.5×8	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	348	H-298×149
	H-300×150×6.5×9	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	H-300×150
	H-346×174×6×9	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	H-346×174
	H-350×175×7×11	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	H-350×175
	H-396×199×7×11	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	446	H-396×199
	H-400×200×8×13	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	H-400×200
	H-446×199×8×12	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	496	H-446×199
	H-450×200×9×14	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	H-450×200
	H-496×199×9×14	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	546	H-496×199
	H-500×200×10×16	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	551	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	H-500×200
	H-596×199×10×15	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	646	H-596×199
	H-600×200×11×17	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	H-600×200

一級建築士　第187868号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10084
Registered Architect 第330549号　須賀　温

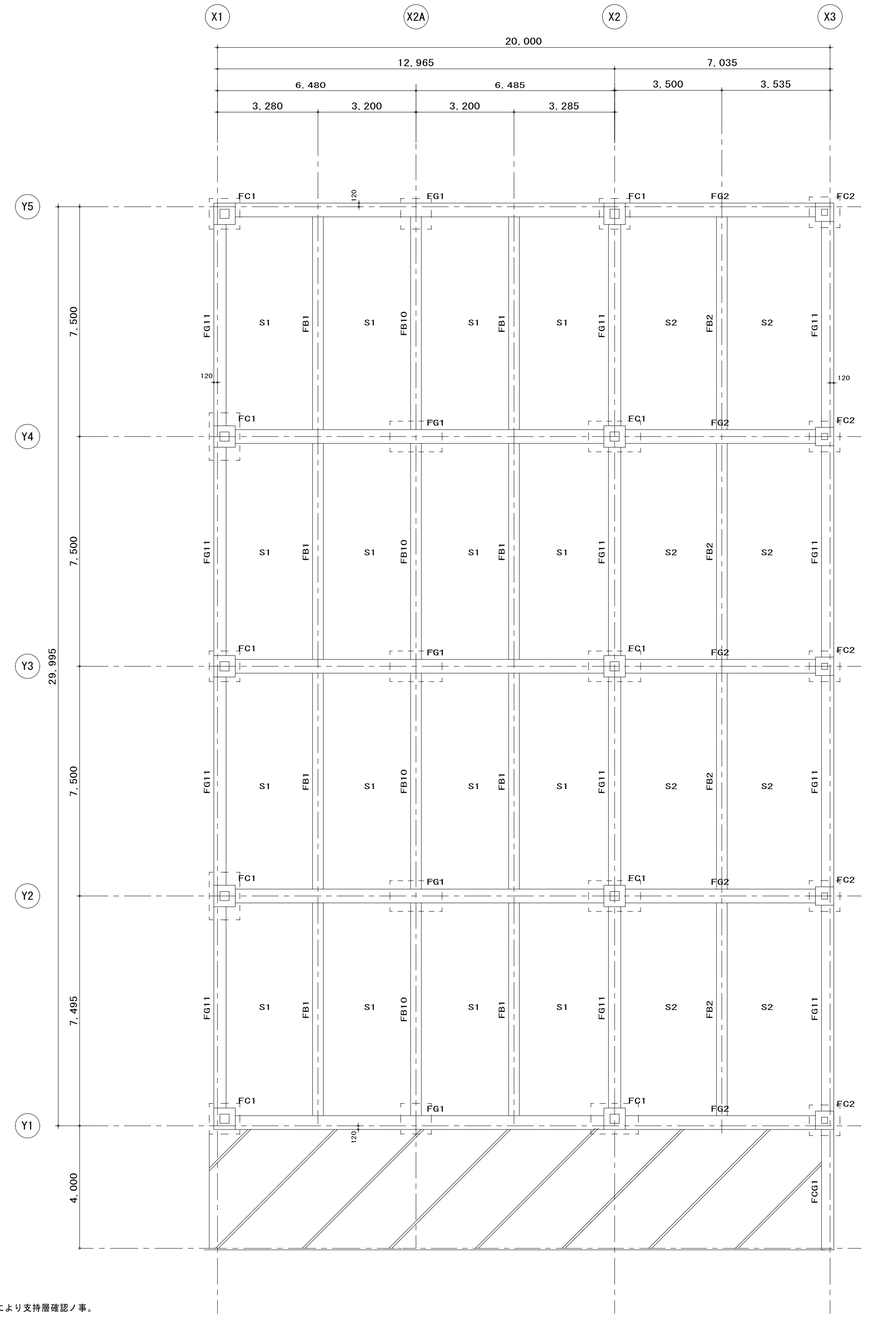
Project 富士見市中央防災センター建設工事
Index NDコア標準図(2)
Scale
設計年月 令和08年01月
Number S- 10



杭　伏図　　1／100

杭　仕様	杭施工前に現地ボーリングにより支持層確認ノ事。

杭　種	羽根付　鋼管杭
工　法	EAZET
杭　長	L=6.0m
杭　径	P1−267.4×8.0　羽根径　700
	P2−267.4×8.0　羽根径　580
支持層	N値>35　砂礫　GL−6.50m
杭　頭	GL−1.64m



基礎　伏図　　1／100

土間コンクリート　厚　150
D13@200

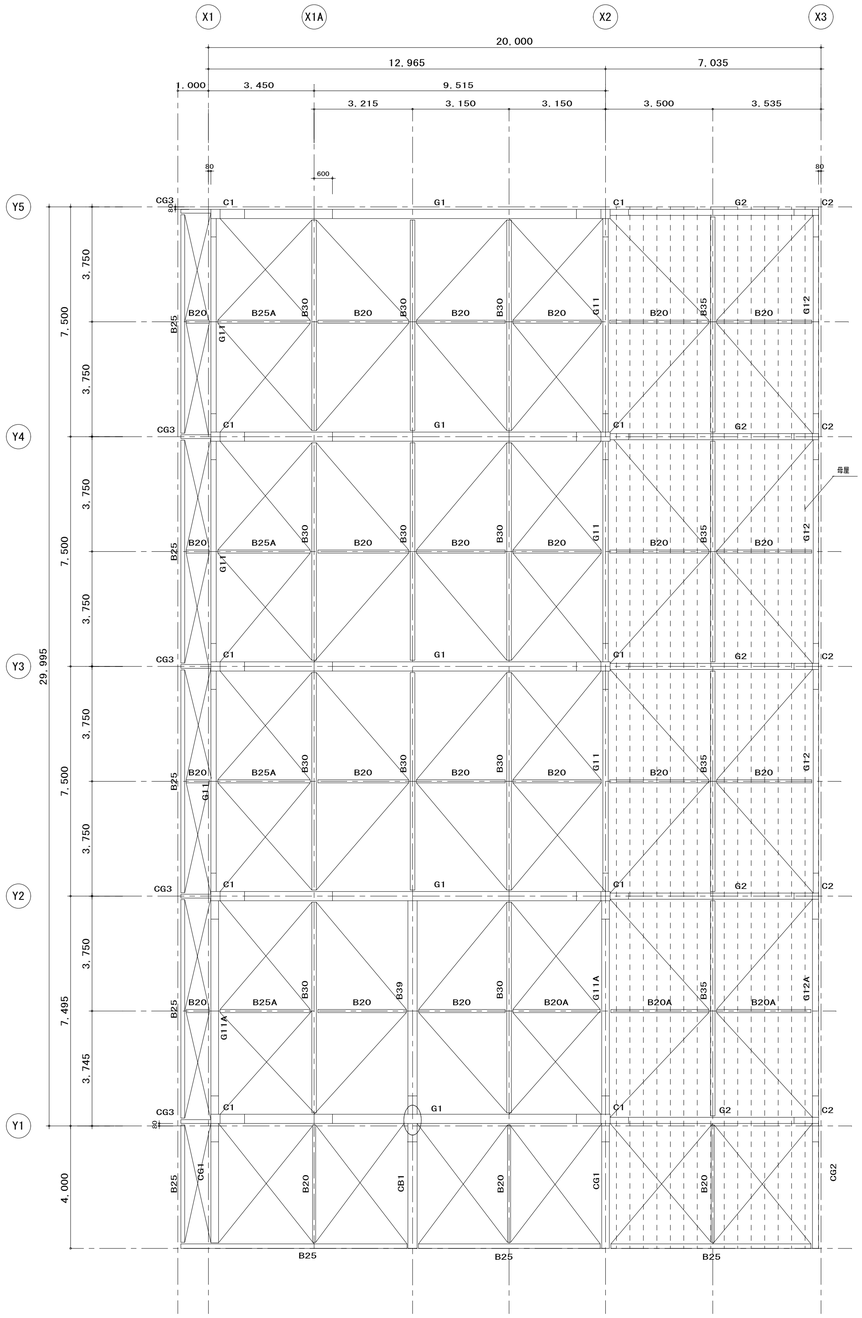
地中梁天端　GL−200

一級建築士　第167863号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西　ビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事 10064
Registered Architect　第 330549　号　須賀　温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　基礎、杭伏図
Scale　1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月　令和08年01月
Number　S-11



共通　事項

現場ジョイント

特記ナキ筋ブレース　M20

母屋　X1-X1A間　C-100x50x20x3.2

X1A-X3間　C-100x50x20x2.3

剛接合　(突合せ溶接)

R 階　伏図　1／100

一級建築士　第167863号

構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西　ビル3F303

Phone　048-977-6072

Fax　048-971-7171

Registered Office　埼玉県知事 10064

Registered Architect　第 330549　号　須賀　温

Project　富士見市中央防災センター建設工事

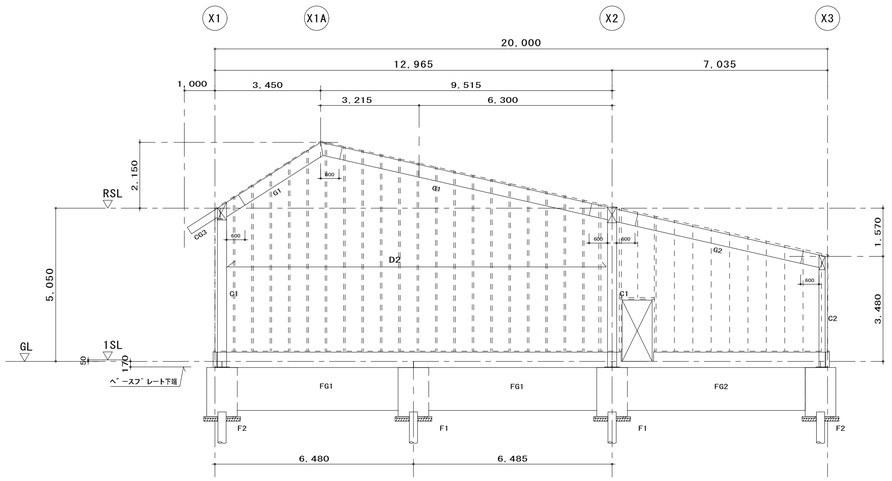
Index　R 階　伏図

Scale　1/30(A1)　1/60(A3)

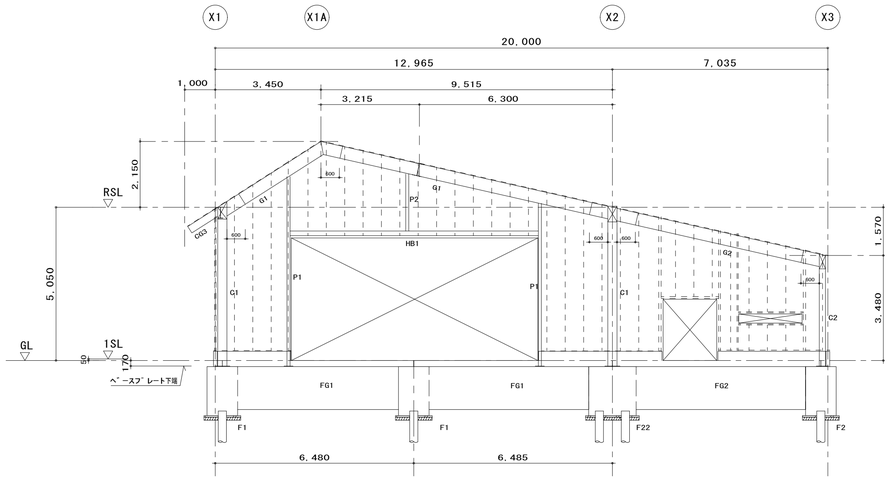
設計年月　令和08年01月

Number　S-12

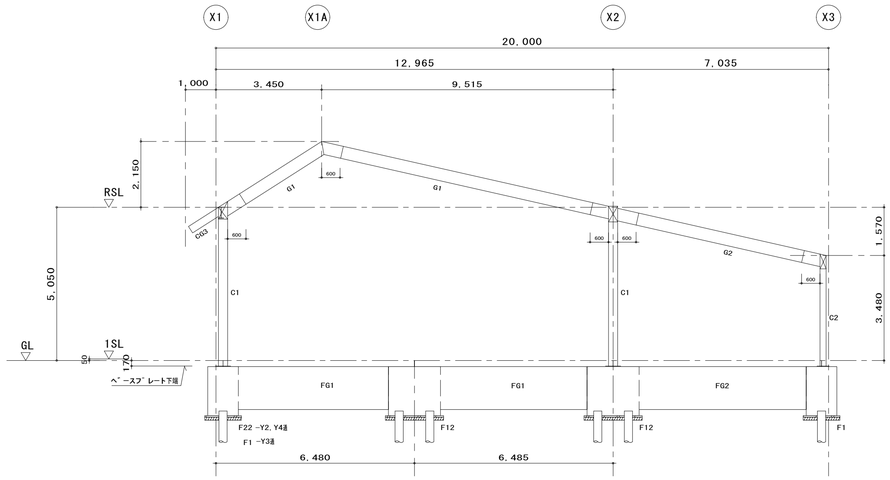
軸組図（１）１：１００



Y5通り



Y1通り



Y2−4通り

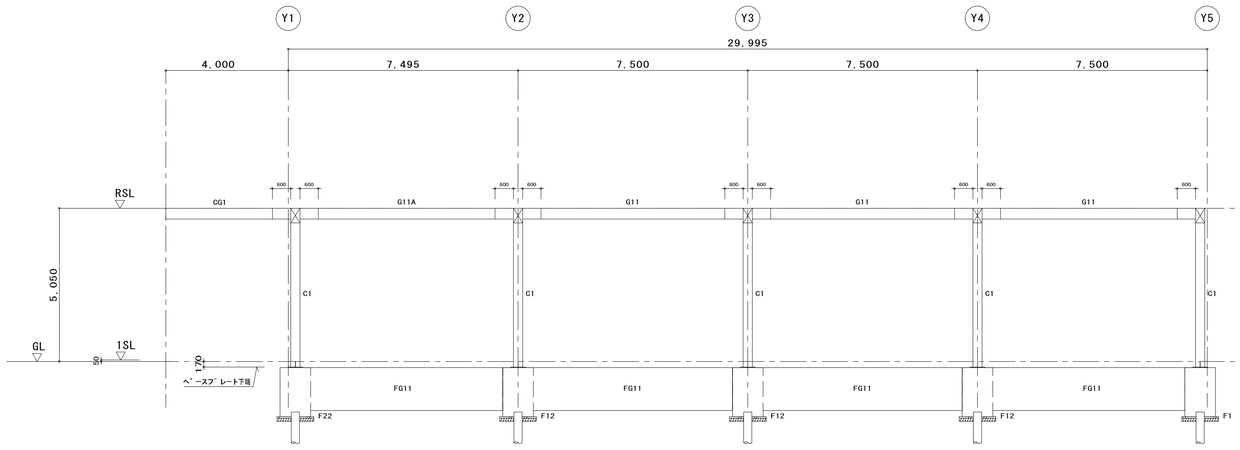
一級建築士　第167863号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所

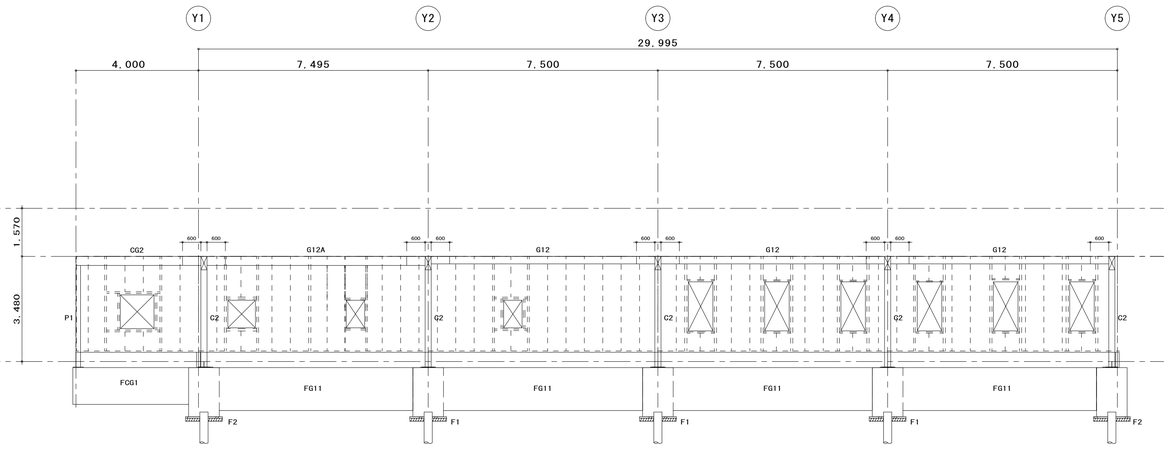
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西　ビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事 10064
Registered Architect　第 330549　号　須賀　温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　軸組図（１）
Scale　1/100(A1)　1/200(A3)
設計年月　令和08年01月
Number　S-13

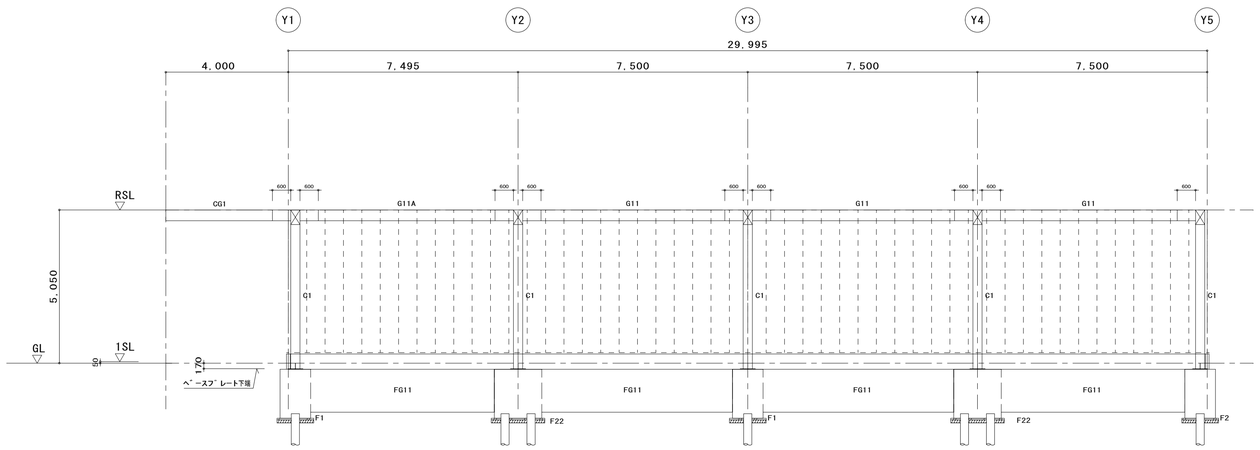
軸組図（１）１：１００



X２通り



X３通り



X１通り

一級建築士　第167863号

構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西　ビル3F303

Phone　048-977-6072

Fax　048-971-7171

Registered Office　埼玉県知事 10064

Registered Architect　第 330549　号　須賀　温

Project　富士見市中央防災センター建設工事

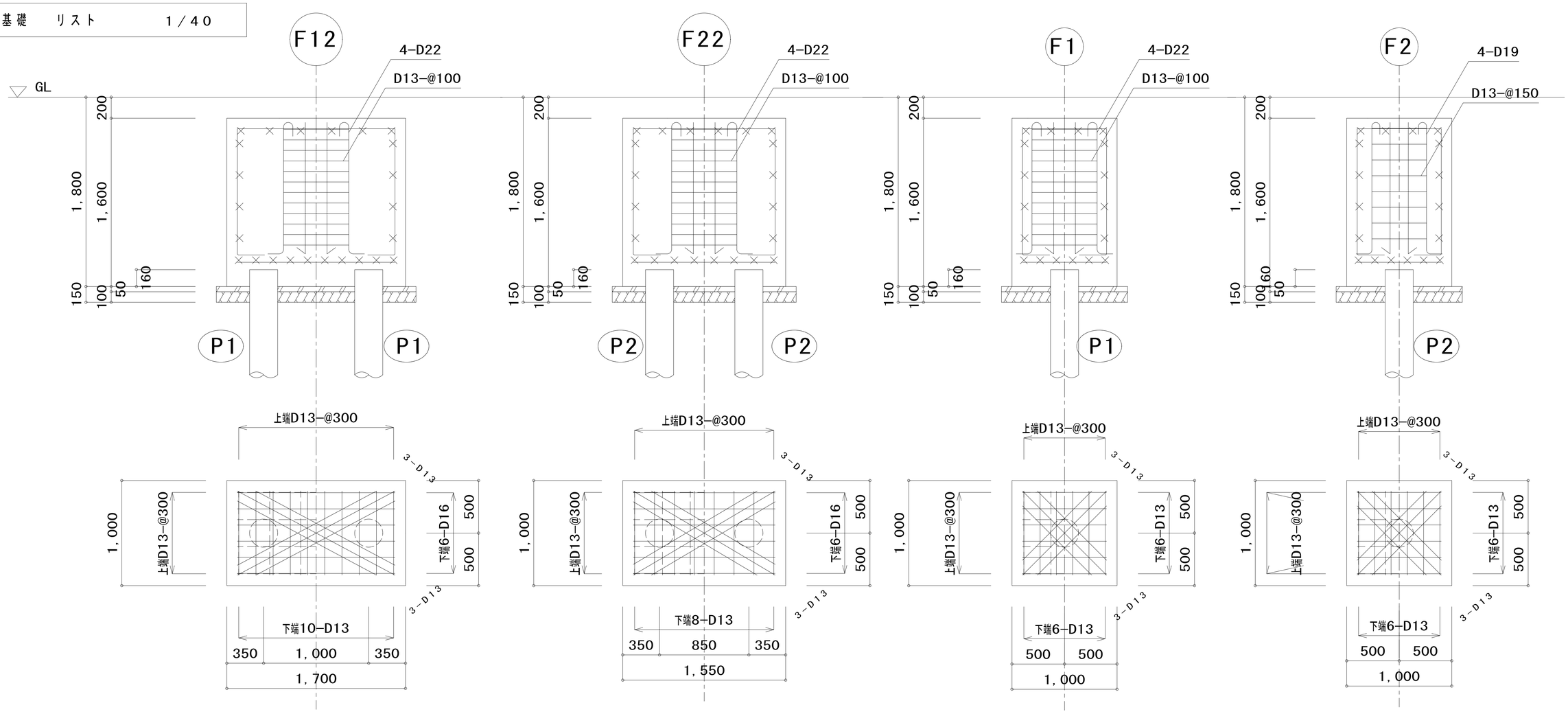
Index　軸組図（２）

Scale　1/100(A1)　1/200(A3)

設計年月　令和08年01月

Number　S-14

基礎　リスト　　1／40



杭　　リスト

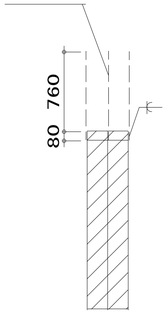
工　法	EAZET工法	
杭　径	P1−267.4Φx8.0	羽径 700φ
	P2−267.4Φx8.0	羽径 500φ
杭本数	P1−20 本　　P2−9 本	
杭　耐力	P1−650 KN／本	
	P2−445 KN／本	

P1	上杭	267.4x8.0　（STK590）
P2	上杭	267.4x8.0　（STK590）

P1　P2

杭頭補強筋

8−D19　（SD295）



一級建築士　第167863号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀　温

Project　富士見市中央防災センター建設工事

Index　基礎　リスト

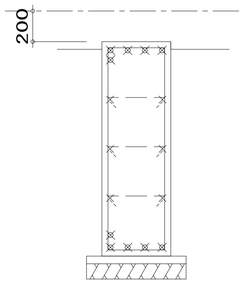
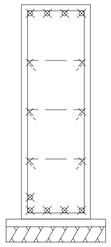
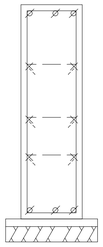
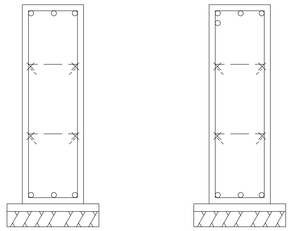
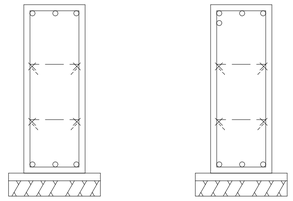
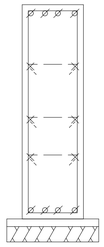
Scale　(A1)-1/20　(A3)-1/40

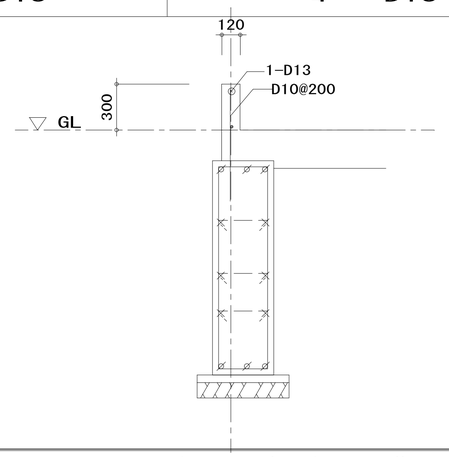
設計年月　令和08年01月

Number　S-15

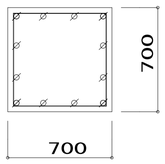
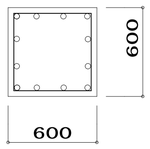
地中梁リスト　S=1/40

幅止め筋　D10@1000　　FG1ー主筋外側（優先）　FG11ー主筋内側（配力）

符　号	FG1	FG2	FG11　FCG1	FB1		FB2		FB10
位　置	全断面	全断面	全断面	外端部　中央	内端部	外端部　中央	内端部	全断面
断　面								
B　x　D	450　x　1400	450　x　1400	400　x　1400	350　x　1200		350　x　1000		400　x　1400
上　端　筋	5　－　D25	4　－　D25	3　－　D25	3－D22	4－D22	3－D22	4－D22	4　－　D25
下　端　筋	5　－　D25	5　－　D25	3　－　D25	3－D22	3－D22	3－D22	3－D22	4　－　D25
スターラップ	□－D13　@200	□－D13　@200	□－D13　@200	□－D13　@200		□－D13　@200		□－D13　@200
腹　筋	6　－　D13	6　－　D13	6　－　D13	4　－　D13		4　－　D13		6　－　D13



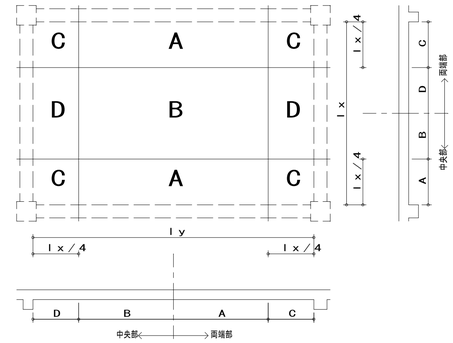
柱型　リスト　S=1/40

符　号	FC1	FC2
断　面		
B　x　D	700x700	600x600
主　筋	12-D22	12-D19
フ　ー　プ	D13　@100	D13　@150
鉄　骨	□　-300x300x12	□　-200x200x12
	ジャストベース標準図	ジャストベース標準図

床版　リスト

符　号	厚　さ	位置	短　辺　方　向　配　筋			長　辺　方　向　配　筋		
			A	B	C，D	D	B	C，A
S1	200	上	D13@200	〃	〃	D13@200	〃	〃
		下	D13@200	〃	〃	D13@200	〃	〃
S2	180	上	D10，D13@200	〃	〃	D10@200	〃	〃
		下	D10，D13@200	〃	〃	D10@200	〃	〃

床割り図



一級建築士　第167863号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀　温

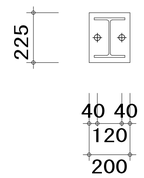
Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	地中梁 柱型 スラブ リスト	(A1)-1/20 (A3)-1/40	令和08年01月 Number S-16

鉄 骨 リ ス ト

ＤＦ　：通シダイヤフラム　　取合梁フランジ厚の２サイズUP　　梁フランジ厚＋６mm以上
tc（鋼管板厚）＜28mm　e：柱面ヨリ25m／m以上ノ出
Ｊ　　：ジョイント記号

部　位	符　　号	主　　材			取　　付
柱	C1	□−300x300x12	FA	BCR295	NDｺｱ ND300　ジャストベース J300−12N
間柱	C2	□−200x200x12	FA	BCR295	NDｺｱ ND200　ジャストベース J200−12N
	P1	H−194x150x6x9	FA	SS400	GP−9 HTB 2−M16　BP01
	P2	H−148x100x6x9	FA	SS400	GP−6 HTB 2−M16
大　梁	R G1	H−390x300x10x16	FA	SN400B	J14
	R G2	H−400x200x8x13	FA	SN400B	J04
	R G11	H−350x175x7x11	FA	SN400B	J03
	R G11A	H−340x250x9x14	FA	SN400B	J13
	R G12	H−244x175x7x11	FA	SN400B	J11
	R G12A	H−294x200x8x12	FA	SN400B	J12
片持ち梁	CG1	H−340x250x9x14		SN400B	J13　工場突合溶接
	CG2	H−294x200x8x12		SN400B	J12　工場突合溶接
	CG3	H−250x125x6x9		SN400B	工場突合溶接
	CB1	H−390x300x10x16		SN400B	J13　工場突合溶接
小梁	B39	H−390x300x10x16		SN400B	Y1端 −J13 Y2端 −GPL12 HTB 3−M22
	B35	H−350x175x7x7x11		SS400	J35　@70
	B30	H−300x150x6.5x9		SS400	J34　@80
	B25A	H−250x125x6x9		SS400	GP−6 HTB 3−M20　@70
	B25	H−250x125x6x9		SS400	J33
その他	B20A	H−200x100x5.5x8		SS400	GP−6 HTB 2−M20　@70
	B20	H−200x100x5.5x8		SS400	J32
	HB1	H−194x150x6x9		SS400	GPL−6 HTB 2−M16
	屋根ブレース	M20　ターンバックル締			S造仕様書参照
	母屋	C−100x50x20x3.2@455		SSC400	L−100x75x7x10　1−M12
	母屋	C−100x50x20x2.3@455		SSC400	L−100x75x7x10　1−M12
	胴縁　（サッシュ周り）	2C−100x50x20x2.3		SSC400	L−100x75x7x10　1−M12
	胴縁　D１	C−100x50x20x2.3@600		SSC400	L−100x75x7x10　1−M12
	胴縁　D２　L>5.0m	2C−100x50x20x2.3@600		SSC400	L−100x75x7x10　2−M12

柱脚　リスト　1：30

符　号	BP01	
主　材	H−194x150x6x9	
断　面		
BASE.P　L	PL−16x200x225	
A.BOLT	2−M16x400	
ﾍﾞｰｽ下端	GL−170	
備　考	フック付き　ダブルナット	

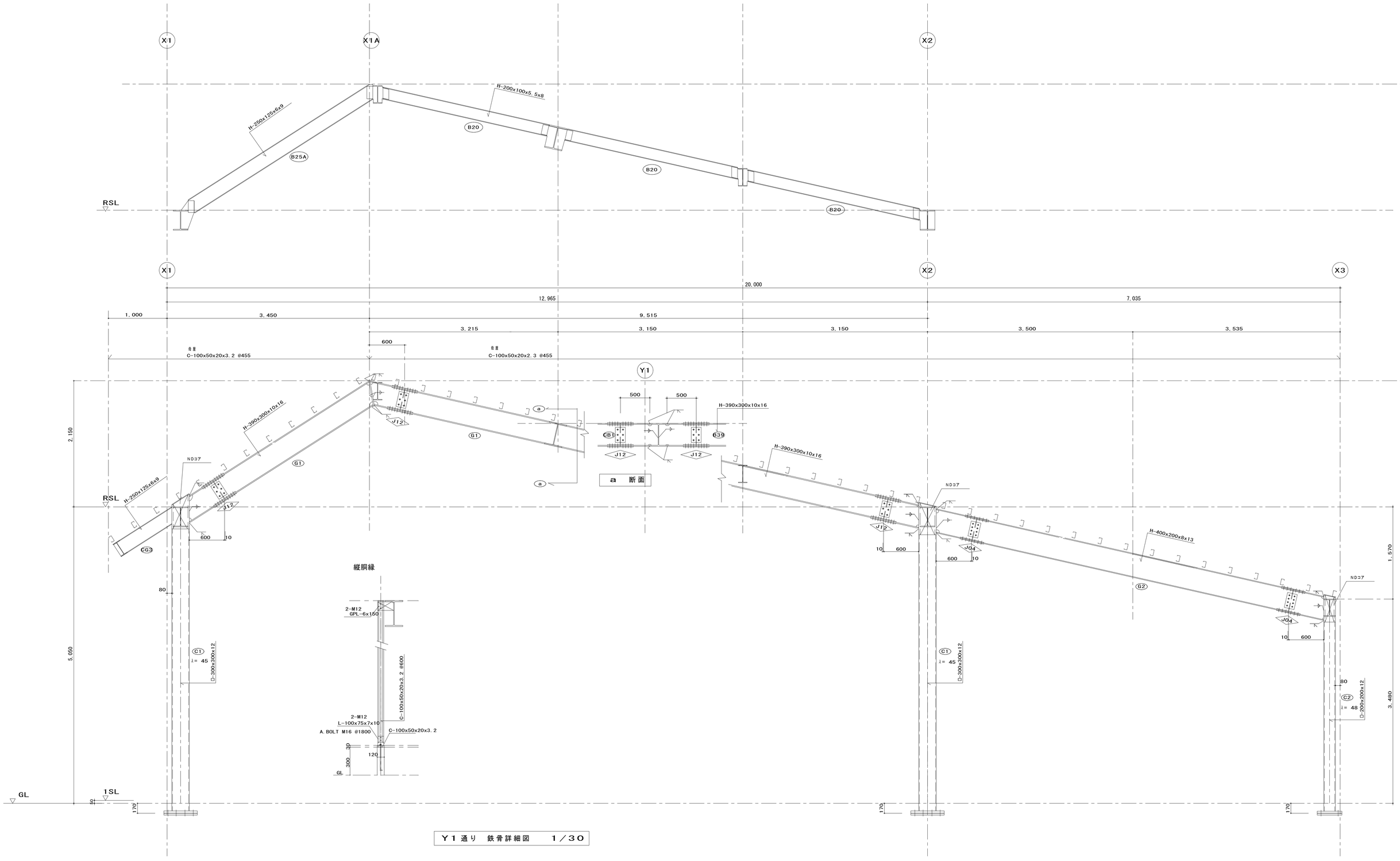
使用　材料　（ＪＩＳ規格品）

鉄筋	D29以上	SD390
	D19以上	SD345
	D16以下	SD295
コンクリート		FC=24 N/mm2
鉄骨	柱	BCR295
	ダイヤフラム	通ダイヤフラム −SN490C　その他−SN490B
	梁	SS400　SN400B　SN490B
HTB		S10T
		F10T, u=0.45

一級建築士　第167863号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀　温	富士見市中央防災センター建設工事	鉄骨リスト	(A1)-1/15 (A3)-1/30	令和08年01月 Number S-17



Y1 通り 鉄骨詳細図 1／30

一級建築士 第167863号
構造設計一級建築士 第737号 菅野 秀光

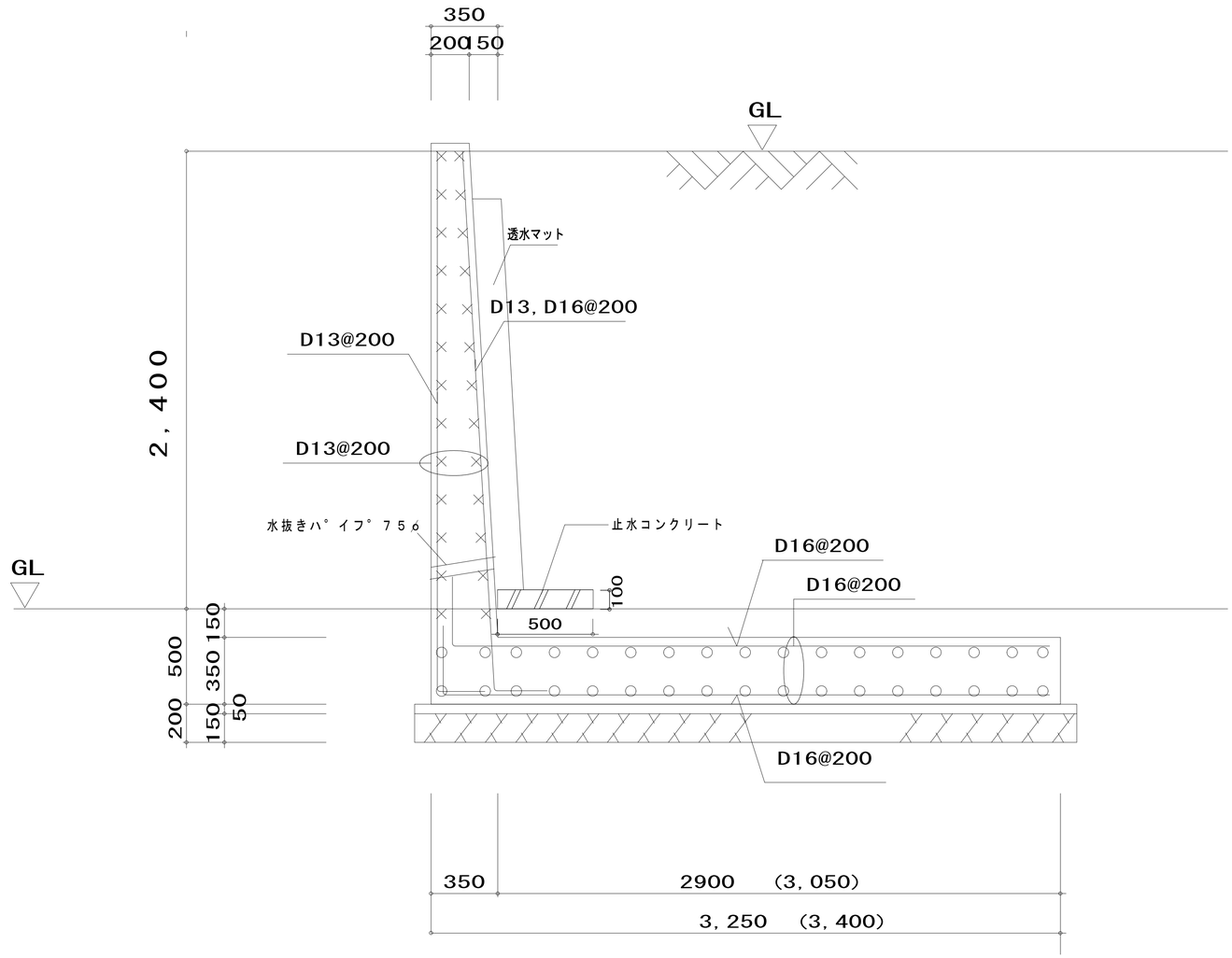
株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西 ビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事 10064
Registered Architect: 第 330549 号 須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	架構詳細図	1/30(A1) 1/60(A3)	令和08年01月

Number S-18

擁壁　詳細図　　S=1：30



特記　仕様	
鉄筋	Ｄ１９以上－ＳＤ３４５，　Ｄ１６以下－ＳＤ２９５
コンクリート	Ｆ＝２４Ｎ／ｍｍ２
設計地耐力	ｆｅ＝１４０ＫＮ／ｍ2
水抜きﾊﾟｲﾌﾟは、７５φ以上で、３　ｍ２　以内に１箇所以上設ける。	

一級建築士　第167863号
構造設計一級建築士　第737号　菅野　秀光

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀　温	富士見市中央防災センター建設工事	擁壁詳細図	(A1)-1/15 (A3)-1/30	令和08年03月 Number S-19

電気設備工事特記仕様書

1　工事概要

1．1　工 事 名　　富士見市中央防災センター建設工事
1．2　工事場所　　富士見市鶴瀬東２丁目地内 他
1．3　工　　期　　契　　約　　日 から　令和１０年３月２４日まで
　　現場施工期間　　契　　約　　日から令和９年１２月２８日まで
　　現場施工期間は、施設管理者との調整により変更することがある。
1．4　工事科目（〇印の付いたものを適用する）

⊙ 電灯設備	⊙ テレビ共同受信設備
⊙ 動力設備	・ テレビ電波障害防除設備
・ 電熱設備	⊙ 監視カメラ設備
・ 雷保護設備	・ 駐車場管制設備
・ 受変電設備	・ 防犯、入退室管理設備
・ 電力貯蔵設備	⊙ 自動火災報知設備
・ 発電設備	・ 自動閉鎖設備
・ 構内情報通信網設備	・ ガス漏れ火災警報設備
・ 構内交換設備	⊙ 電話・情報配管設備
・ 情報表示設備	・ 中央監視制御設備
・ 映像、音響設備	・ 医療関係設備
・ 拡声設備（非常放送設備）	・ 昇降機設備
⊙ 誘導支援、呼出し設備	⊙ 機械警備配管設備

1．5　指定部分　　⊙ 無　　・有（　　工期：令和　　年　　月　　日）
1．6　主任技術者又は監理技術者の専任期間（建設業法により必要になった場合）
　１　専任期間の始期
　　請負契約締結の日から、(⊙現場施工に着手するまで（現場事務所の設置、資機材の搬入
　　又は仮設工事等が開始されるまで）の期間　・令和　　年　　月　　日までの期間）については、
　　主任技術者又は監理技術者の専任を要しないものとする。
　２　専任期間の終期
　　工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合は除く。）、事務手続き、
　　後片付けのみが残っている場合は、主任技術者又は監理技術者の専任を要しないものとする。
　３　専任期間の中断
　　自然災害の発生又は埋蔵文化財調査等により発注者からの通知により、
　　工事を全面的に一時中止にしている場合は、主任技術者又は監理技術者の専任を要しないものとする。
1．7　建物概要
　　敷地面積　　m2
　　延床面積　約 390.25m2
　　構造　木造　2階
1．8　用途
　　学童保育

1．9　同時期発注の関連工事　　⊙ 建築工事　　・ 機械設備工事

2　工事仕様

2．1　共通仕様
（1）この工事は特記仕様書、図面によるほか、越谷市電気室主編電気設備工事特別共通仕様書（以下「特別共通仕様書」という。）、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）、
公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）、公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）
（以下「標準仕様書等」という。）及び監督員の指示に従い施工する。

（2）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、それぞれの特別共通仕様書及び標準仕様書等を適用する。
（3）法令・基準・仕様書等は、原則として施工時において最新のものを適用する。

2．2　特記仕様（特記事項の選択項目は、〇印のついたものがなければ※印を適用し、・印のものは適用しない。
　⊙ 印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。）

項　　目	特　　記　　事　　項
① 機材等	本工事に使用する機材等は、設計図書に規定するもの又はこれと同等のものとする。なお、資材名、製造所名および発注先を記載した報告書を監督員に提出し承諾を受けるものとする。 使用機材等については、アスベスト含有の有無を確認し、アスベストを含む機材等は使用しないこと。 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく特定調達品目に該当する機材を使用する場合は、原則として、その判断の基準、配慮事項を満たすこと。 調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努めるものとする。
② 施工条件	施工時間 ※行政機関の休日に関する法律（S63第91号）に定める行政機関の休日以外。 ・上記以外の時間に施工する場合は事前に監督員と協議すること。
③ 工事用電力・水	本工事に必要な電力及び水などの費用は、受注者の負担とする。
④ 工事用仮設物	すべて受注者の負担とし、構内につくることができる。
⑤ 足場・さんばし類	※別契約の関連工事の受注者が定着したものは無償で使用できる。 ・本工事とする。
⑥ 監督員事務所	本工事で　・設ける（規模　　）　※設けない
⑦ 保　　険	受注者は工事目的物及び工事材料について工事完成期日後１４日まで、これを火災が保障対象になっている組立保険等にかけて、証書の写しを監督員に提出する。 受注者は法定外の労災保険に付し、証書の写し等を監督員に提出する。
⑧ 再使用機材	取外し再使用機材は、清掃及び絶縁抵抗測定等を行い、機能が良好なことを確認した上で取付る。なお、その測定結果表を監督員に提出する。
⑨ 建設リサイクル法の適用	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律の適用について ※　適用する（契約金額による）　・　適用しない
⑩ 完成図書の電子納品	完成図書の電子納品ガイドライン　　※　適用する　　・適用しない 完成図の表紙及び背表紙には、工事名、受・発注者名、完成年月を記載すること。また、完成図の中に主要機器一覧表（名称、製造者名、形式、容量又は出力、数量等）を記載すること。
⑪ 発生材処理	引渡を要するもの以外は構外に搬出し、適切に処理する。 （構外搬出処理費は、※本工事　・別途） （1）引渡しを要するもの　（　　） （2）貫取処分をするもの　（銅屑・鉄屑　　） （3）再生資源化を図るもの（蛍光管　　） 蛍光管等は再資源化施設等に搬入し、全てリサイクルするものとする。 （4）特別管理産業廃棄物　（　　） ※処理に先立ち計画書を提出し、処理後は調書を提出すること。

⑫ 金属電線管の塗装	露出配管は原則として塗装を行う。ただし、機械室、倉庫等の露出配管は塗装を行わない。 また、屋外で溶融亜鉛メッキ電線管を使用する場合は、塗装を行わない。 ただし、見えかかり部の塗装については監督員の指示による。
⑬ 鍵	盤等の鍵は、既存盤及び別途工事の鍵との整合を極力図るものとする。
⑭ 地中電線路	（1）管路等の敷設に伴う敷き均し土は、標準仕様書のほか下記及び図面特記による。 敷き均し土：良質土 管種別：硬質ビニル電線管（VE）／耐衝撃性塩化ビニル管（HIVE）／波付硬質合成樹脂管（FEP）／ポリエチレン被覆鋼管（PLP） （2）地中電線路には、ケーブル埋設標及び標識シートを設ける。ただし、低圧・弱電回路の標識シートは図面特記による。 （3）地中電線路の敷設は管路式とし、埋設深さは地表面（舗装する部分では路盤材下面）から配管の上端まで原則、600mmとする。ただし、公道への引込み管路等の埋設深さについては、供給事業者と協議のうえ決定する。
⑮ 回路の種別行先の表示	ハンドホール、プルボックス及び主要なアウトレットボックス内の電線・ケーブルには、回路の種別、行先の表示を行う。
⑯ 電線の接続	湿気の多い場所、水を使用する場所及び屋外は、圧着接続し自己融着テープを巻き付けたうえで絶縁テープ巻きとする。 上記以外の場所においては、屋内配線用電線コネクタによる接続をしてもよい。ただし、接続はボックス内とする。
⑰ 電線管の接続	屋外におけるケーブルの保護管に用いる厚鋼電線管の接続は、防水処置を施したねじなし工法としてもよい。
⑱ 接地工事	漏電遮断器で保護されている電路と保護されていない電路のD種接地極が共用していない場合の接地線は、混触防止のため、緑色、緑／黄又は緑／色帯で区別する。
⑲ 残土処分	埋戻し後の建設残土は、監督員が指示する構内の場所に敷き均しとする。
⑳ 再生砂・再生アスコン	契約図書中の山砂の類、砂利、砕石及びアスコンに代替し、監督員の了解を得た上で、　・使用できる。　※使用できない。 再生砂使用に先立ち、1購入あたり1検体の六価クロム溶出試験を行い土壌の汚染に係る環境基準に適合することを確認すること。
㉑ 耐震施工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針　2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）による。 なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。 （1）設計用水平地震力 機器の重量［kgf］に、設計用水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用水平震度は、次による。

設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	特定の施設		○一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機　　器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水　槽　類(※1)	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機　　器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水　槽　類(※1)	1.5	1.0	1.0	0.6
地下・1階	機　　器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水　槽　類(※1)	1.5	1.0	1.0	0.6

【備　考】（※1）：水槽類には、オイルタンク等を含む。
重要機器
・配電盤　・発電装置(防災用)・直流電源装置　・交流無停電電源装置
・交換機　・火災報知器受信機　・中央監視装置　・太陽光発電装置
上層階の定義は次による。
2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層２階、10～12階建の場合は上層３階、13階建以上の場合は上層４階とする。
（2）設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。

㉒ あと施工アンカー	機器・配管等の据付けにおけるあと施工アンカーの使用については、監督員の承諾を受けるものとする。 重量１００ｋｇを超える機器の耐震支持については、耐震計算書を添付し、アンカーボルトを選定すること。 施工は、（一社）日本建築あと施工アンカー協会の資格を有するもの、又は十分な技能及び経験を有した者が行うこと。 金属拡張系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、拡張の完了がわかる記録を添付すること。 接着系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、清掃状況、マーキング、カプセル挿入、埋込みの完了が分かる記録を添付すること。 （原則として、接着系アンカーは吊り支持に使用しないものとする。） あと施工アンカーの試験は、アンカーの種類毎に１か所引張試験を実施すること。
㉓ はつり及びあと施工アンカー打設	既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開け及びあと施工アンカー打設前に、図面に明示する箇所についてＸ線撮影調査を実施すること。
㉔ 改修部分の足場	本工事で単独に必要となる足場は、下記により設ける。 （1）内部足場　※ 脚立足場 （2）外部足場　※ Ａ種(枠組足場)・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種 ・Ｅ種 ・Ｆ種 ※足場を設ける場合は、「「手すり先行工法等に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うものとする。
㉕ 墜落制止用器具（フルハーネス型）	※使用を要する　墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン（平成30年6月22日付け基発0622第2号）による ・使用を要しない

㉖ アスベスト事前調査結果の報告	全ての建築物、工作物において大気汚染防止法及び石綿障害予防規則の事前調査を実施し、アスベスト使用有無に関わらず、結果を知事又は市長あてに報告する。
㉗ その他	（1）施工に先立って建築及び関連設備の業者と打合せのうえで施工図を作成し、監督員の承諾を受ける。 （2）本工事に使用する製作品は、事前に製作図を監督員に提出し、承諾後製作する。 （3）本工事に使用する機器は、事前に性能等を記した機器仕様書を監督員に提出し、承諾後施工する。 （4）本工事にかかる官公庁への諸手続はすべて受注者が代行し、その費用は受注者の負担とする。 （5）特記なき電線・ケーブルは、原則としてエコマテリアル電線・ケーブルとし、露出部分に使用する場合は耐紫外線性能を有するものとする。 （6）改修工事等を施工する場合、施工する前後に工事対象箇所の写真撮影を行う。また、既設ケーブル等は施工前後に絶縁抵抗、伝送品質等の測定を行い、試験記録を提出する。 （7）受注者は、施工にあたって施設運営に支障の無いように綿密に打合せを行うこと。 （8）本工事における停電措置が必要な場合、事前に計画書を電気主任技術者に提出する。また、停電操作・安全処置は受注者が行い、その費用は受注者の負担とする。 （9）特に騒音振動など周辺に甚大な影響のある工事については、原則として学校では学校運営に支障を与えない期間、その他の施設では施設管理者と打合せして設定すること。 (10) 工事に先立ち、監督員と打合せの上、住民及び関係自治会等に対して工事説明を実施すること又、工事に先立ち、「工事のお知らせ」等を配布し、周知する。 以上のことを留意し、工程管理、安全管理に万全を期すること。

2．3　工事別一般事項（特記事項選択項目は、〇印のついたものを適用する）

項　　目	特　　記　　事　　項
① 電灯設備	（1）配線器具 スイッチ・壁付コンセント(2P15A)は連用形とする。なお、２口コンセントは樹式を使用してもよい。 フラッシュプレートは原則としてステンレス又は新金属を使用する。 ただし、県営住宅における住戸内のフラッシュプレートついては、樹脂プレートを使用することができる。 コンセント器具に具備されている送り配線端子は使用してはならない。 （2）照明器具 防災用照明器具は、建築基準法による非常用照明器具及び消防法による誘導灯とし、関係法令に適合したものとする。 （3）照度測定 電灯設備工事に際し、新営工事の場合は新設後の、改修工事の場合は改修前と改修後の照度測定をJIS C 7612「照度測定方法」により、学校においては学校環境衛生基準により実施すること。 （4）分電盤 分電盤の塗装色は、監督員の指定した色とする。 （5）縁枠 天井又は壁埋込みの場合のボックスは、塗りしろカバーと仕上り面とが１０mm程度以上離れる場合は縁枠を使用する。ただし、ボード張りで、ボード裏面と塗りしろカバーの間が離れないように施工した場合は、縁枠を必要としない。 （6）位置ボックスの省略 ケーブルころがし配線で、位置ボックスの図面特記がなく、かつ、照明器具に送り配線端子が具備されている場合は、位置ボックスを省略しても良い。
② 動力設備	（1）動力制御盤及び開閉器箱の塗装色は、監督員の指定した色とする。負荷用送り端子台は１負荷につきＵ・Ｖ・Ｗ・Ｅの４Ｐを原則とする。 （2）電動機等各負荷までの接続は、本工事とする。ただし、制御盤以降が別途工事の場合は、当該制御盤の電源側接続までとする。
③ 雷保護設備	受雷部突針はＬＲ１とする。
④ 受変電設備	高圧引込　引込み口は、設計図に示された位置を電力会社に再確認する。また、ケーブル等の埋設及び、その端末処理は監督員の立会いうえで施工する。 高圧ケーブル端末部はシースずれ防止対策を施す。 （端末処理　・耐塩用　・一般用） 受電電圧　交流３相３線式　６．６kV　５０Hz 柱上用高圧気中負荷開閉器(PAS)　定格電圧　７．２kV　定格電流　A 主遮断装置　定格電圧　kV　定格遮断電流　kA 変圧器設備容量　動力用　kVA×　台 電灯用　kVA×　台 高圧進相コンデンサ　kVar×　台 直列リアクトル　・６％　・１３％　kVar×　台
⑤ 構内情報通信網設備	ネットワーク機器を盤内等に収納する場合は、放熱、耐塵等を考慮する。
⑥ 電力貯蔵設備	・直流電源装置　・交流無停電電源装置 ・（概要）
⑦ 発電設備	・ディーゼル発電装置　・ガスエンジン発電装置 ・ガスタービン発電装置　・マイクロガスタービン発電装置 ・燃料電池発電装置　・熱併給(ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ)発電装置 ・太陽光発電装置　・風力発電装置 ・（概要）

項　　目	特　　記　　事　　項
⑧ 構内交換設備	局線電話の引込位置は、第一種電気通信事業者と打合せのうえで施工する。
⑨ 自動火災報知設備、ガス漏れ火災警報設備、拡声設備（非常放送設備）	（1）所轄する消防署と打合せのうえ、各関係条例等に従い施工する。 （2）総合盤内の接続は端子を使用し、回路名を記入しておくものとする。 （3）ガス漏れ警報設備の動作試験は、原則としてガス納入業者立会いのうえで行うものとする。
１０　昇降機設備	特記なき場合の施工は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）による。 なお、県営住宅の場合は、公共住宅建設工事共通仕様書による。

2．4　取付高さ
壁付、壁掛型の機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として次のとおりとする。

名　　称	測　点	取付高さ（mm）	
		一　般	県営住宅
スイッチ（一般）	床上～中心	１，３００	１，２００
〃　（身体障害者用）	〃	１，１００	１，０００
〃　（人感センサー切換用）	〃	２，０００	２，０００
ｺﾝｾﾝﾄ、電話用ｱｳﾄﾚｯﾄ、直列ﾕﾆｯﾄ（一般）	〃	３００	４００
〃　（和室）	〃	１５０	２００
〃　（台上）	台上～中心	１５０	５００
防水型コンセント	床上～中心	５００	５００
分電盤、制御盤、開閉器箱	〃	（上端1,900以下）1,500	（上端1,900以下）1,500
呼出ボタン（身体障害者用）	〃	９００	９００
復帰ボタン（　〃　）	〃	１，８００	１，８００
廊下表示灯（　〃　）	〃	２，０００	２，０００
端子盤	〃	（上端1,900以下）1,500	２，０００

3　その他

3．1　他工事との取合区分
　　発注図又は工事区分表による。
3．2　図面上の縮尺
　　図面上の縮尺は、ＪＩＳ　Ａ１版とした縮尺とする。
3．3　疑義
　　本特記仕様書、特別共通仕様書及び標準仕様書等において疑義が生じた場合は、
　　監督員と協議するものとする。

舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書

第１条　この特記仕様書は、埼玉県電気設備工事特別共通仕様書に定めるもののほか、アスファルト舗装版切断時に発生する濁水（以下「濁水」という。）の処理に関し必要な事項を定めるものである。
第２条　受注者は、回収した濁水を次のとおり処理するものとする。
・種類及び処理量　汚泥（油分を含む汚泥）　．　m3
・中間処理施設　　市　　地内、（株）
・処理方法　　・中間処理後、最終処分場に搬入（処理に焼却又は溶融含まず）
・中間処理後、最終処分場又は再資源化（処理に焼却又は溶融を含む）
２　受注者は、別の中間処理施設を選定する場合には、事前に監督員と協議するものとする。
第３条　受注者は、舗装版切断作業を行いながら濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥（油分を含む汚泥）として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。
２　受注者は、汚泥の中間処理の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。
３　受注者は、自ら運搬を行う場合を除き、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。
４　受注者は、濁水の処理に関する履行について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において定める産業廃棄物管理票（以下「マニフェスト」という。）により管理するものとする。
第４条　受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と第3条第3項及び第4項に基づき締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。
２　受注者は、工事検査時にマニフェスト原本を提示する。
第５条　濁水処理量については、舗装版の切断延長や切断厚が変わった場合を除き、原則として設計変更の対象としないものとする。
２　受注者は、舗装版切断時に濁水を生じない工法を使用する場合においては、事前に監督員と協議するものとする。
３　この特記仕様書に疑義等が生じた場合については、別途監督員と協議するものとする。

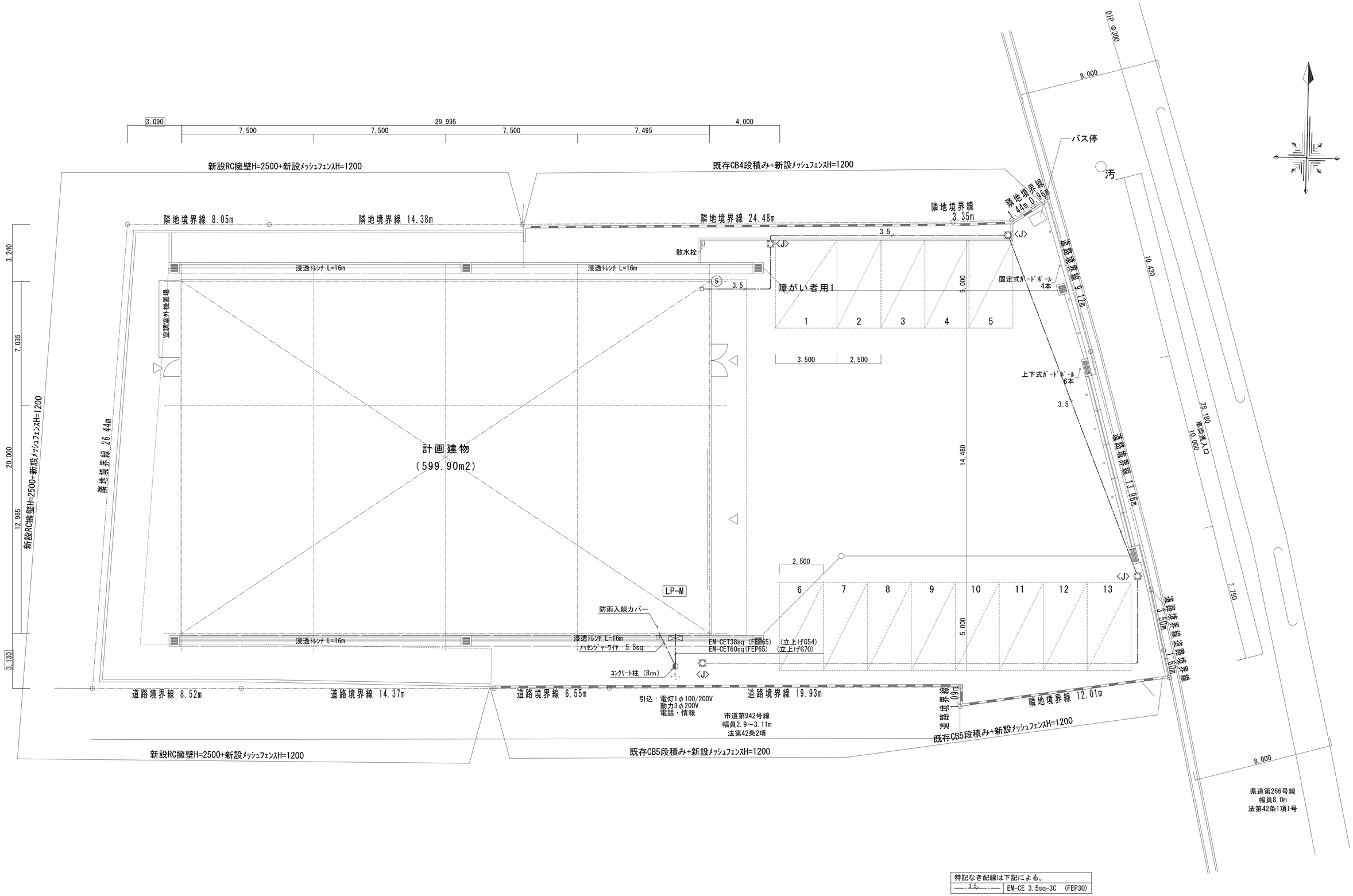
昇降機の適切な維持管理に係る特記仕様書

第１条　この特記仕様書は、昇降機設備工事（新設、増設又は更新）において、昇降機を常時適法な状態に維持できるよう必要な事項を定める。なお、この特記仕様書に記載されていない事項は、「昇降機の適切な維持管理に関する指針」（平成28年２月19日付け国土交通省住宅局建築指導課）による。
第２条　この特記仕様書における用語の定義は、次の各号による。
２　昇降機とは、本工事で施工した昇降機設備をいう。
３　発注者とは、本工事の発注者をいう。
４　受注者とは、本工事の受注者をいう。
５　製造者とは、昇降機の製造者をいう。
６　管理者とは、昇降機の引渡しを受け、施設管理を行う者をいう。
７　保守点検受注者とは、管理者からの委託により、保守・点検業務を受注した者をいう。
第３条　製造者または受注者は、次の各号に掲げる責任を果たすよう努めなければならない。
２　製造者は、製造した昇降機の部品等を、昇降機の引渡しから起算して耐用年数を勘案して適切な期間供給すること。
３　製造者は、適切な維持管理を行うことができるよう、管理者に対して維持管理に必要な情報又は機材を提供又は公開するとともに、問い合わせ等に対応する体制を整備すること。
４　製造者は、保守点検受注者からの依頼に対し協力すること。
５　受注者は、製造者に対し、前各号の規定を遵守するよう要請すること。
第４条　この特記仕様書に定めのない事項については、必要に応じて発注者と受注者が協議して定める。

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀　温

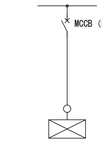
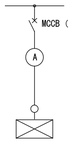
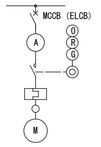
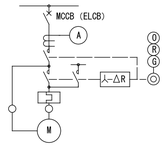
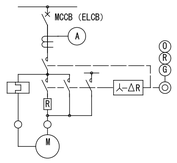
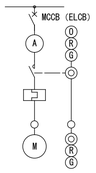
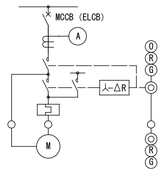
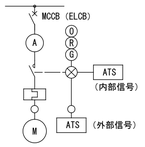
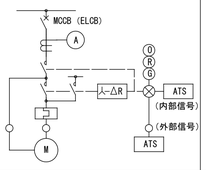
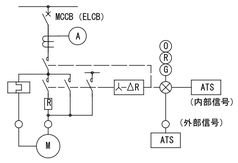
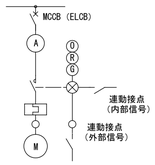
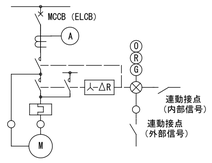
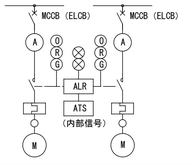
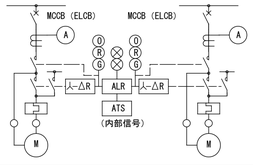
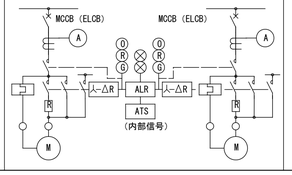
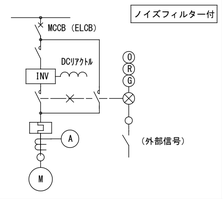
Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	電気設備特記仕様書	N/S(A1) N/S(A3)	令和8年03月 Number E-01



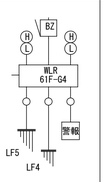
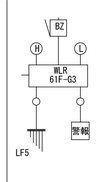
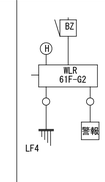
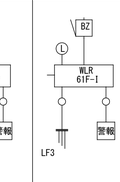
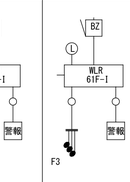
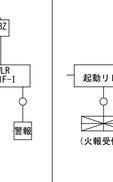
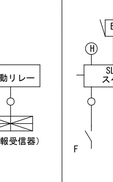
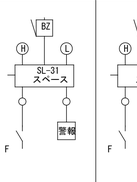
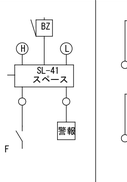
特記なき配線は下記による。	
——・3.5・——	EM-CE 3.5sq-3C (FEP30)

株式会社 SuKA建築設計事務所	Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale
	〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号 須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	配置図	1/100(A1) 1/200(A3)

設計年月	Number
令和8年03月	E-02

A	電源供給	B	電源供給（電流計付）	C	直入手元	D	人一△ 手元
							
E	P-M起動手元	F	直入手元－遠方	G	人一△ 手元－遠方	H１	直入試験－自動（内部信号）
						H２	直入試験－自動（外部信号）
							
I１	人一△試験－自動（内部信号）	J１	P-M起動試験－自動（内部信号）	K１	直入単独－連動（内部信号）	L１	人一△ 単独－連動（内部信号）
I２	人一△試験－自動（外部信号）	J２	P-M起動試験－自動（外部信号）	K２	直入単独－連動（外部信号）	L２	人一△ 単独－連動（外部信号）
							
M１	直入自動交互	N１	人一△ 自動交互	O	ＰーM起動自動交互	P	INV起動（ﾊﾞｲﾊﾟｽ回路付）
M２	直入自動交互追掛	N２	人一△ 自動交互追掛				
							

制御回路

V１	給水	V２	給水/排水	V３	排水	V４	警報用	V５	排水	V６	起動用	V７	給油	V８	給油返油	V９	
電極		電極		電極		電極		フロートスイッチ		火報受信器		フロートスイッチ		フロートスイッチ		遠方発停	
																	

凡例

記号	名称	記号	名称
MCCB	配線用遮断器	F	フロートスイッチ
ELCB	配線用漏電遮断器	⋐	計器用変流器
MMCB	電動機保護用遮断器	Y-ΔR	Ｙ－Δタイマー
MELB	電動機保護用漏電遮断器	ALR	自動交互リレー
A	電流計	WLR	液面リレー
	電磁接触器	R	水銀フロートスイッチ用リレー
G	表示灯緑（停止中）	INV	インバーター制御装置
R	表示灯赤（運転中）	ATS	自動スイッチ
O	表示灯黄（故障）	H	満水・満油用表示灯
◎	押釦スイッチ	L	減水・減油用表示灯
⊗	切替スイッチ	42	マグネットスイッチ
LF	フロートレススイッチ電極	⊐	サーマルリレー

特記事項

1) 電流計は延長目盛、赤指針付とし定格電流が20Aを超えるものはCT付とする。
2) 主幹に用いるELCBは、時延形0.3secとする。
3) ELCBはトリップ警報端子付、MCはサーマルトリップ警報付。
4) 中央監視制御対称機器は、故障、動作表示の各々a接点×１を取付とする。
及び操作対称機器は起動用リレーDC24V取付とする。

盤仕様

a）材質		b）形状		c）構造１		d）構造２		e）塗装	
記号	仕様	記号	仕様	記号	仕様	記号	仕様	記号	仕様
A1	スチール	B1	自立	C1	標準	D1	折曲	E1	焼付(標準)
A2	ステンレス	B2	壁掛	C2	防雨	D2	ビス止め	E2	焼付(指定)
A3	樹脂	B3	露出	C3	防湿	D3	外扉付･中蓋付	E3	耐塩
		B4	埋込	C4	耐熱(一種)	D4	外扉付･中蓋無	E4	紛体
				C5	耐熱(二種)	D5	外扉無･中蓋付		

LP-M

a）A１ b）B２ c）C２ d）D３ e）E２

AC1φ3W 200/100V

合計容量 計 23.54 [KVA]

EM-CET 60sq E14sq

AC 3φ3W200V

合計容量 計 14.98 [KW]

EM-CET 38sq E8sq

機器記号	負荷名称	負荷容量[KW]	開閉器容量 AF/AT	結線方式 主回路	結線方式 制御回路	現場盤 操作 COS	現場盤 操作 発停	現場盤 操作 自動	現場盤 操作 連動	現場盤 表示 状態	現場盤 表示 故障	警報盤 操作 発停	警報盤 操作 空白	警報盤 表示 状態	警報盤 表示 故障	警報盤 表示 計測	連動	インターロック	配線仕様	備考
L-1		23.56																	EM-CET 60sq, E14sq	
MCCB 3P 225/150																				
P-1		14.98																	EM-CET 38sq, E8sq	
MCCB 3P 125/125																				

P-1

a）A１ b）B２ c）C２ d）D３ e）E２

AC 3φ3W200V MCCB 3P 125/125 合計容量 計 13.58 [KW] P01 EM-CET 38sq E8sq

	機器記号	負荷名称	負荷容量[KW]	開閉器容量 AF/AT		備考
1		フォークリフト	5.0	ELB 3P 50 / 30	A	
2	MAC-1		3.2	ELB 3P 50 / 30	A	
3	MAC-2		3.8	ELB 3P 50 / 30	A	
4	PAC-1		1.58	ELB 3P 50 / 20	A	

機器記号	配線仕様	備考
	EM-CE5.5sq-4C	(想定容量)
MAC-1	EM-CE5.5sq-4C	
MAC-2	EM-CE5.5sq-4C	
PAC-1	EM-CE3.5sq-4C	

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号 須賀 温

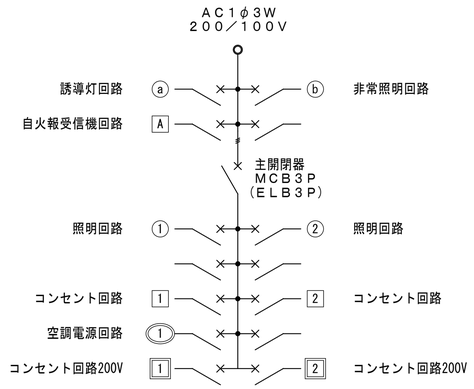
Project 富士見市中央防災センター建設工事
Index 引込開閉器盤・動力分電盤図
Scale N/S(A1) N/S(A3)
設計年月 令和8年03月
Number E-03

盤仕様

a）材質		b）形状		c）構造１		d）構造２		e）塗装	
記号	仕様	記号	仕様	記号	仕様	記号	仕様	記号	仕様
A1	スチール	B1	自立	C1	標準	D1	折曲	E1	焼付(標準)
A2	ステンレス	B2	壁掛	C2	防雨	D2	ビス止め	E2	焼付(指定)
A3	樹脂	B3	露出	C3	防湿	D3	外扉付･中蓋付	E3	耐塩
		B4	埋込	C4	耐熱(一種)	D4	外扉付･中蓋無	E4	紛体
				C5	耐熱(二種)	D5	外扉無･中蓋付		

回路番号				遮断器記号	
	○	AC100V回路	a～:誘導灯回路	M1	MCB 1P 50／20A
			A～:非常照明回路	M2	MCB 2P 50／20A
			1～:照明回路	M3	MCB 2P 50／30A
	□	AC100V回路	A～:コンセント回路	M4	MCB
			1～:コンセント回路	M5	MCB
	▣	AC100V回路	1～:空調換気回路		
		AC200V回路		E1	ELB 1P 50／20A
				E2	ELB 2P 50／20A
				E3	ELB 2P 50／30A
				E4	ELB
			※2重の記号は200V回路を表す。	E5	ELB

CPU	伝送ユニット	AMP	増幅器
Tr	リモコントランス 100／24V	T／U1	リレー制御用T／U 1回路用
Ry1	リモコンリレー1P20A 100V	T／U4	リレー制御用T／U 4回路用
Ry2	リモコンリレー1P20A 200V	TM	年間プログラムタイマーユニット
●R24	液晶ネームタッチスイッチ 24回路		ソーラー機能付・フル2線信号出力形
	盤面取付		



注記

1. 特記なきＥＬＢの定格感度電流及び動作時間は、３０ｍＡ ０．１秒型とする。
2. 耐熱分電盤の仕様は、「防災設備の電源と配線に関する指針」ＪＥＣＡ１０３２による。
3. 誘導灯回路、非常照明回路、自動火災報知回路及び非常放送回路等の電源としての配線用遮断器は、その旨を赤字で明記し開放防止装置を設ける。
4. 盤内にタイマー、リモコンＴｒ等の制御機器の電源が必要な場合には、制御用電源を設けるものとする。
5. ＷＨＭは検定付とし、主開閉器に応じてＷＨＭの定格電流、ＣＴの有無を判断すること。

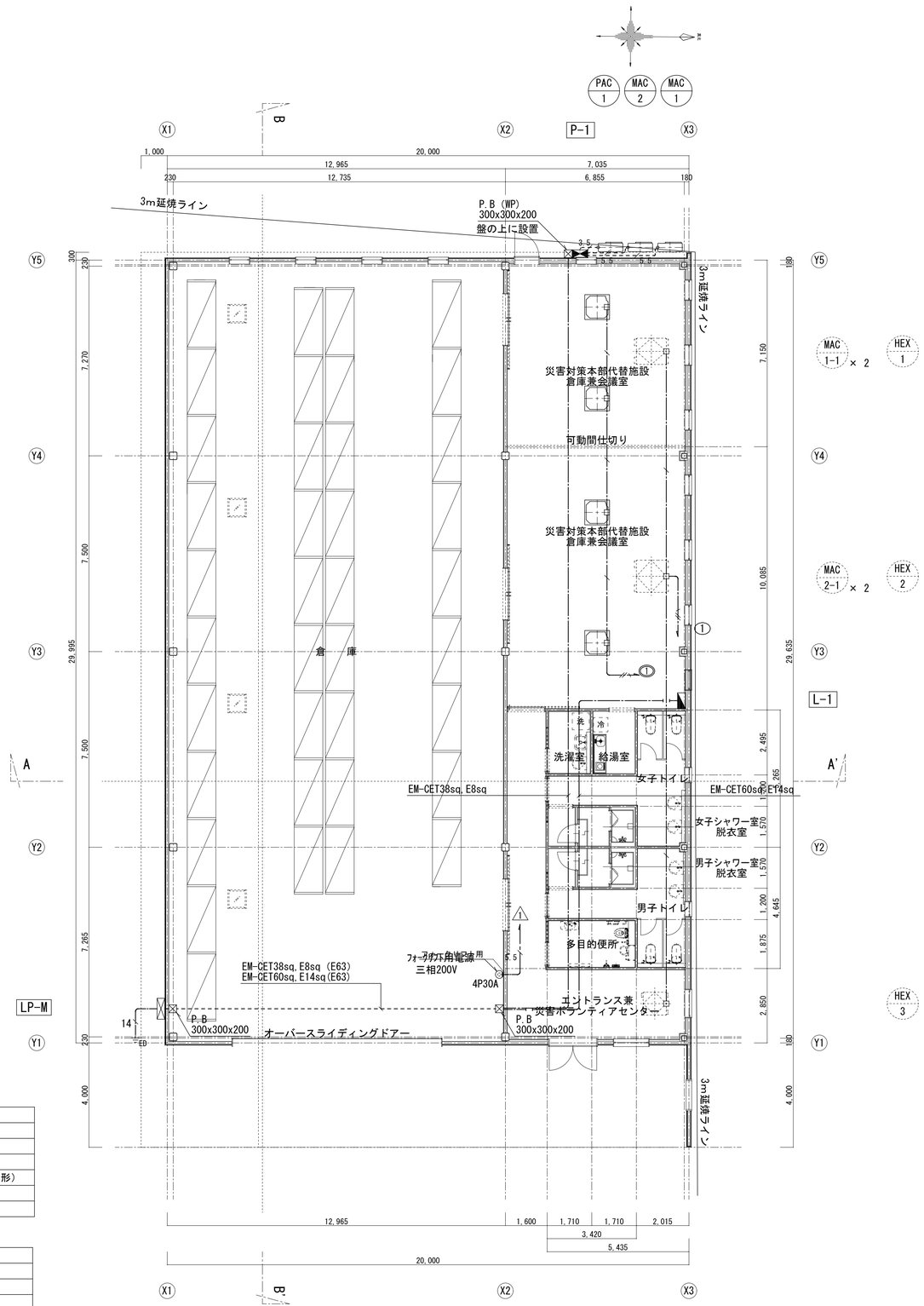
盤名：L-1
盤仕様：
幹線番号：EM-CET60sq IE14sq
電気方式：ＡＣ１φ３Ｗ
主幹：200／100Ｖ
合計容量：計 23.56[KVA]
a）Ａ１ b）Ｂ２ c）Ｃ１ d）Ｄ３ e）Ｅ１
MCCB 3P 225/150

回路番号	記号	負荷容量 電灯 [VA]	負荷容量 ｺﾝｾﾝﾄ [VA]	負荷容量 その他 [VA]	負荷名称	備考
	AC1φ3W					
	200/100V					
A	M2				誘導灯	
B	M2		200		自火報受信機	
C	M2		200		警備保障盤	
①	E2			1,159	全熱交換機	
①	M2				非常灯	
②	E2	570			倉庫兼会議室他照明	
③	E2	768			廊下、トイレ他照明	
④	E2	1,200			倉庫他照明	
⑤	E2	392			外灯	TM,AS
⑥	M2				予備	
1	E3		4,000		IH ｺﾝｾﾝﾄ	
1	E2		200		廊下 ｺﾝｾﾝﾄ	
2	E2		700		多目的WC ｺﾝｾﾝﾄ	
3	E2		1,261		多目的WC ｺﾝｾﾝﾄ	
4	E2		1,261		男子WC ｺﾝｾﾝﾄ	
5	E2		1,261		男子WC ｺﾝｾﾝﾄ	
6	E2		1,261		女子WC ｺﾝｾﾝﾄ	
7	E2		1,261		女子WC ｺﾝｾﾝﾄ	
8	E2		500		洗濯室 ｺﾝｾﾝﾄ	
9	E2		1,100		電気温水器 ｺﾝｾﾝﾄ	
10	E2		1,000		流し台 ｺﾝｾﾝﾄ	
11	E2		500		冷蔵庫 コンセント	
12	E2		300		倉庫兼会議室 ｺﾝｾﾝﾄ	
13	E2		300		倉庫兼会議室他 ｺﾝｾﾝﾄ	
14	E2		300		倉庫 ｺﾝｾﾝﾄ	
15	E2		400		倉庫 ｺﾝｾﾝﾄ	
16	E2		520		排気扇 ｺﾝｾﾝﾄ	
17	E2		300		ガス給湯器 ｺﾝｾﾝﾄ	
18	E2		200		端子盤 ｺﾝｾﾝﾄ	
19	E2		250		オーバースライダー	
20	E2		500		ネットワーク機器類	
21	E2		1,000		プリンター用	
22	E2		1,000		プリンター用	
		2,930	19,475	1,159		

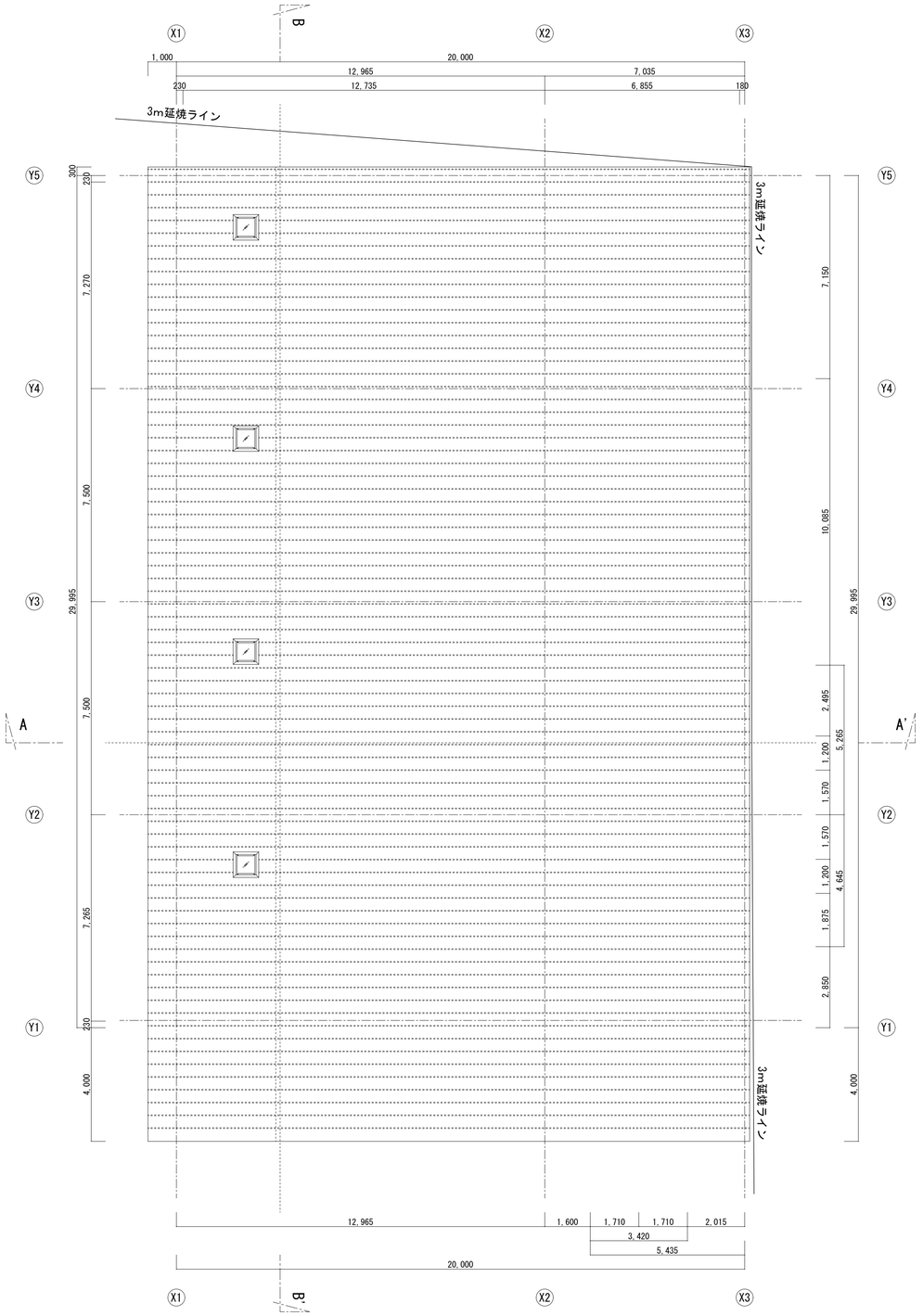
株式会社 SuKA建築設計事務所

Address 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号 須賀 温

Project 富士見市中央防災センター建設工事
Index 電灯分電盤図
Scale N.S
設計年月 令和8年03月
Number E-04



平面図　S=1/200



屋根伏図　S=1/200

特記なき記号は下記による。	
⋈	引込開閉器盤
◢	電灯分電盤
⋈	動力分電盤
☒	ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ(WPはSUS製 防水形)
□	ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ
⦾4P30A	ｺﾝｾﾝﾄ-壁付-3P30A E付

特記なき配線は下記による。		
—·—/—·—	EM-EEF 1.6-3C(1E)	
—·—//—·—	EM-EEF 2.0-3C(1E)	
—·—5.5—·—	EM-CE 5.5sq-4C	
---5.5------	EM-CE 5.5sq-4C	(G28)
---3.5------	EM-CE 3.5sq-4C	(G22)

＊壁内配線はPF管にて保護とする。

株式会社 SuKA建築設計事務所	Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
	〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	幹線動力設備　　平面図	1/100(A1) 1/200(A3)	令和8年03月 Number E-05

A　ダウンライト　100形



LED内蔵ぐワンコア（ひと粒）タイプ>、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ
5000K、Ra85、拡散タイプ
光源遮光角15度、光束維持時間40000時間（光束維持率85%）
器具光束：1045lm、消費電力：7W、電圧：100－242V
反射板（上部）：プラスチック（ホワイト）
反射板（下部）：鋼板（ホワイトつや消し仕上）
枠：鋼板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ150

公共施設型番　LRS1-08

B　ダウンライト　150形



LED内蔵ぐワンコア（ひと粒）タイプ>、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ
5000K、Ra85、拡散タイプ
光源遮光角15度、光束維持時間40000時間（光束維持率85%）
器具光束：1695lm、消費電力：11.6W、電圧：100－242V
反射板（上部）：プラスチック（ホワイト）
反射板（下部）：鋼板（ホワイトつや消し仕上）
枠：鋼板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ150

公共施設型番　LRS1-13

C　ダウンライト　200形



LED内蔵ぐワンコア（ひと粒）タイプ>、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ
5000K、Ra85、拡散タイプ
光源遮光角15度、光束維持時間40000時間（光束維持率85%）
器具光束：2070lm、消費電力：15W、電圧：100－242V
反射板（上部）：プラスチック（ホワイト）
反射板（下部）：鋼板（ホワイトつや消し仕上）
枠：鋼板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ150

公共施設型番　LRS1-17

D　直付型40形　Dスタイル　W150



一般タイプ、5200lmタイプ
消費電力31．9W、定格出力型、電圧100～242V
本体：鋼板（白色粉体塗装）
ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白）
光束維持時間40000時間（光束維持率85%）
昼白色（5000K）、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵

公共施設型番　LSS9-4-48

E　直付型40形　Dスタイル　W150



一般タイプ、6900lmタイプ
消費電力43．1W、定格出力型、電圧100～242V
本体：鋼板（白色粉体塗装）
ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白）
光束維持時間40000時間（光束維持率85%）
昼白色（5000K）、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵

公共施設型番　LSS9-4-65

F　直付型４０形　反射笠付型



一般タイプ、5200lmタイプ
消費電力31．9W、定格出力型、電圧100～242V
本体：鋼板（白色粉体塗装）
ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白）
光束維持時間40000時間（光束維持率85%）
昼白色（5000K）、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵

参考型番：パナソニック　直付XFX450KENLE9

G　LEDブラケット　20形直管蛍光灯1灯器具相当



昼白色（5000K）、Ra83
器具光束1100lm、消費電力12W、電圧100V
天井直付型・壁直付型
スイッチ付、拡散タイプ、両面化粧タイプ
カバー：プラスチック（乳白）
W=580　H=65　出しろ64

(参考)パナソニック　LGB85037LE1

H　直付型40形　反射笠付型　防湿型・防雨型



一般タイプ、6900lmタイプ
消費電力43．1W、定格出力型、電圧100～242V
本体：亜鉛鋼板（クロムフリー・高反射白色粉体塗装）
防湿型・防雨型ライトバー：ポリカーボネート（乳白）＋アクリルコーティング
光源寿命40000時間（光束維持率85%）
IP23防湿型、昼白色（5000K）、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵

(参考)パナソニック　直付XLW462KENZLE9

I　LEDウォールライト　20形



LED内蔵、電源ユニット内蔵
防湿型・防雨型
5000K、Ra83、光束維持時間40000時間（光束維持率85%）
器具光束990lm、消費電力10W、電圧100～242V
本体：ステンレス、カバー：ポリカーボネート（乳白）
天井直付型・壁直付型、保護等級：IP23

公共施設型番　LBF3MP/RP-2-06

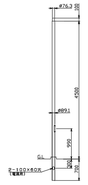
J　LED街路灯エバーライト140形相当



光束8200lm、消費電力98W、電圧100～242V
昼白色、5000K、Ra70、光束維持時間6万時間（光束維持率70%）
本体：アルミダイカスト（ミディアムグレーメタリック）
グローブ：ポリカーボネート（透明）
天板：アルミ（ミディアムグレーメタリック）
上方光束比5～15%、耐雷サージ5kV、耐風速60m
落下防止ワイヤー付

公共施設型番　LST4-60

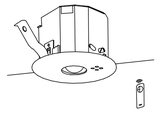
街路灯用　φ76ポール



鋼管：溶融亜鉛合金メッキ（HZA50A）後ポリエステル樹脂粉体焼付塗装
（ミディアムグレーメタリック）
耐風速60m／sec仕様（標準灯具の場合）

参考型番：パナソニック　DYDX2409H

a1　LED非常灯専用型リモコン自己点検機能付



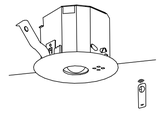
φ100低天井・小空間用（～3m）、30分間タイプ
LED内蔵、非常時・非常灯用LED点灯／常時消灯
非常灯評定番号：LALE－004
レンズ：ガラス、カバー：鋼板（クールホワイトつや消し仕上）
電圧：100～242V、蓄電池：ニッケル水素電池
点検スイッチ付、自己点検スイッチ付
充電モニタ（緑）付、リモコン：FSK90910K（別売）

保守率：0．92　　K0143779

器具取付高さ		2.1m	2.4m	2.6m	3.0m
単体配置	A1	3.8	4.0	4.0	2.8
直線配置	A2	8.5	9.4	9.9	10.1
四角配置	A4	6.9	7.6	8.1	8.9

公共施設型番　K1-LRS11-1

a2　LED非常灯専用型リモコン自己点検機能付



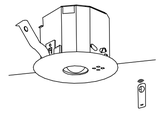
φ100低天井・小空間用（～3m）、30分間タイプ
LED内蔵、非常時・非常灯用LED点灯／常時消灯
非常灯評定番号：LALE－004
レンズ：ガラス、カバー：鋼板（クールホワイトつや消し仕上）
電圧：100～242V、蓄電池：ニッケル水素電池
点検スイッチ付、自己点検スイッチ付
充電モニタ（緑）付、リモコン：FSK90910K（別売）

保守率：0．92　　K0143780

器具取付高さ		2.1m	2.4m	2.6m	3.0m	4.0m
単体配置	A1	4.2	4.6	4.7	4.9	3.3
直線配置	A2	9.3	10.2	10.8	11.9	12.9
四角配置	A4	7.4	8.2	8.7	9.6	11.7

公共施設型番　K1-LRS11-2

a3　LED非常灯専用型リモコン自己点検機能付



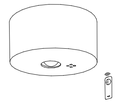
φ100中天井用（～6m）、30分間タイプ
LED内蔵、非常時・非常灯用LED点灯／常時消灯
非常灯評定番号：LALE－006
レンズ：ガラス、カバー：鋼板（クールホワイトつや消し仕上）
電圧：100～242V、蓄電池：ニッケル水素電池
点検スイッチ付、自己点検スイッチ付
充電モニタ（緑）付、リモコン：FSK90910K（別売）

保守率：0．92　　K0143775

器具取付高さ		2.1m	2.4m	2.6m	3.0m	4.0m	5.0m	6.0m
単体配置	A1	5.4	5.9	6.3	6.9	7.9	8.7	6.4
直線配置	A2	11.3	12.7	13.5	15.2	18.6	21.0	22.8
四角配置	A4	8.5	9.6	10.2	11.6	14.6	17.2	19.4

公共施設型番　K1-LRS11-3

a4　LED非常灯専用型リモコン自己点検機能付



直付中天井用（～6m）、30分間タイプ
LED内蔵、非常時・非常灯用LED点灯／常時消灯
非常灯評定番号：LALE－006
レンズ：ガラス、カバー：鋼板（クールホワイトつや消し仕上）
電圧：100～242V、蓄電池：ニッケル水素電池
点検スイッチ付、自己点検スイッチ付
充電モニタ（緑）付、リモコン：FSK90910K（別売）

保守率：0．92　　K0143775

器具取付高さ		2.1m	2.4m	2.6m	3.0m	4.0m	5.0m	6.0m
単体配置	A1	5.4	5.9	6.3	6.9	7.9	8.7	6.4
直線配置	A2	11.3	12.7	13.5	15.2	18.6	21.0	22.8
四角配置	A4	8.5	9.6	10.2	11.6	14.6	17.2	19.4

公共施設型番　K1-LSS11-3

b1　LED　C級　避難口誘導灯片面型



LED誘導灯コンパクトスクエア
C級　片面型
壁・天井直付型
一般型（20分間）
ニッケル水素蓄電池
リモコン自己点検機能付
型式認定番号：1AS111－3618

公共施設型番　SH1-FSF20-C

b2　LED　C級　通路誘導灯片面型



LED誘導灯コンパクトスクエア
C級　片面型
壁・天井直付型
一般型（20分間）
ニッケル水素蓄電池
リモコン自己点検機能付
型式認定番号：1AS111－3618

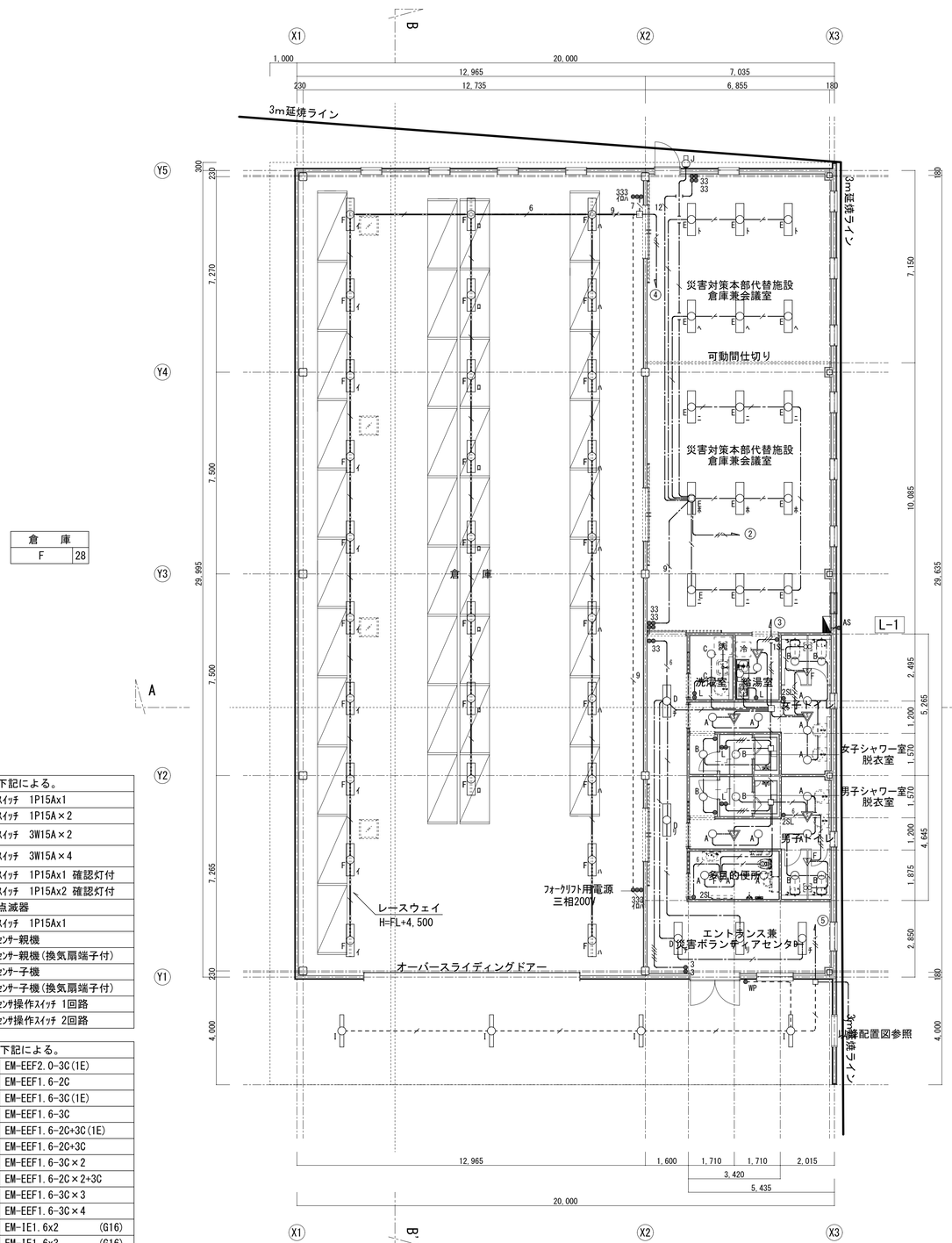
公共施設型番　ST1-FSF22-C

※消費電力はJIS C8105-3による

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀 温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　照明器具姿図
Scale　N/S(A1)　N/S(A3)
設計年月　令和8年03月
Number　E-06



屋外	
I	1

倉庫兼会議室	
E	15

洗濯室	
C	2

女子トイレ通路	
A	2

女子シャワー室 入口・脱衣所	
B	2

男子シャワー室 入口・脱衣所	
B	2

男子トイレ通路	
A	2

多目的便所	
A	3

廊下	
D	2

エントランス兼 災害防災センター	
D	3

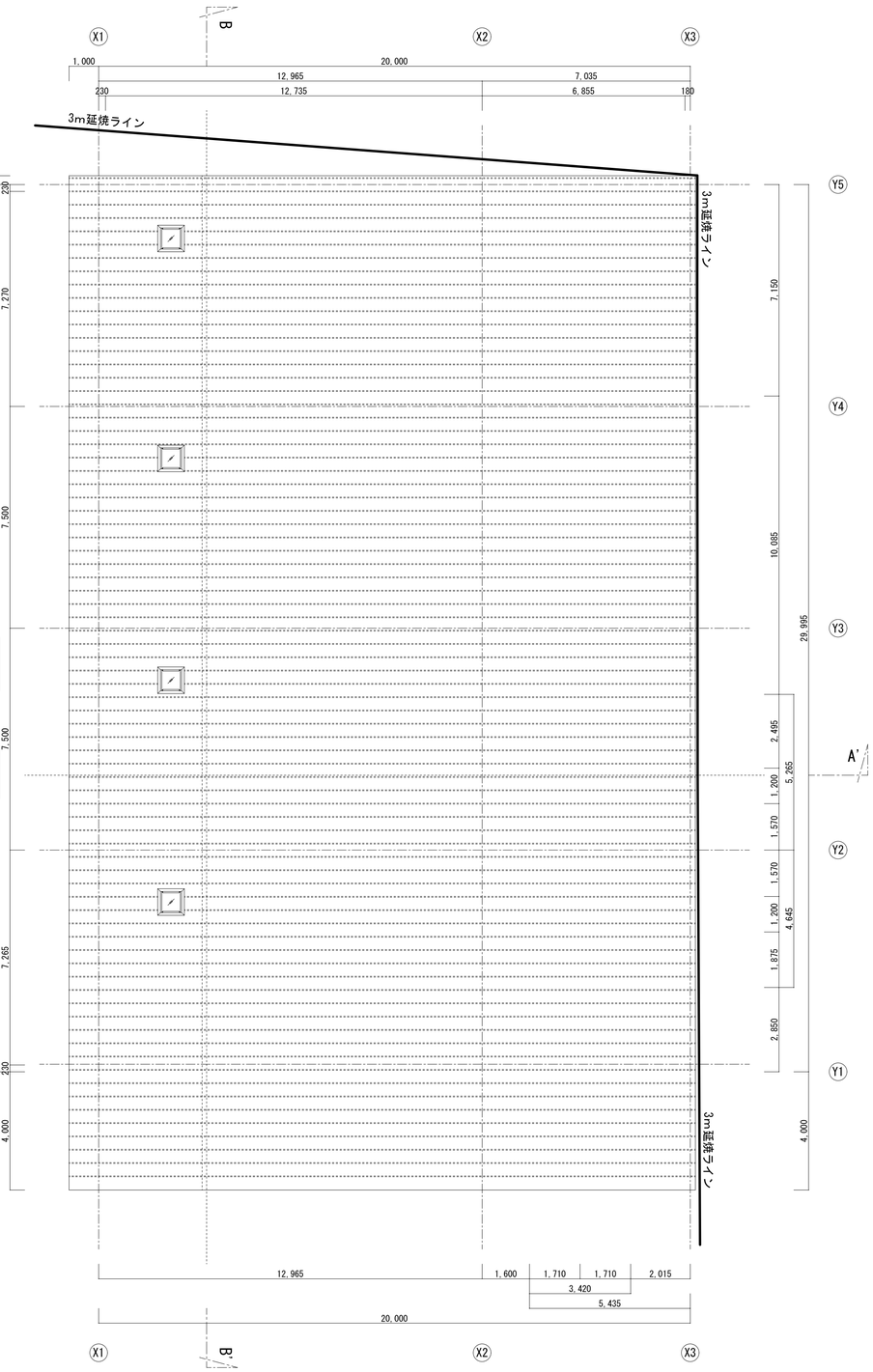
庇部	
H	4

倉　庫	
F	28

給湯室	
A	1
G	1

女子トイレ	
A	3
B	2

男子トイレ	
A	2
B	2



特記なき記号は下記による。	
●	埋込ｽｲｯﾁ　1P15Ax1
8	埋込ｽｲｯﾁ　1P15A×2
8 3 3	埋込ｽｲｯﾁ　3W15A×2
33 33	埋込ｽｲｯﾁ　3W15A×4
●L	埋込ｽｲｯﾁ　1P15Ax1 確認灯付
8L	埋込ｽｲｯﾁ　1P15Ax2 確認灯付
●AS	自動点滅器
●WP	防雨ｽｲｯﾁ　1P15Ax1
▽	人感ｾﾝｻｰ親機
▽F	人感ｾﾝｻｰ親機（換気扇端子付）
▽	人感ｾﾝｻｰ子機
▽F	人感ｾﾝｻｰ子機（換気扇端子付）
●1SL	人感ｾﾝｻ操作ｽｲｯﾁ　1回路
●2SL	人感ｾﾝｻ操作ｽｲｯﾁ　2回路

特記なき配線は下記による。		
—·—//—·—	EM-EEF2.0-3C(1E)	
—·———·—	EM-EEF1.6-2C	
—·—/—·—	EM-EEF1.6-3C(1E)	
—·—///—·—	EM-EEF1.6-3C	
—·—//—·—	EM-EEF1.6-2C+3C(1E)	
—·—///—·—	EM-EEF1.6-2C+3C	
—·—/6—·—	EM-EEF1.6-3C×2	
—·—/7—·—	EM-EEF1.6-2C×2+3C	
—·—/9—·—	EM-EEF1.6-3C×3	
—·—/12—·—	EM-EEF1.6-3C×4	
----------	EM-IE1.6x2	(G16)
-----/-----	EM-IE1.6x3	(G16)
-----/7----	EM-IE1.6x7	(E19)
-----/9----	EM-IE1.6x9	(E25)

＊壁内配線はPF管にて保護とする。

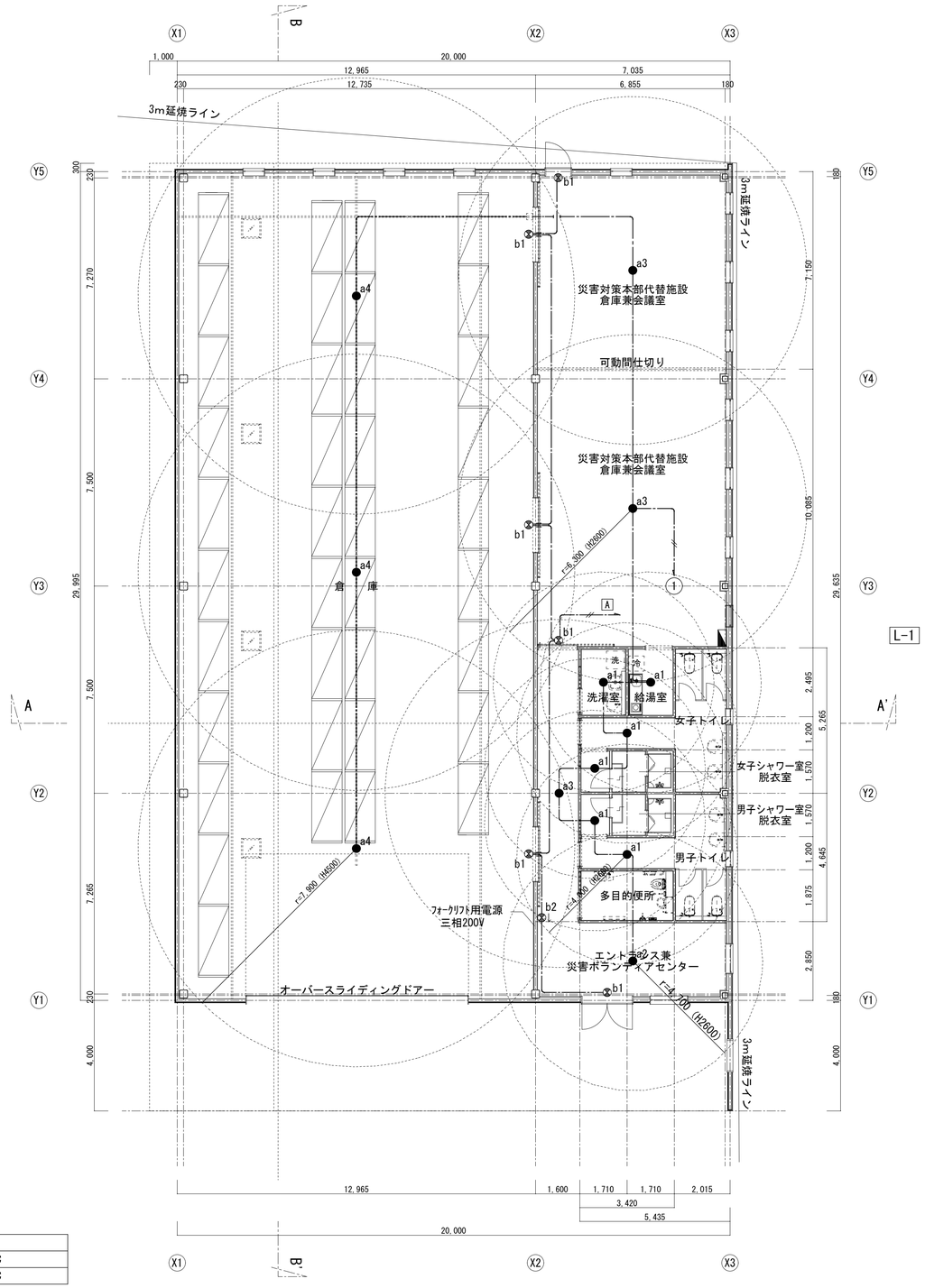
平面図　S=1/200

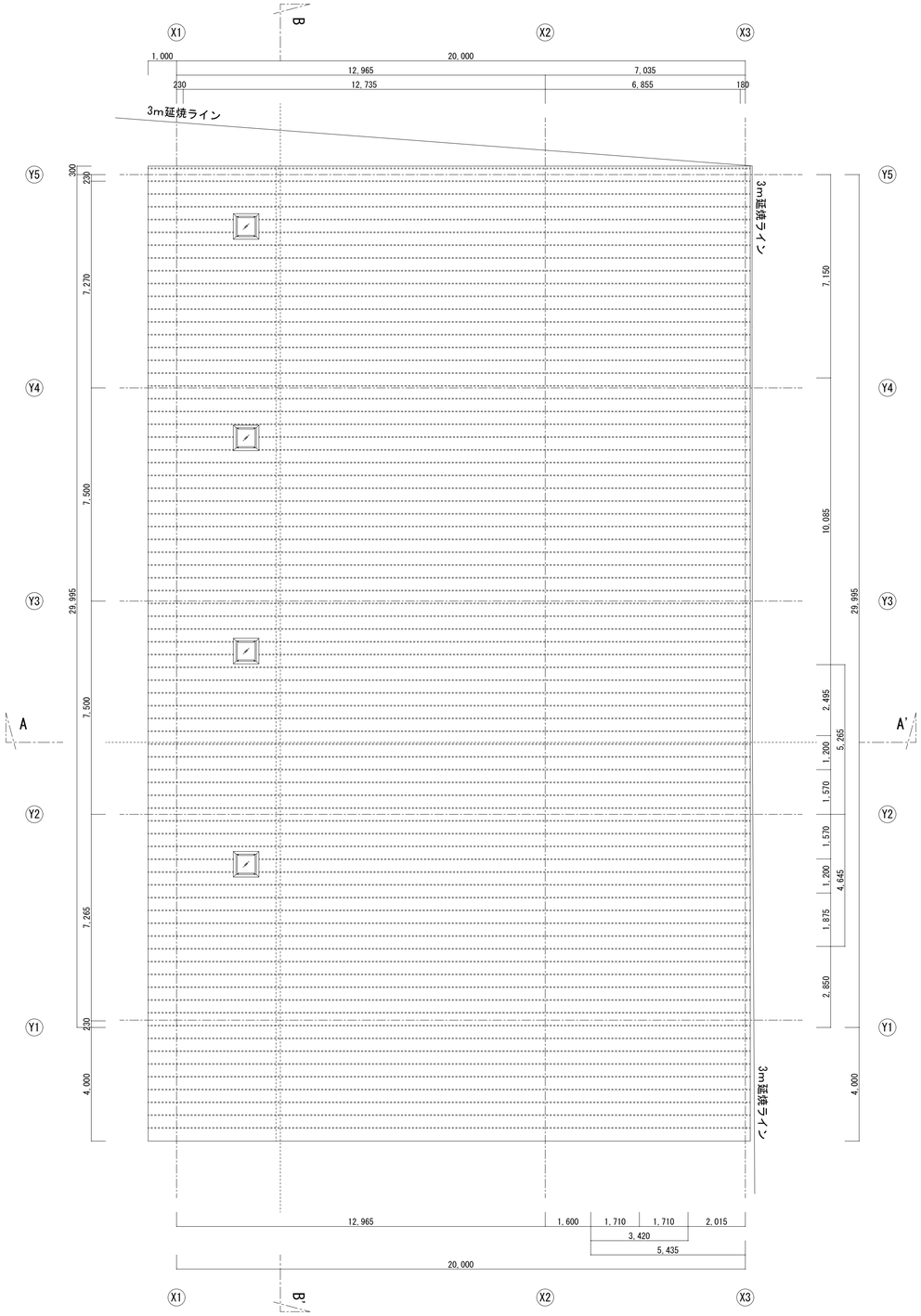
屋根伏図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 電灯設備　平面図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: E-07





特記なき配線は下記による。	
—·———·—	EM-EEF1.6-2C
—·—//—·—	EM-EEF2.0-2C

平面図　S=1/200

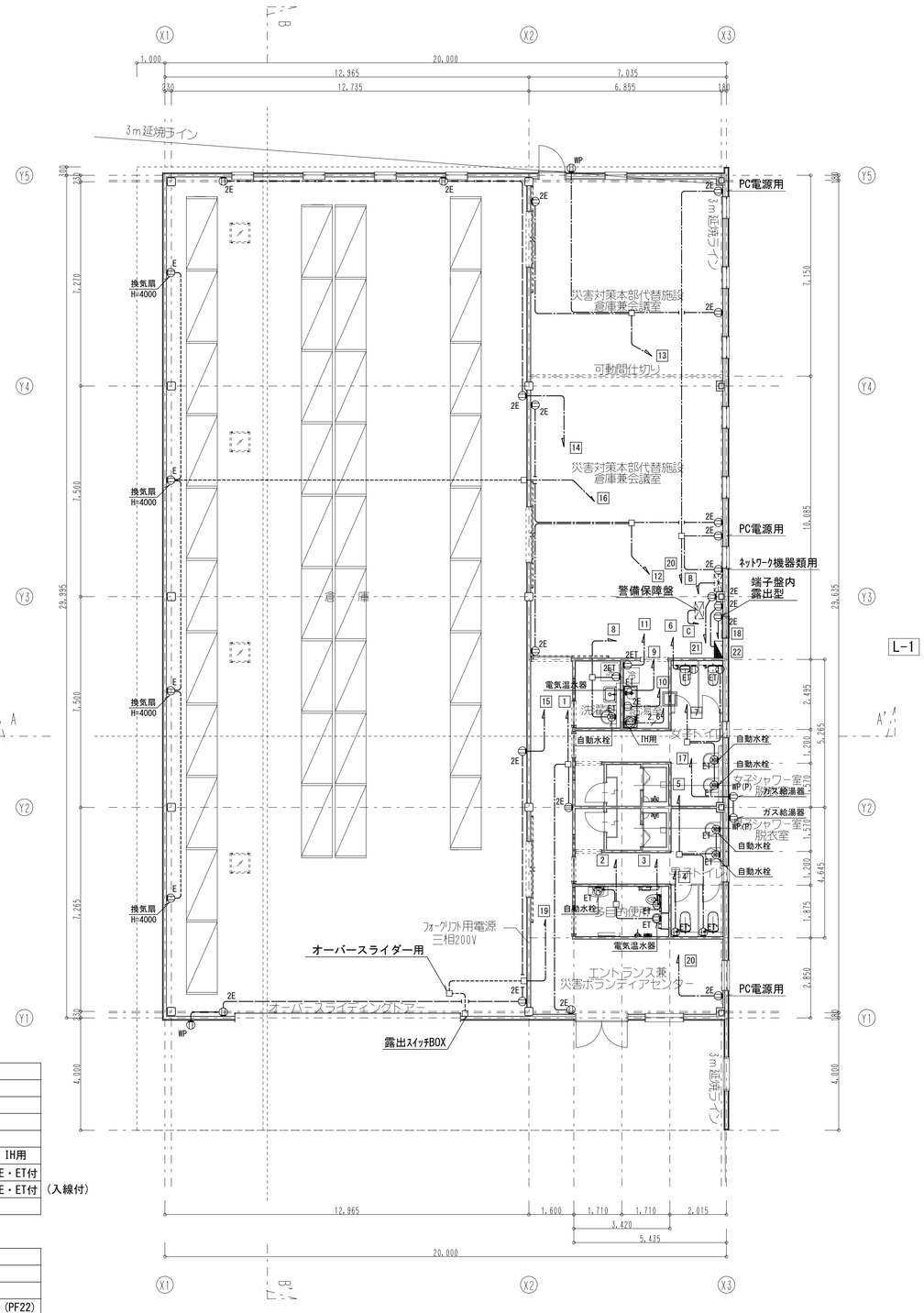
屋根伏図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	非常灯誘導灯設備　平面図	1/100(A1) 1/200(A3)	令和8年03月

Number
E-08

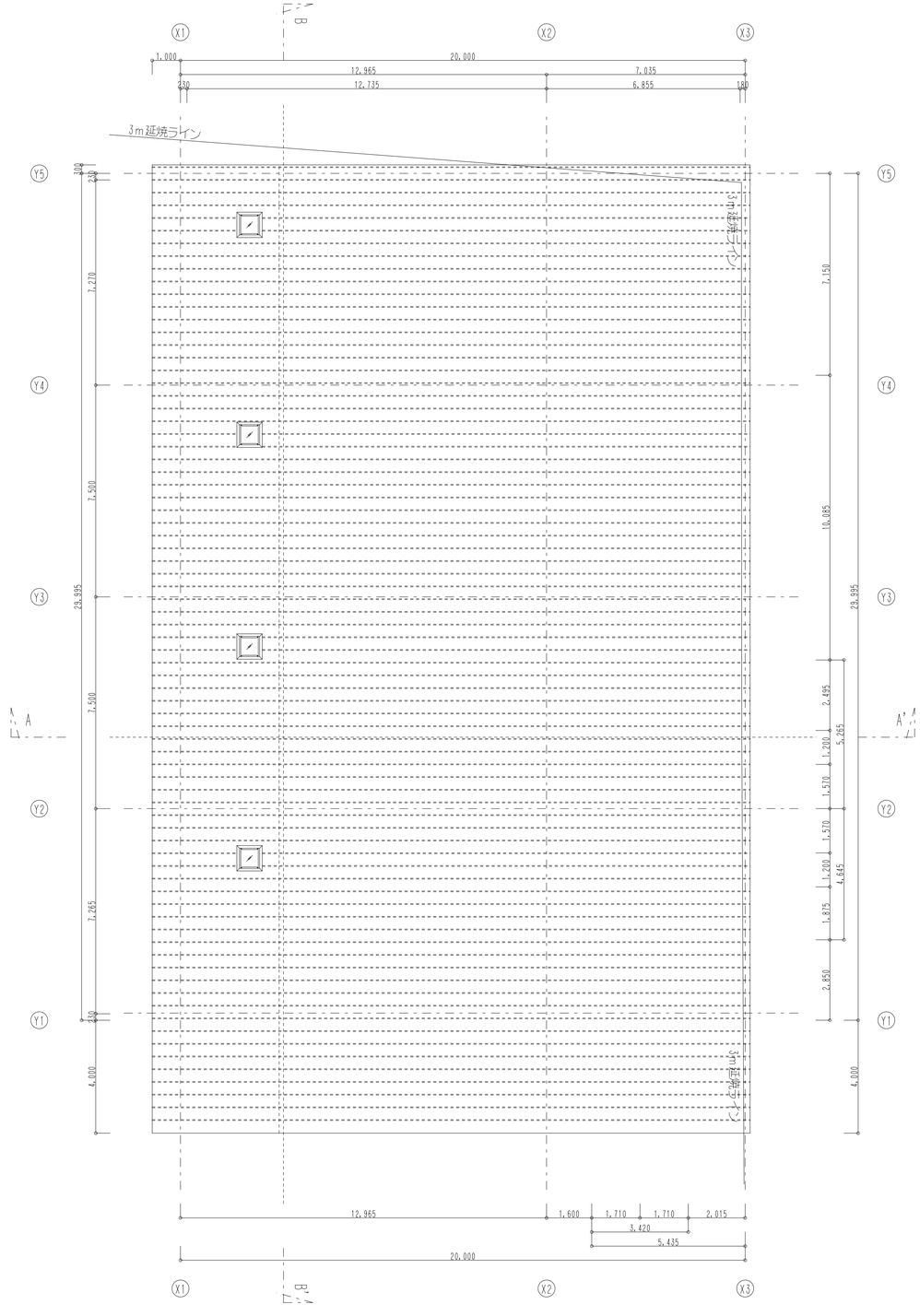


平面図　S=1/200

特記なき記号は下記による。	
ⓔE	ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×1　E付
ⓔ2E	ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2　E付
ⓔET	ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×1　ET付
ⓔ2ET	ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2　ET付
◎E	ｺﾝｾﾝﾄ 2P30A　E付 200V　IH用
ⓔWP	防雨形ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2　E・ET付
ⓔWP(P)	防雨形ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2　E・ET付（入線付）
□	アウトレットボックス

特記なき配線は下記による。		
——·——·——	EM-EEF2.0-3C	
——2.6——·——	EM-EEF2.6-3C	
————————	EM-EEF2.0-3C	(PF22)
————————	EM-EEF2.0-3C	(CD22)
- - - - - - - - - - - - - -	EM-EEF2.0-3C	(E25)

＊壁内配線はPF管にて保護とする。



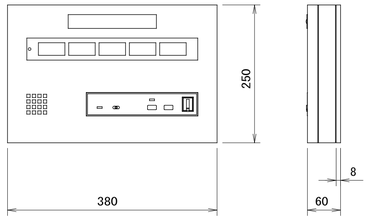
屋根伏図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	コンセント設備　平面図	1/100(A1) 1/200(A3)	令和8年03月 Number E-09

5窓用表示器

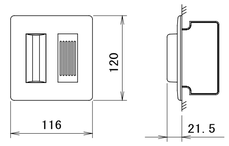
参考型番：CBN-5C



電源電圧	AC100V　50/60Hz（内部電源DC12V）
形　　状	壁取付形
材　　質	SPCC t1.2
窓　　数	５窓
表示方式	呼出音と表示窓点灯

ブザー付廊下灯

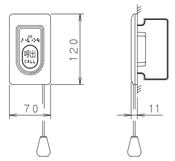
参考型番：NR-BZLB27



形　　状	壁埋込型(JIS2個用スイッチボックス)
材　　質	プレート：自己消火性樹脂 ランプカバー：ポリカーボネート
備　　考	ブザー付

呼出ボタン(引きひも付)

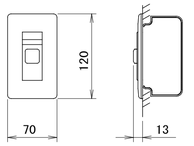
参考型番：NBR-7HWA-TC110



形　　状	壁埋込型(JIS1個用スイッチボックス)
材　　質	自己消火性樹脂
備　　考	引きひも式、押ボタン式両用　（点字案内文有）

復旧ボタン

参考型番：NBR-2A-C



形　　状	壁埋込型（JIS1個用スイッチボックス）
材　　質	樹脂
備　　考	非防水形

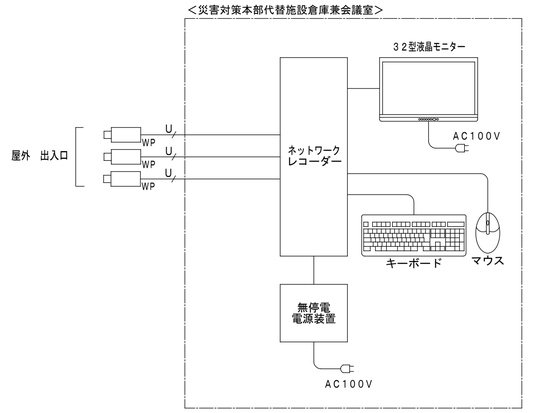
株式会社 SuKA建築設計事務所

Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀 温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　トイレ呼出設備機器姿図
Scale　N/S(A1) N/S(A3)
設計年月　令和8年03月
Number　E-10

監視カメラ設備　システムブロック図

＜災害対策本部代替施設倉庫兼会議室＞



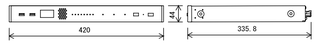
U/ ―― EM-UTP0．5-4P

ITV　ネットワークレコーダー

（災害対策本部代替施設倉庫兼会議室に配置）

RBSS認定品

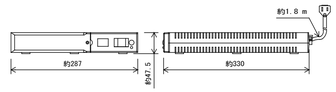
ONVIF対応



電　源	ＡＣ１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ
ネットワークスイッチ機能	ＰｏＥ+対応ポート×８（ポート合計１２０Ｗ給電可能）
	１０００Ｂａｓｅ－Ｔ対応ポート×１
記録メディア	ＳＡＴＡ　ハードディスク　４ＴＢ（４ＴＢ×１）
カメラ録画録音台数	最大８台
入出力端子	モニター出力（ＨＤＭＩ）×２、接点入出力各４、
	音声入力×１、音声出力×１、ＵＳＢポート×６
画面表示	ライブ：１画面、３／４／６／８／９／
	１５／１６分割、シーケンス
	再生：１画面、４分割、最大１６分割、
	全方位カメラ画像補正
録画画像サイズ	Ｈ．２６５，Ｈ．２６４：２５９２×１９４４他
フレームレート	Ｈ．２６５，Ｈ．２６４：最大３０ｆｐｓ
デュアルモニター機能	クローンモード、サブモニター（ライブ／マップ表示）
リモートビューアー接続台数	最大１６台
エクスポート機能	動画／静止画、定期バックアップ、
	ＵＳＢメモリー／外付ＨＤＤ
音声送信	カメラまたはＩＰスピーカーへの個別放送、
	ＩＰオーディオ端末へのグループ放送
	（最大登録：カメラ／ＩＰオーディオ端末各８台）
センシング連動	別売オプション追加により、対応カメラとの組
	合せでアナログ計器センシング、白杖認識、
	滞在・通過人数カウント、顔認証を利用可能
その他	プリ・ポストアラーム録画、
	ＮＴＰサーバー／クライアント
	ＰＣレスマップ機能、カメラ制御
	（ポイントビュー、ズームビュー他）ライブ／
	再生フルスクリーン表示・
	デジタルズームプログラムイベント機能、
	ライブ再配信機能
	センシングデータ保存／グラフ表示／
	ＩＰオーディオ制御
	ＰｏＥ死活監視・オートリブート搭載、
	ＵＳＢマウス付属
スマートフォンアプリ	アプリへのライブ配信／再生配信／プッシュ通知
録TRIFORA Mobile	アプリからのリモコン操作／音声操作

無停電電源装置

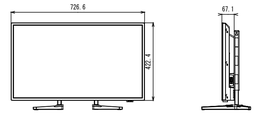
（災害対策本部代替施設倉庫兼会議室に配置）



交流入出力	ＡＣ１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ
出力定格容量	５００ＶＡ（３００Ｗ）
バッテリー	鉛バッテリー
	容量：７．２Ａｈ／６Ｖ×２個
	期待寿命：４～５年（周囲温度２０℃）
停電／復電切換時間	８ｍｓ以内

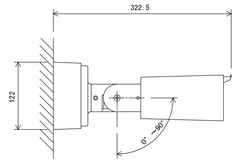
TVM　３２型液晶モニター

（災害対策本部代替施設倉庫兼会議室に配置）



電　源	ＡＣ１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ
サイズ（表示サイズ）	３２型
	１９２０ｘ１０８０
入力端子	ＶＧＡ（ミニD-SUB15ピン）、ＨＤＭＩ×３、ビデオ
その他	卓上スタンド金具付

WP　５M屋外赤外ネットワークカメラ



電　源	ＰｏＥ（ＩＥＥＥ８０２．３ａｆ）、ＤＣ１２Ｖ
撮像素子	１／２．８型ＣＭＯＳ　約５１２万画素
最低被写体照度	０．１ｌｘ（５０％、白黒、Ｆ１．５、赤外ＬＥＤ点灯）
赤外ＬＥＤ照射距離	最大５０ｍ（ＰｏＥ給電時）
ダイナミックレンジ	９６ｄＢ以上
画像圧縮方式	Ｈ．２６５，Ｈ．２６４：ストリーム１～４
	ＪＰＥＧ：ストリーム３，４
画像サイズ	最大２５９２×１９４４（最大３０ｆｐｓ）
レンズ部	ｆ＝３．０～１０．０ｍｍ
	（３．３倍・電動ズーム・電動フォーカス）
機　能	ＩＰ６６、親水コート、ＡＩプロセッサー、
	ワイドダイナミック、デイナイト、
	モーションディテクト、いたずら検知、
	デジタルＰＴＺ、デジタルツアー、ＤＮＲ、
	高画質エリア、プライバシーマスク、
	アクセス制限機能、ＨＴＴＰ（Ｓ）イベント通知
	ＳＤカード録画（パスワードロック）、
	ＴＲＩＦＯＲＡスマートキッティング、
	プログラムイベント、拡張アプリ（人数カウント）
その他	配線ボックス付、重耐塩塗装＋指定色塗装

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀　温

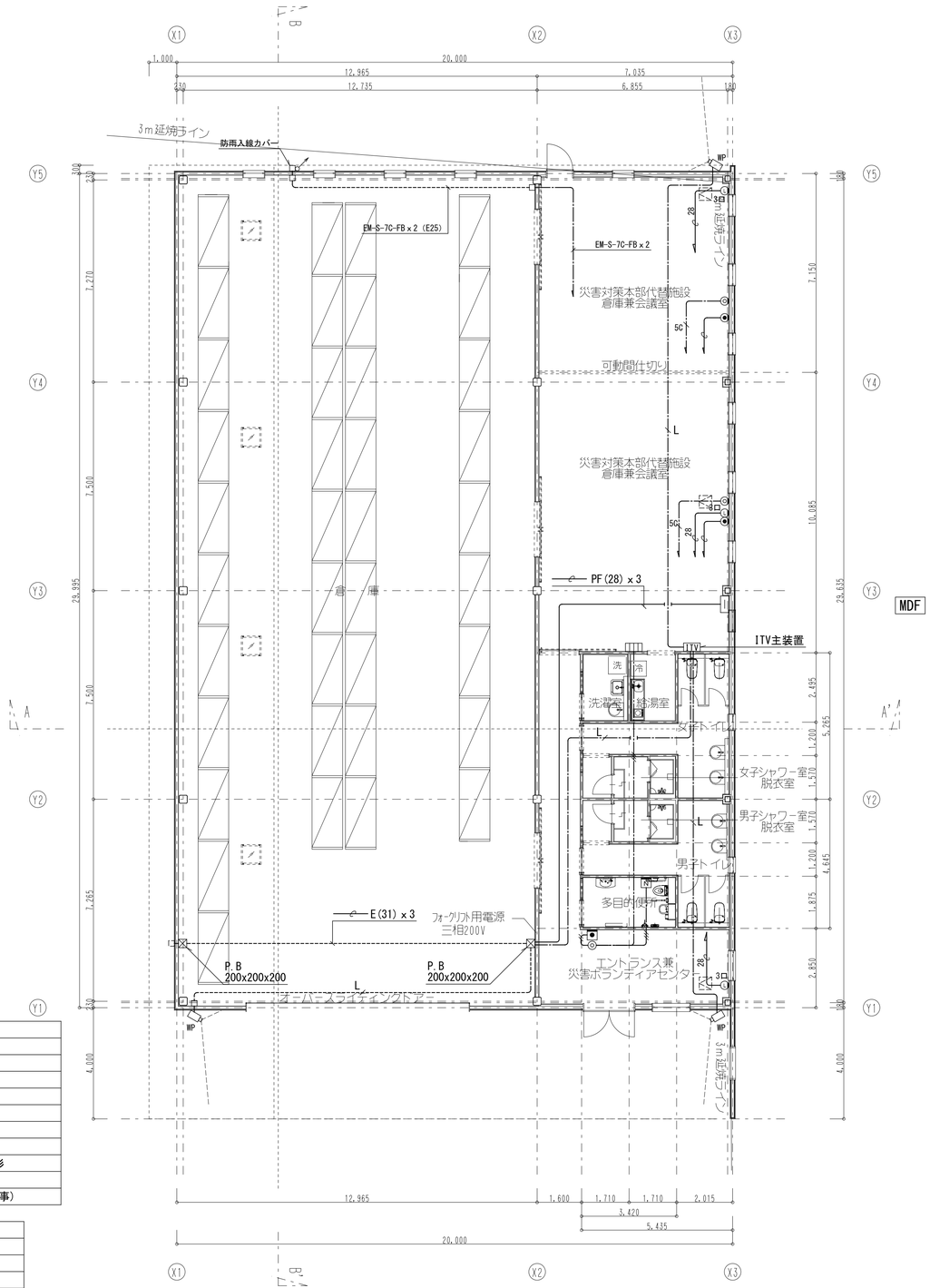
Project　富士見市中央防災センター建設工事

Index　ITV設備機器姿図・システム図

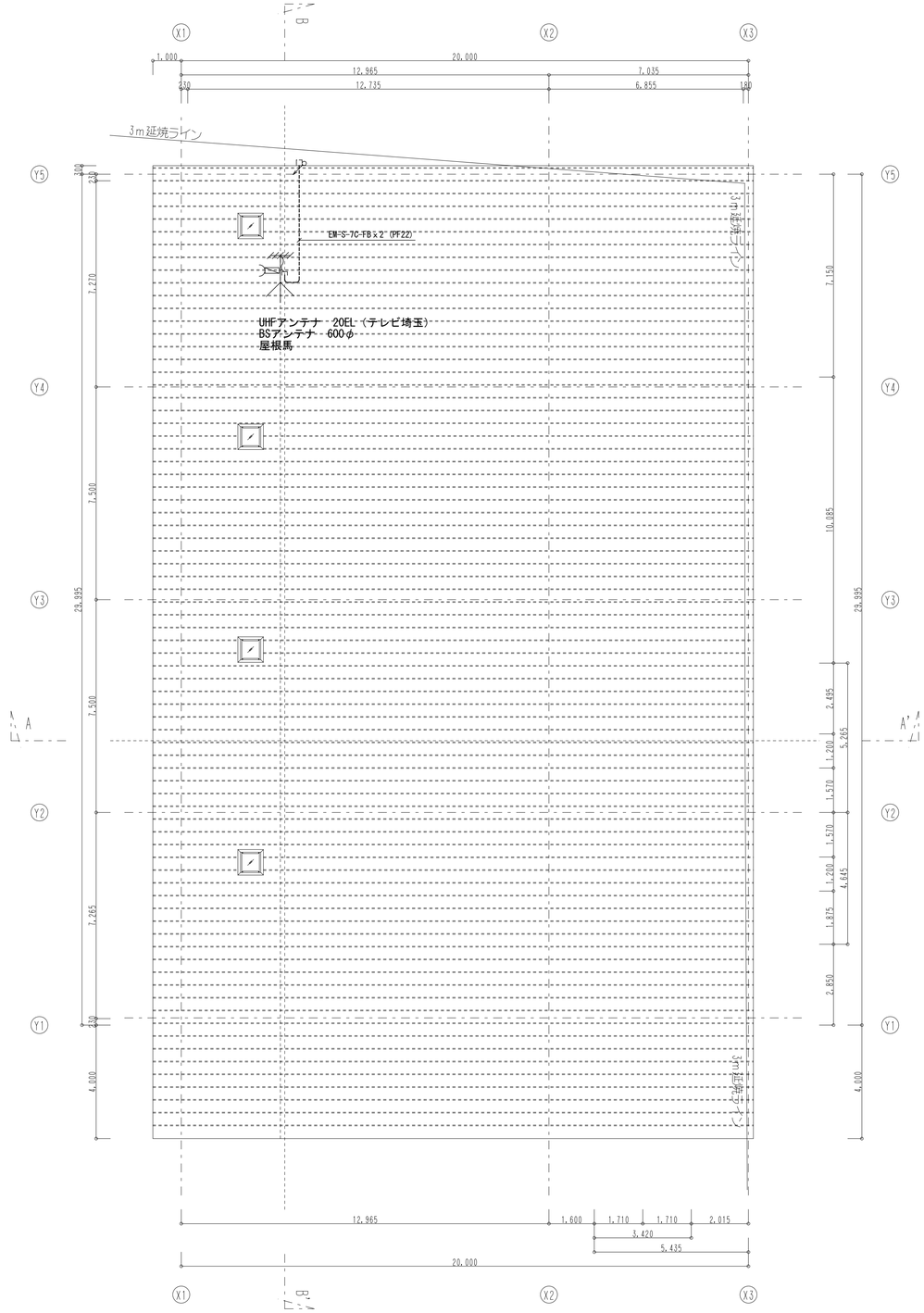
Scale　N/S(A1)　N/S(A3)

設計年月　令和8年03月

Number　E-11



平面図　S=1/200



屋根伏図　S=1/200

特記なき記号は下記による。	
	埋込形表示器
	角型廊下灯
	復旧ボタン（引きひも付き）
N	トイレ呼出押ボタン
	壁付電話用アウトレット
3口	壁付LANアウトレット×3口
	壁付ＴＶ端子
WP	ネットワークカメラ　防雨形
	アウトレットボックス
	天井点検口450×450(建築工事)

特記なき配線は下記による。	
——e——	(PF16)
——28e——	(PF28)
——5C——	EM-S-5C-FB
——L——	EM-UTP0.5-4P
——//——	EM-AE1.2-2C
——///——	EM-AE1.2-3C
----L----	EM-UTP0.5-4P　(E19)

※壁内はPF管にて保護とする。

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 弱電設備　平面図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: E-12

凡例		
記号	名称	備考
⊠	受信機	Ｐ型１級５回線，仕様注記参照
⊠	火災通報装置	適用回線：一般加入電話回線（アナログ回線），音声ＲＯＭ付，自火報非連動
Ⓣ	火災通報遠隔起動装置	火災通報専用電話機
Ⓟ	発信機	Ｐ型１級，リング型表示灯（ＡＣ／ＤＣ２４Ｖ，１５ｍＡ）付
◐	表示灯	薄型，ＡＣ／ＤＣ２４Ｖ，ＬＥＤ
Ⓑ	電鈴	ＤＣ２４Ｖ，１０ｍＡ，１５０φ
	機器収容箱	埋込型　Ⓟ◐Ⓑ 収容
⊖	スポット型熱感知器	差動式２種，　自動試験機能付
⊖	スポット型熱感知器	定温式１種，７５℃，防水型，　自動試験機能付
⊖	スポット型熱感知器	定温式特種，６５℃，防水型，　自動試験機能付
S	スポット型煙感知器	光電式２種，　自動試験機能付
S	スポット型煙感知器	光電式２種，横型点検ボックス付，自動試験機能付
⊠ x 8	作動式分布型収納箱	2種※個内蔵　露出形
n	終端感知器	自動試験機能付感知器アドレス６０番固定を示す
Ω	終端抵抗	１０ＫΩ
	警備保障盤	（別途工事）
―・―・―	ケーブル配線	ころがし配線
――――	配管配線	いんぺい配管配線
┈┈┈┈	配管配線	露出配管配線
	立上り立下り	立上り立下り部分は電線管保護とする
▬▬	警戒区域境界線	
No.	警戒区域番号	火災表示用
K No.	警戒区域番号	火災表示用，階段
EV No.	警戒区域番号	火災表示用，エレベーター

注記

１．受信機の仕様は下記とする。

１）Ｐ型１級，壁掛型，窓式，主音響（音声警報）・予備電源内蔵，蓄積式

２）自動試験機能付

３）地絡検出機能付（感知器配線の絶縁を常時監視する機能）

４）感知器取りはずし検出機能付（自動試験機能付感知器のみ対応）

５）感知器接続数確認機能付（自動試験機能付感知器のみ対応）

６）表示内訳

・火災表示	３Ｌ
・予備	２Ｌ
計	５Ｌ

７）諸表示部（３Ｌ標準装備）

８）誤操作防止機能装備（いたずら防止として）

９）移報入出力

~~・エレベーター制御盤へ火災代表信号移報出力（無電圧，ａ接点）　…　１点~~

~~・電気錠制御盤へ火災代表信号移報出力（無電圧，ａ接点）　…　１点~~

・警備保障盤へ火災代表信号移報出力（無電圧，ａ接点）　…　１点

１０）電源は専用回路とする。

２．感知器はすべて確認灯付とする。

３．火災時の地区警報は電鈴（地区ベル）とし，鳴動方式は一斉鳴動方式とする。

４．特記なき配管配線は下記とする。

―・―//―・― ＥＭ－ＡＥ１．２－２Ｃ

―・―///―・― ＥＭ－ＡＥ１．２－４Ｃ

―・―AnP―・― ＥＭ－ＡＥ１．２－ｎＰ

―・―H//―・― ＥＭ－ＨＰ１．２－２Ｃ

―・―H///―・― ＥＭ－ＨＰ１．２－４Ｃ

―・―HnP―・― ＥＭ－ＨＰ１．２－ｎＰ

―//― ＥＭ－ＡＥ１．２－２Ｃ（ＰＦ１６）

―///― ＥＭ－ＡＥ１．２－４Ｃ（ＰＦ１６）

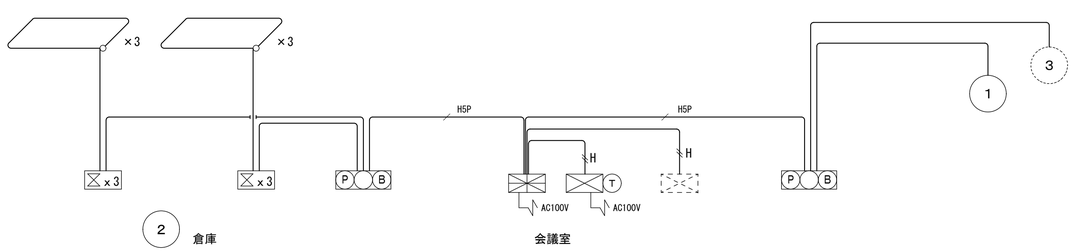
H―// ＥＭ－ＨＰ１．２－２Ｃ（ＰＦ１６）

H┈// ＥＭ－ＨＰ１．２－２Ｃ（Ｅ１９）

（ＥＭ－ＡＥ：警報用ケーブル，ＥＭ－ＨＰ：耐熱ケーブル）

５．二重天井内はケーブルころがし配線とし，直天井部分は露出配管配線とする。

６．防火区画及び防火上主要な間仕切り壁の貫通部分は国土交通大臣認定工法にて貫通処理をすること。



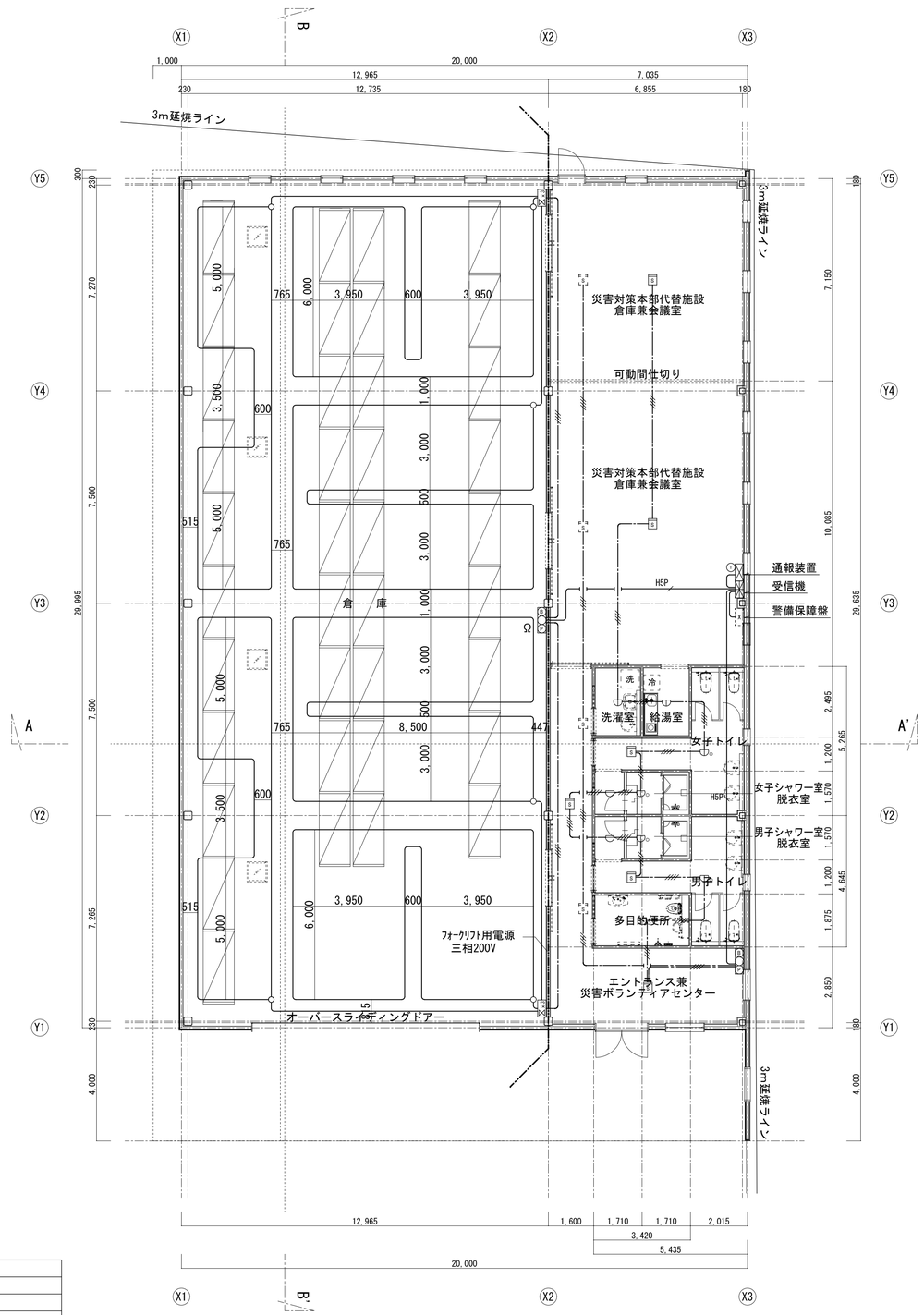
１階

自動火災報知設備系統図

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号　須賀 温

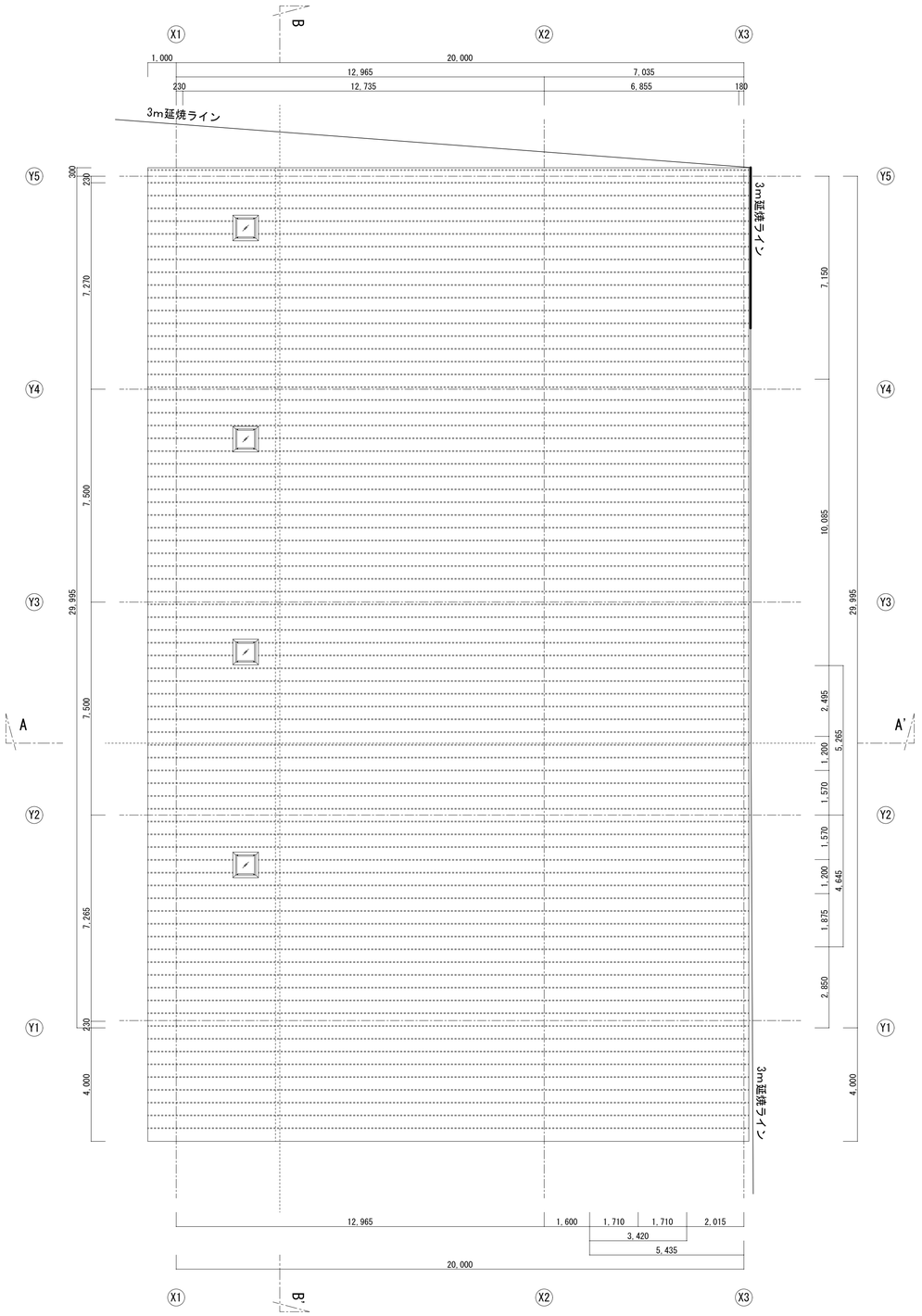
Project	Index	Scale	設計年月 / Number
富士見市中央防災センター建設工事	自動火災報知設備　系統図・凡例	N/S(A1) N/S(A3)	令和8年03月 E-13



特記なき配線は下記による。	
HSP	EM-HP1.2-5P
	EM-AE1.2-4C
	空気管

※壁内はPF管にて保護とする。

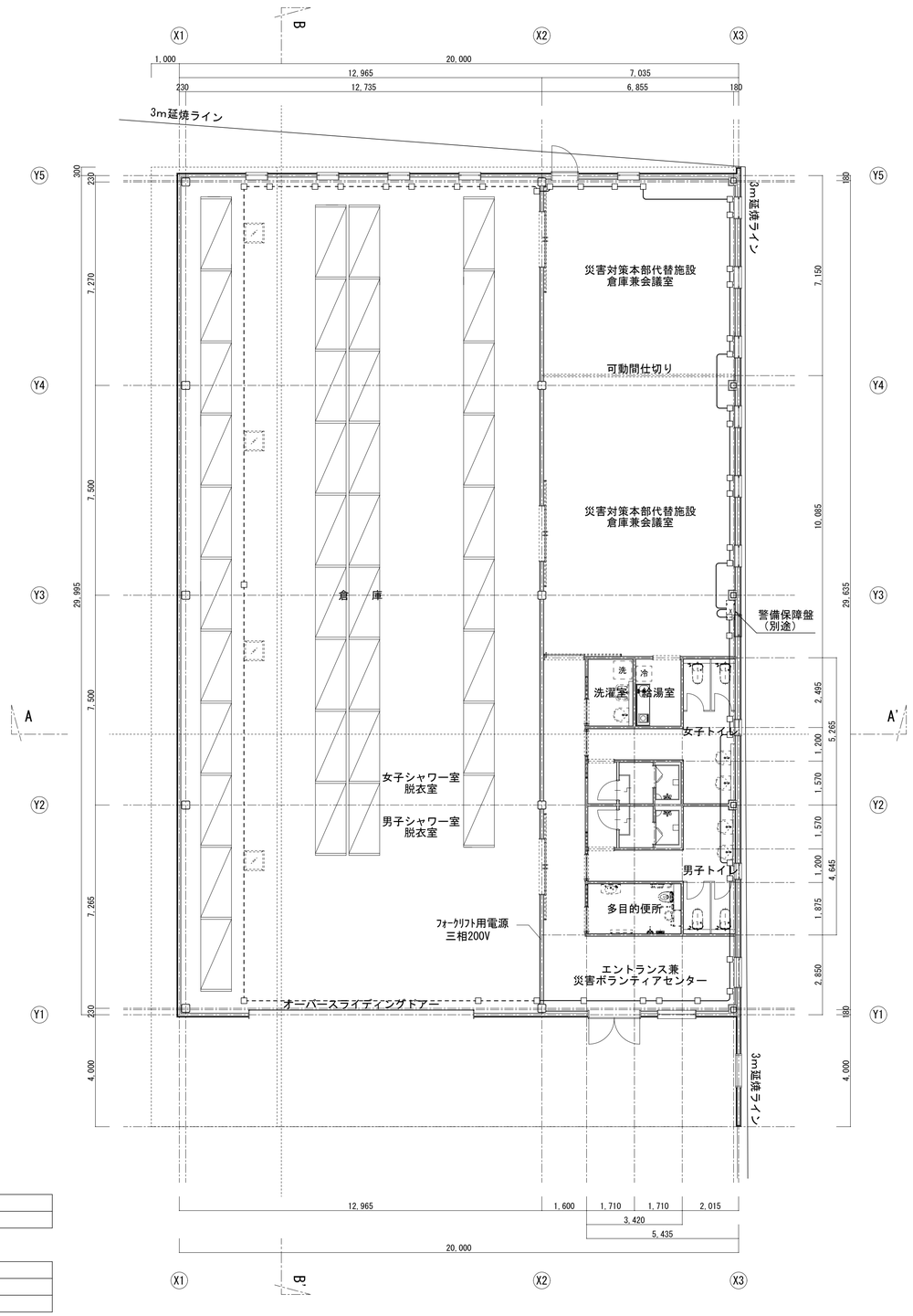
平面図　S=1/200

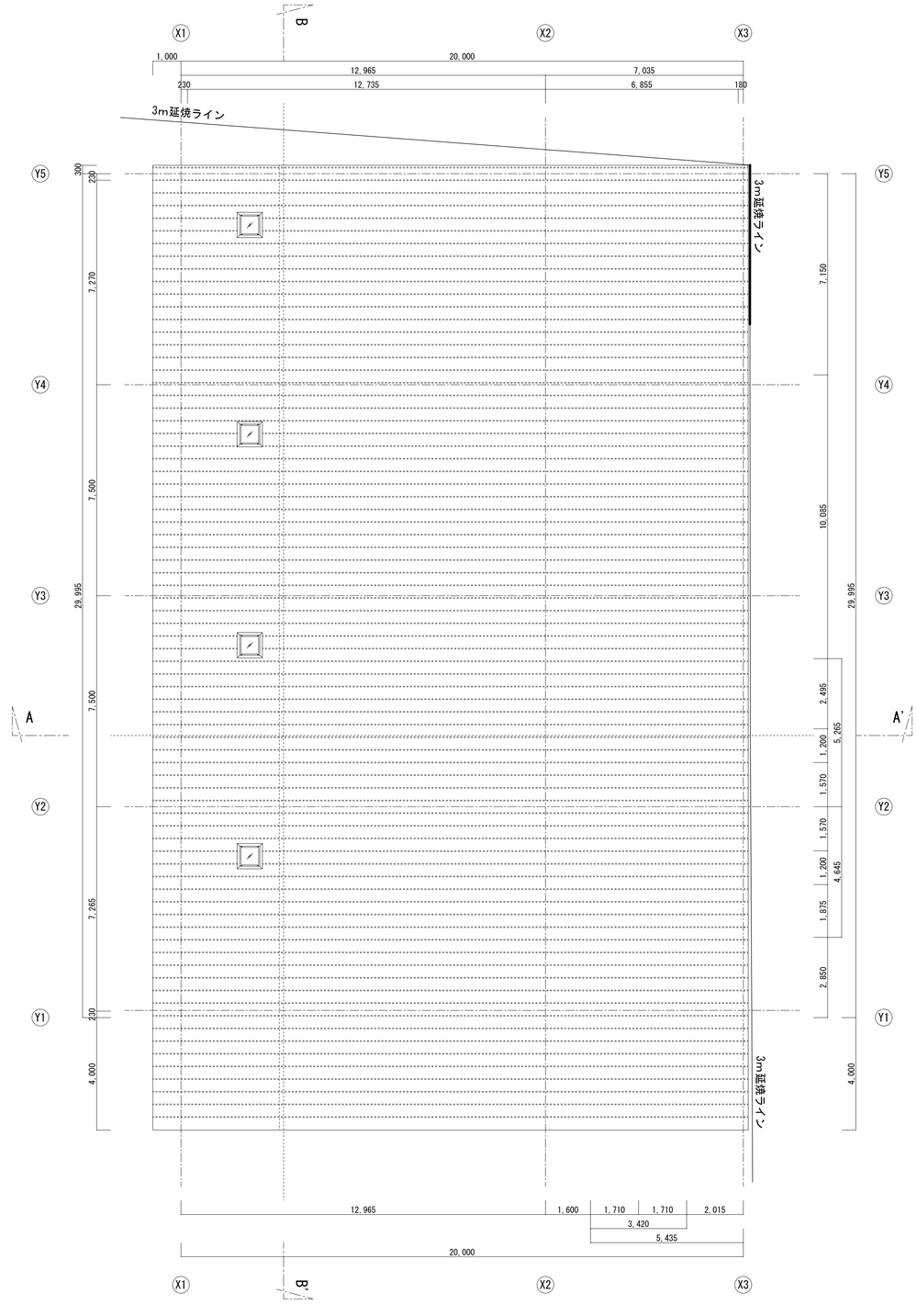


屋根伏図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所	Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale
	〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	自動火災報知設備　平面図	1/100(A1) 1/200(A3)

設計年月	Number
令和8年03月	E-14





特記なき記号は下記による。	
□	アウトレットボックス

特記なき配線は下記による。	
————	(PF22)
- - - - - - - - - -	(E25)

平面図　S=1/200

屋根伏図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事

Index: 機械警備配管設備　平面図

Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)

設計年月: 令和8年03月

Number: E-15

機械設備工事特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1　工事名称　富士見市中央防災センター建設工事
2　工事場所　埼玉県富士見市鶴瀬東２丁目地内 他
3　工　期　契　約　日　から　令和１０年３月２４日まで
　現場施工期間　契　約　日　から　令和９年１２月２８日まで
　現場施工期間は、施設管理者との調整により変更することがある。
4　建物概要

	建物名称	構造	階数	延面積（㎡）	消防法施行令別表第一	備考
①	防災センター	鉄骨造	1F	599.90	14項	
②						
③						
④						
⑤						

5　工事種目（●印を付いたものを適用する。）

建物別及び屋外 ＼ 工事種目	工事種別 ①	②	③	④	⑤	屋外
● 空気調和設備	一式					
● 換気設備	一式					
○ 排煙設備						
○ 自動制御設備						
● 衛生器具設備	一式					
● 給水設備	一式					
● 排水設備	一式					
● 給湯設備	一式					
○ 消火設備						
○ 厨房機器設備						
● ガス設備	一式					
○ 撤去工事						

6　指定部分　※無　・有
　対象部分：　工期：令和　年　月　日

7　主任技術者又は監理技術者の専任期間（建設業法により必要になった場合）
　1　専任期間の始期
　請負契約締結の日から、(・)現場施工に着手するまで（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまで）の期間　・令和　年　月　日までの期間）については、主任技術者又は監理技術者の専任を要しないものとする。
　2　専任期間の終期
　工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合は除く。）、事務手続き、後片付けのみが残っている場合は、主任技術者又は監理技術者の専任を要しないものとする。
　3　専任期間の中断
　自然災害の発生又は埋蔵文化財調査等により発注者からの通知により、工事を全面的に一時中止にしている場合は、主任技術者又は監理技術者の専任を要しないものとする。

8　工事範囲　図示のとおり

⑨　電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事は、それぞれの工事仕様を適用し、下記の工事仕様は適用しない。なお、それぞれの工事仕様について特記されていない事項は、電気設備工事は埼玉県電気設備工事特別共通仕様書により、建築工事は埼玉県建築工事特別共通仕様書による。

10　同時期発注の関連工事
　⊙建築工事　⊙電気設備工事

Ⅱ　工事仕様

1　共通仕様
（1）この工事は特記仕様書、図面によるほか、埼玉県機械設備工事特別共通仕様書（以下「特別共通仕様書」という。）、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）、公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）、公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）、富士見市機械設備特別共通仕様書（以下「標準仕様書等」という。）及び監督員の指示に従い施工する。
（2）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、それぞれの特別共通仕様書及び標準仕様書等を適用する。
（3）法令・基準・仕様書等は、原則として施工時において最新のものを適用する。

2　特記仕様
（1）章は●印の付いたもの、項目は番号に○印の付いたものを適用する。
（2）特記事項のうち選択する事項は、(・)印の付いたものがなければ、※印を適用し、・印のものは適用しない。
　⊙印と※印の付いた場合は、共に適用する。

章	項目	特記事項
●一般共通事項特記事項	①　機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。なお、資材名、製造所名及び発注先を記載した報告書を監督員に提出すること。 使用機材等については、ﾌｧﾍﾞｽﾄ含有の有無を確認し、ﾌｧﾍﾞｽﾄを含む機材は、使用しないこと。 「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品目に該当する機材は、その判断基準、配慮事項を満たすこと。 調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努めるものとする。
	②　電気保安技術者	⊙置く　※置かない
	③　施工条件	施工時間 ※行政機関の休日に関する法律（S63第91号）に定める行政機関の休日以外。 ⊙上記以外の時間に施工する場合は事前に監督員と協議すること。
	④　技能士の適用	⊙配管施工（配管工事）　・建築板金施工（風道制作及び取付け） ⊙熱絶縁施工（保温工事）・冷凍空気調和機器施工（冷凍空調機器の据付）
	⑤　機材の検査及び試験、施工の検査及び試験	検査及び試験を行うべき機材等は、標準仕様書及び特別仕様書によるほか下記による。 ※飲用に供する設備機器の据付け及び取付け完了後、水質試験を行う。水質試験は、水道法による「水質基準に関する省令」に基づく化学的、物理的及び生物化学的試験とし、公立の保健所、試験所又は認定の試験所（事前に監督員の承諾を得る）に依頼して行うものとし、その結果は、監督員に提出するものとする。 ただし、検査項目は①一般細菌、②大腸菌、③亜硝酸態窒素、④硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、⑤塩化物イオン、⑥有機物、⑦pH値、⑧味、⑨臭気、⑩色度、⑪濁度および⑫残留塩素の12項目とする。 ※雨水利用システム及び排水再利用システムを設置したときは、工事完成後定常の使用状態に入った後速やかに（概ね３ヶ月以内）流入水・処理水の水質試験を行う。 試験は上記の飲用に供する場合の方法に従うものとする。 ただし、検査項目は残留塩素、pH値、臭気、外観、大腸菌、濁度、BOD、CODとする。
	⑥　監督員事務所	本工事で　・設ける（規模　　）　※設けない
	⑦　官公署その他への届出手続等	工事の着手、施工、完成に当り、関係官公署などへの必要な届出手続等は受注者が代行し遅滞なく行う。
	⑧　工事用電力・水等	本工事に必要な工事用電力及び水などの費用は、すべて受注者の負担とする。
	⑨　工事用仮設物	すべて受注者の負担とし、構内につくることが　※できる　・できない
	⑩　足場・さんばし類	※別契約の関連工事の受注者が定着したものは無償で使用できる。　・本工事とする。
	⑪　残土処分	埋め戻し後の建設残土は、※監督員が指示する構内の場所に敷きならす。 ・構外搬出適切処理する。
	⑫　埋め戻し土・盛土	※根切土の中の良質土（但しコンクリート管以外の管の周囲は山砂の類）　・山砂の類
	⑬　再生砂、再生砕石、再生アスコン使用	契約図書中の山砂の類、砂利、砕石及びアスコンに代替し、監督員の了解を得た上で、 ・使用できる。　※使用できない。 再生砂の使用に先立ち、１購入あたり１検体の六価クロム溶出試験を行い土壌の汚染に係る環境基準に適合することを確認すること。
	⑭　発生材の処理等	※引渡しを要するもの以外は構外に搬出し、適切処理する。 （構外搬出処理費は　※本工事　・別途） （１）引渡しを要するもの（　　） （２）買取処分をするもの（　　） （３）再生資源化を図るもの（・硬質塩化ビニル管　・　　） （４）特別管理産業廃棄物（　　） ※処理に先立ち計画書を提出し、処理後は調書を提出すること。
	⑮　容量等の表示	（１）機器等の能力、容量等は表示された数値以上とする。 （２）電動機出力、燃料消費量及び圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。
	⑯　配　管	（１）地中埋設配管（排水管を除く） １）地中埋設標（コンクリート製）　※要（図示の箇所）　・不要 ２）地中埋設鋲（キャッツアイ）　※要（舗装部の分岐、曲部）・不要 ３）埋設表示テープ（２倍折込み）　※要　・不要
	⑰　耐震施工	設備機器の固定等は、すべて「国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の建築設備耐震設計・・施工指針２０１４年版」により行う。 ただし、設計用地震力（水平及び鉛直）は次の設計用水平震度K_H及び設計用鉛直震度K_V（K_H／２）を用いて計算する。 設計用水平地震力と設計用鉛直地震力は同時に作用するものとする。 設計用水平震度

設置場所	耐震安全性の分類 特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階 屋上及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(1.5)
	〈2.0〉	〈1.5〉	〈1.5〉	1.0
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.0)
	〈1.5〉	〈1.0〉	〈1.0〉	〈0.6〉
1階及び地下階	1.0	0.6	0.6	0.4
	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(0.6)
	〈1.5〉	〈1.0〉	〈1.0〉	〈0.6〉

（注）（　）内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。
　〈　〉内の数値は水槽類に適用する。
※上層階とは２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、10～12階建の場合は上層３階、13階建以上の場合は上層４階）
　中間階とは地下階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの（平屋建の場合は無し）
重要機器は次のものを示す。
　給水装置　排水装置　換気機器　空調機器　熱源機器
　防災設備　監視制御設備　危険物貯蔵装置
　火を使用する設備　避難経路上に設置する機器

●一般共通事項特記事項　続き	⑰-1 あと施工アンカー	機器・配管等の据付けにおけるあと施工アンカーの使用については、監督員の承諾を受けるものとする。 重量１００ｋｇを超える機器の耐震支持については、耐震計算書を添付し、アンカーボルトを選定すること。 施工は、（一社）日本建築あと施工アンカー協会の資格を有するもの、又は十分な技能及び経験を有した者が行うこと。 金属拡張系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、拡張の完了がわかる記録を添付すること。 接着系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、清掃状況、マーキング、カプセル挿入、埋込みの完了が分かる記録を添付すること。 （原則として、接着系アンカーは吊り支持に使用しないものとする。） あと施工アンカーの試験は、アンカーの種類毎に１か所引張試験を実施すること。
	⑱　防露保温工事	標準仕様書第２編によるほか下記による。 空気調和設備工事の保温の種別

区分	施工箇所	保温種別
ドレン管	屋内露出（一般居室、廊下）	a1・(ハ)・Ⅶ
	機械室、書庫、倉庫	b・(ハ)・Ⅶ
	天井内、ＰＳ内及び空隙壁中	c2・(ロ)・Ⅶ
	浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない。）	e3・(ハ)・Ⅶ
蒸気管	屋内露出（一般居室、廊下）	A1・(イ)・Ⅱ
	機械室、書庫、倉庫	B・(イ)・Ⅱ
	天井内、ＰＳ内及び空隙壁中	C2・(ロ)・Ⅱ
	床下、暗渠内（ピット内、共同溝を含む。）	D・(ロ)・Ⅱ
	屋外露出（バルコニー、開放廊下を含む。）及び浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない。）	E3・(イ)・Ⅱ
冷水・冷温水管（膨張管、空気抜管、膨張タンクからボイラー等への補給水管を含む。）	屋内露出（一般居室、廊下）	A1・(ハ)・Ⅲ
	機械室、書庫、倉庫	B・(ハ)・Ⅲ
	天井内、ＰＳ内及び空隙壁中	C1・(イ)・Ⅲ
	床下、暗渠内（ピット内、共同溝を含む。）	D・(ハ)・Ⅲ
	屋外露出（バルコニー、開放廊下を含む。）及び浴室、厨房内の多湿箇所（厨房の天井内は含まない。）	E3・(ハ)・Ⅲ
温水管（膨張管を含む。）	屋内露出（一般居室、廊下）	A1・(イ)・Ⅰ
	機械室、書庫、倉庫	B・(イ)・Ⅰ
	天井内、ＰＳ内及び空隙壁中	C2・(ロ)・Ⅰ
	床下、暗渠内（ピット内、共同溝を含む。）	D・(ロ)・Ⅰ
	屋外露出（バルコニー、開放廊下を含む。）及び浴室、厨房内の多湿箇所（厨房の天井内は含まない。）	E3・(イ)・Ⅰ

（注）1．冷媒管は、断熱材被覆銅管を使用し、外装は下記による。
　屋内露出部　※保温化粧カバー（※樹脂製　・亜鉛メッキ鋼板製　・ＳＵＳ製）
　屋外露出部　※溶融アルミニウム亜鉛鉄板ラッキング　・ＳＵＳラッキング
　・保温化粧カバー（※樹脂製　・亜鉛メッキ鋼板製　・ＳＵＳ製）
　2．施工種別Ｂの材料及び施工順序４、５に替え、アルミガラス化粧原紙を使用する。
　3．機器類の保温材の種別は、(※グラスウール保温材　・ロックウール保温材)とする。

ダクトの保温の種別

区分	施工箇所	保温種別
長方形ダクト	屋内露出（一般居室、廊下）	J1・(イ)・ⅩⅠ
	屋内露出（機械室、書庫、倉庫）	I・(イ)・ⅩⅠ
	屋内隠ぺい、ＤＳ内	I・(ロ)・ⅩⅠ
	屋外露出（バルコニー、解放廊下を含む。）及び浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない。）	K3・(イ)・ⅩⅠ
円形ダクト	屋内露出（一般居室、廊下）	O1・(イ)・ⅩⅠ
	屋内露出（機械室、書庫、倉庫）	N・(イ)・ⅩⅠ
	屋内隠ぺい、ＤＳ内	N・(ロ)・ⅩⅠ
	屋外露出（バルコニー、開放廊下を含む。）及び浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない。）	P3・(イ)・ⅩⅠ
消音内貼り	サプライチャンバー	M・(ロ)・ⅨⅩ
	消音チャンバー・消音エルボ	L・(ロ)・Ⅶ

給排水衛生設備工事の保温の種別

区分	施工箇所	保温種別
給水管	屋内露出（一般居室、廊下）	a1・(ハ)・Ⅶ
	機械室、書庫、倉庫	b・(ハ)・Ⅶ
	天井内	c2・(ロ)・Ⅶ
	ＰＳ内及び空隙壁中	c2・(ロ)・Ⅶ
	一般居室ＰＳ内	c2・(ハ)・Ⅶ
	床下、暗渠内（ピット内、共同溝を含む。）	―
	屋外露出（バルコニー、解放廊下を含む。）及び浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない。）	e3・(ハ)・Ⅶ
排水及び通気管	屋内露出（一般居室、廊下）	―
	機械室、書庫、倉庫	―
	天井内	c2・(ロ)・Ⅶ
	ＰＳ及び空隙壁中	c2・(ロ)・Ⅶ
	及び浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない。）	e3・(ハ)・Ⅶ
給湯管（膨張管、空気抜管、膨張タンクからボイラー等への補給水管を含む。）	屋内露出（一般居室、廊下）	a1・(イ)・Ⅰ
	機械室、書庫、倉庫	b・(イ)・Ⅰ
	天井内	c2・(ロ)・Ⅰ
	ＰＳ内及び空隙壁中	d・(ロ)・Ⅰ
	屋外露出（バルコニー、解放廊下を含む。）及び浴室、厨房内の多湿箇所（厨房の天井内は含まない。）	e3・(イ)・Ⅰ

（注）1．消火、排水及び通気管のうち見えかかり部は塗装を施す。
　2．排水管の管種が耐火二層管、耐火ＶＰの場合は、保温を要しない。
　3．施工種別ｂの材料及び施工順序３、４に替え、アルミガラス化粧原紙を使用する。
　4．機器類の保温材の種別は、（※グラスウール　・ロックウール）とする。
　5．消火管屋外露出部保温仕様は、e3・(ハ)・Ⅶとする。
　6．便所内露出ＳＵＳ管及び流し内露出ＳＵＳ管は保温を要しない。
　7．空調設備を要する便所（特別支援学校等）以外の便所で高密度ポリエチレン管を採用する場合は、施工箇所によらず保温を要しない。
※ロックウール・グラスウールのホルムアルデヒド放散量による区分は、原則としてＦ☆☆☆☆とする。

	19　防凍保温	・屋外露出給水管（呼び径20以下のみ）は、保温厚50mmの防凍保温を行うこと。 ※図示の屋外露出部（給水管、消火管、給湯管、膨張管、弁類を含む。）は下記仕様により防凍保温を行う。 ※保温仕様は保温厚さを呼び径32以下は50mm、呼び径40以上は40mmとする。 ・保温材をグラスウールとし、凍結防止ヒーターを設置。
	⑳　塗　装	下記の亜鉛メッキを施したダクト及び配管は、塗装を行わない。 ※機械室、書庫、倉庫　・ 下記の金属電線管は塗装を行う。 ※屋外露出　※多湿箇所　屋内露出（※見えかかり部　・　　）
	㉑　電　線	特記なき電線・ケーブルは、原則としてエコマテリアル電線・ケーブルとし、露出部分に使用する場合は耐紫外線性能を有するものとする。 ただし、自動制御設備に関わる配線は標準仕様書の自動制御設備の項による。
	㉒　はつり及びあと施工アンカー打設	既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開け及びあと施工アンカー打設前に、図面に明示する箇所についてＸ線撮影調査を実施すること。

章	項目	特記事項
●一般共通事項特記事項　続き	㉓　管の埋設深さ	（１）公道上は、道路管理者の指定する深さとする。 （２）構内車両通路では、路盤材下面から管の上端まで６００mmとする。 （３）その他の場所では、地表面(舗装する部分では路盤材下面)から管の上端まで300mmとする。
	24　既設管分岐・接続	既設管に接続・分岐する場合は、原則として新設時の接合方法として標準仕様書に規定された工法による。 やむを得ずそれ以外の工法を採用する場合は監督員の承諾を受ける。
	㉕　絶縁継手の設置・種別	※コンクリートの建築物に出入りする箇所の付近の露出部配管 ※鋼管と銅管及びこれに類する部分　※鋼管とステンレス管及びこれに類する部分 ※５０Ａ以下は絶縁ユニオンとし、それ以上は絶縁フランジ　・全て絶縁フランジ
	26　天井仕上げ区分	（　）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
	27　他工事との取合区分	スリーブ、箱入れその他工事との取合いは、工事区分表によるものとし、施工に支障を来さない時期までに、必要な位置、大きさなどを明示し、監督員と打合わせる。
	㉘　施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に帰属するものとする。
	㉙　保　険	受注者は工事目的物及び工事材料について工事完成期日後１４日まで、これを火災が保障対象になっている組立保険等にかけて、証書の写しを監督員に提出する。 受注者は法定外の労災保険に付し、証書の写しを監督員に提出する。
	㉚　配管識別	配管等の識別は、その方法等について監督員と協議のうえ行うこと。
	㉛　墜落制止用器具（フルハーネス型）	※使用を要する　墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン（平成30年6月22日付け基発0622第2号）による ・使用を要しない
	㉜　誘導電動機	三相誘導電動機はＪＩＳ　Ｃ　４２１３（ＩＥ３）トップランナーモーターとする。
	㉝　完成図書の電子納品	完成図書の電子納品運用ガイドライン　※適用する　・適用しない 完成図の表紙及び背表紙には、工事名、受・発注者名、完成年月を記載すること。 また、完成図の中に主要機器一覧表（名称、製造者名、形式、容量又は出力、数量等）を記載すること。 完成図の提出部数は、Ａ１二つ折り１部及びＡ３二つ折り３部とする。
●改修一般事項付加事項	①　共通事項	改修工事で特別に付加すべき事項について指定するものとし、それ以外は本特記仕様書の一般共通事項による。
	②　改修部分の足場	本工事で単独に必要となる足場は、下記により設ける。 （１）内部足場　※　脚立足場　・枠組足場　・ （２）外部足場　※Ａ種(枠組足場)　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種　・Ｆ種 ※足場を設ける場合は、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」(厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うものとする。
	③　既存部分養生・既存家具等養生	（１）関係受注業者と共用部分 ※別契約の関係受注者が定着したものは無償で使用できる。 ・本工事で負担とする。（種別は（２）による。） （２）本工事で単独で必要となる養生は、下記による。 ※ビニールシート　・合板　・
	④　備品等の移動	⊙別途工事　・本工事　※接続配管等の取外し、接続は本工事
	⑤　仮設間仕切り	（１）関係請負業者と共用部分 ※別契約の関係受注者が定着したものは無償で使用できる。 ・本工事で負担とする。（種別は（２）による。） （２）本工事で単独で必要となる仮設間仕切りは、下記による。 ※Ａ種　単管下地全面シート張り　・
	⑥　撤去後機材の扱い	（１）改修部分の機材は原則として撤去後新品に取替えるものとし、再使用する場合は図示区分による。 （２）撤去後再使用の指定がない機材のうち、撤去後使用価値を有するものは、現場発生品として監督員に報告する。 それ以外の機材は種類別に産業廃棄物として分別処分し、マニフェストを監督員に提出する。
	⑦　支持金物の再使用	（１）インサート金物　⊙インサートの径毎に引張試験を行った場合は、再使用できる ※新品 （２）形鋼支持金物等　⊙再使用できる　※新品
	⑧　あと施工アンカーの種別	金属拡張アンカー又は接着系アンカーを使用するものとし、その使用については、監督員の承諾を受けるものとする。
	⑨　フロン回収	冷媒管の撤去に当たっては、すべてのフロンガスを回収し下記の方法で処理する。 ※破壊プラント搬入　・フロン再生後引き渡し　・未再生引き渡し 「特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律」に基づき処理すること。
	⑩　総合調整	・全体再調整　※改修部及び影響部のみ調整
	⑪　既設基礎類の解体はつり	建設機械は、原則として、排出ガス対策型、低騒音型、低振動型を使用すること。 現場内で使用する重機等は、解体建築物の位置及び規模に応じた機種及び規格のものを選定すること。 粉じんの飛散等により周辺環境に影響を及ぼさないよう適宜散水や粉じん発生源を覆うなど環境対策に配慮すること。
	⑫　アスベスト事前調査結果の報告	全ての建築物、工作物において大気汚染防止法及び石綿障害予防規則の事前調査を実施し、アスベスト使用有無に関わらず、結果を知事又は市長あてに報告すること。
	⑬　そ　の　他	（１）図面上の縮尺は、ＪＩＳ　Ａ1版とした縮尺とする。 （２）受注者は、施工にあたって施設運営に支障の無いように綿密に打合せを行うこと。

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀　温

Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　機械設備　特記仕様書(1)
Scale　N.S(A1) N.S(A3)
設計年月　令和8年03月
Number　M-01

（３）特に騒音振動など周辺に甚大な影響のある工事については、原則として学校では学校運営に支障を与えない期間、その他の施設では施設管理者と打合せして設定すること。

●空気調和設備

① 設計温湿度

	外気		屋内					
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
夏期	36.8℃	59%	26 ℃	45 %	℃	%	℃	%
冬期	2.2℃	45%	22 ℃	50 %	℃	%	℃	%

※外気処理用エアコンの屋内設定値は、夏期湿度50%とする。

② 総合試運転調整
※本工事　・別途

風量調整	※する	・しない
水量調整	※する	・しない
騒音の測定	※する	・しない
室内外空気の温湿度の測定	※する	・しない
室内気流及びじんあいの測定	・する	※しない
初期運転状態の記録	※する	・しない
工事対象範囲の既設機器運転状態の記録	※する	・しない

③ 煙　　道
（１）鉄板厚　　（※３．２ｍｍ　・４．５ｍｍ　）
（２）ばい煙濃度計　※設ける　・設けない
（３）ばいじん量測定口　※設ける（測定口は８０Φとする）・設けない

④ 煙　　突
※別途　・本工事

⑤ 長方形ダクト
※低圧ダクト（亜鉛鉄板製）
長辺の長さ１５００ｍｍ以下　※共板工法　・スライドオンフランジ工法
・アングルフランジ工法
それ以外の部分　※アングルフランジ工法
・高圧１ダクト（亜鉛鉄板製）　・高圧２ダクト（亜鉛鉄板製）
・ステンレス製ダクト（・Ａ区分　※Ｂ区分）・塩ビ製ダクト（・Ａ区分　※Ｂ区分）

⑥ 円形ダクト
※スパイラルダクト（※亜鉛鉄板製　・ステンレス製）　・硬質塩化ビニル管（ＶＵ）
・換気用耐火二層管（大臣認定品）　※フレキシブルダクト（・保温付　・保温無）
(注)１　使用区分は図示による。

⑦ 風量測定口
取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする。
送風機吐出ダクト又は吸込ダクト、外気取入ダクト、空調機出口チャンバーの分岐ダクト

⑧ チャンバー
（１）内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。
（２）ダクト接続形の空気調和機等に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバ及びダクト系で消音内貼りしたチャンバーには、点検口を設けるものとし点検口の大きさは下記のとおりとする。
・３００×３００　・３００×５００　※４００×６００　・５５０×７５０
（３）外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。

⑨ 吹出口及び吸込口ボックス
※亜鉛鉄板製　・グラスウール製

⑩ ダンパー
（１）防煙ダンパー　　復帰方式（※遠隔　・　　）定格入力ＤＣ24Ｖ，0.7Ａ以下
（２）ピストンダンパー　復帰方式（※遠隔　・　　）

⑪ 配管材料
（１）冷温水管　　※配管用炭素鋼鋼管（白）・
（２）冷却水管　　※配管用炭素鋼鋼管（白）・
（３）ブライン管　　※配管用炭素鋼鋼管（黒）　・
（４）冷媒管　　※断熱材被覆銅管
（保温厚㎜　ガス管　※20以上　・10以上　液管　・20以上　※10以上）
ただし、液管の呼び径が9.52㎜以下の断熱厚さは、8㎜としてもよい。
（５）ドレン管（屋外）　※配管用炭素鋼鋼管（白）　硬質塩化ビニル管ＶＰ
ドレン管（屋内）　※保温機能付空調用ドレン管（ｴｽﾛﾝACﾄﾞﾚﾝﾊﾟｲﾌﾟ相当品）
・耐火二層管ＶＰ（ＦＤＰＳ－１）
・配管用炭素鋼鋼管（白）　・硬質塩化ビニル管ＶＰ
（消防協議事項：　　）
ただし、保温機能付空調用ドレン管は、水圧１ｍを超える配管には使用しない。
（６）油管　　※配管用炭素鋼鋼管（黒）　・
（７）蒸気管　給気管　※配管用炭素鋼鋼管（黒）　・
還　管　※圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）Sch40　・ステンレス鋼管
（８）膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管
※配管用炭素鋼鋼管（白）　・

⑫ 弁　　類
規格はＪＩＳ又はＪＶとし、指定なきものは５Ｋ、それ以外は図示及び共通仕様書による。
また、鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。

⑬ 温 度 計
取付部は下記による。
※熱源機器の冷温水管(出入口共)､冷却水管(出入口共)　※空気調和機の冷温水管(出入口共)
※ダクト接続形空気調和機のサプライチャンバー、レタンダクト、
外気取入ダクト及びレタンチャンバー
※冷温水ヘッダー（往）及び各還り管　※熱交換器の温水管（出入口）　・

⑭ 圧 力 計
取付部は下記による。
※熱源機器の冷温水管（出入口共）、冷却水管（出入口共）
※空気調和機の冷温水管（出入口共）
※冷温水ヘッダー（往）及び各還り管　※熱交換器の温水管（出入口）　・

⑮ 瞬間流量計
瞬間流量計はピトー管方式によるもので止水コック付とし、型式及び取付部は下記による。なお、着脱部の指示部は（※１個　・　個）付属とする。
・熱源機器の冷温水管、冷却水管の出入口どちらかに（※固定形　・着脱形）を設ける。
・空気調和機の冷温水管の出入口どちらかに（※固定形　・着脱形）を設ける。

⑯ 油面制御装置
※往又は還どちらかの冷温水ヘッダーの各接続管へ（※固定形　・着脱形）を設ける。
制御盤には（※給油ポンプ制御　※満減油警報　・遠隔警報　・電磁弁制御
・返油ポンプ制御　）の端子を設ける。
なお、フロートスイッチ部と制御装置の配管・配線は製造者標準仕様とする。

⑰ 冷却塔
※直交流式　・向流型
※レジオネラ属菌殺菌剤等の自動薬剤注入装置　※自動ブロー装置　・
補給水は、水道水とし、補給水接続管部分に清掃用の水栓を分岐して設ける。

⑱ 空気熱源ヒートポンプ空調機
標準仕様書によるほか下記による。
（１）圧縮機原動機の制御方式　　※回転数制御　・オンオフ制御
（２）冷媒　ＨＦＣ（Ｒ４１０Ａ、Ｒ３２又はＲ４０７Ｃ）
（注１）Ｒ４１０Ａを採用した場合、冷媒配管は機器の設計圧力を満足するものを使用すること。
（注２）Ｒ３２を採用した場合、冷媒配管の断熱材被覆銅管は難燃性のものを使用すること。
（３）埼玉県グリーン調達推進方針で掲げる成績係数を満たす機器とする。

●換気設備

1 長方形ダクト
※低圧ダクト（亜鉛鉄板製）
長辺の長さ１５００ｍｍ以下　※共板工法　・スライドオンフランジ工法
・アングルフランジ工法
それ以外の部分　※アングルフランジ工法
・高圧１ダクト（亜鉛鉄板製）　・高圧２ダクト（亜鉛鉄板製）
・ステンレス製ダクト（・Ａ区分　※Ｂ区分）・塩ビ製ダクト（・Ａ区分　※Ｂ区分）

2 円形ダクト
※スパイラルダクト（※亜鉛鉄板製　・ステンレス製）　・硬質塩化ビニル管（ＶＵ）
・耐火二層換気管又は耐火ＶＰ　※フレキシブルダクト（・保温付　・保温無）
(注)１　使用区分は図示による。

3 風量測定口
取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする。
送風機吐出ダクト又は吸込ダクト，外気取入ダクト

4 チャンバー
（１）内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。
（２）消音内貼りしたチャンバーには、点検口を設けるものとし、点検口の大きさは下記のとおりとする。
・３００×３００　・３００×５００　※４００×６００　・５５０×７５０
（３）外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。

5 ダンパー
（１）防煙ダンパー　　復帰方式（※遠隔　・　　）定格入力ＤＣ24Ｖ，0.7Ａ以下
（２）ピストンダンパー　復帰方式（※遠隔　・　　）

6 多湿箇所の排気ダクト
（１）排気ダクトのうち下記箇所は硬質塩化ビニル管（ＶＵ）
（防火区画貫通箇所は換気用耐火二層管又は耐火ＶＰ）を使用できる。
※浴室（シャワー室、脱衣室を含む）　・
（２）水抜き管は（※厨房、浴室　※結露水が滞留する部分　・　　）の排気ダクトには設ける

⑦ 保　　温
下記のダクトの保温を行う。
※全熱交換器用の隠ぺい部ダクト
仕様はＮ・（ロ）・ＸＩとする。
保温施工範囲は、給気用ＯＡダクトは全て、また、排気用ＥＡダクトは外壁より１ｍの部分とする。
※（※厨房　・湯沸室　・　　）用の隠蔽ぺい部ダクト（仕様はｈ・（イ）・Ⅸとし範囲は図示による）

⑧ 試運転調整

風量調整	※する	・しない
風量測定	※する	・しない
騒音の測定	※する	・しない

○排煙設備

1 ダ　ク　ト
※亜鉛鉄板　・

2 排煙口の形式
※天井取付（・スリット形　※スイング形）
・壁取付　（・スリット形　・スイング形）

3 排煙口手動開放装置
開放及び復帰方式　※ワイヤー式　・電気式（遠隔操作　・不要　・要）

4 排煙風量測定
建築設備定期検査業務基準書（（一財）日本建築設備・昇降機センター)の排煙風量の検査方法に準ずる。

○自動制御

1 中央監視制御装置
・有り　※無し

2 構成・機能
図示による

3 電気計装用機材
使用する電線及びケーブルは、原則としてＥＭ電線またはＥＭケーブルとする。
屋外・屋内露出の電線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。
天井内隠ぺい電線は、図面に特記のない限りケーブル配線とする。

●衛生器具設備

① 小便器用節水装置
JIS B 2026（自動水栓）による電気開閉式とし、小便器（※一体形・分離形）とする。

② バリアフリー対応
・小便器　※全部ストール形　・一部ストール形
手すり（・本工事　※別途工事）
・洗面器　※自動水栓（・全部　※一部）　・レバー式水栓（一部）
・シャワー　※サーモスタット式　・ミキシング式
※スライドバー　・フック　※止水機能付節水形シャワーヘッド
・鏡　※６００×８００（耐食鏡）　・傾斜鏡（・照明無　・照明付）

③ 衛生器具付属水栓
（１）器具付属止水栓は　※ドライバー式　・ハンドル式
（２）水抜き栓を使用する場合は、水栓は固定コマ式とする。

④ 自動水栓類の電源
※ＡＣ１００Ｖ　・乾電池等　・自己発電

⑤ 暖房便座
（１）JIS A 4422（温水洗浄便座）とする。
（２）機能種別　※温水洗浄　※脱臭　・温風乾燥　・トイレ室内暖房
（３）温水洗浄加熱方式　※瞬間式　・貯湯式
（４）使用流体は、飲料用水道水とする。
（５）リモコン　・ＡＣ１００Ｖ　・乾電池等　※自己発電

⑥ 大便器洗浄弁・洗浄用タンク
器具表又は下記の場合を除き、※節水Ⅰ型・節水Ⅱ型とする。
・洗浄弁操作方式は、※手動式・電気開閉式（※センサー式・タッチスイッチ式）
・上層階で使用する大便器洗浄弁は、現地給水管の流動圧を確認し、必要に応じ低圧形とする。

⑦ 大便器耐火カバー
※設ける（ピット内は除く）　・設けない

⑧ 掃除流し
※共栓なしとする。　・共栓付とする。

⑨ 排水器具用ｺﾞﾑ継手
※使用できる　・使用できない

⑩ 標　記　板
大便器、小便器の洗浄水用に雨水等の利用をしている場合は、その旨をわかりやすく各トイレ毎に表示する。

⑪ 水せっけん入れ
せっけん供給栓等がない場合は、監督員と協議のうえ洗面器、手洗い器に設ける。

⑫ 擬音装置
・女子用トイレブースに設置する。（※本工事　・別途工事）
・男子用トイレブースに設置する。（※本工事　・別途工事）
・多目的トイレブースに設置する。（※本工事　・別途工事）

⑬ そ　の　他
衛生設備器具の適用等の必要なことは別途衛生設備器具表による。

●給水設備

① 配管材料
配管材料は　※下記　・図面指示（図面指示が不足する箇所は下記）　による。

	施工箇所	管種別
上水配管	床下、暗渠内（ピット内、共同溝を含む。）	※ＳＵＳ　・ＳＧＰ－ＰＤ　・ＨＩＶＰ・ポリブテン管
	ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管）	※ＳＵＳ　・ＳＧＰ－ＰＤ　・ＨＩＶＰ・ポリブテン管
	保温をしない屋外露出部	※ＳＵＳ　・ＳＧＰ－ＰＤ　・ＨＩＶＰ
	地中埋設部（水道直結部分）	・ＨＩＶＰ　・水道用ステンレス鋼管・水道配水用ポリエチレン管（ＰＥ）※硬質ポリエチレン管（ＰＰ）
	地中埋設部（一般部分）	・ＨＩＶＰ　・水道用ポリエチレン管・水道配水用ポリエチレン管（ＰＥ）※硬質ポリエチレン管（ＰＰ）
	一般居室	※ポリブテン管（さや管ヘッダー工法）
	便所天井内、ＰＳ内（注５）	※高密度ポリエチレン管（３２Ａ以上）
	便所天井内	※ポリブテン管（１０mm保温付）
	便所空隙壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管
	その他の部分	※ＳＵＳ　・ＳＧＰ－ＰＤ　・ＨＩＶＰ・ポリブテン管
中水配管	床下、暗渠内（ピット内、共同溝を含む。）	※ＳＵＳ　・ＳＧＰ－ＰＤ　・ＨＩＶＰ・ポリブテン管
	湿潤シンダー内配管	※ＳＵＳ　・ＳＧＰ－ＰＤ　・ＨＩＶＰ・ポリブテン管
	保温をしない屋外露出部	※ＳＵＳ　・ＳＧＰ－ＰＤ
	地中埋設部（一般部分）	※ＨＩＶＰ　・水道用ポリエチレン管・水道配水用ポリエチレン管（ＰＥ）・
	便所天井内、ＰＳ内（注５）	※高密度ポリエチレン管（３２Ａ以上）
	便所天井内	※ポリブテン管（１０mm保温付）
	便所空隙壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管
	その他の部分	※ＳＵＳ　・ＳＧＰ－ＰＤ　・ＨＩＶＰ・ポリブテン管

（注）１．ＳＵＳとは、JIS G 3448 またはJWWA G 115 に規定するステンレス鋼管とし、継手は一般部（・圧縮 ※ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾞ・拡管）便所・廊下流し廻り露出配管（※拡管）とする。
２．ステンレス管に取付ける弁は、JV8-1による。
３．飲料水以外の給水管は、系統別に管外部に配管識別テープを巻く。また、誤接続がないことを確認するため衛生器具の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験を行う。
４．建物導入部において、ポリエチレン管と異種管を接合する場合は、接合部が容易に点検できるように点検用桝を設ける。
５．口径２５Ａにて大便器等に接続する場合は、施工状況に応じて高密度ポリエチレン管の使用も可とする。
６．高密度ポリエチレン管とは、主材料に高密度ポリエチレン樹脂（ＰＥ１００）を採用し、管と継手を電気融着にて接合するものをいう。

② 一体形タンク
一体形タンクについての標準図は一般的な形状及び数値を示すものであって、図面及び特記仕様書に記載された耐震強度、容量、寸法を満たすものであればよい。

③ 水　　栓
※給湯用水栓を除き大きさの呼び１３の水栓は、節水コマとする。
・水抜き栓を使用する場合は、屋外に設ける水栓は耐寒水栓とする。ただし屋内は固定コマ式とする。

④ 量 水 器
※親メーター（※貸与品　・　　）　・子メーター（※買い取り・　　）

⑤ 量水器桝
※水道事業者指定品　・標準図ＭＣ形

⑥ 弁　　類
規格はＪＩＳ又はＪＶとし、水道直結部分は１０Ｋとし、指定なきものは５Ｋ、それ以外は図示及び標準仕様書による。

⑦ 水 栓 柱
・防寒コンクリート水栓柱（１２００Ｌ）　※不凍給水栓

⑧ 建物導入部配管
図示部分について下記のとおり施工する。
※埋設用フレキシブルジョイント２本をＬ字状に設ける。
・標準図施工４（　・（ａ）　・（ｂ）　・（ｃ））

⑨ 検針方法
水道事業者の検針規程に適合するように関連工事業者と調整のうえ施工すること。

１０ 水道利用加入金
水道利用加入金は、別途とする。ただし、水道事業者との調整は本工事に含む。

１１ 本管取出し
水道本管からの給水取出し工事は、本工事範囲とする。また、取出し部における舗装の復旧も含む。

●排水設備

① 配管材料
配管材料は　※下記　・図面指示（図面指示が不足する箇所は下記）　による。

	施工箇所	管種別
雑排水配管	床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	・ＲＦ－ＶＰ又はリサイクルＶＰ　※ＶＰ
	厨房等の温排水	※ＳＧＰ（白）・
	耐火性能を要求される箇所	※耐火二層管ＶＰ(FDPS-1)又は耐火ＶＰ・ＳＧＰ（白）
	その他の部分	・ＲＦ－ＶＰ又はリサイクルＶＰ　※ＶＰ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管
汚水配管	床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	・ＲＦ－ＶＰ又はリサイクルＶＰ　※ＶＰ
	耐火性能を要求される場所	※耐火二層管ＶＰ(FDPS-1)又は耐火ＶＰ・排水用ﾉﾝﾀｰﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管
	その他の部分	・ＲＦ－ＶＰ又はリサイクルＶＰ　※ＶＰ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管
共通	地中埋設部	・ＲＳ－ＶＵ又はリサイクルＶＵ　※ＶＵ・卵形管（ゴム輪接合）・ＲＥＰ－ＶＵ(軽荷重の場合)・ＲＦ－ＶＰ又はリサイクルＶＰ　・ＶＰ
通気配管	耐火性能を要求される箇所	※耐火二層管ＶＰ(FDPS-1)又は耐火ＶＰ・ＳＧＰ（白）
	その他の部分	・リサイクルＶＰ又はＲＦ－ＶＰ　※ＶＰ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管

（注）１．リサイクルＶＰ、リサイクルＶＵはJIS K6741の規格をもつ塩ビリサイクル管、RF-VP、RS-VU又は、REP-VUは標準仕様書第２編２．１．２．６による。
２．雨水排水を含む場合は、雨水排水管は雑排水配管の材料種別による。
３．原則として雑排水配管、汚水配管の管接合部はＹ４５度で行う。

●給湯設備

② 洗面器等の排水管
洗面器等に直結する排水管は、器具トラップより１サイズアップする。

③ 満水試験継手
３階以上にわたる排水立て管には、各階毎に次の継手を設ける。
※掃除口付きソケット　・満水試験用掃除口ソケット

④ 桝の適用
別紙桝表による。

① 配管材料
・露出部　Ｍ銅管　その他　保温付被覆銅管（Ｍ銅管）
※一般配管用ステンレス鋼管
・ポリブテン管（さや管ヘッダー工法）

② 絶縁フランジ
取付部は下記による。
※銅管と銅管及びこれに類する部分
※銅管とステンレス管及びこれに類する部分

③ 弁　　類
（１）規格はＪＩＳ又はＪＶとし、指定なきものは５Ｋ、それ以外は図示による。
（２）ステンレス管に取付ける弁は、JV8-1による。

④ ガス瞬間湯沸器
※屋外設置の潜熱回収型　・PS扉内設置の潜熱回収型

⑤ 電気給湯器
飲用の場合は、80℃以上で使用可能なものとし、「熱湯注意」の表示をする。

○消火設備

1 配管材料

屋内消火栓用	一般配管※ＳＧＰ（白）	・ＳＴＰＧ370（白）Sch40
	地中埋設※ＳＧＰ－ＶＳ	・ＨＩＶＰ
消火用	一般配管※ＳＧＰ（白）	・ＳＴＰＧ370（白）Sch40
	地中埋設※ＳＧＰ－ＶＳ	・ＨＩＶＰ
不活性ガス消火用	※ＳＴＰＧ370（白）Sch40	・ＳＴＰＧ370（白）Sch80

2 建物導入部配管
図示部分について下記のとおり施工する。
※埋設用フレキシブルジョイント２本をＬ字状に設ける。
・標準図施工４（　・（ａ）　・（ｂ）　・（ｃ））

●ガス設備

① 配管材料
※都市ガス　ガス事業者の供給規定による。埋設配管はＰＥ管を原則とする。
・液化石油ガス　一般配管　※ 合成樹脂被覆銅管　・ＳＧＰ（白）
地中埋設　※　ＰＥ管　・

② ガス漏れ警報遮断装置
漏洩検知装置は、流量検知式圧力監視型とする。

③ 液化石油ガスの供給権
ガス設備工事の施工者にガスの供給権は付帯しない。

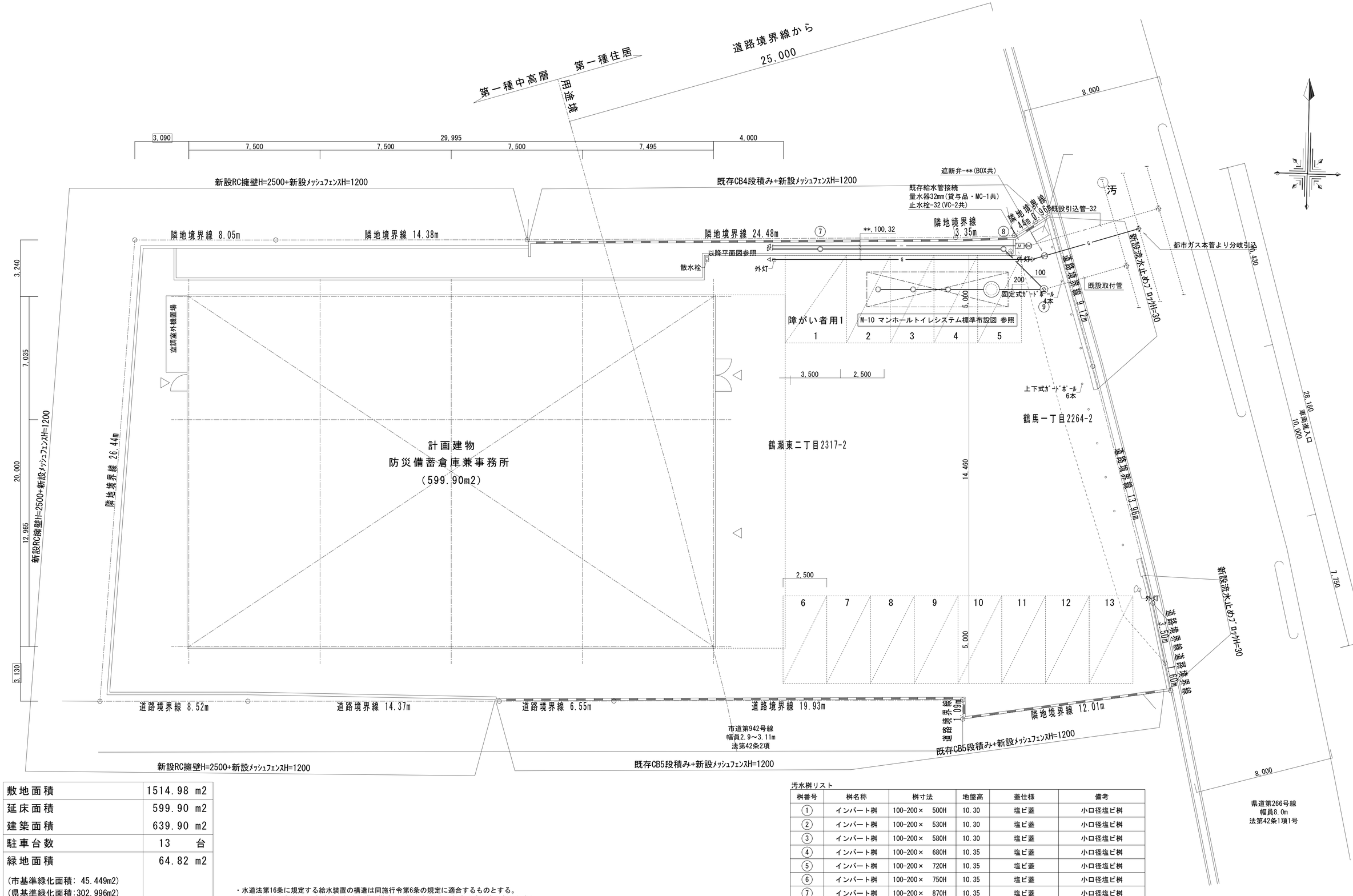
○厨房設備

1 厨房機器の固定
原則として、移動を前提とする厨房機器を除き地震時に転倒及び位置ずれを起こさないよう、床又は壁に堅固に取り付ける。

2 シンク用水栓
※レバー式泡沫水栓　・自動水栓

3 安全装置の機能の適用
標準仕様書第5編１・６・１の表5.1.7安全装置の表中の△の項目はすべて適用とする。

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀 温
Project　富士見市中央防災センター建設工事
Index　機械設備　特記仕様書(2)
Scale　N.S(A1) N.S(A3)
設計年月　令和8年03月
Number　M-02



敷地面積	1514.98 m2
延床面積	599.90 m2
建築面積	639.90 m2
駐車台数	13 台
緑地面積 (市基準緑化面積: 45.449m2) (県基準緑化面積:302.996m2)	64.82 m2
(計) 10.40 ←計画レベル (現) 8.07 ←現況レベル	

・水道法第16条に規定する給水装置の構造は同施行令第6条の規定に適合するものとする。
・下水道法第10条第1項に規定する排水設備の構造は同施行令第8条の規定に適合するものとする。
・ガス消費設備の構造は、ガス事業法施行規則第202条に適合するものとする。
・給排水設備は施行令第129条の2の4に適合する。
・給湯設備の転倒防止対策は平成12年建設省告示第1388号に適合する。

汚水桝リスト

桝番号	桝名称	桝寸法	地盤高	蓋仕様	備考
①	インバート桝	100-200× 500H	10.30	塩ビ蓋	小口径塩ビ桝
②	インバート桝	100-200× 530H	10.30	塩ビ蓋	小口径塩ビ桝
③	インバート桝	100-200× 580H	10.30	塩ビ蓋	小口径塩ビ桝
④	インバート桝	100-200× 680H	10.35	塩ビ蓋	小口径塩ビ桝
⑤	インバート桝	100-200× 720H	10.35	塩ビ蓋	小口径塩ビ桝
⑥	インバート桝	100-200× 750H	10.35	塩ビ蓋	小口径塩ビ桝
⑦	インバート桝	100-200× 870H	10.35	塩ビ蓋	小口径塩ビ桝
⑧	インバート桝	100-200× 800H	10.15	塩ビ蓋	小口径塩ビ桝
⑨	新設公設桝	300φ× 1600H	10.15	防護蓋(T-14)	

※桝の形状・深さは参考とし、施工にあたっては現地地盤高を考慮の上決定するものとする。

※給水ﾒｰﾀｰは道路から2m以内とする
ﾒｰﾀｰ上に車が乗る可能性がある場合は鉄蓋とすること

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address: 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号 須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 給排水衛生設備 配置図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: M-03

衛生機器表

記号	名称	仕様	動力 φ	動力 V	動力 KW	起動方式	台数	設置場所	備考
GWH-1	ガス給湯器	型式： 屋外壁掛式 高効率形 給湯専用	1	100	146W	L-S	2	1F 屋外	GQ-C2434WZ-C
	(シャワー室系統)	給湯能力： 24号 ※性能はJIS S 2109による							(参考型番：ノーリツ)
		ガス消費量： 44.1KW(TG)							給湯器の固定は平成24年度
		付属品： 屋外配管カバー,リモコン,リモコンコード,							国交省告示第1447号により施工
		他標準付属品一式共							
EWH-1	電気温水器	型式： 貯湯式台下設置型 雑用 適温出湯タイプ	1	100	1.1	L-S	1	1F 給湯室	ESN20BLX111E0
		給湯量： 20L ※性能はJIS C 9219による							(参考型番：イトミック)
		付属品： ブローキャッチャー,ウィークリータイマー,							給湯器の固定は平成24年度
		他標準付属品一式共							国交省告示第1447号により施工

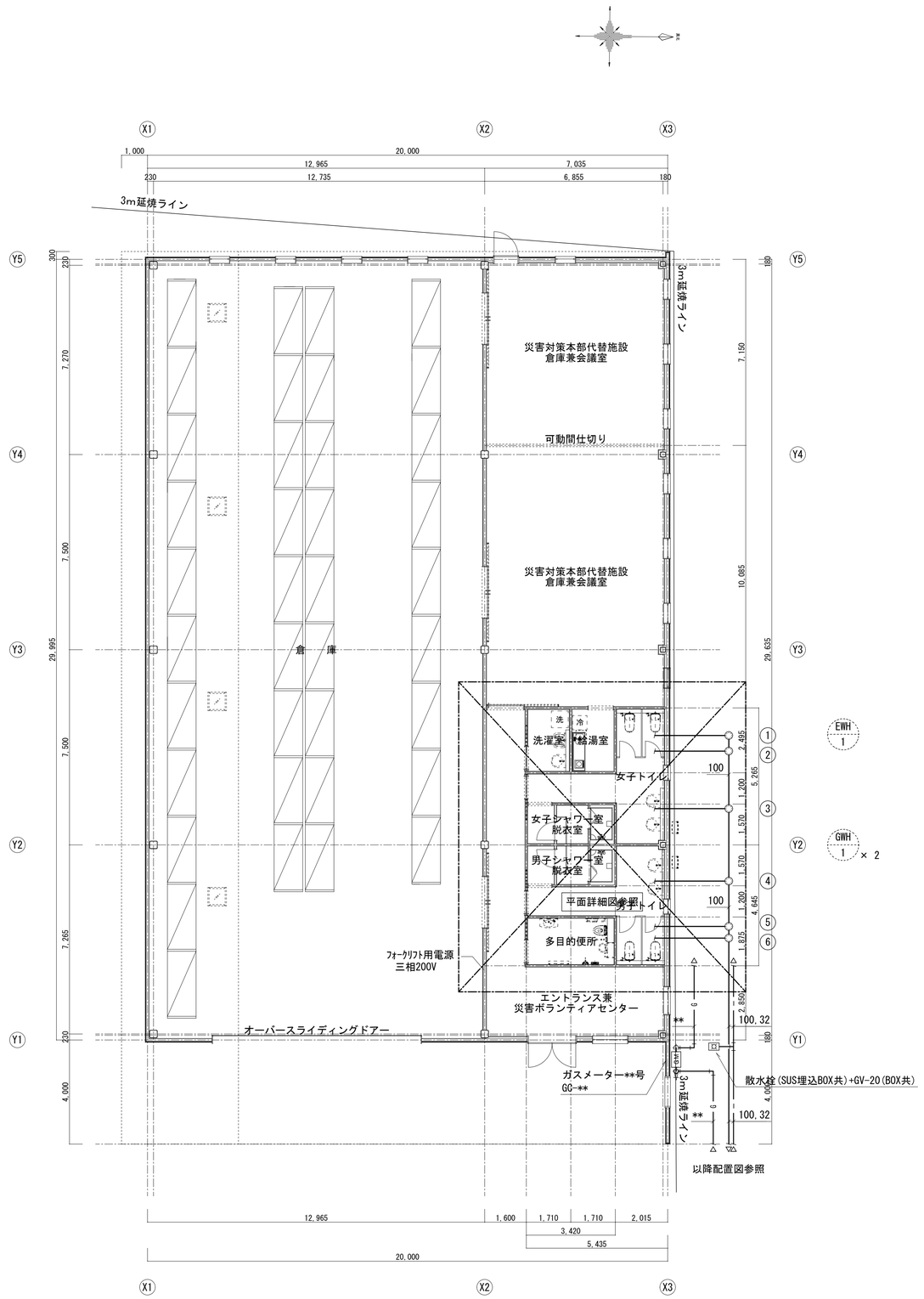
衛生器具表

器具名 ＼ 階数・室名	型番・付属品 上段:TOTO 下段:LIXIL	1F 女子トイレ	1F 男子トイレ	1F 多目的便所	1F 給湯室	1F 洗濯室	1F 女子シャワー室	1F 男子シャワー室	屋外	合計	備考
洋風大便器	CFS494NHNA(節水形手動フラッシュバルブ)	2	2							4	
	C-P25S(節水形手動フラッシュバルブ CF-T7110)										
洗浄暖房便座(瞬間式)	TCF5831AD	2	2							4	1φ 100V 1261W
	CW-PC12-NE										1φ 100V 1300W
車椅子用大便器	CFS494NNNA(節水形自動フラッシュバルブ)			1						1	
	C-P15HK(節水形自動フラッシュバルブ OKC-AT6110)										
洗浄暖房便座(瞬間式)	TCF5841P(便ふたなし)			1						1	1φ 100V 1261W
	CW-PC12-NECK-UR(便ふたなし)										1φ 100V 1300W
オストメイトパック	UAS81LDB1NW(電気温水器付,ロータンク)			1						1	1φ 100V 700W
	PTOM-B210W(電気温水器付,ロータンク)										1φ 100V 700W
棚付二連紙巻器	YH650	2	2	1						5	
	CF-AA64										
L型手摺	T112CL9	1	1							2	
	KF-920AE70D12J										
L型手摺	T112CL10			1						1	
	KF-920AE70D12J										
可動手摺	T112HK8R			1						1	
	KF-471EH70JU										
洗面器手摺	T112CP21-1	1	1							2	
	KF-312AE70J										
ベビーチェア	YKA15S			1						1	
	AC-BK-F62										
ベビーシート	YKA25N			1						1	
	AC-OK-21F										
壁掛洗面器	LSG704AAPNW(自動水栓セット),他付属品	2	2			1				5	1φ 100V
	L-531ANC(自動水栓セット),他付属品										1φ 100V
壁掛手洗器	L103A,TLE28SS1A(自動水栓),他付属品			1						1	1φ 100V
	L-365APR(自動水栓),他付属品										1φ 100V
化粧鏡	YM3545A(350×450)	2	2							4	
	KF-3545(356×459)										
化粧鏡	YM4575A(450×750)			1						1	
	KF-4560(457×612)										
ミニキッチン	配管接続は本工事				(1)					(1)	建築工事
ﾚﾊﾞｰ式混合水栓(台付)	TKS05307J				1					1	
	JF-AJ461SYX										
掃除流し	掃除流しSK22A,T23AEQ20C(横水栓)					1				1	
	掃除流しS-202A,LF-7E-19-U(横水栓)										
洗濯水栓	TW11R					1				1	
	LF-WJ50KQA										
洗濯パン	PWP740N2W(7405640),PJ2009NW(排水トラップ)					1				1	
	PF-7464AC/FW1,TP-51/FW1(排水トラップ)										
ユニットシャワー	配管接続は本工事						(1)	(1)		(2)	建築工事
散水栓	T28UNH13,SUS-BOX								1	1	
	LF-13-13-CV,SUS-BOX										

株式会社 SuKA建築設計事務所

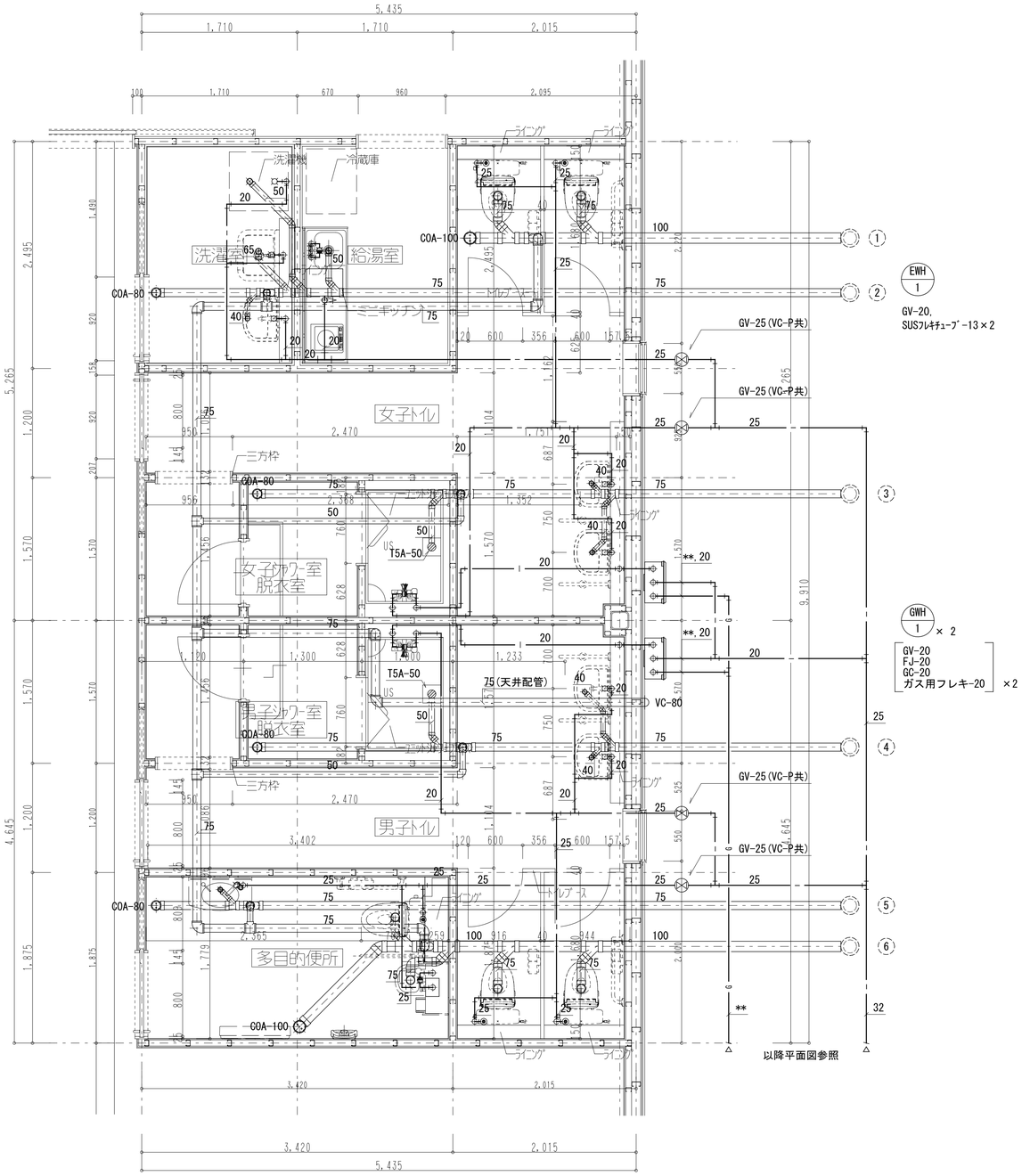
Address 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号 須賀 温

Project 富士見市中央防災センター建設工事
Index 給排水衛生設備 機器表・器具表
Scale N.S(A1) N.S(A3)
設計年月 令和8年03月
Number M-04



平面図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所								
Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale	設計年月
〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	給排水衛生設備　平面図	1/100(A1) 1/200(A3)	令和8年03月 Number M-05



トイレ詳細図　S:1/30

株式会社 SuKA建築設計事務所	Address	Phone	Fax	Registered Office	Registered Architect	Project	Index	Scale / 設計年月
	〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303	048-977-6072	048-971-7171	埼玉県知事10064	第330549号　須賀 温	富士見市中央防災センター建設工事	給排水衛生設備　平面詳細図	1/30(A1) 1/60(A3) / 令和8年03月
								Number M-06

空調設備機器表

記号	名称	型式	空調能力		電動機出力			室内機	相	電圧	定格消費電力		冷媒管			台数	階	室名	付属品								参考型番	備考
			冷房能力 (kW)	暖房能力 (kW)	圧縮機 (kW)	外送風機 (kW)	内送風機 (kW)	風量 (m3/h)	(φ)	(V)	冷房 (kW)	暖房 (kW)	液管 (mm)	ガス管 (mm)	ガス管 (mm)				防振ゴム	アクティブフィルタ	フィルター	ドレンアップメカ	リモコン	ワイヤレスリモコン				
MAC-1	空冷HPパッケージエアコン	天井カセット4方向吹出（ツイン）	12.5	14.0	2.36	(110+110)W	53W	1230	3	200	2.95	3.20	9.5	15.9		1	1F	会議室1	○	○	○	○	○				SSRC140CD （ダイキン）	
MAC-2	空冷HPパッケージエアコン	天井カセット4方向吹出（ツイン）	14.0	16.0	2.83	(110+110)W	106W	1800	3	200	3.50	3.80	9.5	15.9		1	1F	会議室2	○	○	○	○	○				SSRC160CD （ダイキン）	
PAC-1	空冷HPパッケージエアコン	天井カセット2方向吹出（ペア）	5.0	5.6	1.07	50W	46W	720	3	200	1.42	1.58	6.4	12.7		1	1F	エントランス兼 災害ボランティアセンター	○	○	○	○	○				SSRG56DT （ダイキン）	

換気設備機器表

記号	名称	型式	番手 (cm) (接続ダクト)	風量 (m3/h)	静圧 (Pa)	24H風量 (m3/h)	24H静圧 (Pa)	電動機(50Hz)			連動	台数	階	室名	付属品					参考型番	備考
								容量 (W)	相 (φ)	電圧 (V)					防振吊金具	全熱交換機用スイッチ	強弱スイッチ	ウェザーカバー	副吸込口		
HEX-1	全熱交換機	天井埋込ダクト形	250φ	750	100	70	50	430	1	100		1	1F	災害対策本部代替施設倉庫兼会議室(1)	○	○				LGH-N80RX4 （三菱電機）	
HEX-2	全熱交換機	天井埋込ダクト形	250φ	1050	100	100	50	535	1	100		1	1F	災害対策本部代替施設倉庫兼会議室(2)	○	○				LGH-N100RX4 （三菱電機）	
HEX-3	全熱交換機	天井埋込ダクト形	150φ	210	100			194	1	100		1	1F	エントランス兼 災害ボランティアセンター	○	○				LGH-N35RX4 （三菱電機）	
EF-1	排気ファン	有圧扇	35cm	2450	50			130	1	100		4	1F	倉庫	○		○	○		EWF-35DSA2 （三菱電機）	
EF-2	排気ファン	天井扇	100φ	60	50			13	1	100		1	1F	洗濯室	○		○			VD-13ZC14 （三菱電機）	
EF-3	排気ファン	天井扇	100φ	60	50			13	1	100		1	1F	給湯室	○		○			VD-13ZC14 （三菱電機）	
EF-4	排気ファン	天井扇	150φ	390	50			74	1	100		1	1F	女子トイレ	○		○			VD-23ZB14 （三菱電機）	
EF-5	排気ファン	天井扇	150φ	350	50			74	1	100		1	1F	男子トイレ	○		○			VD-23ZB14 （三菱電機）	
EF-6	排気ファン	天井扇	150φ	170	50			26	1	100		1	1F	多目的トイレ	○		○			VD-18ZC14 （三菱電機）	
EF-7	排気ファン	天井扇(2部屋換気用)	100φ	70	50			13.5	1	100		1	1F	女子シャワー室,脱衣室	○		○		○	VD-13ZFC14 （三菱電機）	
EF-8	排気ファン	天井扇(2部屋換気用)	100φ	70	50			13.5	1	100		1	1F	男子シャワー室,脱衣室	○		○		○	VD-13ZFC14 （三菱電機）	

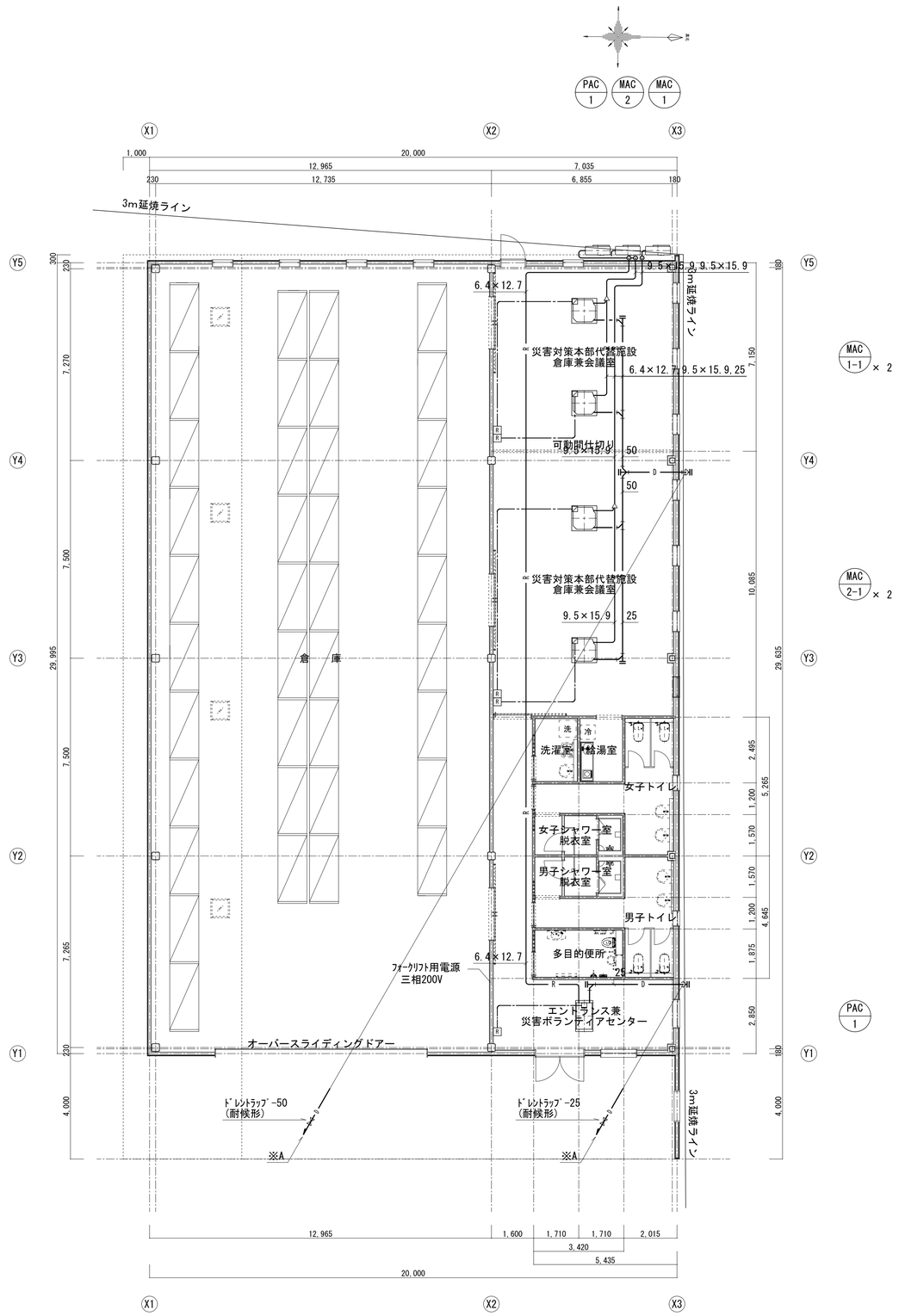
換気計算書

階	室名	居室	面積 m2	天井高 H	容積 m3	換気種別	換気回数より		人より (30m3/人・h)			燃焼に必要な空気量	決定OA量 m3/h	決定EA量 m3/h	建築基準法換気量検証			シックハウス検証		OA量		空気の流れ エアバランス	EA量		備考
							回/h	m3/h	人/m2	人	m3/ h				専有面積N m2	必要換気量 20Af/N	判定	換気回数 回/h	判定 ≧0.5回/h	系統	送風機風量		系統	送風機風量	
	災害対策本部代替施設	●	50.30	2.60	130.78	第1種	2	262	0.50	25	750		750	750	3	336	OK			HEX-1	750	→	HEX-1	750	
	倉庫兼会議室(1)					第1種	0.5	66					(70)	(70)				0.54	OK					(70)	24時間換気時
	災害対策本部代替施設	●	70.95	2.60	184.47	第1種	2	369	0.50	35	1050		1050	1050	3	473	OK			HEX-2	1050	→	HEX-2	1050	
	倉庫兼会議室(2)					第1種	0.5	93					(100)	(100)				0.54	OK					(100)	24時間換気時
	エントランス兼		35.91	2.60	93.37	第1種	2	187	0.20	7	210		210	210						HEX-3	210	→	HEX-3	210	
	災害ボランティアセンター																								
	倉庫		388.89	5.00	1944.45	第3種	5	9723					9730	9730						自然給気	10900	→	EF-1×4	9730	
	洗濯室		4.27	2.60	11.10	第3種	5	56					60	60								→	EF-2	60	
	給湯室		4.27	2.60	11.10	第3種	5	56					60	60								→	EF-3	60	
	女子トイレ		14.71	2.60	38.25	第3種	10	383					390	390								→	EF-4	390	
	男子トイレ		13.46	2.60	35.00	第3種	10	350					350	350								→	EF-5	350	
	多目的トイレ		6.41	2.60	16.67	第3種	10	167					170	170								→	EF-6	170	
	女子シャワー室 脱衣室		5.37	2.60	13.96	第3種	5	70					70	70								→	EF-7	70	
	男子シャワー室 脱衣室		5.37	2.60	13.96	第3種	5	70					70	70								→	EF-8	70	

株式会社 SuKA建築設計事務所

Address 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号 須賀 温

Project 富士見市中央防災センター建設工事
Index 空調換気設備 機器表・換気計算書
Scale N.S(A1) N.S(A3)
設計年月 令和8年03月
Number M-07



特記なき記号は下記による。	
R	空調機リモコン(機器付属品)

※A：ドレン排水地盤面に放流

<注記>
・空調室外機～室内機の渡り配線はEM-EEF2.0-3Cとし、冷媒管共巻とする。
・冷媒管の屋外露出部はSUSラッキングとする。
・屋外露出のドレン配管は耐候性カラーVP管とする。
・空調室内機リモコン配線はEM-CEE1.25-2Cとし、壁内はPF16にて保護とする。

平面図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所

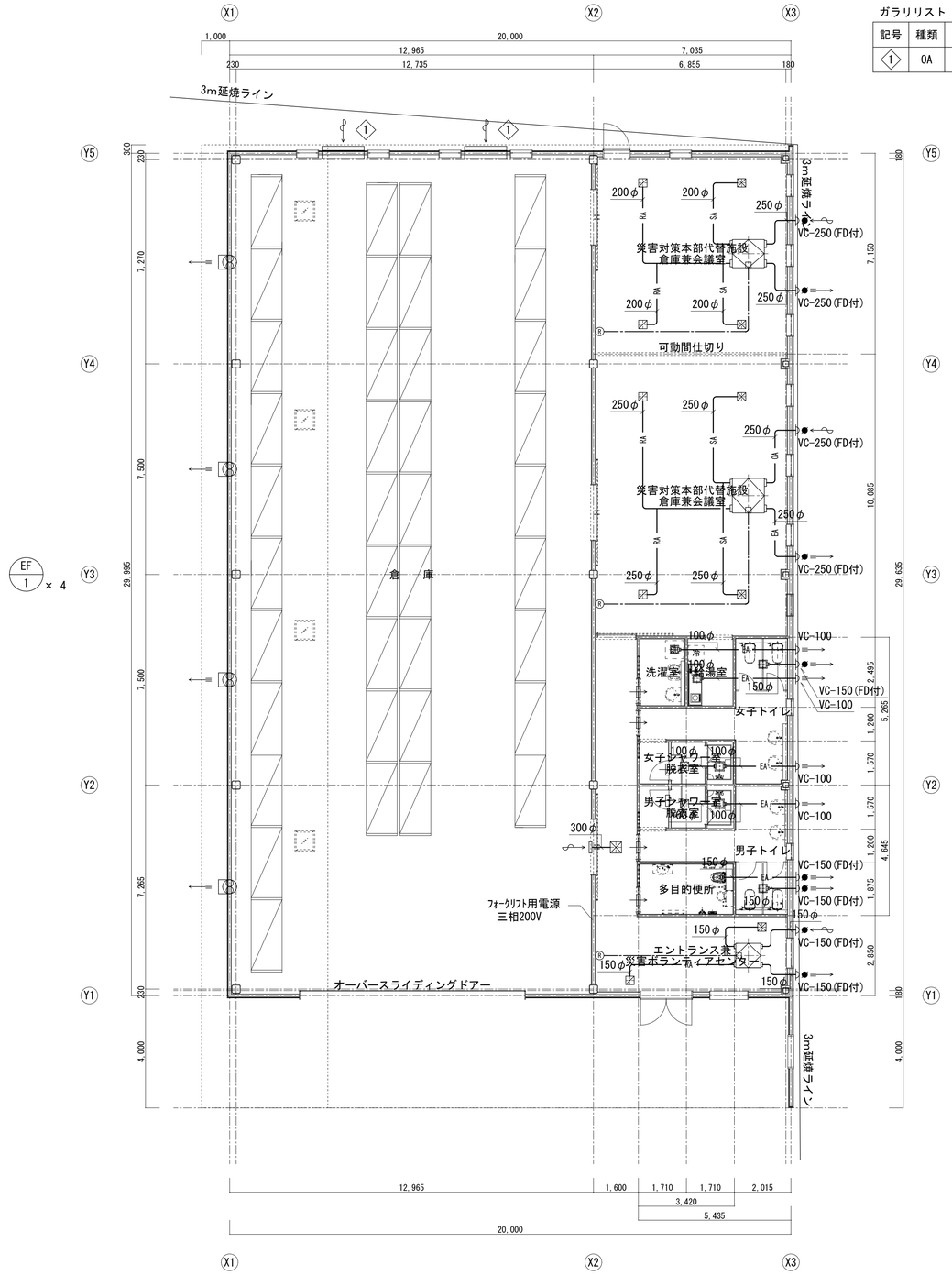
Address 〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone 048-977-6072
Fax 048-971-7171
Registered Office 埼玉県知事10064
Registered Architect 第330549号 須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	空調設備　平面図	1/100(A1) 1/200(A3)	令和8年03月

Number M-08

ガラリリスト

記号	種類	風量（m3／h）	ガラリサイズ	数	BOX	数	備　考
①	OA	5,450	1,500×1,000	2	1,700W×400D×1,200H	2	BOX鋼板製1.6mmt



吸込口（倉庫兼会議室(1)）		
HS	250×250	
BOX	450x450x400H	
Q =	375 CMH	
内貼	GW25t	2

吹出口（倉庫兼会議室(1)）		
VHS	250×250	
BOX	450x450x400H	
Q =	375 CMH	
内貼	GW25t	2

吸込口（倉庫兼会議室(2)）		
HS	300×300	
BOX	500x500x450H	
Q =	505 CMH	
内貼	GW25t	2

吹出口（倉庫兼会議室(2)）		
VHS	300×300	
BOX	500x500x450H	
Q =	505 CMH	
内貼	GW25t	2

吸込口（倉庫）		
HS	400×400	
BOX	600x600x500H	
Q =	1170 CMH	
内貼	GW25t	1

吹出口（通路）		
VHS	400×400	
BOX	600x600x500H	
Q =	1170 CMH	
内貼	GW25t	1

吸込口（災害ボランティアセンター）		
HS	200×200	
BOX	400x400x350H	
Q =	210 CMH	
内貼	GW25t	1

吹出口（災害ボランティアセンター）		
VHS	200×200	
BOX	400x400x350H	
Q =	210 CMH	
内貼	GW25t	1

特記なき記号は下記による。	
⑧	全熱交換器リモコン(機器付属品)

<注記>
・全熱交換器リモコン配線はEM-CEE1.25-5Cとし、壁内はPF16にて保護とする。

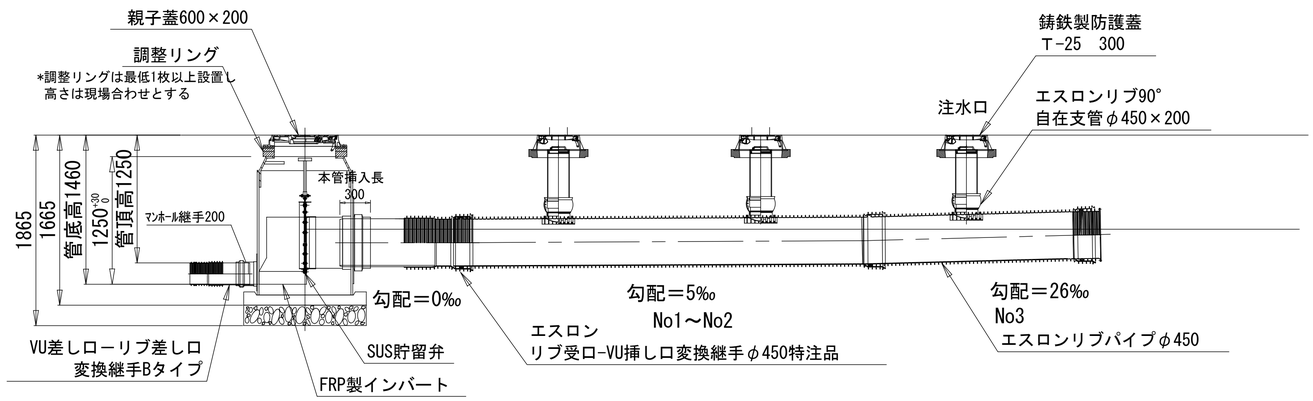
平面図　S=1/200

株式会社 SuKA建築設計事務所

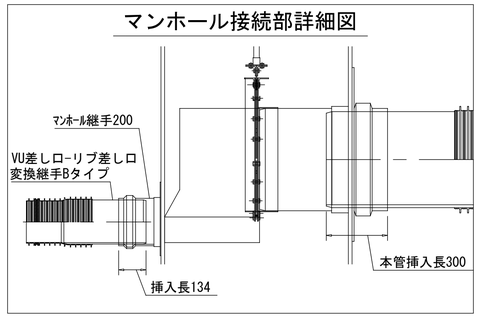
Address: 〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone: 048-977-6072
Fax: 048-971-7171
Registered Office: 埼玉県知事10064
Registered Architect: 第330549号　須賀 温

Project: 富士見市中央防災センター建設工事
Index: 換気設備　平面図
Scale: 1/100(A1) 1/200(A3)
設計年月: 令和8年03月
Number: M-09

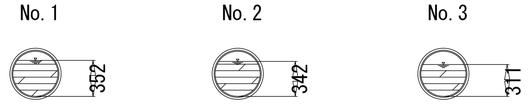
縦　断　図



マンホール接続部詳細図

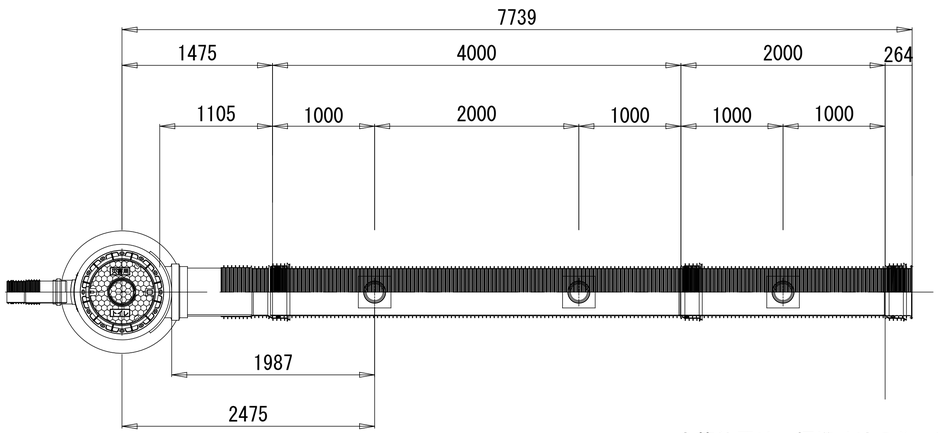


落下口断面部貯留水深

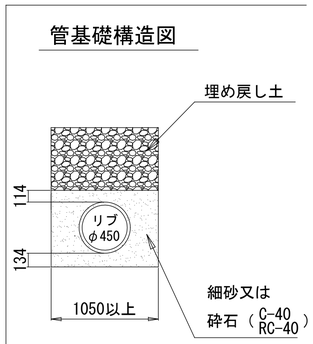


平　面　図

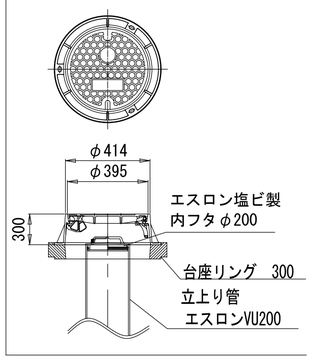
13,739（工事掘削長さ15,000）



管基礎構造図



鋳鉄製防護蓋φ300
布設詳細図



支管位置は、標準寸法の為、実際の施工では,標準値から±20㎜のズレを生じる

株式会社 SuKA建築設計事務所
Address　〒343-0041　埼玉県越谷市千間台西2-6-12SKビル3F303
Phone　048-977-6072
Fax　048-971-7171
Registered Office　埼玉県知事10064
Registered Architect　第330549号　須賀 温

Project	Index	Scale	設計年月
富士見市中央防災センター建設工事	マンホールトイレシステム標準布設図	1/30(A1) 1/60(A3)	令和8年03月

Number　M-10